

履修の手引

2022年度

日本文化学科・英米文化学科



北海学園大学人文学部

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

はじめに

人文学部長

この『履修の手引き』は、その名の通り、みなさんがこれから勉学を進めていく上で必要となる科目の履修方法について、その概略を取りまとめたガイドブックです。できるだけ早い機会に熟読し活用してください。

北海学園大学の教育体系は、各学部が設定する専門教育科目と、その土台となる一般教育科目から構成されています。学問とは、先人たちが築き上げてきた知識の集積の上に、新しい知見が加えられ、さらに発展していくものです。一般教育科目では、幅広い分野の基礎科目が用意されていますので、必要に応じて履修し、専門教育科目を学ぶ際に求められる、知的な基礎体力作りを心がけてください。ここには、基礎科目（言語、身体、情報）、教養科目（人文科学、社会科学、自然科学、北海道学）、キャリア形成科目、体験型科目などの科目群があり、それぞれがさらに細分化され、みなさんのニーズに応えられるような多種多様な科目構成となっています。上級年次になってから、必要と感じたときに履修することも可能です。また、一部の科目を除き、他学部の学生と一緒に履修することになりますので、学部の垣根を越えて切磋琢磨するよい機会にもなります。

一方、人文学部の専門教育科目は、人文学のより専門的な知識や技能を学ぶための科目群から構成されています。ここには、基幹科目、導入科目、英語科目、基礎・展開科目、日本文化科目、英米文化科目、課外学修科目などがあり、それぞれの下にさまざまな科目が配置され、多様な学びが可能になっています。人文学部では、自分が最も興味・関心をもつ分野の科目を学びの柱に据えつつ、他方で、蛸壺体質に陥ることがないように、より広範囲な学びも求められます。今は無関係・無意味と思われることが、あるとき自分の専門と意外な連関を示すこともよくありますので、端から毛嫌いするのではなく、まずは何事にも興味・関心を寄せるような学問態度が大切です。

新入生のみなさんは、こうした多様な科目群から、4年後の将来を見据えつつ、自分に合う科目を履修していくことになります。大学では、各人が自らの責任で履修する科目を選択し、学びが始まりますが、この履修する科目の選択と決定が、大学での勉学の第一歩となります。人文学部の学生となり、日本の文化や欧米の文化を学ぶことを通じて、どのような大学生活を過ごし、その先にどのような将来像を描いていくのか、また、その実現に何が必要となるのかを熟考し、自らの時間割を作成してください。

2年生は、新入生だった時に抱いた、学びに対する抱負を改めて思い返してください。自分は何を目指して人文学部に入ったのか、どのような将来像を抱いていたのか。おそらく、すべてが順調とは行かなかったことでしょう。また、この1年間で、目指していたものに変化が生じた場合もあるかもしれません。いずれにしても、足りなかった点があれば反省し、必要があれば進むべき方向性を微修正してください。その際、自分が目指すものをより明確にするためにも、一層広く深く、人文学の学びに精進してください。

3年生は、いよいよ大学生活の後半に突入します。また、専門演習での取り組みも始まります。この1年の学びが、次年度の卒業研究や就職活動に直結する大事な学年です。特に就職活動では、人文学部で何を学び、所属ゼミで何を研究したかを、自らの言葉で説明するように求められます。卒業研究のテーマや、将来の進むべき方向性を、所属する少人数ゼミの切磋琢磨する学びの中から是非見つけ出してください。

4年生は、就職活動が本格化する一方で、大学4年間の集大成となる卒業研究の完成が求められます。人文学部で学んだ幅広い教養と文化的素養を武器に、自信を持って就職活動に取り組んでほしいと思います。また、卒業研究は、自ら課題を設定し、先人の研究を十分に踏まえた上で、自分なりの視点から課題に切り込み、独自の結論を導くという高度に知的な活動です。それは大学という高等教育機関で学ぶみなさんにとって、自分が大学生であることを最も実感できる機会でもあります。

人文学部は、Faculty of Humanitiesと英語表記されるように、人間性（humanity）の探求を目標とします。極めて深遠なテーマですが、各人が「人間とは何か、自分とは一体何者なのか」を自らの問題として考え、それぞれの目標に向かって一歩ずつ前進していくことを期待します。

2022年度 人文学部行事日程表

月	日	月	火	水	木	金	土	行 事 予 定	
4 月					1	2		1 (金)・4 (月)・5 (火) 健康診断 (2～4年)～詳細は健康診断日程表参照	
		3	4	5	6	7	8	9	4 (月) 新入生ガイダンス
		10	11	12	13	14	15	16	7 (木) 健康診断 (1年)～詳細は健康診断日程表参照
		17	18	19	20	21	22	23	7 (木) 履修相談日
		24	25	26	27	28	29	30	9 (土) 第1学期授業開始 web履修登録期間 ※詳細は「履修登録G-PLUS! 第1次9月期卒業手続期間 操作方法」ページ参照
5 月		1	2	3	4	5	6	7	16 (月) 学園創立記念日
		8	9	10	11	12	13	14	
		15	16	17	18	19	20	21	
		22	23	24	25	26	27	28	
		29	30	31					
6 月				1	2	3	4		17 (金)～19 (日) 第68回対東北学院大学定期戦 (仙台)
		5	6	7	8	9	10	11	
		12	13	14	15	16	17	18	
		19	20	21	22	23	24	25	
		26	27	28	29	30			
7 月					1	2			15 (金)～8/9 (火) 第2次9月期卒業手続期間
		3	4	5	6	7	8	9	23 (土)・30 (土) 予備日
		10	11	12	13	14	15	16	
		17	18	19	20	21	22	23	
		24/31	25	26	27	28	29	30	
8 月			1	2	3	4	5	6	1 (月) 第1学期授業終了
		7	8	9	10	11	12	13	2 (火)～8 (月) 第1学期期末評価実施期間/定期試験
		14	15	16	17	18	19	20	10 (水) 夏季休業開始
		21	22	23	24	25	26	27	13 (土)～16 (火) 全学休業 (事務取扱休止)
		28	29	30	31				
9 月				1	2	3			16 (金) 9月期卒業生発表
		4	5	6	7	8	9	10	20 (火) 夏季休業終了 (授業なし)
		11	12	13	14	15	16	17	21 (水) 第2学期授業開始
		18	19	20	21	22	23	24	30 (金) 9月期卒業証書・学位記授与式
		25	26	27	28	29	30		

月	日	月	火	水	木	金	土	行事予定	
10 月							1	8 (土)~10 (月) 第71回十月祭・第51回工学祭	
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23/30	24/31	25	26	27	28	29		
11 月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30					
12 月				1	2	3		27 (火) 冬季休業開始	
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
1 月	1	2	3	4	5	6	7	7 (土) 10 (火) 13 (金) 14 (土)・15 (日) 24 (火)・25 (水) 27 (金) 28 (土)~2/3 (金)	冬季休業終了(授業なし) 第2学期授業再開 大学入学共通テスト準備日(豊平校舎休講/事務取扱休止) 大学入学共通テスト(豊平校舎休講/事務取扱休止) 予備日 第2学期授業終了 第2学期期末評価実施期間/定期試験
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
2 月				1	2	3	4	8 (水) 9 (木)~12 (日)	一般選抜準備日(事務取扱休止) 一般選抜(事務取扱休止)
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28						
3 月				1	2	3	4	10 (金) 13 (月) 21 (火) 下旬	卒業生発表 進級生発表 卒業証書・学位記授与式 新年次 在学生ガイダンス(予定)
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			

【主な相談窓口について】

主な相談窓口	主な業務	主な相談事項	確認すべき掲示板
人文学部事務室	教務上の相談全般	履修相談 学業成績 休講・補講 授業欠席届 休学・退学・転学部・転学科・転部等(※) 定期試験 学生証 卒業見込証明書の発行 在学証明書の発行 成績証明書の発行 日本語教員養成課程に関する事 その他	人文学部掲示板(1・2部) 人文学部事務室前 移動式掲示板 休講電子掲示板 お知らせ電子掲示板
教務センター事務室	全学共通の科目・課程全般	専門以外の科目に関する事 教職課程に関する事 図書館学課程(2年次開講)に関する事 学芸員課程に関する事 社会教育主事課程に関する事 その他	教務センター掲示板 (1・2部) 学生玄関前移動式掲示板 各課程掲示板
学生部事務室	学生生活全般	奨学金に関する事 健康診断に関する事 学生相談に関する事 サークル等に関する事 忘れ物等に関する事 学割の発行 その他	学生部掲示板
会計課	学納金関係の納付全般	授業料に関する事	
キャリア支援センター	就職活動全般	就職活動に関する事 就職ポータルサイト「ミナトコム」に関する事 インターンシップに関する事 公務員試験に関する事 その他	キャリア支援センター掲示板
庶務課(学術・国際交流担当)	国際交流全般	留学等全般に関する事	学術・国際交流掲示板
コンピュータ実習室	コンピュータ実習室のPCについて	PCの利用方法に関する事	コンピュータ実習室掲示板
入試課	入試全般	入学試験に関する事	入試課掲示板

※第2学期からの休学・退学を希望する場合はその年の9月中旬までに、翌年度の第1学期から希望する場合は3月中旬までに、人文学部事務室へ相談してください。時期を過ぎると手続が出来なくなります。

目 次

人文学部履修要領	1
1 授業	2
① 時間割	2
② 授業科目	2
③ 授業科目の区分	2
④ 人文学基礎演習・日本語文章表現演習・人文学演習・専門演習・卒業研究	3
⑤ 英米文化特別演習Ⅰ・英米文化特別演習Ⅱ（英米文化特別演習）・英米文化特別演習Ⅲ・ 国際文化特別演習・日本文化特別演習（日本文化演習）・日本語教育特別演習・ 伝統文化特別実習・文化遺産特別演習	4
⑥ キャリア形成科目	5
⑦ 遠隔授業科目	5
⑧ 海外文化	6
⑨ 放送大学単位互換科目の履修	6
⑩ 北海商科大学商学部単位互換科目の履修	6
⑪ 準備学習	7
⑫ 授業改善アンケート	7
2 卒業・進級	8
① 単位制	8
② 卒業要件・学位	8
③ 進級要件	9
④ 卒業・進級	9
⑤ 9月期卒業	9
⑥ 既修得単位の認定	10
⑦ レスブリッジ大学とのダブルディグリー・プログラム	10
3 履修	12
① 履修の仕方	12
② 履修登録の流れ	13
③ 履修単位制限	14
④ 履修登録上の注意	14
⑤ 履修登録の確認	17
⑥ 履修計画	17
4 試験	34
① 定期試験・受験の心得	34
② 追試験	35
③ 成績	36
④ 成績照会	38

英語科目（専門教育科目）について	39
5 付録	41
① ナンバリングとカリキュラム・マップ	41
② 人文学部 専門科目の積み上げ（ナンバー表記）表	46
③ カリキュラム・マップ（日本文化学科）	48
④ カリキュラム・マップ（英米文化学科）	54
⑤ カリキュラム・ツリー	60
北海学園大学人文学部規則	64
〈2014～2015年度入学生用〉	
別表7(1)（1部・日本文化学科）	70
別表7(2)（1部・英米文化学科）	72
別表8(1)（2部・日本文化学科）	74
別表8(2)（2部・英米文化学科）	76
〈2016～2017年度入学生用〉	
別表7(1)（1部・日本文化学科）	80
別表7(2)（1部・英米文化学科）	82
別表8(1)（2部・日本文化学科）	84
別表8(2)（2部・英米文化学科）	86
〈2018～2019年度入学生用〉	
別表7(1)（1部・日本文化学科）	90
別表7(2)（1部・英米文化学科）	92
別表8(1)（2部・日本文化学科）	94
別表8(2)（2部・英米文化学科）	96
〈2020年度以降入学生用〉	
別表7(1)（1部・日本文化学科）	100
別表7(2)（1部・英米文化学科）	102
別表8(1)（2部・日本文化学科）	104
別表8(2)（2部・英米文化学科）	106
放送大学特別聴講学生履修規程	110
北海学園大学人文学部継続履修規程	111
レポート表紙	113
履修登録 G-PLUS! 操作方法	

人文学部 履修要領

大学では、自分自身で時間割を組むことになります。そのためには、どのような授業科目があるのかを把握した上で（1 授業）、卒業・進級の要件を考慮しながら（2 卒業・進級）、自分が履修する科目を大学に届出なければなりません（3 履修登録）。また、学期末には試験を受けることになります（4 試験）。この履修要領には、人文学部におけるそうした勉学に関する事柄についての説明、注意事項が述べられています。授業を履修する前に必ず一読し、活用してください。

1 授業

① 時間割……………90分授業・10分休憩となっています。

〈1 部〉	1 時限目	9:00~10:30
	2 時限目	10:40~12:10
	3 時限目	12:40~14:10
	4 時限目	14:20~15:50
	5 時限目	16:00~17:30
〈2 部〉	1 時限目	17:50~19:20
	2 時限目	19:30~21:00

- ・休講、補講、繰上げ、繰下げなど授業時間割を変更する場合はその都度掲示します。
- ・集中講義の授業時間割については、その都度掲示します。
- ・対面授業の代替授業として「オンラインによる授業」を実施する場合があります。

② 授業科目……………人文学部の授業科目には一般教育科目・外国語科目、専門教育科目があります。

- 1・2年次では、まず基礎的な科目（一般教育科目・外国語科目、1・2年次開講専門教育科目など）を中心に学び、基礎を固めた上で、より専門的な科目へと進みます。特に3年次からは演習（少人数の学生が教員の指導の下、研究・討論などを行う授業。ゼミとも言います。）が始まり、この演習を通して、4年次には卒業研究を仕上げていきます。
- 各課程に関する科目については、各々の履修の手引を参照してください。
- その他、外国人留学生・海外帰国生徒学生のために、一般教育科目及び外国語科目代替科目（以下「代替科目」）が開講されています。

③ 授業科目の区分……………必修科目は修得しないと卒業できません。 自分の必修科目をチェックしておきましょう。

区分	説明等
必修科目	必ず修得しなければならない科目。（日本語文章表現演習・人文学概論・人文学演習A・B等）
選択必修(グループ必修)科目	所定の科目群ごとに定められた単位数を修得する必要がある科目。
選択科目	開講科目の中から自由に選択履修出来る科目。
自由科目	卒業に必要な単位に算入されない科目。（日本史・東洋史・西洋史等）
他学部履修科目	他学部開講科目を、本学部及び履修を希望する学部の学部長の許可を受けて、3・4年次合計12単位まで履修することができる科目（1部・2部間は不可）。履修した科目は、自由科目として扱われます。
専門教育科目 日本文化学科／英米文化学科	他学科科目については、3年次以降に履修可能です。これらの科目は、8単位まで卒業に必要な単位として算入されます。対象は、学則別表7・8備考欄に記載の科目です。
2部学生の1部履修科目	一般教育科目については、2部授業時間割の「1部開講時間帯一般教育科目」に掲載されている科目は履修願を提出することなく履修登録可能です。また専門教育科目については、事前に申請した場合は、人文学部専門科目の必修科目を除き各年度4単位以内で履修を認めます。修得した単位は、卒業に必要な単位として算入されます。また、「英米文化特別演習Ⅰ」「ボランティアシップ(英語)」「地理情報システム論」はこの4単位には含まれません。「日本史」「東洋史」「西洋史」もこの4単位には含まれませんが、修得した単位については卒業に必要な単位として算入されません。申請は第1学期のみで第2学期はできません。なお、英語音声学は1年次の場合、1部履修できません。
	課程科目は例外があるので、各課程ガイダンスで確認してください。
1部学生の2部履修科目	「日本史」「東洋史」「西洋史」のみ履修可能です。

- ・学則別表（p.69～109）を参照しながら、授業科目、必修の単位数などを確認してください。
- ・他学部履修科目・2部の1部履修科目の履修を希望する学生は、事前に当該学部の窓口にご相談し、**4月12日(火) 19:00**までに各科目の履修願(人文学部事務室にて配布)を提出してください。

④ 人文学基礎演習・日本語文章表現演習・人文学演習・専門演習・卒業研究

…………… 1年次の人文学基礎演習・日本語文章表現演習で、自分で「考え」自分で「表現する」スキルを学び、
2年次の人文学演習で、人文学的素養を身につけ、
3年次の専門演習で専門分野の研究方法を学び、自ら研究を進め、
4年次に大学における学修の集大成として卒業研究を仕上げます。
これが、人文学部のカリキュラムの大枠になっています。

- **人文学基礎演習** 1年次前期に開講されます。履修の際は決められたクラスで登録を行わなければなりません（新入生については別紙「履修上の制限等がある科目について」参照）。このクラスの担当教員が、1年次を通じての「アカデミック・アドバイザー」となります（高校までの担任に準ずる役割です）。大学での勉学や学生生活に関して何か困ったことがあれば、まずは自分のアドバイザーに相談してください。
- **日本語文章表現演習** 1年次後期に開講されます。履修の際は決められたクラスで登録を行わなければなりません（新入生については別紙「履修上の制限等がある科目について」参照）。
- **人文学概論** 1年次前期に開講されます。本学人文学部は、開設当初から「新人文学」ならびに「新人文主義」を標榜しています。そこで日本文化・英米文化の学科の別を問わず、人文学部の1年生全員を対象にして、哲学・歴史学・文学などの教養と実践を踏まえて、人文学の基本的な知識と技法について講義します。あらゆる分野の2年次以降の勉学の基礎となる基幹科目なので、必修科目に指定されています。
- **人文学演習** 2年次に開講される半期完結型の演習です。A、Bに分かれており、AとBは必修です。
- **専門演習**
専門演習Ⅰと専門演習Ⅱが3年次に開講されます。原則として同一教員の演習を履修することになっています。
- **卒業研究** 4年次の開講科目で、オフィスアワーなどの時間に演習指導教員の指導に従って研究を進めていきます。2022年度の卒業研究提出期限は以下のとおりです。

※「人文学演習」「専門演習」などの履修者選考の基準としてGPAを使用しますので注意してください。

学 科	1 部	2 部	備 考
日本文化学科	12月23日(金) 16:00	1月10日(火) 19:00	口述試験の日時は、掲示等にて別途お知らせします。
英米文化学科	12月23日(金) 16:00	1月10日(火) 19:00	提出の要件として中間報告会での発表を課します。詳細については掲示等にて別途お知らせします。

- **卒業研究（半期）** ※過去に卒業研究を履修し、卒業延期になった学生対象
通年科目である卒業研究を前期または後期に半期履修することができます。希望する場合は、「卒業研究（半期）履修希望願」を4月19日（火）までに人文学部事務室へ提出してください。後期履修の提出期日は、上記通年の卒業研究と同日です。

卒業研究（半期）・前期履修の提出期日

学 科	1 部	2 部	備 考
日本文化学科	8月2日(火) 16:00	8月2日(火) 19:00	口述試験の日時は、指導教員と相談の上、決めてください。
英米文化学科	8月2日(火) 16:00	8月2日(火) 19:00	中間報告会については、指導教員の指示を受けてください。

⑤ 英米文化特別演習Ⅰ・英米文化特別演習Ⅱ(英米文化特別演習)・英米文化特別演習Ⅲ・
国際文化特別演習・日本文化特別演習(日本文化演習)・
日本語教育特別演習・伝統文化特別実習・文化遺産特別演習
……………人文学部では、特色ある演習を開講しています。

●英米文化特別演習Ⅰ

1学期の英米文化特別演習Ⅰは講義・実習・課題を通じて、9月の語学研修の準備をする科目です。したがって、履修者は必ず同一年度の英米文化特別演習Ⅱ(9月の語学研修+帰国後の課題)も履修する事が求められます。

●英米文化特別演習Ⅱ(2018年度以降入学者)、英米文化特別演習(2014~2017年度入学者)

9月に3週間ホームステイをしながら、カナダ・アルバータ州にあるレスブリッジ大学での語学プログラムに参加します。

1)世界中の学生が集まる語学研修に参加し、多様な英語に触れる、2)カナダの文化・社会・習慣・宗教・政治等を調べる、3)そのテーマに関してカナダ人に聞き取り調査をし、実際に英語を使う経験を、以上の3つを目指します。帰国後の課題と発表もあります。

履修者は必ず同一年度の英米文化特別演習Ⅰも履修する事が求められます。

注意1:4月の最初の授業は重要なオリエンテーションですので、必ず出席して下さい。

注意2:3年次以上の学生は、9月の語学研修(+帰国後の課題)の科目名は英米文化特別演習となっていて、1学期の英米文化特別演習Ⅰを履修する事が必要になります。

●英米文化特別演習Ⅲ

2~3月に自主的に選択した英語圏の大学キャンパス内の語学コースで3~4週間、授業、課外活動に参加します。参加後の修了証、報告書の提出を経て翌年度に単位が認定される語学文化研修を目的とした課外学習科目です。履修登録は参加の翌年度、1学期に行なってください。履修にあたり、事前説明会(10月上旬から中旬)に必ず参加し、計画を立て、留学許可願書を提出してください。1~3年生が対象となります。

●国際文化特別演習(2014年度以降入学生対象)

英語力が十分であると認められる人文学部2年次以上の学生を対象に、8月下旬から12月下旬の4ヶ月間、カナダ・アルバータ州にあるレスブリッジ大学(English for Academic Purposes)語学文化研修を実施します。英語力等の条件を考慮して、参加者が決定されます。研修期間中は様々な国から来た留学生とともにアカデミック英語運用能力を修得し、またホームステイやカルチャー活動を通じて、カナダの文化・社会を経験します。研修修了時には定期試験を受けること、また準備の段階で説明会やオリエンテーションに出席すること等の要件を満たすと、帰国後、20単位以内の単位が認定されます。なお、派遣学生の募集・決定は前年度12月に行います。この研修に参加することを考えている学生はそれまでにTOEICのスコアを提出できるように準備しておいてください。派遣年度の第1学期にはSpecial Skills Iを履修してください。

●日本文化特別演習

人文学部の2年次以上の学生を対象にした、集中講義形式の事前指導及び2月頃に予定されている関西方面への5泊6日の研修旅行(私費)を合わせた演習です。日本の古都で、団体研修と自主研修から成るフィールドワークを行います。詳細については、第2学期に掲示します。希望者はあらかじめ4月の時点で履修登録をしておいてください。

●日本語教育特別演習

日本語教育実習を現場で体験する、3年次開講科目です。海外の提携校で二週間の集中的な実習、または市内のボランティア日本語教室で3ヶ月を通して週一回実習を行います。この演習は専任教員による実習前の教案・教材作成(4回)と、実習後のフィードバック(報告反省会、1回)を含みます。国内、海外の実習とも、人数制限ほか参加条件がありますので、受講希望者は早めに国内か海外のいずれかの実習に参加希望するかを決め、予め計画を立てておくことを勧めます。

●伝統文化特別実習

学科・部の別を問わず、3年生以上を対象とした授業で、服飾(着付)、茶、生け花が開講されています。9月から12月にかけて、特定の曜日に本学で講義と実習を行い(ただし服飾の実習は札幌きもの学院で行います)、実技試験とレポートで成績をつけます。履修者には実習に必要な実費を負担していただきます

(詳細はシラバスを参照してください)。なお、履修希望者が15名の定員を上回った場合にはGPAで選抜します。

●文化遺産特別演習

集中講義形式の事前・事後指導及び9月に予定されている日本国内の世界遺産周辺への5泊6日の研修旅行(私費)を合わせた演習で、1年生から履修可能です。行き先は毎年変わり、東北・関東・広島・九州・沖縄の世界遺産でフィールドワークを行います。詳細については、春休み中に掲示で(新入生にはガイダンスで)告知するとともに、4月初旬に説明会を行います。履修希望者は必ず説明会に出席してください。

⑥ キャリア形成科目……………皆さんの卒業後の進路を考えるための科目です。

キャリア形成科目とは、本学のキャリア支援の一環として、学生が生涯を通じて自らのキャリア形成を主体的に図っていくために必要な力を身につけるために、設けられた科目区分です。

卒業後に希望の職業に就くためには、各業種・職種の内容と自分の適性を的確に把握することで将来の進路を見定め、早い段階から就職のための準備をしていくことが何よりも大切ですので、是非履修してください。

●キャリア・ガイダンス(一般教育科目・1年次開講・1単位・半期)

キャリア支援センターによる、企業経営者など外部者の講演を含めた実践的授業で、仕事とは何か、という基本的な問いから出発し、就職のために必要な心構えや事前準備の方法について学んでいきます。人文学部の授業日程は、講義概要・G-PLUS!・掲示板などで確認してください。

※キャリア・ガイダンスは履修上限単位には、含まれません。

●インターンシップ(専門教育科目・2年次開講・1単位)

希望者を選考の上、企業・自治体・各種団体等に派遣し、一定期間就業を体験する制度のことです。人文学部では、原則として30時間以上の就業体験(就業期間中の講義等を含む)を条件とし、申請書類を基に、当該企業等の評価、就業前から就業中にかけての自学自習および就業後における成果の報告内容を総合的に判断して単位の認定を行っています。参加を希望する学生は、キャリア支援センター主催のインターンシップガイダンスに出席してください。

なお、連携協定に基づく人文学部学生のみを対象にしたインターンシップのプログラムについても同様に単位を認定します。要項が決まり次第案内しますので、G-PLUS!・掲示板などで詳細を確認してください。

●ボランティアシップ(一般)(専門科目・2年次開講・2単位)

ボランティアとして10日間の現地活動を行う科目です。事前にボランティアとは何か、その意義や実例等を学び、しっかりと心構えをしたうえで、活動に臨みます。終了後には、成果報告やグループディスカッション、レポート執筆等を通じ、経験の共有・普遍化を図ります。座学と実践を両輪で進めるので、受講に当たっては十分な覚悟が必要です。また、受講人数の調整を行いますので、G-PLUS!・掲示板での連絡を見落とさないようにしてください。事前学習は6～7月、現地活動は夏休み、事後学習は9～11月を予定しています。

●ボランティアシップ(英語教育)(専門科目・2年次開講・2単位)

2年次以上の学生を対象とした科目です。事前講義を経て、学生自らが教材を作成し、北海学園札幌高校の課外学習支援を行います。教職課程(英語)を履修していることが望ましく、授業、ボランティアに原則として毎回出席できること、学習支援を行うのに十分な英語の知識・運用能力を持っていることが求められます。履修希望者数により履修人数制限をかける可能性があります。その場合は、GPAなどの客観的資料に基づいて選抜を行います。

⑦ 遠隔授業科目

本学の授業は基本的に対面形式で行われますが、2022年度より、授業科目の一部で遠隔授業(オンライン)が導入されることになりました。

これは、新型コロナウイルス感染拡大による特例措置ではなく、正式な制度として導入されるものです。学則第22条第4項に定められている、1～4年生の間で修得した遠隔授業科目は、60単位まで卒業要件単位に含まれます。

ただし、法令上の特例措置により2021年度以前に遠隔授業として実施した授業科目は、上記の修得単位数に含みません。

【注意点】

60単位を超えて修得した単位は、卒業要件単位に含まれず、非卒業要件単位に位置づけられますのでご注意ください。

そのため、自分が所属する学部の卒業要件単位のうち、遠隔授業科目がどの群にあたるか等注意深く確認しながら履修計画を立てる必要があります。また、修得した遠隔授業の単位数は自分自身で把握するよう努めてください。

遠隔授業の対象である科目は、シラバスおよび時間割で確認できます。

なお、遠隔授業の実施回数も授業によって異なり、全ての授業回数で遠隔授業を実施するとは限りませんので、シラバスをよく確認してください。

【例】

現在4年生で、あとB群で専門教育科目2単位分が足りないが、他の科目の履修と時間割を照らし合わせたところ、その2単位分は遠隔授業科目しか履修できない状況となっている。

しかし、すでに遠隔授業科目で卒業要件に含まれる限度である60単位を修得しているため、履修登録が出来て単位を修得しても卒業要件単位には含まれない。

⇒このようなことを防ぐために、遠隔授業科目については卒業要件に含まれる単位数に余裕をもっておくことが必要です。

※自分の遠隔授業科目の修得状況や履修登録状況が気になる場合は、各学部事務室にお問い合わせください。

⑧ 海外文化………留学先での学修に関する単位認定制度です。

- 海外文化とは、北海学園大学海外留学規程に基づき留学した学生を対象に、留学先での履修・学修を本人の申請により教授会の議を経て認定する制度のことです。
- 留学許可願の提出は、原則として留学をする3カ月前までに行わなければなりません。単位認定を希望する学生は、手続き等が間に合うように人文学部事務室及び庶務課学術・国際交流担当窓口にご相談してください。
- 科目としては共通基礎科目／一般教育科目の海外文化Ⅰ～Ⅳ（各1単位、上限4単位）として認定されます。これらの科目は自由科目として扱われます。

⑨ 放送大学単位互換科目の履修

- 人文学部2部の3年次学生を対象に実施する放送大学単位互換科目の履修については「放送大学特別聴講学生履修規程」(p.110)を参照してください。具体的な履修方法については、時期が近づき次第別途掲示します。専門教育科目として認定するため履修上限単位に含まれます。

⑩ 北海商科大学商学部単位互換科目の履修

北海商科大学商学部の授業科目を履修し、単位を修得を希望するときは、所定の手続きを経てその聴講を認めます。各年度10名以内、修得単位数は、通算12単位を超えない範囲とします。具体的な履修方法については、

3月後半に別途掲示します。募集期間が短いので注意してください。これらの科目は自由科目として扱われます。

⑪ 準備学習

大学では、授業科目ごとに学修内容と時間に応じて単位数が定められています。ただし、ここでいう学修時間には、単に授業だけではなく、学生の自学自習の時間が含まれています。大学における高度に専門的な授業を理解するためには、授業時間に対して2倍から3倍の予習・復習や課題への取り組みが必要とされています。

実際問題として、大学の授業では、板書だけでなく、教員の話を含めて講義録としてのノートを作成することが不可欠です。そのためには、授業に集中するだけでなく、予め講義概要（シラバス）で授業のねらいや計画などを把握しておくとともに、毎回の授業の前に教科書や参考書に目を通しておく必要があります。また授業後には、ノートを読み返し、補足や修正を行うことも求められます。

人文学部では、こうした学生の自学自習を支援するために、授業その他で使用されていない時間に限り、1号館2階A201～A207と1号館3階A301～A303の演習室を解放していますので、利用希望の学生はG-PLUS!で申し込んでください。

⑫ 授業改善アンケート

本学では、教育活動の質向上を図るための組織的な取り組み＝FD（Faculty Development）活動の一環として、授業改善アンケートを実施しています。その目的は、教員が学生の声をもとに授業のあり方を検証し、改めるべき点があればこれを学生に明らかにして改善の方向性を示し、授業に反映させることにあります。したがって、学生の積極的な参加が、さらなる授業改善につながりますので、アンケートの趣旨を十分理解して是非協力してください。なおアンケートは匿名式ですので、学生の成績評価に利用されることは一切ありません。

大学の授業では、真理をみきわめるべく、教師と学生が良き緊張関係のもとで互いに切磋琢磨する姿勢を持つことが何より大切です。この意味で、良い授業とは、教員と学生の共同作業によってはじめて実現するものにほかなりません。そのためには、教員が自らの授業を不断に検証していくとともに、学生がアンケートの回答をとおして授業に対して責任を持つだけでなく、主体的な学修態度を身につけることが不可欠の前提となります。アンケートの実施にあたっては、学生の自学自習の時間が問われるように、皆さん自身が本学の教育をより良いものとするという自覚と責任を持つことが求められています。

2 卒業・進級

① 単位制………大学での学修は全て単位制となっています。

- 単位とは学修の量を表わす基準のことをいいます。科目ごとに一定の単位数が定められており、ある科目に合格した場合、それに対応した単位が認定されます。

② 卒業要件・学位………卒業するためにはどのくらいの単位数が必要なのか、各自チェックしておきましょう。

- 本学に4年以上在学し、次に定める単位を修得した学生には、卒業が認定され、学士（文学）の学位が授与されます。（学部規則第15条参照）

〈2014年度以降入学者〉

● 1部日本文化学科			
一般教育科目（基盤科目の言語の科目以外）	要件なし	}	合計 132単位以上
一般教育科目（基盤科目の言語の科目）	4単位以上必修		
専門教育科目（英語科目）	88単位以上必修		
専門教育科目			
● 1部英米文化学科			
一般教育科目（基盤科目の言語の科目以外）	要件なし	}	合計 132単位以上
一般教育科目（基盤科目の言語の科目）	要件なし		
専門教育科目	88単位以上必修		
専門教育科目			
○ 2部日本文化学科			
一般教育科目（基盤科目の言語の科目以外）	要件なし	}	合計 124単位以上
一般教育科目（基盤科目の言語の科目）	4単位以上必修		
専門教育科目（英語科目）	88単位以上必修		
専門教育科目			
○ 2部英米文化学科			
一般教育科目（基盤科目の言語の科目以外）	要件なし	}	合計 124単位以上
一般教育科目（基盤科目の言語の科目）	要件なし		
専門教育科目	88単位以上必修		
専門教育科目			

〈2012～2013年度入学者〉

● 1部日本文化学科			
一般教育科目（基盤科目の言語の科目以外）	要件なし	}	合計 132単位以上
一般教育科目（基盤科目の言語の科目）	4単位以上必修		
専門教育科目	88単位以上必修		
専門教育科目			
● 1部英米文化学科			
一般教育科目（基盤科目の言語の科目以外）	要件なし	}	合計 132単位以上
一般教育科目（基盤科目の言語の科目）	要件なし		
専門教育科目	88単位以上必修		
専門教育科目			

- 1部の場合、外国人留学生・海外帰国生徒学生は、「代替科目」の履修が認められています。
- 2部の場合、専門教育科目の88単位には、放送大学単位互換科目の単位を、選択科目の単位として含めることができます。
- 各種課程科目の修得単位については、卒業要件単位数に算入されないものがあるので注意してください。

- 60単位を超えた遠隔授業の単位は卒業要件に含みません。
- 2014年度以降入学生は、3年次開講の他学科科目8単位まで卒業に必要な単位に算入できます。

③ 進級要件……………2年次から3年次に進級する際に必要となる単位数です。

1部は52単位，2部は48単位

- 3年次進級には、2年次終了時において、一般教育科目／共通基礎科目・外国語科目及び専門教育科目にわたり、1部52単位以上、2部48単位以上を取得していなければなりません。
- 1年次から2年次、3年次から4年次への進級要件はありません。

④ 卒業・進級……………要件を満たした学生を3月上旬に発表します。

- 卒業要件を満たした4年次の学生に対し、3月上旬に卒業生発表を行います。同じ時期に、3年次進級の要件を満たした2年次の学生に対し、進級生発表を行います。
- 卒業要件を満たせなかった（卒業延期）学生及び、進級要件を満たせなかった（留年）学生は、別途掲示するガイダンスへ出席してください。

⑤ 9月期卒業……………過去に1度でも卒業延期となったことがある場合、要件を満たせば、申し出により9月に卒業することが可能です。

- 要件を満たした上で所定の手続きを行えば、申し出により9月に卒業（以下、9月期卒業）することができます。希望する学生は以下をよく読んで、手続きを行ってください。
1. 9月期卒業を申し出するには、以下の要件を全て満たしている必要があります。
 - (1) 過去に1度でも、卒業延期となったことがある。
 - (2) 今年度の第1学期の履修により卒業要件を満たす見込みがある。
 2. 9月期卒業に関しては以下の注意点があります。
 - (1) 留年や休学などにより4年以上在学していても、1度でも卒業延期となることがなければ9月期卒業を申し出ることできません。
 - (2) 第2学期開講科目や通年科目は第1学期終了時点では単位が認定されません。
 - (3) 卒業研究の単位を修得していない学生は、今後の卒業研究の履修手続きについて第1学期の履修登録前に事務室に相談に来てください。
 3. 9月期卒業を希望する場合、手続期間内に必ず手続きを行ってください。申し出が無い場合、通常どおり3月の卒業となりますので、都度、人文学部掲示板もしくはG-PLUS!にて確認してください。

第1次9月期卒業手続期間	4月19日(火)～5月7日(土)
第2次9月期卒業手続期間	7月15日(金)～8月9日(火)
9月期卒業生発表	9月16日(金)
9月期卒業証書・学位記授与式	9月30日(金)

⑥ 既修得単位の認定………本学入学前に他大学等で修得した単位を人文学部の
(1～2年生対象) 単位として認定する制度です。

- 本大学もしくは他の大学（外国の大学及び短期大学を含む）を卒業した、1年以上在籍して中途退学した、あるいは科目等履修生として単位を修得した学生で、本学部の1年次に入学した学生は学則第26条により、既修得単位の認定を願い出ることができます。
- 申請対象者 本学部の1年次に入学し、以下の条件に該当する学生
次の学校を卒業、修了、または1年以上在籍して退学した学生
 1. 大学
 2. 短期大学
 3. 高等専門学校
 4. 専修学校の専門課程
 5. 高等学校等の専攻科次の学校で科目等履修生として在籍した学生
 1. 大学
 2. 短期大学
 3. 専修学校
- 授業科目・単位数 一般教育科目の言語の科目4単位以内（英語2単位以内、英語以外の外国語2単位以内）、一般教育科目の言語の科目以外の科目26単位以内の合計30単位以内。
- 年次配当 1年次12単位以内、2年次18単位以内の合計30単位以内。
- 試験（筆記、口述試験等）に合格しなければなりません。試験の成績は、新たに秀・優・良・可・不可・欠（「秀」の評価は2012年度以降入学者適用）の評価で表し、可以上を合格とします。合格した科目については、一般教育科目／共通基礎科目・外国語科目の当該単位として認定し、卒業に必要な単位に算入されます。
- 出願時期 4月5日（火）～4月13日（水）
- 提出書類 所定の期間内に次の書類を人文学部事務室へ提出してください。
 1. 既修得単位認定申請書（人文学部事務室で配付）
 2. 既修得科目および単位等振替認定申請書（人文学部事務室で配付）
 3. 成績証明書（科目等履修生の場合は単位修得証明書でも可）
 4. 卒業証明書、修了証明書、退学証明書（在籍期間明記のもの）、在籍期間証明書（科目等履修生の場合）のいずれか※上記のほか、申請内容等に応じて必要な書類を提出してもらう場合があります。
- 課程関係科目 別途人文学部事務室へご相談ください。
- 1年次で申請して不合格、もしくは履修をした科目が不合格だった場合、その科目については、2年次に再度出願することはできません。

⑦ レスブリッジ大学とのダブルディグリー・プログラム
………レスブリッジ大学（カナダ）に長期留学し、本学とレスブリッジ
大学の両方を卒業できる制度です。

本学は、2019年12月に、カナダ・アルバータ州のレスブリッジ大学とダブルディグリー・プログラムの協定を結びました。レスブリッジ大学は、現在目覚ましい発展を遂げつつあるカナダ有数の州立大学です。本学とは、長年にわたる学生・教員の交流の歴史があり、受け入れ態勢は万全です。

人文学部に2020年度以降に入学したみなさんは、北海学園大学とレスブリッジ大学の両方を卒業する、この新しい制度にチャレンジできます。

希望者は、北海学園大学で2年学び、取得単位や英語力のチェックを受けた後に、レスブリッジ大学で残りの2年間勉強することになります。ただし、日本および現地での英語学習を含めた準備や、学年の開始時期の

違い、帰国後の卒業研究の提出などのために、2つの卒業証書を受け取るには最短でも5年はかかります。それでも、日本と北米の両方を拠点として国際的なキャリアを目指す人にとっては、大変魅力的な選択肢だと思います。

費用のことなども含めた詳細については、下記の通りガイダンスを行いますので、興味のある人は必ず参加してください。

日付	対象	部	場所	時間
4月7日(木)	2020年度以降入学生	1部	50番教室	13:00~13:40
		2部	40番教室	19:30~20:10

3 履修

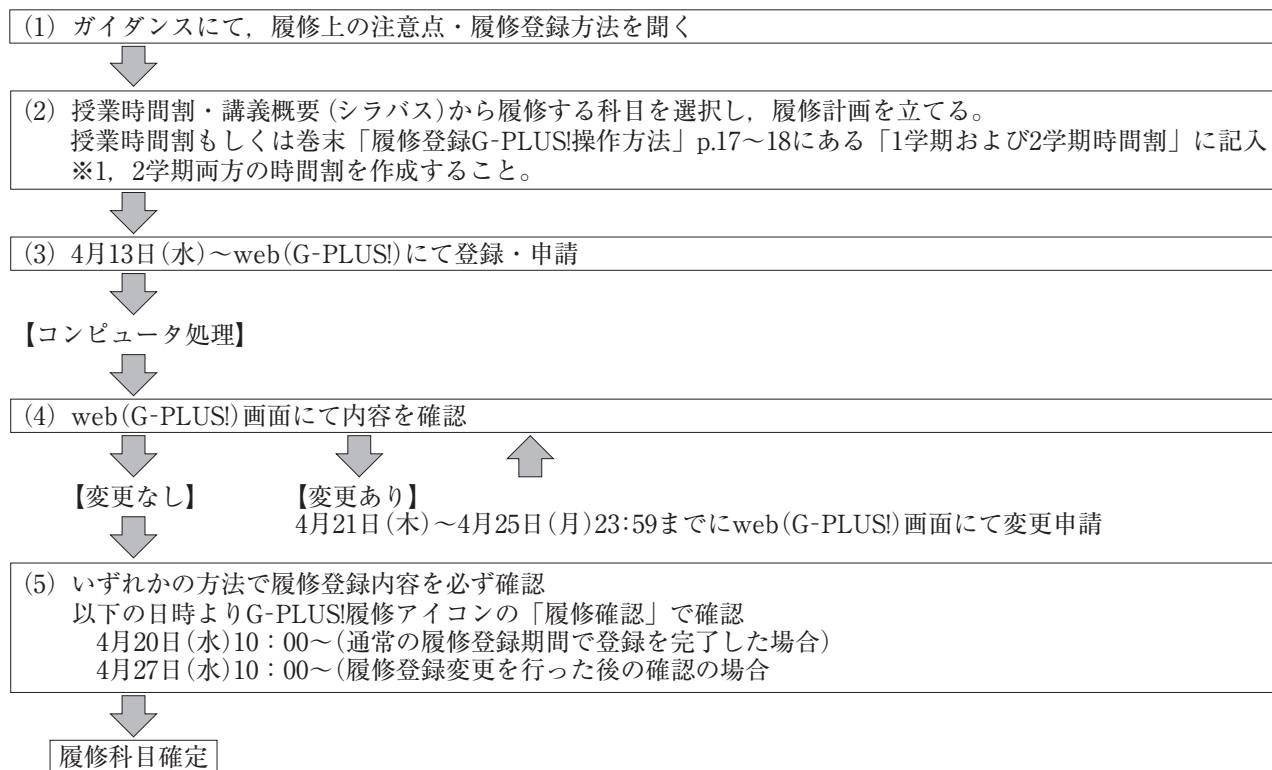
① 履修の仕方……………自分の履修する科目を決め、それを届け出ることを履修登録といいます。履修登録は重要な手続きですので、以下をよく理解した上で手続きを行ってください。

- 履修登録は、年度の初めにその年度に履修しようとする授業科目を選定して受講計画をたて、それを届け出る重要な手続きです。一旦登録した授業科目は、各自において責任をもって受講しなければなりません。巻末「履修登録G-PLUS!操作方法」を精読し、ガイダンスの内容をよく理解した上で履修登録をしてください。
- 履修登録方法 以下の履修登録期間内にweb（G-PLUS!）にて登録を行います。この登録は、必ず本人が手続きを行ってください。
- 履修登録期間 4月13日（水）～18日（月）23：59まで
※指定された期間内に履修登録をしていない学生は、当該年度の授業科目の履修および受験は許可されませんので注意してください。
- 4月9日（土）より授業開始となりますので、履修登録期日までは自由に興味のある科目を履修登録前に受講して履修計画を立てることをおすすめします。
- 必修科目やあらかじめ指定されたクラスがある科目は必ず初回講義から受講してください。
- 履修相談 履修登録の前に、履修に関して疑問等がある場合に利用してください。

1. 相談日 4月7日（木）
（詳細については、別途G-PLUS!で配信します）
2. 受付時間 14時30分～19時30分
3. 会場 4月7日（木）：34番教室

② 履修登録の流れ

…………履修登録にあたっては、web (G-PLUS!) にて自分自身で登録・申請をしなければなりません。
注意事項を守って入力漏れ・ミスのないようにしてください。



第2学期分の履修登録内容を変更したい場合は、以下の日程で変更することができます。

- (1) 9月30日(金)~10月2日(日)23:59まで第2学期履修変更
第2学期の履修変更は、第1学期と異なる制限等がありますので、p.17およびG-PLUS!等をよく確認すること
- (2) いずれかの方法で履修変更内容を必ず確認
以下の日時よりG-PLUS!の「MY時間割」または、G-PLUS!の教務情報の「履修確認」で確認可能
10月4日(火)10:00~

- 「授業時間割」で科目の曜日・時限を確認し、「講義概要(シラバス)」で科目の授業計画・内容等を確認します。その両方を総合して、今年度受講する科目を決めてください。
- 入力にあたっては、授業時間割もしくは巻末「履修登録G-PLUS!操作方法」p.17~18にある「1学期および2学期時間割」を完成させた後、それに基づいて履修登録を行うことをおすすめします。
- 登録の方法については、「履修登録G-PLUS!操作方法」を参照してください。

③ 履修単位制限……………1年間に履修できる単位数には原則上限があります。

1部 1・2年次52単位, 3・4年次60単位

2部 1・2・3年次48単位, 4年次52単位

- 各種課程で開講している科目および自由科目の単位は除きます。

④ 履修登録上の注意……………履修する科目を決めるうえで、様々な注意事項があります。以下をよく読んだうえで、履修登録の手続きを行ってください。

- 一般教育科目の言語の科目／外国語科目, コンピュータ科学, 体育実技については制約等がありますので, G-PLUS!配信や掲示板等で詳細を確認したうえで履修してください。(p.16参照)
- 履修単位制限を超えて履修することはできません。
- 上級年次生は下級年次開講科目を履修することができますが, 下級年次生は上級年次開講科目を履修することはできません。
- 2部の学生の1部の履修, 1部学生の2部履修については, p.2を参照してください。
- 同一名称の科目は, 担当者・開講学期・時限・曜日・授業内容が異なったとしてもいずれか1科目しか履修できません。

例：1学期1部月曜3時限目『芸術論Ⅰ』担当者 原井 憲二
2学期1部月曜2時限目『芸術論Ⅰ』担当者 北村 清彦

- 履修登録した以外の授業科目を履修・聴講することはできません。また, 同一時間帯での重複履修は認められません。
- 学科や学生番号等により, クラスが分けられている授業科目は, 各自指定されたクラスの時間割に従って履修しなければなりません。(p.15～「履修登録をするにあたっての注意事項」参照)
- 演習については, あらかじめ「演習履修願」を提出し, 許可を受ける必要があります。詳細については時期が近づき次第別途G-PLUS!配信や掲示板等でお知らせします。
- 第1学期履修変更期間以後の科目の変更・追加・取消等は第2学期の変更期間を除き一切認められません。
- 履修登録完了後, 履修確認画面もしくは希望者に「履修登録確認書」を配付しますので, 各自必ず, 登録内容に間違いがないかを確認してください。
- 一度合格し, 単位を修得した科目は再度履修することはできません。不合格となった科目は次年度以降に再度履修することができます。
- 第2学期のみ休学する, あるいはしている学生が, 休学前に履修していた通年科目を復学年度の第2学期に引き続き履修する希望がある場合には, 休学の事前相談とあわせて人文学部事務室にご相談ください。
- 2014年度以降入学生は, 3年次開講の他学科科目8単位まで卒業に必要な単位に算入できます。

〈履修登録をするにあたっての注意事項〉

【専門教育科目】

以下の専門教育科目は、学生番号・クラス振り分け・履修人数等により、履修可能なクラスが決められています。

許可掲示およびG-PLUS!のお知らせと、web履修登録画面を照らし合わせ、指定されたクラスが表示しているかを確認してください。

2014年度以降入学生

部	開講年次	必修	授業科目	担当者	対象学科	制限等
1・2	1	○	人文学基礎演習	—	日・英	※1
1・2	1	○	日本語文章表現演習	—	日・英	※1
1・2	1	○	人文学概論	堀 雅彦	日・英	※1
1・2	1・2	英○	Communication Skills I・II・III・IV Global English I・II・III・IV Writing I・II Reading I・II	—	日・英	※1 ※4
1・2	—		上記以外の専門英語科目	—	日・英	※2
1	1		英語音声学	米坂 スザンヌ	日・英	※2 ※3
1・2	2	○	人文学演習A・B	—	日・英	※1
1・2	3	○	日本文化/英米文化専門演習I・II	—	日・英	※1
1・2	4	○	卒業研究	—	日・英	※1
1・2	2		ボランティアシップ(一般)	澤井 玄	日・英	※5
1・2	2		地理情報システム論	複数の教員	日・英	※2
1・2	3		伝統文化特別実習(服飾)	遠藤 啓子	日・英	※6
1・2	3		伝統文化特別実習(茶)	大森 由美子	日・英	※6
1・2	3		伝統文化特別実習(生け花)	押田 伸子	日・英	※6

※1 web履修登録画面では、すでに指定されたクラス・曜日時限の科目が登録された状態になっています(訂正不可)。

※2 web履修登録画面では、指定されたクラス・曜日時限の科目のみが表示されています。

※3 上級年次は自由に履修登録可。

※4 日本文化学科で履修を希望する学生は、教務ガイダンス配布もしくはG-PLUS!で配信の「専門英語科目履修希望願」を事前に提出してください。

※5 初回講義にて全学年を対象にプレースメントテストを実施して選考します。選考にて許可された学生は、履修変更期間中に履修登録してください。履修登録期間中は、表示されませんのでご注意ください。

※6 自由に履修登録可。ただし希望者が15名を上回った場合には、GPAで選考します。

【一般教育科目】

新入生で言語の科目・体育実技・コンピュータ科学を履修希望する場合は、配布したスケジュールを確認のうえ、関連する各ガイダンスに出席してください。

また、一般教育科目では事前に申し込みが必要な授業科目や過去の履修人数の実績を考慮し、履修制限を設定する授業科目があります。

履修制限が設定されている授業科目は、事前に履修の抽選申請が必要になります。

具体的な制限科目や抽選申請のスケジュールについては、G-PLUS!または教務センター掲示板で確認してください。なお、抽選の結果、当選となった場合は必ず履修登録をしなければなりません。履修計画をしっかりと考えたうえで申請してください。

〈体育実技〉

体育実技を履修する場合は、種目選択申込み手続きが必要です。詳細については、新入生は体育実技ガイダンスに出席して確認してください。上級年次の学生はG-PLUS!または教務センター掲示板で確認してください。

〈コンピュータ科学〉

コンピュータ科学を履修する場合は、受講希望申請が必要です。詳細については、新入生はコンピュータ科学ガイダンス時に配布の資料を確認してください。上級年次学生については、人文学部事務室前にて配布資料を受け取り確認してください。

〈英語以外の外国語〉

履修希望の新入生は必ず英語以外の外国語ガイダンスに出席し、その指示に従ってください。

また、特定の条件を満たした場合のみ、上級年次開講科目の履修が認められますが、別途、申し込みが必要になります。

なお、英語以外の外国語の上級年次開講科目の履修については、2017年度以降入学生のみ対象です。

〈2014年度以降入学生 一般教育科目の英語科目〉

英米文化学科の学生は、学部専門英語科目として1・2年次に多くの必修科目を履修することとなっています。

そのため、一般教育科目の英語は「3年次」より、1・2年次開講科目について、履修が許可されています。ただし、学部専門英語科目と学習内容の重複がないようにするために、一般教育科目の英語を履修する際は、2年次開講科目を履修してください。

⑤ 履修登録の確認……………履修登録に間違いがないか確認する作業です。
勉学, 単位修得に支障が生じないように必ず行ってください。

- 履修登録期間終了後、申請された履修情報を、G-PLUS!の「履修確認」画面に表示しますので、内容に間違いがないかを必ず確認してください。ブラウザの印刷機能でプリントアウトすることをおすすめします。(履修確認画面については、巻末「履修登録G-PLUS!操作方法」を参照してください。)
- 上記の確認で不備や疑問点を発見した場合には、別途指定する期間内に履修変更を行ってください (p.13参照)。履修変更では、履修科目の変更(入れ替え)・追加・削除をすることができます。変更を行った場合、変更後の確認を必ず行ってください。
履修確認画面で、必ず自分で登録科目・曜日・時限・学期・担当者・履修コードを確認してください。記載されていない科目は、受講も受験も許可されないので注意してください。
- 指定する期間内に不備や疑問点の申し出がない場合、本人が履修登録を完了したものと取り扱います。後日不備が発覚し、勉学や進級・卒業に支障が生じて、本人の意志で選択した結果とみなされてしまいます。毎年多くの学生に履修ミスが発生していますので、履修登録の確認は細心の注意をもって行ってください。

〈第2学期開講科目の履修変更について〉

- 9月下旬に第2学期開講科目の履修変更期間を設けます。履修変更の際には様々な制約がありますので、事前に下記の変更方法・特記事項をよく確認してください。なお、下記の内容については変更される場合があります。詳細については時期が近づき次第別途掲示します。

1. 変更方法

9月30日(金)～10月2日(日)23:59までに希望者は、web上(G-PLUS!)で科目の追加・変更を行ってください。

2. 特記事項

- ① 科目等履修生を除く人文学部の全学生が対象です。
- ② 変更可能な科目は第2学期開講科目のみです。
- ③ 変更の際は、履修単位制限の範囲内とします。(p.14を参照)
- ④ 変更不可の科目は、通年科目・一般教育科目の言語の科目/外国語科目・一部課程科目・その他制限のある科目などです。(詳細については時期が近づき次第掲示される「変更不可及び制限科目一覧」を参照)
- ⑤ 第1学期に不合格となり、第2学期にも開講される同一名の科目について、追加・変更はできません(例:心理学など)。ただし、人文学部専門科目で必修のものについては、担当教員の許可があれば、認めることがあります。

履修確認画面で、必ず自分で登録科目・曜日・時限・学期・担当者・履修コードを確認してください。記載されていない科目は、受講も受験も許可されないので注意してください。

⑥ 履修計画

人文学部のカリキュラムは、将来社会で自立しうる豊かな教養を身につけるための一般教育科目と、人文学の専門的知識・技能を学ぶための専門教育科目によって構成されています。また、これとは別に、教育職員免許をはじめとする各種の資格を取得するために必要な科目が、それぞれの課程ごとに設定されています(詳しくは、それぞれの課程の『履修の手引・講義概要』を参照してください)。

これらの多様な科目群から、1年次には大学で学ぶ基礎と豊かな教養を身につけ、2年次には自らの問題関心に即して専門分野を模索・選択し、3年次には所属ゼミ(演習)で自己の研究課題を追究し、4年次には大学4年間の集大成として卒業研究を完成させる、というのが人文学部における基本的な勉強の進めかたです。

さらに、人文学部のカリキュラムは、日本および英語圏の文化について、言語・文学・歴史・宗教・思想・

芸術などのさまざまな視点から総合的に学べるよう配慮がなされています。したがって皆さんには、言語学・文学・歴史学・文化人類学といった伝統的な学問分野に即して学ぶことはもちろんのこと、そうした旧来の枠組みに囚われない学際的な方法で独自の勉強を進めていくことが可能です。2014年度以降の入学生はp.22以降のカリキュラム体系図を基に、ぜひ一度、自らが抱く興味関心と将来像にしたがい、4年間の履修計画を立ててみてください。

主体的な履修計画の作成は、皆さんがそれぞれの無限の可能性を追求する第一歩となるはずです。

※p.26以降の履修モデルは2014年度以降入学生に適用される学則別表に掲載されている科目を基に例示しています。

〈時間割の作り方ガイド（1年生用）〉

- 授業は4月9日（土）に始まります。4月18日（月）までに、G-PLUS!上で1学期・2学期の1年分の時間割を登録する必要があります。それぞれの授業の指示はLMSを通して行われます。G-PLUS!とLMSを両方使いこなして時間割を立て、授業に参加してください。

時間割をつくって授業を受けるまでの流れ

1. 授業開始までに、**用意するもの**の冊子↓を使ってまずは1学期の時間割を立てる。
2. LMSを通して履修予定科目に「仮エントリー（仮登録）」をする。仮エントリーで、1回目の授業の指示を見ることができるようになる。それぞれの科目の1回目の授業（4月9日～）の前に指示をチェックする（先生によっては、前日に指示を登録することがある）。
3. 4月13日から始まる履修登録までに2学期の時間割も立てる。
4. G-PLUS!で履修科目を登録する（G-PLUS!では、時間割に自分が履修可能な科目だけが表示されて、クラスが決まっている科目も自動的に表示される）。4月18日までに、1学期・2学期の1年分の時間割を登録する（変更できる期間があり、期間はG-PLUS!でアナウンスされる）。履修登録は「申請」ボタンを押すことで完了し、履修登録期間中は何度でも変更できる。

用意するもの

- 授業時間割
- （専門教育科目）、（一般教育科目）の講義概要2冊（課程を履修する人はその課程のシラバスも用意する）

時間割を決めるコツ 1→2→3と進むこと

1. 必修科目を確認する。

- (1) 1部1年生（日本文化学科）

1学期の必修科目（ガイダンス配付資料で指定された「クラス」も確認する）

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限		人文学基礎演習				
3時限						
4時限						
5時限			人文学概論			

2学期の必修科目（日本語文章表現演習は、2学期開始前までに正規のクラスに振り分けられる）

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限						
3時限						
4時限						
5時限	日本語文章表現演習					

- (2) 1部1年生（英米文化学科）

1学期の必修科目（ガイダンス配付資料で指定された「クラス」も確認する）

	月	火	水	木	金	土
1時限	Writing I *		Global English I *			
2時限	Communication Skills I	人文学基礎演習			Reading I	
3時限			Global English I *			
4時限					Writing I *	
5時限			人文学概論	Communication Skills I		

*クラス指定によって、ふたつある時間帯のうちどちらか

2学期の必修科目（ガイダンス配付資料で指定された「クラス」も確認する。日本語文章表現演習は、2学期開始前までに正規のクラスに振り分けられる）

	月	火	水	木	金	土
1時限	Writing II *		Global English II *			
2時限	Communication Skills II				Reading II	
3時限			Global English II *			
4時限					Writing II *	
5時限	日本語文章表現演習			Communication Skills II		

*クラス指定によって、ふたつある時間帯のうちどちらか

(3) 2部1年生（日本文化学科）

1学期の必修科目（ガイダンス配付資料で指定された「クラス」も確認する）

	月	火	水	木	金	土
一部開講 時間帯						
1時限						
2時限			人文学概論	人文学基礎演習		

1年生2学期の必修科目（日本語文章表現演習は、2学期開始前までに正規のクラスに振り分けられる）

	月	火	水	木	金	土
一部開講 時間帯						
1時限	日本語文章表現演習					
2時限						

(4) 2部1年生（英米文化学科）

1学期の必修科目（ガイダンス配付資料で指定された「クラス」も確認する）

	月	火	水	木	金	土
一部開講 時間帯						
1時限			Global English I		Communication Skills I	Reading I
2時限		Communication Skills I	人文学概論	人文学基礎演習	Writing I	

2学期の必修科目（ガイダンス配付資料で指定された「クラス」も確認する。日本語文章表現演習は、2学期開始前までに正規のクラスに振り分けられる）

	月	火	水	木	金	土
一部開講 時間帯						
1時限	日本語文章表現演習		Global English II		Communication Skills II	Reading II
2時限		Communication Skills II			Writing II	

2. 空きコマに、授業を選んで入れる。「一般教育科目」と「専門教育科目」の時間割から履修したい科目を選ぶ。

- その科目の「1年」に「人」とあれば、受講可能。
- 「日」とあれば、日本文化学科学生受講可能。「英」とあれば、英米文化学科学生受講可能。
- 「講義概要（シラバス）」で科目の内容などを確認して決める。「講義概要（シラバス）」は念のためG-PLUS!やLMSの「シラバス」で最新情報を確認するとよい。

(1部)

- 1年生で履修できる単位数には上限（課程科目など特殊な科目を除いて52単位）があるので、履修しすぎには注意する。課程を履修しない人は1学期に10-15科目程度が適当。勉強が追いつかなくて成績が不

可/欠になると、さまざまな不利益がある。空き時間は、図書館やパソコン実習室などで自習する。

(2部)

- 4年間で卒業するためには、月から土まで1時限と2時限のほとんどの時限に授業が入っていることが望ましい。
 - 1部開講時間帯の一般教育科目の一部も履修できる(時間割p.8)。1部開講時間帯の人文学部専門科目も履修が可能(窓口での手続きにより、必修科目を除いて各年度4単位以内)。ただし、1年に履修できる単位数には上限(課程科目など特殊な科目を除いて48単位)があるので、履修しすぎには注意する。
3. 「課程」(教職課程, 学芸員課程*, 図書館学課程, 社会教育主事課程*, 日本語教員養成課程)を履修する人は、自分の希望する「課程」に1年次前期から開講されている科目がないかチェックして、必要なら時間割に入れる。
- 「日本語教員養成課程」以外の「課程」科目は、卒業単位にならないものが多いので気をつける。

*学芸員課程・社会教育主事課程は1部のみ。

〈2014年度以降入学生〉

日本文化学科カリキュラム体系図 (○=人文学部卒業のための必修科目 (卒業要件))

1年次		2年次	
一般教育科目			
導入科目	英語科目	英語科目	英語科目
	Communication Skills I Communication Skills II Global English I Global English II	Reading I Reading II Writing I Writing II	Communication Skills III Communication Skills IV Global English III Global English IV Reading III Reading IV
			Special Skills I Special Skills II Writing III Writing IV Cultural Perspectives in English I Cultural Perspectives in English II Cultural Perspectives in English III Cultural Perspectives in English IV
	基幹科目	基礎科目	基幹科目
	○ 人文学概論	〈言語文化〉 言語 日本語学概論 I 日本語学概論 II 日本語発声実習 英文法 英語音声学 文学 日本文学史 I 日本文学史 II 〈思想文化〉 日本文化概論 I 日本文化概論 II 〈歴史文化〉 日本史概論 I 日本史概論 II 〈環境文化〉 人文地理学 I 人文地理学 II	○ 人文学演習 A ○ 人文学演習 B
○ 人文学基礎演習 ○ 日本語文章表現演習			〈言語文化〉 言語 日本語教授法 I 日本語教授法 II 対照言語学 書道 書道演習 英語学概論 I 英語学概論 II 文学 日本古典文学講読 I 日本古典文学講読 II 日本近現代文学 I 日本近現代文学 II 英米文学史 I 英米文学史 II 〈思想文化〉 日本芸術史 映像論 ヨーロッパ文化概論 キリスト教文化論 〈歴史文化〉 古文書講読 ヨーロッパ史概論 I ヨーロッパ史概論 II アメリカ史概論 〈環境文化〉 地理情報システム論 アイス文化論 I アイス文化論 II 文化人類学 I 文化人類学 II メディア史
	特別講義科目		
	人文学特別講義		
	課外学修科目	課外学修科目	
	〈特別演習〉 英米文化特別演習 I 英米文化特別演習 II 英米文化特別演習 III 文化遺産特別演習	〈特別演習〉 日本文化特別演習 国際文化特別演習 〈キャリア形成〉 インターンシップ ボランティアシップ(英語教育) ボランティアシップ(一般)	
		関連科目	
		日本史, 東洋史, 西洋史	

3年次

4年次

一般教育科目

英語科目

Cultural Perspectives in English V
 Cultural Perspectives in English VI
 Intensive Communication Skills I
 Intensive Communication Skills II

Special Lectures in English I
 Special Lectures in English II

基幹科目

基幹科目

展開科目

英米文化科目

○ ○ 日本文化 専門演習 I 日本文化 専門演習 II	〈言語文化〉 言語 日本語教授法 III 日本語教授法 IV 日本語学特論 I 日本語学特論 II 日本語教育学特論 日本語教育演習	〈言語文化〉 言語 英語文献講読 I 英語文献講読 II 英語学特論 I 英語学特論 II
	文学 日本文学特論 I 日本文学特論 II 漢文学 中国文学 I 中国文学 II 比較文学 I 比較文学 II	文学 英米文学講読 I 英米文学講読 II 英米文学特論 ヨーロッパ文学特論
	〈思想文化〉 日本文化特論 I 日本文化特論 II 日本映画論	〈思想文化〉 ヨーロッパ文化特論 I ヨーロッパ文化特論 II アメリカ文化特論
	〈歴史文化〉 日本史特論 I 日本史特論 II	〈歴史文化〉 ヨーロッパ史特論 I ヨーロッパ史特論 II アメリカ史特論
	〈環境文化〉 生態人類学 北方考古学 アジア地域論 I アジア地域論 II	〈環境文化〉 現代人類学 現代メディア論

○ 卒業研究

課外学修科目

〈特別演習〉 日本語教育特別演習
〈特別実習〉 伝統文化特別実習

〈2014年度以降入学生〉

英米文化学科カリキュラム体系図 (○=人文学部卒業のための必修科目 (卒業要件))

1年次	2年次
一般教育科目	
<p>導入科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○人文学基礎演習</p> <p>○日本語文章表現演習</p> </div>	<p>英語科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○Communication Skills I ○Reading I ○Communication Skills II ○Reading II ○Global English I ○Writing I ○Global English II ○Writing II</p> </div> <p>英語科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○Communication Skills III Special Skills I ○Communication Skills IV Special Skills II ○Global English III Writing III ○Global English IV Writing IV Reading III Cultural Perspectives in English I Reading IV Cultural Perspectives in English II Cultural Perspectives in English III Cultural Perspectives in English IV</p> </div>
<p>基幹科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align:center;">○人文学概論</p> </div>	<p>基幹科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align:center;">○人文学演習 A ○人文学演習 B</p> </div>
<p>基礎科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈言語文化〉 言語 英文法 英語音声学 英語文献講読 I 英語文献講読 II 日本語学概論 I 日本語学概論 II 日本語発声実習</p> <p>文学 英米文学史 I 英米文学史 II</p> <p>〈思想文化〉</p> <p>〈歴史文化〉 ヨーロッパ史概論 I アメリカ史概論</p> <p>〈環境文化〉 人文地理学 I 人文地理学 II</p> </div>	<p>基礎科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈言語文化〉 言語 英語学概論 I 英語学概論 II 日本語教授法 I 日本語教授法 II 対照言語学 書道 書道演習</p> <p>文学 英米文学講読 I 英米文学講読 II 日本文学史 I 日本文学史 II 日本近現代文学 I 日本近現代文学 II</p> <p>〈思想文化〉 ヨーロッパ文化概論 キリスト教文化論 日本文化概論 I 日本文化概論 II 日本芸術史 映像論</p> <p>〈歴史文化〉 ヨーロッパ史概論 II 日本史概論 I 日本史概論 II</p> <p>〈環境文化〉 地理情報システム論 アイヌ文化論 I アイヌ文化論 II 文化人類学 I 文化人類学 II メディア史</p> </div>
<p>特別講義科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>人文学特別講義</p> </div>	<p>課外学修科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈特別演習〉 英米文化特別演習 I 英米文化特別演習 II 英米文化特別演習 III 文化遺産特別演習</p> </div>
<p>課外学修科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈特別演習〉 日本文化特別演習 国際文化特別演習</p> <p>〈キャリア形成〉 インターンシップ ボランティアシップ(英語教育) ボランティアシップ(一般)</p> </div>	<p>課外学修科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈特別演習〉 日本文化特別演習 国際文化特別演習</p> <p>〈キャリア形成〉 インターンシップ ボランティアシップ(英語教育) ボランティアシップ(一般)</p> </div>
<p>関連科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本史, 東洋史, 西洋史</p> </div>	<p>関連科目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本史, 東洋史, 西洋史</p> </div>

3年次

4年次

一般教育科目

英語科目

Cultural Perspectives in English V
 Cultural Perspectives in English VI
 Intensive Communication Skills I
 Intensive Communication Skills II

Special Lectures in English I
 Special Lectures in English II

基幹科目

基幹科目

展開科目

日本文化科目

○ 英米文化専門演習Ⅰ ○ 英米文化専門演習Ⅱ	〈言語文化〉 言語 英語学特論Ⅰ 英語学特論Ⅱ	〈言語文化〉 言語 日本語学特論Ⅰ 日本語学特論Ⅱ 日本語教授法Ⅲ 日本語教授法Ⅳ 日本語教育学特論 日本語教育演習
	文学 英米文学特論 ヨーロッパ文学特論	文学 日本古典文学講読Ⅰ 日本古典文学講読Ⅱ 日本文学特論Ⅰ 日本文学特論Ⅱ 漢文学 中国文学Ⅰ 中国文学Ⅱ 比較文学Ⅰ 比較文学Ⅱ
	〈思想文化〉 ヨーロッパ文化特論Ⅰ ヨーロッパ文化特論Ⅱ アメリカ文化特論	〈思想文化〉 日本文化特論Ⅰ 日本文化特論Ⅱ 日本映画論
	〈歴史文化〉 ヨーロッパ史特論Ⅰ ヨーロッパ史特論Ⅱ アメリカ史特論	〈歴史文化〉 日本史特論Ⅰ 日本史特論Ⅱ 古文書講読
	〈環境文化〉 現代人類学 現代メディア論 アジア地域論Ⅰ アジア地域論Ⅱ	〈環境文化〉 生態人類学 北方考古学

○卒業研究

課外学修科目

〈特別演習〉 日本語教育特別演習
〈特別実習〉 伝統文化特別実習

〈履修モデル〉

①～⑦の履修モデルは、それぞれの進路にとって履修するのが望ましい科目と、それらを履修するに相当と考えられる年次を例示したものであり、このように履修しなければいけない、というものではありません。当該年度の時間割に基づいて各自で工夫してください。

【凡例】

- ◎ = 人文学部卒業のための必修科目（卒業要件）
- ※ = 他学科科目（他学科科目は8単位まで卒業要件に算入）
- = 課程修了のための必修科目
- ◇ = 課程修了のための選択必修科目（さまざまな条件があるので、各課程の『履修の手引』を確認すること）
- 無印の科目は、履修するのが望ましいものの、学生の希望によって自由に選択が可能な科目。

① 1部・2部英米文化学科（まちづくり・観光）

【概要】 グローバルな視野から北海道文化の魅力を学ぶための履修モデルです。1年次では一般教育科目で北海道の自然・歴史・文化に関する基礎的な素養を養うとともに、北海道の文化を深めるための専門教育科目（基礎科目）を学びます。2年次では北海道文化の理解に不可欠なアイヌ文化のほか、世界の多様な文化のなかに北海道を相対化し位置付けるために、幅広く言語文化・思想文化・歴史文化・環境文化に関する専門教育科目（基礎科目）を、3年次では他学部履修・北海商科大学単位互換の制度を利用して北海道の観光・経済を学びの素材としながら、引き続き言語文化・思想文化・歴史文化・環境文化に関する専門教育科目（展開科目）を通して北海道の文化・魅力を専門的に考えていく科目を学びます。

【学びの目標】

- 日本文化・北海道文化をグローバル・ヒストリーのなかで相対化し、グローバルな視野から日本・北海道の魅力を考えられる。
- 国内外でのフィールドワークを通して文化多様性を体感することで、大学での学びを自身のキャリア・卒業研究に応用できる。
- 英語を使って北海道の魅力を発信する能力を養うほか、英語力を強化することで大学院進学にも対応できる。

【想定される進路】 地方公務員，国家公務員（北海道管内），まちづくりNPO，観光，エアライン，マスコミ，出版（旅行・タウン情報誌等），大学院進学

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計	
一般教育科目	国際事情 カナダの自然と社会 I 自然科学特別講義 北海道史 北方圏文化論 アイヌの言語と文化 北海道学特別講義	2 2 2 2 2 2 2	北海道文学	2		0		0	16	
専門教育科目	英語科目	◎Comm Skills I ◎Comm Skills II ◎Reading I ◎Reading II ◎Writing I ◎Writing II ◎Global English I ◎Global English II	2 2 1 1 1 1 1 1	◎Comm Skills III ◎Comm Skills IV ◎Global English III ◎Global English IV Reading III Reading IV Writing III Writing IV	2 2 1 1 1 1 1 1	Special Lectures in English I Special Lectures in English II	2 2		0 24	
	導入科目 ・ 基幹科目	◎人文学基礎演習 ◎日本語文章表現演習 ◎人文学概論	2 2 2	◎人文学演習A ◎人文学演習B	2 2	◎英米文化専門演習 I ◎英米文化専門演習 II	2 2	◎卒業研究	4 18	
	基礎科目・ 展開科目	言語文化 (言語)	英語音声学	2	対象言語学	2		0	0	4
		言語文化 (文学)	英米文学史 I 英米文学史 II	2 2	日本近現代文学 I	2	ヨーロッパ文学特論	2	0	8
		思想文化		0	ヨーロッパ文化概論 キリスト教文化論 日本文化概論 I 日本文化概論 II	2 2 2 2	映像論 日本芸術史	2 2	日本映画論※	2 14
		歴史文化	ヨーロッパ史概論 I アメリカ史概論	2 2	ヨーロッパ史概論 II 日本史概論 I 日本史概論 II	2 2 2	ヨーロッパ史特論 I アメリカ史特論 日本史特論 I ※	2 2 2	0	16 ※
	環境文化	人文地理学 I	2	地理情報システム論 アイヌ文化論 I アイヌ文化論 II 文化人類学 I 文化人類学 II	2 2 2 2 2	生態人類学※ 北方考古学※ アジア地域論 I アジア地域論 II 現代人類学 メディア史	2 2 2 2 2 2	現代メディア論	2 26 ※	
課外学習科目・ 特別講義科目	英米文化特別演習 I 英米文化特別演習 II	2 2	日本文化特別演習	2	伝統文化特別実習 インターンシップ	1 1	0	8		
関連科目		0		0	東洋史	2	0	2		
人文学部授業科目 (小計A)		46		46		36		8	136	
卒業要件単位		46		46		34		8	134	
資格課程 (卒業要件に含まない 単位分)		0		0		0		0	0	
他学部履修 (合計12単位まで履修可 (1部・2部間は不可))		-		-	北海道経済論 I (経済学部) 北海道経済論 II (経済学部)	2 2		0	4	
北海商科大学 単位互換 (12単位まで履修可)		-		-	観光学 I	3	観光学 II 地域観光論	3 2	8	
人文学部以外の授業科目 (小計B)		0		0		7		5	12	
合計単位数 (A+B)		46		46		43		13	148	

②1部・2部日本文化学科（日本語教員）（2017年4月以降入学生に適用）【凡例】はp.26参照

【概要】 本学日本語教員養成課程プログラムは、2000年の文化庁ガイドラインに沿って組み立てられ、2017年の科目配分、実習科目の強化要請を受けて現在の開講科目が設定されています。元々人文学部の言語科目を中心に、文学・歴史・社会学・教育学・心理学を履修することで、日本語教員資格が得られるようになっていきます。課程修了には5分野から必修及び必修選択科目の計32単位が必要ですが、日本語教員志望者には外国語、日本語教育実習科目を履修し、現場でのコミュニケーション能力、教育能力の獲得を目指すことが求められます。

【学びの目標】

- 日本語及び日本語教育に関する専門的知識を学ぶ。
- 国際的感覚と異文化コミュニケーション能力の向上を目指すため、英語を含む外国語の習得に努める。
- 日本語教育実習に関連する科目を履修し、現場での実践力を身につける。

【想定される進路】日本語教師（国内・海外）、中学校・高等学校教員（国語・英語）、旅行会社、マスコミ、大学院進学

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計		
一般教育科目	◇歴史学Ⅰ ◇歴史学Ⅱ ◇日本文学 ◇世界の言語と文化 ◇言語学Ⅰ ◇言語学Ⅱ ◇英語コミュニケーションⅠ ◇英語コミュニケーションⅡ ◇国際事情	2 2 2 2 2 2 1 1 2	◇歴史学Ⅲ ◇歴史学Ⅳ ◇英語コミュニケーションⅢ ◇英語コミュニケーションⅣ ◇アイヌの言語と文化 ◇異文化コミュニケーション ◇人間関係論 ◇コンピュータ科学	2 2 1 1 2 2 2 2				0	0	30	
専門教育科目	英語科目	◇Comm SkillsⅠ ◇Comm SkillsⅡ						2 2	0 0	4	
	導入科目 ・ 基幹科目	◎人文学基礎演習 ◎日本語文章表現演習 ◎人文学概論	◎人文学演習A ◎人文学演習B	2 2 2	2 2	◎日本文化専門演習Ⅰ ◎日本文化専門演習Ⅱ	2 2	◎卒業研究	4	18	
	基礎科目・ 展開科目	言語文化 (言語)	◇日本語概論Ⅰ ◇日本語概論Ⅱ ◇日本語発声実習	○日本語教授法Ⅰ ○日本語教授法Ⅱ ◇対照言語学 ◇英語学概論Ⅰ ◇英語学概論Ⅱ	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	○日本語教授法Ⅲ ○日本語教授法Ⅳ ◇日本語教育演習 ◇日本語教育学特論 ◇英語学特論Ⅰ ◇英語学特論Ⅱ	2 2 2 2 2 2	◇日本語学特論Ⅰ ◇日本語学特論Ⅱ	2 2	32
		言語文化 (文学)	◇日本文学史Ⅰ ◇日本文学史Ⅱ	日本近現代文学Ⅰ 日本近現代文学Ⅱ	2 2	2 2	日本古典文学講読Ⅰ 日本古典文学講読Ⅱ 比較文学Ⅰ 比較文学Ⅱ	2 2 2 2		0	16
		思想文化	◇日本文化概論Ⅰ ◇日本文化概論Ⅱ	◇ヨーロッパ文化概論 ◇キリスト教文化論	2 2	2 2	日本文化特論Ⅰ 日本文化特論Ⅱ 日本映画論	2 2 2		0	14
		歴史文化	◇日本史概論Ⅰ ◇日本史概論Ⅱ		2 2	0	日本史特論Ⅰ 日本史特論Ⅱ	2 2		0	8
		環境文化		◇アイヌ文化論Ⅰ ◇アイヌ文化論Ⅱ	0 0	2 2	◇アジア地域論Ⅰ ◇アジア地域論Ⅱ	2 2		0	8
		課外学習科目・ 特別講義科目			0	0	◇日本語教育特別演習	2		0	2
関連科目			0	0				0			
人文学部授業科目 (小計A)		44		40		40		8	132		
卒業要件単位		44		40		40		8	132		

●卒業要件の単位数（専門教育科目88単位以上、合計1部132単位以上、2部128単位以上）を履修していて、かつ上記の必修科目（○印）を含む「日本語教員養成課程修了」に必要な単位（5分野*から必修及び選択必修科目**（◇印）の合計32単位）が修得されていることが必要である。上記のモデルは学部が開講されている科目から選んだもので、このほか個別に関心のある科目があれば履修が可能である。日本語教員養成課程履修希望者は登録が必要ですので、G-PLUSの履修登録画面から各自申請したうえで、『日本語教員養成課程 履修の手引』を受け取り、修了に必要な履修科目を選ぶこと。（*ここで5分野とは、2000年に文化庁が定めたガイドラインに基づくもので、①「社会・文化・地域」領域、②「言語と社会」領域、③「言語と心理」領域、④「言語と教育」領域、⑤「言語」領域を指します。学部の分類と異なる。選択必修科目**については、さまざまな条件があるので、『日本語教員養成課程』の『履修の手引』を確認すること。）

③1部・2部日本文化学科（中学校高等学校国語）（2019年4月以降入学生に適用）【凡例】はp.26参照）

【概要】中学校・高等学校国語教員に求められる基礎知識、技能を身につけるための履修モデルです。必ずしも履修開講年次に基づいた配置になっていないため、時間割に応じて柔軟に履修計画を立ててください。国語教員に求められる「教養（一般教育科目）」、「専門知識（言語文化科目・教職課程科目）」を中心とした配置となっています。

【学びの目標】

- 国語教員として必要な教養（一般教育科目）を身につける。
- 国語教員として必要な言語学知識、言語習得論知識（言語文化）を身につける。
- 国語教員として必要な教育学的知識（教職課程）を身につける。

【想定される進路】中学校・高等学校教員（国語）、大学院進学

【取得可能な資格】中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許状（国語）

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計
一般教育科目		○日本国憲法 ○コンピュータ科学 ○体育実技I A ¹ ○体育実技I B ○英語コミュニケーションI ○英語コミュニケーションII 異文化コミュニケーション 日本文学 北海道文学 人間関係論 生涯学習論	2 2 1 1 1 1 2 2 2 2	中国語基礎I 中国語基礎II 北海道史	1 1 2		0		0	22
英語科目			0		0		0		0	0
導入科目 ・ 基幹科目		◎人文学基礎演習 ◎日本語文章表現演習 ◎人文学概論	2 2 2	◎人文学演習A ◎人文学演習B	2 2	◎日本文学専門演習I ◎日本文学専門演習II	2 2	◎卒業研究	4	18
専門教育科目	言語文化 (言語)	○日本語学概論I ○日本語学概論II	2 2	○対照言語学 ² 書道 ○書道演習 ³ 日本語教授法I 日本語発声実習	2 2 2 2 2	○日本語学特論I ○日本語学特論II	2 2		0	18
		○日本文学史I ○日本文学史II	2 2	日本古典文学講読I 日本古典文学講読II 日本近現代文学I 日本近現代文学II	2 2 2 2	○日本文学特論I ○日本文学特論II ○漢文学 中国文学I 中国文学II 比較文学I 比較文学II	2 2 2 2 2 2		0	26
	思想文化	日本文化概論I 日本文化概論II	2 2	日本芸術史	2	日本文化特論I 日本文化特論II ヨーロッパ文化概論 キリスト教文化論	2 2 2 2	日本映画論	2	16
	歴史文化	日本史概論I 日本史概論II	2 2	ヨーロッパ史概論I ヨーロッパ史概論II アメリカ史概論	2 2 2	日本史特論I 日本史特論II 古文書講読	2 2 2	日本史特論I	2	16
	環境文化	人文地理学I	2	文化人類学I 文化人類学II アイヌ文化論I メディア史	2 2 2 2	アジア地域論I アジア地域論II	2 2		0	14
	課外学習科目・ 特別講義科目		0	日本文化特別演習	2		0	伝統文化特別実習	1	3
関連科目			0		0		0		0	0
人文学部授業科目 (小計A)			42		44		38		9	133
卒業要件単位			42		44		38		9	133
教職課程 (卒業要件に含まない 単位)		○教職入門 ◇教育行政学 ○教育課程論 ○特別活動の指導 ○生徒・進路指導論 ○教育相談 ○教育方法論 ○総合的な学習の時間の指導	2 2 2 2 2 2 2 1	○国語科教育法I ○国語科教育法II ○道徳教育指導論 ○特別支援教育概論 ◇学校と教育の歴史 ◇学校教育心理学 ◇教育学概論 ◇教育心理学I	2 2 2 1 2 2 2 2	○介護体験実習 ⁴ ○国語科教育法III ○国語科教育法IV 教職総合演習 ⁵	1 2 2 2	○教職実践演習(中・高) ○中学校教育実習 ⁶ ○中・高教育実習(事前事後指導含む)	2 2 3	44
人文学部以外の授業科目 (小計B)			15		15		7		7	44
合計単位数(A+B)			57		59		45		16	177

¹1部は体育実技I A～IVB、2部は体育実技I A～II Bの中から2単位修得すればよい。

²対照言語学は高等学校免許必修（高校免許選択科目）

³書道演習は中学校免許必修

⁴介護体験実習は中学校免許のみ必修（高校免許選択科目）

⁵必修科目ではないが、受講を推奨する。

⁶中学校教育実習は中学校免許必修（高校免許選択科目）

④1部・2部英米文化学科（英語教育・中学校高等学校英語）（2019年4月以降入学生に適用）【凡例】はp.26参照

【概要】中学校・高等学校英語教員，その他の英語教師，英語教育研究に求められる基礎知識，技能を身につけるための履修モデルです。基本的に履修開講年次に基づいた配置をしていますが，時間割に応じて柔軟に履修計画を立ててください。英語教員に求められる「英語力（英語科目，国際文化演習）」，「専門知識（言語文化科目・教職課程科目）」を中心とした配置となっています。また，このモデルは英語力の向上のため，2年次の国際文化特別演習（14週間プログラム）の履修を前提としています。国際文化特別演習を履修しない場合は，英米文化特別演習Ⅰ，Ⅱ，北海学園大学レスブリッジ大学派遣プログラム（8ヶ月）への参加を検討してください。また国際文化特別演習の参加には1年次の成績，TOEICスコアを参考にしますので，1年次より計画的にTOEICの受験が求められます。

【学びの目標】

- 英語教員として必要な言語運用能力（英語科目）を身につける。
- 英語教員として必要な言語学知識，言語習得論知識（言語文化）を身につける。
- 英語教員として必要な教育学的知識（教職課程）を身につける。

【想定される進路】中学校・高等学校教員（英語），英会話学校教師，児童英語指導者，大学院進学

【取得可能な資格】中学校教諭一種免許状（英語），高等学校教諭一種免許状（英語）

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計	
一般教育科目	○日本国憲法 ○コンピュータ科学 ○体育実技ⅠA ¹ ○体育実技ⅠB 基礎心理学 カナダの自然と社会Ⅱ	2 2 1 1 2 2	カナダの自然と社会Ⅰ 統計学Ⅰ 異文化コミュニケーション	2 2 2	統計学Ⅱ	2		0	18	
専門教育科目	英語科目	◎Comm SkillsⅠ ◎Comm SkillsⅡ ◎ReadingⅠ ◎ReadingⅡ ◎WritingⅠ ◎WritingⅡ ◎Global EnglishⅠ ◎Global EnglishⅡ	◎Comm SkillsⅢ ReadingⅢ WritingⅢ ◎Global EnglishⅢ ○Cult. Perspect. in Eng.Ⅰ Cult. Perspect. in Eng.Ⅲ	2 2 1 1 1 1 1 1	◇Cult. Perspect. in Eng.Ⅱ Cult. Perspect. in Eng.Ⅳ ReadingⅣ WritingⅣ ◎Global EnglishⅣ ◎Comm SkillsⅣ ◇Special SkillsⅠ ◇Special SkillsⅡ	2 2 1 1 2 2 2 2	Special Lectures in EnglishⅠ Special Lectures in EnglishⅡ ◇Inten. Com SkillsⅠ ◇Inten. Com SkillsⅡ	2 2 2 2	40	
	導入科目・ 基幹科目	◎人文学基礎演習 ◎日本語文章表現演習 ◎人文学概論	◎人文学演習A	2 2 2	◎人文学演習B ◎英米文化専門演習Ⅰ ◎英米文化専門演習Ⅱ	2 2 2	◎卒業研究	4	18	
	基礎科目・ 展開科目	言語文化 （言語）	○英文法 ○英語音声学 ◇英語文獻講読Ⅰ ◇英語文獻講読Ⅱ	○英語学概論Ⅰ	2 2 2 2	◇英語学特論Ⅰ ◇英語学特論Ⅱ ◇英語学概論Ⅱ	2 2 2		0	16
		言語文化 （文学）	○英米文学史Ⅰ ◇英米文学史Ⅱ	◇英米文学講読Ⅰ	2 2	◇英米文学講読Ⅱ ◇英米文学特論	2 2		0	10
		思想文化		ヨーロッパ文化概論 キリスト教文化論	2 2	ヨーロッパ文化特論Ⅰ ヨーロッパ文化特論Ⅱ	2 2		0	8
		歴史文化	ヨーロッパ史概論Ⅰ アメリカ史概論		2 2	ヨーロッパ史概論Ⅱ アメリカ史特論	2 2		0	8
		環境文化		文化人類学Ⅰ	2	文化人類学Ⅱ	2		0	4
	課外学習科目・ 特別講義科目		0	国際文化特別演習	12		0		0	12
	関連科目		0		0		0		0	0
	人文学部授業科目 （小計A）		42		39		41		12	134
卒業要件単位		42		39		41		12	134	
教職課程 （卒業要件に含まない 単位）	○教職入門 ◇教育学概論 ◇教育心理学Ⅰ ◇教育心理学Ⅱ ◇教育社会学 ○道德教育指導論 ○教育課程論 ○特別活動の指導 ○生徒・進路指導論	2 2 2 2 2 2 2 2 2	○英語科教育法Ⅰ ○英語科教育法Ⅱ ○総合的な学習の時間の指導 ○特別支援教育概論 ○教育方法論 ○教育相談 ○学校と教育の歴史 ◇学校教育心理学	2 2 1 1 2 2 2 2	○介護体験実習 ² ○英語科教育法Ⅲ ○英語科教育法Ⅳ ○教職総合演習 ³	1 2 2 2	○教育実践演習（中・高） ○中学校教育実習 ⁴ ○中・高教育実習（事前事後指導含む）	2 2 3	46	
人文学部以外の授業科目 （小計B）		18		14		7		7	46	
合計単位数（A+B）		60		53		48		19	180	

¹1部は体育実技ⅠA～ⅣB，2部は体育実技ⅠA～ⅡBの中から2単位修得すればよい。

²介護体験実習は中学校免許のみ必修（高校免許選択科目）

³必修科目ではないが受講を推奨する。

⁴中学校教育実習は中学校免許必修（高校免許選択科目）

⑤ 1部・2部日本文化学科（高等学校地理歴史）（2019年4月以降入学生に適用）【凡例】はp.26参照

【概要】高等学校地理歴史教員，地理歴史研究に求められる基礎知識，技能を身につけるための履修モデルです。必ずしも履修開講年次に基づいた配置ではないため，時間割に応じて柔軟に履修計画を立ててください。地理歴史教員に求められる「教養（一般教育科目）」、「専門知識（歴史文化科目・環境文化科目・教職課程科目）」を中心とした配置となっています。

【学びの目標】

- 地理歴史教員として必要な教養（一般教育科目）を身につける。
- 地理歴史教員として必要な専門的知識（歴史文化・環境文化・思想文化）を身につける。
- 地理歴史教員として必要な教育学的知識（教職課程）を身につける。

【想定される進路】 高等学校教員（地理歴史），大学院進学

【取得可能な資格】 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計	
一般教育科目	○日本国憲法 ○コンピュータ科学 ○体育実技ⅠA ¹ ○体育実技ⅠB ○英語コミュニケーションⅠ ○英語コミュニケーションⅡ ○地理学 ○地誌学 考古学 歴史学Ⅰ 異文化コミュニケーション	2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2	英語リーディングⅠ 英語ライティングⅠ 地球科学Ⅰ 地球科学Ⅱ 北方圏文化論	1 1 2 2 2	国際事情	2		0	28	
専門教育科目	英語科目	0		0		0		0	0	
	導入科目 ・ 基幹科目	◎人文学基礎演習 ◎日本語文章表現演習 ◎人文学概論	◎人文学演習A ◎人文学演習B	2 2	◎日本文化専門演習Ⅰ ◎日本文化専門演習Ⅱ	2 2	○卒業研究	4	18	
	基礎科目・ 展開科目	言語文化 (言語)	日本語学概論Ⅰ 日本語学概論Ⅱ	対照言語学	2 2	日本語学特論Ⅰ	2		0	8
		言語文化 (文学)	日本文学史Ⅰ 日本文学史Ⅱ	日本近現代文学Ⅰ 日本近現代文学Ⅱ	2 2	漢文学	2		0	10
		思想文化	◇日本文化概論Ⅰ ◇日本文化概論Ⅱ	◇ヨーロッパ文化概論 日本芸術史	2 2	◇アメリカ文化特論※ 映像論 日本文化特論Ⅰ 日本文化特論Ⅱ キリスト教文化論	2 2 2 2 2	日本映画論	2	20
		歴史文化	◇日本史概論Ⅰ ◇日本史概論Ⅱ	◇ヨーロッパ史概論Ⅰ ◇ヨーロッパ史概論Ⅱ ◇アメリカ史概論	2 2 2	◇ヨーロッパ史特論Ⅰ※ ◇アメリカ史特論※ 日本史特論Ⅰ 日本史特論Ⅱ	2 2 2 2	古文書講読	2	20
		環境文化	○人文地理学Ⅰ 人文地理学Ⅱ	◇文化人類学Ⅰ ◇文化人類学Ⅱ 地理情報システム論 アイヌ文化論Ⅰ アイヌ文化論Ⅱ メディア史	2 2 2 2 2 2	◇現代人類学※ 生態人類学 北方考古学 アジア地域論Ⅰ アジア地域論Ⅱ	2 2 2 2 2		0	26
	課外学習科目・ 特別講義科目		文化遺産特別演習	2		0	伝統文化特別演習	1	3	
	関連科目		○日本史 ○東洋史	2 2	○西洋史	2		0	6	
	人文学部授業科目 (小計A)		44		46		40		9	139
卒業要件単位		44		42		38		9	133	
教職課程 (卒業要件に含まない 単位)	○教職入門 ◇教育社会学 ○教育課程論 ○特別活動の指導 ○生徒・進路指導論 ○教育相談 ○教育方法論 ○総合的な学習の時間の指導	2 2 2 2 2 2 2 1	○地理歴史科教育法Ⅰ ○地理歴史科教育法Ⅱ ○特別支援教育概論 ○道徳教育指導論 ◇学校教育心理学 ◇教育学概論 ◇教育心理学Ⅰ ○自然地理学 ²	2 2 1 2 2 2 2 2	○教育実習実践指導Ⅰ ○教育実習実践指導Ⅱ 教職総合演習 ³ ◇教育行政学 ◇教育心理学Ⅱ	1 1 2 2 2	○教職実践演習（中・高） ○中・高教育実習（事前事後指導含む）	2 3	43	
人文学部以外の授業科目 (小計B)		15		15		8		5	43	
合計単位数（A+B）		59		61		48		14	182	

¹ 1部は体育実技ⅠA～ⅣB，2部は体育実技ⅠA～ⅡBの中から2単位修得すればよい。

² 教職課程授業科目のうち，教科に関する科目である。

³ 必修科目ではないが，受講を推奨する。

⑥ 1部・2部英米文化学科（高等学校地理歴史）（2019年4月以降入学生に適用）【凡例】はp.26参照

【概要】高等学校地理歴史教員，地理歴史研究に求められる基礎知識，技能を身につけるための履修モデルです。必ずしも履修開講年次に基づいた配置ではないため，時間割に応じて柔軟に履修計画を立ててください。地理歴史教員に求められる「教養（一般教育科目）」、「専門知識（歴史文化科目・環境文化科目・教職課程科目）」を中心とした配置となっています。

【学びの目標】

- 地理歴史教員として必要な教養（一般教育科目）を身につける。
- 地理歴史教員として必要な専門的知識（歴史文化・環境文化・思想文化）を身につける。
- 地理歴史教員として必要な教育学的知識（教職課程）を身につける。

【想定される進路】 高等学校教員（地理歴史），大学院進学

【取得可能な資格】 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計	
一般教育科目	○日本国憲法 ○コンピュータ科学 ○体育実技ⅠA ¹ ○体育実技ⅠB ○地理学 ○地誌学 考古学 歴史学Ⅰ 異文化コミュニケーション 国際事情	2 2 1 1 2 2 2 2 2 2	地球科学Ⅰ 地球科学Ⅱ	2 2		0		0	22	
専門教育科目	英語科目	◎Comm SkillsⅠ ◎Comm SkillsⅡ ◎ReadingⅠ ◎ReadingⅡ ◎WritingⅠ ◎WritingⅡ ◎Global EnglishⅠ ◎Global EnglishⅡ	◎Comm SkillsⅢ ◎Comm SkillsⅣ ◎Global EnglishⅢ ◎Global EnglishⅣ	2 2 1 1 1 1 1 1		0		0	16	
	導入科目 ・ 基幹科目	◎人文学基礎演習 ◎日本語文章表現演習 ◎人文学概論	◎人文学演習A ◎人文学演習B	2 2 2	◎英米文化専門演習Ⅰ ◎英米文化専門演習Ⅱ	2 2	◎卒業研究	4	18	
	基礎科目・ 展開科目	言語文化 （言語）	英語学概論Ⅰ	英語学概論Ⅰ	2	対照言語学	2		0	4
		言語文化 （文学）	英米文学史Ⅰ	日本文学史Ⅰ 日本文学史Ⅱ 英米文学史Ⅱ	2 2 2		0		0	8
		思想文化		キリスト教文化論 日本芸術史 ◇ヨーロッパ文化概論 ◇日本文化概論Ⅰ ◇日本文化概論Ⅱ	2 2 2 2 2	◇ヨーロッパ文化特論Ⅰ ◇ヨーロッパ文化特論Ⅱ ◇アメリカ文化特論	2 2 2	映像論 日本文化特論Ⅰ※	2 2	20
		歴史文化	◇ヨーロッパ史概論Ⅰ ◇アメリカ史概論	◇ヨーロッパ史概論Ⅱ ◇日本史概論Ⅰ ◇日本史概論Ⅱ	2 2 2	◇ヨーロッパ史特論Ⅰ ◇ヨーロッパ史特論Ⅱ ◇アメリカ史特論 日本史特論Ⅰ※ 日本史特論Ⅱ※	2 2 2 2 2		0	20
	環境文化	○人文地理学Ⅰ ○人文地理学Ⅱ	◇文化人類学Ⅰ 地理情報システム論 メディア史	2 2 2	◇文化人類学Ⅱ 生態人類学※ アジア地域論Ⅰ アジア地域論Ⅱ	2 2 2 2	◇現代人類学 現代メディア論	2 2	22	
課外学習科目・ 特別講義科目				0	文化遺産特別演習	2		0	2	
関連科目		○西洋史	2	○日本史 ○東洋史	2 2		0	6		
人文学部授業科目 （小計A）		44		46		36		12	138	
卒業要件単位		44		44		32		12	132	
教職課程 （卒業要件に含まない 単位）	○教職入門 ◇教育行政学 ○教育課程論 ○特別活動の指導 ○生徒・進路指導論 ○教育相談 ○教育方法論 ○総合的な学習の時間の指導	2 2 2 2 2 2 2 1	○地理歴史科教育法Ⅰ ○地理歴史科教育法Ⅱ ○特別支援教育概論 ○道徳教育指導論 ◇学校教育心理学 ◇教育学概論 ◇教育心理学Ⅰ ○自然地理学 ²	2 2 1 2 2 2 2 2	○教育実習実践指導Ⅰ ○教育実習実践指導Ⅱ 教職総合演習 ³ ◇教育社会学 ◇学校と教育の歴史	1 1 2 2 2	○教職実践演習（中・高） ○中・高教育実習（事前事後指導含む）	2 3	43	
人文学部以外の授業科目 （小計B）		15		15		8		5	43	
合計単位数（A+B）		59		61		44		17	181	

¹ 1部は体育実技ⅠA～ⅣB，2部は体育実技ⅠA～ⅡBの中から2単位修得すればよい。

² 教職課程授業科目のうち，教科に関する科目である。

³ 必修科目ではないが，受講を推奨する。

⑦1部日本文化学科（学芸員）【凡例】はp.26参照

【概要】博物館に勤務する学芸員に必須の考え方を身につけるための履修モデルです。1年次では専門科目において日本の自然・歴史・文化に関する基礎的な知識を習得し、博物館の基本を学ぶために概論や実際の博物館での実習に1年をかけて丁寧に取り組みます。2年次では、北方圏の先住民を代表するアイヌの言語・歴史・文化の理解を深めます。また、博物館の起源そのものはヨーロッパの芸術や思想に端を発しているため、ヨーロッパの歴史や文化に関する専門教育科目（基礎科目）を履修します。課外のフィールドワーク活動として、文化財が充実している京都・奈良で実施される日本文化特別演習にも参加します。3年次では、1学期に博物館資料とその情報処理、および、可視化する目的で普及が目覚ましい地理情報システム（GIS）の実践的な操作方法を学び、2学期には他学部履修の制度を利用して、地理情報システムの応用能力をさらに磨きます。特別講義科目である文化遺産研究では、国内外の文化財や文化遺産の特徴を学び、その利活用を探求します。言語・思想・歴史・環境文化に関する専門教育科目（展開科目）と課程科目である博物館経営論を通して、広く博物館資料の研究・収集・保管・展示を考えていく科目構成としています。

【学びの目標】

○日本文化・北海道文化の特徴を、観光客など知らない人たちにもわかりやすく説明するためのコミュニケーション能力を高めることができる。

○国内のフィールドワークを通し、有形無形文化財の保存・継承に積極的にかかわり、その経験を自身のキャリア育成・卒業研究に応用できる。

○複雑な情報を要約し発信する手法に習熟し、レポートにまとめてプレゼンする力が身につく、大学院進学にも対応できる。

【想定される進路】博物館、美術館、科学館、水族館、動物園、地方公務員、国家公務員、指定管理NPO、埋蔵文化財センター、大学院進学

【取得可能な資格】学芸員資格

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	計		
一般教育科目	芸術論Ⅰ 芸術論Ⅱ フランス語基礎Ⅰ フランス語基礎Ⅱ 北海道史 世界の言語と文化 現代文化論 人類学 生涯学習論 外国文学Ⅱ 象徴哲学講座Ⅱ コンピュータ科学	2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	国際事情 北方圏文化論 アイヌの言語と文化 歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ 地誌学 行動科学 考古学 人間関係論	2 2 2 2 2 2 2 2 2		0		0	40		
専門教育科目	英語科目	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ				0		0	2		
	導入科目 ・ 基幹科目	○人文学基礎演習 ○日本語文章表現演習 ○人文学概論	2 2 2	○人文学演習A ○人文学演習B	2 2	○日本文化専門演習Ⅰ ○日本文化専門演習Ⅱ	2 2	○卒業研究	4	18	
	基礎科目・展開科目	言語文化 (言語)	日本語発声実習 日本語学概論Ⅰ 日本語学概論Ⅱ	2 2 2	対照言語学 日本語教授法Ⅰ 日本語教授法Ⅱ	2 2 2	日本語教授法Ⅲ 日本語教授法Ⅳ 日本語教育学特論 日本語学特論Ⅱ	2 2 2 2		0	20
		言語文化 (文学)	日本文学史Ⅰ 日本文学史Ⅱ	2 2	英米文学史Ⅰ 英米文学史Ⅱ	2 2	漢文学 ヨーロッパ文学特論※	2 2		0	12 ※
		思想文化	日本文化概論Ⅰ 日本文化概論Ⅱ	2 2	日本芸術史 ヨーロッパ文化概論 映像論	2 2 2	日本文化特論Ⅰ	2		0	12
		歴史文化	日本史概論Ⅰ 日本史概論Ⅱ	2 2	古文書講読 ヨーロッパ史概論Ⅰ	2 2	日本史特論Ⅰ	2		0	10
		環境文化	人文地理学Ⅱ	2	アイヌ文化論Ⅰ アイヌ文化論Ⅱ 文化人類学Ⅰ 文化人類学Ⅱ	2 2 2 2	生態人類学 地理情報システム論 アジア地域論Ⅰ	2 2 2		0	16
		課外学習科目・ 特別講義科目		0	日本文化特別演習	2	文化遺産研究	2		0	4
	関連科目		0		0		0		0	0	
	人文学部授業科目 (小計A)		50		52		28		4	134	
卒業要件単位		50		52		28		4	134		
資格課程 (卒業要件に含まない 単位分)	○博物館概論 ○博物館資料論 ○博物館実習Ⅰ ○博物館実習Ⅱ	2 2 1 1	○博物館情報・メディア論 ○博物館展示論 ○博物館実習Ⅲ ○博物館教育論 ○博物館資料保存論	2 2 1 2 2	○博物館経営論	2		0	17		
他学部履修		-		-	応用地理情報システム論(経済学部)	2		0	2		
北海商科大学 単位互換		-		-		0		0	0		
人文学部以外の授業科目 (小計B)		6		9		4		0	19		
合計単位数 (A+B)		56		61		32		4	153		

4 試験

2022年度以降の試験（定期試験、追試験、再試験、期間外試験）の運用方法について、現在見直しを進めております。新しい運用基準等が確定しましたら、学内掲示版やG-PLUS!にて周知します。

参考までに、試験に関する2019年度の情報を以下に記載します。

① 定期試験・受験の心得……………学期末に定期試験が行われます。

受験心得は、定期試験を受ける際の注意事項です。守られない場合、試験が受けられないこともありますので気を付けましょう。

- 定期試験は、原則としてその科目の授業の終了した学期末に行われます（学部規則第13条）が、授業中に試験を行う科目もあります。
- 各授業科目の試験時間は原則として60分とし、時間割は別途掲示します。
- 下記のいずれかに該当する学生は、定期試験を受けることができません。
 - ① 履修登録をしていない科目
 - ② 試験時間に遅刻した学生（ただし、試験開始から20分までは、入室及び受験を認める。）
 - ③ 学生証を所持していない学生（ただし、試験期間中、1日に限り、学部事務室発行の「仮受験票」での受験を認める。）

	部別	時 限	開始時間～終了時間
試験時間	1部	1時限目	9:00～10:00
		2時限目	10:30～11:30
		3時限目	12:00～13:00
		4時限目	13:30～14:30
		5時限目	15:00～16:00
		6時限目	16:30～17:30
	2部	1時限目	18:00～19:00
		2時限目	19:30～20:30

受験の心得

1. 受験者は、試験場に掲示されている指定座席で受験すること。
2. 受験者は、学生証を机上（通路側）に提示しなければ受験できない。
 - (1) 学生証を紛失した学生は、あらかじめ再発行の手続きをとること。
 - (2) 学生証を忘れた者は、各学部事務室ならびに教務センター事務室（工学部1年生）に申し出て仮受験票の発行を受けること。発行は、試験開始時間の10分前より取り扱う。ただし、仮受験票は発行当日のみ有効とする。また、仮受験票の発行は当定期試験期間中1回限りとする。
 - (3) 有効期限が経過した学生証では、受験できない。
3. 受験科目は、履修許可を受けた科目に限る。
4. 答案用紙を受取った後、試験監督者の指示に従って、指定欄2ヶ所に学年、組、学生番号、氏名を記入すること。
5. 答案用紙を受け取った後は、急病により受験を中断した場合でも有効答案として扱われる（追試験を受けることができない）ので、受験にあたっては体調管理に万全を期すこと。
6. 試験開始後20分までは入室することができる。試験開始後20分を超えて遅刻してきた者は受験できない。
7. 試験開始後30分までは、退室できない。
8. 試験場において机上に置いて良いものは、学生証、筆記具（鉛筆、ペン）、消しゴム、参照許可物、ペットボトル等（ただし、ふた付きのもの・本体のみ）とする。これ以外のものは、鞆にしまい、机の中には何も置かないこと。
 - (1) 参照許可物は、自ら持参したのものに限る。試験場での貸し借りを禁ずる。これに違反したものは不正行為とみなす。

(2) 持ち込み許可の六法全書は、特段の指示がない限り、下記の通り指定されたもので、書き込みの無いものに限る(判例・解説等の付録の参照は不可)。書き込みのある六法全書を使用した場合は、試験科目や問題範囲にかかわらず不正行為とみなされる。

[大学が指定する六法全書]

有斐閣：『六法全書』『ポケット六法』，信山社：『標準六法』

三省堂：『デイリー六法』

9. 電子機器(スマートフォン・携帯電話・電卓)及びこれに類するものは、試験場では電源を切りっぱなしにしまうこと。試験中に電子機器の時計機能や電卓機能を利用することはできない。また試験中にこれらの電子機器を操作・参照することを禁じる。これに違反したものは不正行為とみなす。
10. 試験中は、物品の貸借および私語を禁ずる。なお、事務室も文房具その他の貸し出しは行わないので、事前に十分な準備をすること。
11. 不正行為〔本人以外の受験、答案の交換又は貸借、不正行為を目的とした文書類の所持、参照許可物以外のものの参照、試験監督者の指示に従わない等〕があった場合は、「退場」を命じられ、次の措置がとられる。
 - (1) 当科目の年度内受講を停止し、単位は認定しない。
 - (2) 当試験期間中の受験を停止し、当試験期間中の全科目を0点とする。
 - (3) その後「懲戒」を含む嚴重な処置をとる。
12. 答案を提出する場合は、試験監督者の指示する場所に提出し、速やかに退室すること。
13. 受験者は、たとえ解答ができなくとも答案用紙に学生番号、氏名を記入して、必ず提出すること。提出しない場合、試験の正常な運営を妨げる不正行為とみなすことがある。
14. 病気その他の事情により、定期試験を受けることのできなかつた者は、追試験の取り扱いに基づき所定の手続きを定期試験終了後3日以内に完了すること。
15. 試験実施日時及び試験場には充分注意し、確認を怠らないこと。
16. その他、試験監督者の指示に従うこと。

② 追 試 験……………正当な理由により定期試験を受けることができなかつた場合、しかるべき手続きを取れば、追試験を受けることができます。

1. 追試験とは、定期試験を病気その他の正当な理由で受験できなかつた学生で、所定の手続きを経たのち、許可を受けた学生について特別に行う試験を言います。申請にあたっては、人文学部事務室窓口に備え付けの試験欠席届に下記の証明書等を添付の上、試験期間終了後、指定の期日までに人文学部事務室へ提出してください。
 - (1) 病気欠席の場合は、診断書を添付してください。診断書は、受験できなかつた事由・期間が記載されているものとします。
 - (2) その他の場合
 - ① 入社試験の場合は、そのことを証明する文書。
 - ② 出張の場合は、職場長の出張証明書を添付してください。
 - ③ 交通事故の場合
 - A. 交通機関を利用した通学途中の事故などの場合は、交通機関の管理者の証明書を添付してください。証明書が発行されない交通機関の場合は、速やかに定期試験本部に申し出てください。
 - B. やむを得ない事情により特別に自動車通学を許可された学生で通学途中、交通事故にあった場合は、警察の事故証明書を添付してください。
 - ④ 葬儀の場合は、葬儀が行われ出席したことを証明する文書を提示してください。
 - ⑤ 定期試験本部で正当な事由があると認められた場合を除き、遅刻による追試験は許可しません。
 - ⑥ その他緊急のやむなき事由の場合は、証明書を添付してください。

※(注) 以上「その他の場合」は、次の事項が記載された証明書を添付してください。

部	学部	学年	組	学生番号	氏名	期間
事由	届出日付	職場長	証明印	(公印)		

2. 追試験は原則として実施します。
3. 追試験は第1学期については9月、第2学期については2月に行います。

4. 追試験が許可された学生は、所定の期間内に追試験受験申込書を人文学部事務室へ提出し、受験料（1科目500円）を支払ってください。
5. 追試験の実施の有無、受付期間、試験時間割についてはその都度掲示します。
6. 下記のいずれかに該当する学生については、追試験を受けることができません。
 - (1) 履修許可を受けていない
 - (2) 「試験欠席届」および「追試験受験申込書」を提出していない
 - (3) 各科目の試験時間に遅刻（ただし、試験開始から20分までは、入室及び受験を認める。）
 - (4) 学生証および受験許可書を所持しない（ただし、学生証については、試験期間中、1日に限り、学部事務室発行の「仮受験票」での受験を認める。）

③ 成績………秀・優・良・可・不可・欠で評価します。

- 授業科目の成績は、試験の結果や出席状況等を総合的に判断し、秀・優・良・可および不可・欠で評価し、可以上を合格とします。（成績及び評価の基準については下表の通りです。）また、GPA制度につきましては、p.37をご参照ください。
- なお、一旦合格した科目は、これを再履修することはできません。

評点	評価		GP	合否
90～100点	S	秀	4	合格
80～89点	A	優	3	
70～79点	B	良	2	
60～69点	C	可	1	
59点以下	D	不可	0	不合格
欠席	E	欠		

ただし、この成績評価になじまない一部の科目（p.37 ②GPA算出の対象外科目について参照）は合、否とし、GPは付きません。

- 授業料等未納の学生及び出席時数3分の2以下の学生については、単位を認定できません。（学則第22条）
- 9月中旬には第1学期履修科目の成績とGPAが記載された「成績通知書」を3月中旬にはその年度に履修した全ての科目の成績とGPAが記載された「成績通知書」を、学費支給者宛に郵送します。本人はG-PLUS!画面より成績を確認することができます。
- 成績通知書では、全ての成績が記載されますが、本学が発行する「成績証明書」については、合格した成績のみ記載されます。

GPA（Grade Point Average）制度について

GPA制度は、履修科目の成績を一定のポイントに置き換えて学習到達度を客観的に評価するものです。

GPAを算出するための評価とポイントとの関連は、③成績の表に示したとおりとなります。本学でのGPAの算出方法および運用は、以下のとおりとなります。

①GPAの算出について

学生が履修した科目の各GPに各評価の単位数を掛けたものの総合計を履修科目の総単位数（評価D・Eの単位数も含む）で割ったものをGPAとします。

$$\frac{\langle GP(S) \times \text{単位数} \rangle + \langle GP(A) \times \text{単位数} \rangle + \langle GP(B) \times \text{単位数} \rangle + \langle GP(C) \times \text{単位数} \rangle}{\text{履修科目の総単位数 (D・Eの単位数を含む)} \times 1 \cdot 2}$$

GPAは、学期ごとの『学期GPA』と年度ごとの『年度GPA』と全成績を通算した『通算GPA』の3種類

で算出します。

- ※1 「履修科目の総単位数」については、再履修した場合、再履修前の単位数は含まれないものとします。
- ※2 転部・転学部・転学科した場合、単位の読替が認められなかった科目の単位数及び評価はGPA算出の際、含まれないものとします。

2014年度以降入学生よりGPAを「人文学演習 A・B」「日本文化／英米文化専門演習 I・II」などの履修者選考の基準としますので注意してください。

履修登録した科目が算出時の分母となるので、不可・欠をとるとGPAが下がります。計画性をもって履修する科目を選んでください。

②GPA算出の対象外科目について

〈2014年度以降入学生〉

【卒業要件に含まない科目】

- 海外文化
- キャリア・ガイダンス
- 各種課程科目
- 他学部履修科目
- 日本史
- 西洋史
- 東洋史

【卒業要件に含む科目のうち段階評価しない科目】

- 3年次編入生の認定科目
- 英米文化特別演習Ⅲ

〈2012～2013年度入学生〉

【卒業要件に含まない科目】

- 海外文化
- キャリア・ガイダンス
- インターンシップ
- 各種課程科目
- 他学部履修科目
- 他学科履修科目
- 2部学生の1部履修科目

【卒業要件に含む科目のうち、個別に指定する科目】

- 日本文化演習
- 国際文化演習
- 3年次編入生の認定科目

③GPA算出例について

授業科目	履修単位数	評価		GP	科目ポイント (GP×単位数)
卒業研究	4	S	秀	4	16
中国語会話 I	1	A	優	3	3
日本語学概論 I	2	B	良	2	4
人文学演習 A	2	C	可	1	2
メディア史	2	D	不可	0	0
日本映画論	2	E	欠	0	0
合計	13	-		-	25

科目ポイントの合計÷履修単位数の合計=GPA

$$25 \div 13 = 1.92 \text{ (小数点第3位以下は四捨五入)}$$

④ 成績照会……………成績に疑問のあるときに問い合わせする制度です。

- 今年度に履修した科目の中間成績と最終成績に関して、成績照会を実施します。
 - 照会を希望する場合は、申請期間内に所定の申請用紙を人文学部事務室窓口で受け取り、その場で提出してください。その後、申請に基づき適正に調査した上で回答します。
- ※原則、申請期間を過ぎての申請は受け付けられませんので、十分注意してください。

【成績照会申請期間】

第1学期 (9月期卒業申請者)	2022年9月16日(金)・17日(土) 卒業生発表：9月16日(金)
第1学期 (全学年※9月期卒業申請者は除く)	2022年9月17日(土)～30日(金)
第2学期 (留年となった2年生・4年生)	2023年3月10日(金)～13日(月) 卒業生発表：3月10日(金) 進級生発表：3月13日(月)
第2学期 (1・2・3年生)	2023年3月22日(水)～25日(土)

英語科目（専門教育科目）について

1年次以上

2年次以上

3年次以上

英米文化特別演習（I, II）	国際文化特別演習	Special Lectures in English I, II
英語文献講読 I, II 英語音声学 英文法	Cultural Perspectives in English I, II, III, IV	Cultural Perspectives in English V, VI
• Global English I, II	• Global English III, IV Special Skills I, II	
• Communication Skills I, II • Reading I, II • Writing I, II	• Communication Skills III, IV Reading III, IV Writing III, IV	Intensive Communication Skills I, II

● 英米文化学科必修科目

履修上の注意

ここでは、英語教育科目を履修するにあたっての様々な条件を紹介しています。G-PLUS履修登録方法については、「履修登録 G-PLUS! 操作方法」を参照してください。

(1) 英語能力に係わらず学生番号によってクラス分けをおこなう科目

Reading I, II, III, IV

Writing I, II, III, IV

Communication Skills I, II, III, IV

Intensive Communication Skills I, II

英語音声学（上級年次は自由）

Global English I, II, III, IV

Cultural Perspectives in English I, II, III, IV, V, VI

(2) 英語能力や学生番号に係わらず、自由に履修することができる科目

Special Lectures in English I, II

英語文献講読 I, II

英文法

(3) 講義概要（シラバス）に記載してある一定のTOEICスコアがないと履修することができない科目

必要となるTOEICスコアは、受講する前年度時点で520点以上です。

Special Skills I, II

Cultural Perspectives in English V, VI

(4) 以下の科目については、p.4を参照

英米文化特別演習（英米文化特別演習 I, II）

国際文化特別演習

※(1)~(3)の科目名に付している数字につながりはありません（ただし、(1)の科目（英語音声学を除く）は数字順に履修するのが望ましい）。

◆英語能力とは…前年度に取得したTOEICのスコアに基づいたもので、その結果によってクラス分けが発表されます。

- ・ TOEICスコアを持っていない「編入・転学部・転学科・復学生」で、Special Skills I, II と Cultural Perspectives in English V, VI の履修を希望する場合は、人文学部事務室に申し出てください。

◆クラス分けの発表について…上級年次の学生には3月下旬にG-PLUS!にて発表

新入生には新入生ガイダンス（教務ガイダンス）配布資料にて発表

- ・ Special Skills I - II と Cultural Perspectives in English V, VI 以外の科目は、学生番号の下3桁によって振り分けられた固定のクラスで受講することになります（再履修を含む）。

TOEICの提出について【必須事項】

英米文化学科では、学生の英語スキルの測定を目的に2014年度以降入学生から全ての学生がTOEICスコアを提出することになっています。学内でのTOEIC IPテスト（団体特別受験制度試験）を受験した場合は、学生生協よりスコアが提出されるので個人での提出の必要はありません。公開テストを受験した場合は、必ず以下の期間にスコアのコピーを提出してください。

- ・ Special Skills I, II と Cultural Perspectives in English V, VI の履修を希望する場合は、TOEICスコアにより履修の可否が判断されます。
- ・ 英米文化特別演習 I, II（2年生以上）・国際文化特別演習の履修を希望する場合は、TOEICスコアが必要です。

受験期間：2022年4月1日～提出期間までにTOEICスコアを提出可能である試験日

英語教育委員会（EEC）へTOEICスコア提出の手順

1. TOEICスコアを学生番号・氏名・試験日・スコアが見えるように写真を撮るもしくはスキャンしてください。
2. 以下の例に従ってemailを作成ください。
件名：TOEIC score submission（学生番号）
Message: This is (name)(student number). I attach my TOEIC score. Thank you.
3. students@hgu.jp宛に1. のファイルを添付してメールを送ってください。
4. 提出締切：2023年3月6日

TOEICテストは2つの受験方法があります。

① 公開テスト

TOEICの公式HPで、受験要領を確認してください。

② IPテスト（団体特別受験制度試験）

北海学園大学内で、年に数回実施されます。公開テストに比べて、受験料が安く便利です。詳しくは、人文学部掲示板・キャリア支援センター掲示板・G-PLUS!のいずれかを確認してください。

※受験期間中であれば複数回受験して構いません。その場合、提出するスコアは中でもっとも高いスコアを提出してください。

※いずれも受験料は自費です。受験する場合は、各自北海学園生協へ申し込んでください。

ただし、Global English II, IVの履修者を対象に第2学期に一度に限り、受験料補助（半額程度）の制度があります。詳細は、授業で指示を受けてください。

〈科目名の略称について〉

以下の科目は正式名称が長いので、履修登録確認書や成績通知書等では略称で表記しています。

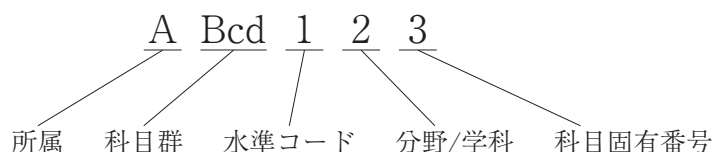
- (1) ※COMM SK → Communication Skills
- (2) ※GLOB ENG → Global English
- (3) ※CULT PERSP → Cultural Perspectives in English
- (4) ※INT COM SK → Intensive Communication Skills
- (5) ※SPEC SKILL → Special Skills
- (6) ※SP LEC ENG → Special Lectures in English

5 付録

① ナンバリングとカリキュラム・マップ……………すべての開講科目についている5桁の番号で、カリキュラムの体系を把握しましょう。

【5桁の構造】

各桁の意味は、次のとおりです。



【所属／科目群（1・2桁目）】

一般教育科目

所属（一般）／科目群	日本語表記	アルファベット表記
一般教育／英語	般英	GEng (General Education: English)
一般教育／英語以外の外国語共通	般語	GLan (GE: Other Languages)
一般教育／ドイツ語	般独	GGer (GE: German)
一般教育／フランス語	般仏	GFre (GE: French)
一般教育／中国語	般中	GChi (GE: Chinese)
一般教育／ロシア語	般露	GRus (GE: Russian)
一般教育／韓国・朝鮮語	般韓	GKor (GE: Korean)
一般教育／身体	般体	GPEd (GE: Physical Education)
一般教育／情報	般情	GInf (GE: Information)
一般教育／人文科学 自己	般自	GPhi (GE: Humanities-Philosophy)
一般教育／人文科学 文化	般文	GCul (GE: Humanities-Culture)
一般教育／人文科学 歴史	般歴	GHis (GE: Humanities-History)
一般教育／人文科学 特別講義	般人特	GHSp (GE: Humanities-Special Lecture)
一般教育／社会科学 社会構造	般構	GSSS (GE: Social Sciences-Structural)
一般教育／社会科学 地域	般地	GSSR (GE: Social Sciences-Regional)
一般教育／社会科学 特別講義	般社特	GSSp (GE: Social Sciences-Special Lecture)
一般教育／自然科学 環境	般環	GNSE (GE: Natural Sciences-Environmental)
一般教育／自然科学 普遍性	般遍	GNST (GE: Natural Sciences-Theoretical)
一般教育／自然科学 特別講義	般自特	GNSp (GE: Natural Sciences-Special Lecture)
一般教育／北海道学	般北	GHok (GE: Hokkaido Studies)
一般教育／教養科目特別講義	般特	GSpe (GE: Special Lecture)
一般教育／キャリア形成科目	般キ	GJob (GE: Job-oriented Classes)
一般教育／体験型科目	般海	GExp (GE: Overseas Experiences)
一般教育／留学生科目	般留	GInt (GE: Classes for International students)

専門科目

所属 (学部) / 科目群	日本語表記	アルファベット表記
人文学部 / 基幹・導入科目	人幹	HCor (H: <u>H</u> umanities: <u>C</u> ore)
人文学部 / 英語科目	人英	HEng (H: <u>E</u> nglish)
人文学部 / 言語文化 言語	人言	HLan (H: <u>L</u> anguage)
人文学部 / 言語文化 文学	人文	HLit (H: <u>L</u> iterature)
人文学部 / 思想文化	人思	HPhi (H: <u>P</u> hilosophy)
人文学部 / 歴史文化	人歴	HHis (H: <u>H</u> istory)
人文学部 / 環境文化	人環	HEnv (H: <u>E</u> nvironment)
人文学部 / 特別講義	人特	HSpe (H: <u>S</u> pecial Lecture)
人文学部 / 課外学習科目	人外	HExp (H: Overseas/Off campus <u>E</u> xperiences)
人文学部 / (教職) 関連科目	教職	HTTr (H: <u>T</u> eacher <u>T</u> raining)

【水準コード (3桁目)】

水準コードとは、当該科目における学修内容の難易度を、000番台から400番台まで5つのレベルで示したものです。一般教育科目は、履修可能な学年と一致します (1年次開講科目 = 100番台 ~ 4年次開講科目 = 400番台)。専門科目の区分は、次のとおりです。

コード	定義	内容
000番台	導入科目	大学で学ぶための自分で「考え」「表現する」スキルを身につける科目 人文学基礎演習・日本語文章表現演習がこれに該当します
100番台	基礎科目	人文学およびその各専門分野を初めて学ぶ学生のための基礎的な科目 〇〇概論・〇〇講読など
200番台	展開科目 (中級)	発展・応用レベルの内容や、日本文化と欧米文化を相対化する内容を扱う科目
300番台	展開科目 (上級)	より高度な内容を扱う科目 〇〇特論など
400番台	学士課程最終段階の科目	ディプロマ・ポリシーが掲げる卒業レベルの科目で、これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決する科目 専門演習・卒業研究がこれに該当します

【分野 / 学科 (4桁目)】

一般教育科目は、授業形態で分けます。

講義科目は「0」、実習科目は「1」、演習科目は「2」

学部専門科目は、学科を基準に分けます。

学科共通科目は「0」

日本文化学科の学生を主に対象とする科目は「1」

英米文化学科の学生を主に対象とする科目は「2」

英語で講義する科目及び日本文化・欧米文化の枠にとどまらない領域を扱う環境文化の科目は「3」

【科目固有番号（5桁目）】

以上の4桁によって分けられた区分の中で、科目ごとに割り振られた数字です。

基礎・展開科目において、同じ科目群の中で下2桁が同じで3桁目の水準コードだけが違うのは、同じ対象を扱っている科目の発展を示します。

〔例〕「日本文学史Ⅰ」HA111 →「日本近現代文学Ⅰ」HA211 →「日本文学特論Ⅰ」HA311

また、同じ科目群の中で下2桁目だけが違うのは、対象地域は違うものの、同じ事象を扱っている同レベルの科目を意味します。

〔例〕「日本文学史Ⅰ」HA111 ⇔「英米文学史Ⅰ」HA121

「日本文学特論Ⅰ」HA311 ⇔「英米文学特論」HA321

【科目群の内容と目標】

人文科目の専門科目は、各科目の学修段階や開講形態などによって「基幹科目」「導入科目」「英語科目」「基礎・展開科目」「特別講義科目」「課外学習科目」「(教職)関連科目」の科目群に分かれています。このうち、「基礎・展開科目」は、さらにその科目がどの専門分野に属するかによって「言語文化」「思想文化」「歴史文化」「環境文化」の4つの科目群に分かれ、「言語文化」はさらに言語と文化に分かれています。それぞれの群の内容と目標は、次のとおりです。

「言語文化（言語）」 人間に固有の言語(特に、日本語と英語)に関して、音韻、形態、統語、意味などの観点から、言語固有の規則体系および言語教育や言語習得への応用について学びます。学生は、言語分析に必要な基礎的な概念や方法を理解し、人間活動の基盤である言語の本質的特徴をみずから解明する姿勢を養うことが求められます。

「言語文化（文学）」 言語によって表現された芸術作品や諸テキストをとおして、知性のみならず、感性や無意識の領域にも注意をはらいつつ、人が生き活動することの意味、外界が人にとってもつ意味、また他者が自己にとってもつ意味などについて考えます。学生は、テキストを深く読み解く力を磨き、みずからの思考や感情を他者に正確に伝えられるように言語表現力を鍛えることが求められます。

「思想文化」 日本や欧米における古典的文献や作品の正確な理解とその解釈に基づいて、主に哲学・宗教・芸術について学びます。学生は、さまざまな文献や作品から読み取れる過去の間人観や世界観を把握すると同時に、現実世界の在り方や具体的な諸問題を抽象的なレベルでも理解できる方法をみずから構築することが求められます。

「歴史文化」 過去の間人が残したさまざまな史資料の読解を通じて、日本や欧米の歴史に関する素養を深めつつ、主体的かつ科学的な歴史認識の方法について学びます。学生は、歴史全般にわたる基礎的な知識を習得するだけでなく、現在のさまざまな事象を歴史的に把握する能力と同時に、歴史観の多様性を理解し尊重する姿勢を身につけることが求められます。

「環境文化」 人を取り巻く外的環境との間の豊かで持続的な共生関係の在り方を学びます。学生は、そのような学びを通し、食と健康、人口流動、防災、観光、地域研究、技術思想史の観点から地域に根差した知恵を掘り起こし、文献に刻まれた知識を身に付けて、新たなアイデアを構想する地力を養うことが求められます。

それぞれの科目群では、次のような専門分野の講義科目が開講されています。

言語文化（言語）	言語学、日本語学、英語学、日本語教育、英語教育など
言語文化（文学）	日本文学、英語・英語圏文学、ヨーロッパ文学、文学論など
思想文化	哲学、倫理学、宗教学、美学、芸術史、西洋思想史、日本思想史など
歴史文化	日本史、西洋史（イギリス史、北米史、フランス史）、史料学など
環境文化	文化人類学、人文地理学、考古学、メディア論、地域研究など

【ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・マップ】

人文学部では、学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与するにあたって、最低限身につけておくべき能力について、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）で次のように定めています。

人文学部では、北海学園大学の建学の精神をふまえ、人文学部の理念および教育研究上の目的ならびに日本文化学科・英米文化学科のそれぞれの教育目標に基づき編成された教育課程において、所定の修業年限と修得単位を満たすとともに、その学修成果として以下に掲げる要件を満たした学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与する。

1部・2部 日本文化学科

1. 豊かな人間性と社会性を支える教養を有している。
2. 日本文化に関する基本的知識に加え、欧米をはじめとする他地域の文化に関する学修で得た知見によって、これを相対化する視点を身につけている。
3. 日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できる。
4. 主体的に学び、他者との協働による豊かな知的生産活動に携わることができる。
5. 人文学的な視点と研究方法によって、日本の文化遺産・事象を調査・分析・解釈できる。
6. 先人の学問的業績を尊重しつつ、これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決できる。

1部・2部 英米文化学科

1. 豊かな人間性と社会性を支える教養を有している。
2. 欧米文化に関する基本的知識に加え、日本をはじめとする他地域の文化に関する学修で得た知見によって、これを相対化する視点を身につけている。
3. 英語および日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できる。
4. 主体的に学び、他者との協働による豊かな知的生産活動に携わることができる。
5. 人文学的な視点と研究方法によって、欧米の文化遺産・事象を調査・分析・解釈できる。
6. 先人の学問的業績を尊重しつつ、これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決できる。

カリキュラム・マップは、個々の科目において、ディプロマ・ポリシーに掲げられているどの項目が養成されるかを示したものです。

② 人文学部 専門科目の積み上げ (ナンバー表記) 表

……………各科目群の中での科目の位置づけを確認し、学習計画に活用しましょう。

	下1桁=1	下1桁=2	下1桁=3	下1桁=4
000番台	【導入科目】 人文学基礎演習 HCor001	日本語文章表現演習 HCor002		
100番台	【基幹科目】 人文学概論 HCor101			
200番台	人文学演習A HCor201	人文学演習B HCor202		
400番台	専門演習 I HCor411, HCor421 卒業研究 HCor401	専門演習 II HCor412, HCor422		
100番台	【英語科目】 実習 Communication Skills I HEng101	Communication Skills II HEng102	Global English I HEng103	Global English II HEng104
200番台	Communication Skills III HEng201	Communication Skills IV HEng202	Global English III HEng203	Global English IV HEng204
300番台	Intensive Com Skills I HEng301	Intensive Com Skills I HEng302	Special Skills I HEng303	Special Skills II HEng304
200番台	【英語科目】 講義 Cultural Perspectives I HEng231	Cultural Perspectives II HEng232	Cultural Perspectives III HEng233	Cultural Perspectives IV HEng234
300番台	Cultural Perspectives V HEng331	Cultural Perspectives VI HEng332	Special Lectures I HEng333	Special Lectures II HEng334
100番台	【基礎・展開科目】 言語文化・言語 日本語学概論 I 英文法 HLan111 HLan121	日本語学概論 II 英語音声学 HLan112 HLan122	英語学概論 I HLan123	英語学概論 II HLan124
200番台	日本語教授法 I HLan211	日本語教授法 II HLan212	日本語教授法 III HLan213	日本語教授法 IV HLan214
300番台	日本語学特論 I HLan311	日本語学特論 II HLan312	日本語教育学特論 英語学特論 I HLan313 HLan323	日本語教育演習 英語学特論 II HLan314 HLan324
100番台	【基礎・展開科目】 言語文化・文学 日本文学史 I 英米文学史 I HLit111 HLit121	日本文学史 II 英米文学史 II HLit112 HLit122	日本古典文学講読 I HLit113	日本古典文学講読 II HLit114
200番台	日本近現代文学 I HLit211	日本近現代文学 II HLit212		
300番台	日本文学特論 I 英米文学特論 HLit311 HLit321	日本文学特論 II ヨーロッパ文学特論 HLit312 HLit322		
100番台	【基礎・展開科目】 思想文化 日本文化概論 I ヨーロッパ文化概論 HPhi111 HPhi121	日本文化概論 II キリスト教文化論 HPhi112 HPhi122	日本芸術史 HPhi113	
200番台				映像論 HPhi214
300番台	日本文化特論 I ヨーロッパ文化特論 I HPhi311 HPhi321	日本文化特論 II ヨーロッパ文化特論 II HPhi312 HPhi322	アメリカ文化特論 HPhi323	日本映画論 HPhi314
100番台	【基礎・展開科目】 歴史文化 日本史概論 I ヨーロッパ史概論 I HHis111 HHis121	日本史概論 II ヨーロッパ史概論 II HHis112 HHis122	アメリカ史概論 HHis123	古文書講読 HHis114
200番台				
300番台	日本史特論 I ヨーロッパ史特論 I HHis311 HHis321	日本史特論 II ヨーロッパ史特論 II HHis312 HHis322	アメリカ史特論 HHis323	
100番台	【基礎・展開科目】 環境文化 人文地理学 I HEnv131	人文地理学 II HEnv132		
200番台	地理情報システム論 HEnv231		アイヌ文化論 I HEnv233	アイヌ文化論 II HEnv234
300番台				
100番台	【特別講義科目】 人文学特別講義 HSpe101			
100番台	【課外学修科目】 英米文化特別演習 I HExp101	英米文化特別演習 II HExp102	英米文化特別演習 III HExp103	文化遺産特別演習 HExp104
200番台				
300番台		国際文化特別演習 HExp302		
100番台	【関連科目】 日本史 HTTr101	東洋史 HTTr102	西洋史 HTTr103	

下1桁=5	下1桁=6	下1桁=7	下1桁=8	下1桁=9	下1桁=0
Reading I HEng105	Reading II HEng106	Writing I HEng107	Writing II HEng108		
Reading III HEng205	Reading IV HEng206	Writing III HEng207	Writing IV HEng208		
英語文献講読 I HLan125	英語文献講読 II HLan126	日本語発声実習 HLan117		書道 HLan119	書道演習 HLan110
			対照言語学 HLan218		
英米文学講読 I HLit125	英米文学講読 II HLit126				
漢文学 HLit215	中国文学 I HLit216	中国文学 II HLit217			
			比較文学 I HLit318	比較文学 II HLit319	
文化人類学 I HEnv135	文化人類学 II HEnv136	メディア史 HEnv137			
			北方考古学 HEnv238	アジア地域論 I HEnv239	アジア地域論 II HEnv230
生態人類学 HEnv335	現代人類学 HEnv336	現代メディア論 HEnv337			
			インターンシップ HExp108	ボランティアシップ HExp109	
日本文化特別演習 HExp205		伝統文化特別実習 HExp207			
	日本語教育特別演習 HExp306				

③ カリキュラム・マップ（日本文化学科）

……………日本文化学科の教育理念とともに、各科目の関連性を理解しましょう。

■人文学部日本文化学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人文学部では、北海学園大学の建学の精神をふまえ、人文学部の理念および教育研究上の目的ならびに日本文化学科・英米文化学科のそれぞれの教育目標に基づき編成された教育課程において、所定の修業年限と修得単位を満たすとともに、その学修成果として以下に掲げる要件を満たした学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与する。

日本文化学科

1. 豊かな人間性と社会性を支える教養を有している。
2. 日本文化に関する基本的知識に加え、欧米をはじめとする他地域の文化に関する学修で得た知見によって、これを相対化する視点を身につけている。
3. 日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できる。
4. 主体的に学び、他者との協働による豊かな知的生産活動に携わることができる。
5. 人文学的な視点と研究方法によって、日本の文化遺産・事象を調査・分析・解釈できる。
6. 先人の学問的業績を尊重しつつ、これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決できる。

■人文学部日本文化学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

人文学部では、学生が卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる6つの力を身につけるために、以下のように教育課程を編成している。

日本文化学科

1. 幅広い視野と教養を身につけるために、一般教育科目を卒業要件として修得すべき単位に含めている。
2. 自らの知的関心に従って段階的に学修するなかで、日本文化に関する基礎知識とこれを相対化する視点を身につけるために、1年次から3年次の専門科目では言語文化・思想文化・歴史文化・環境文化の4つの科目群を学科横断的に設定し、日本以外の文化についても広く学べるようになっている。
3. 日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できるようにするために、初年次には人文学基礎演習と日本語文章表現演習を、2年次には文献読解を中心として人文学的素養を身につける人文学演習を、それぞれ必修科目として開講している。
4. 他の学生と協働しながら主体的に学ぶために、少人数制の演習科目を1年次から3年次にかけて開講するとともに、日本文化特別演習・伝統文化特別実習などを開講している。
5. 日本文化を人文学的な視点と研究方法によって調査・分析・解釈できるようにするために、3年次に日本文化専門演習を必修科目として開講している。
6. これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決するために、必修科目の卒業研究を大学4年間の集大成として位置づけている。

	〈到達目標〉	対応する 学位授与方針
A	人類の歴史と文化、社会と自然、およびこれらを対象とした学問の体系に関する基本的知識を教養として有し、読書を通じてこれを深めていく姿勢を身につけている。	(1) - (2) - (4)
B	社会の一員としての自覚の上に立って思考し、行動できる倫理観・価値判断力・自己管理能力を身につけている。	(1) - (4)
C	日本の文化的多様性をふまえ、歴史的に形成された言語・生活様式、精神的活動の所産としての芸術・宗教・思想について総合的知見を有している。	(2) - (5) - (6)
D	中国・朝鮮や欧米をはじめとする他地域との相互交流について基本的知識を有し、日本文化を相対化できる。	(2) - (5) - (6)
E	古典を含めた日本の文献の読解力を有し、自らの見解を筋道立ててわかりやすく伝えることができる。	(3) - (5) - (6)
F	自らの課題に意欲的に取り組むとともに、他者に学び、対話を通じて共同作業を成し遂げ、その成果を分かち合うことができる。	(4) - (1)
G	研究倫理にしたがって、文献調査やフィールドワーク、ICTの利用を適切に行い、これらによって収集した資料を活用できる。	(5) - (6)
H	言語文化（言語）・言語文化（文学）・思想文化・歴史文化・環境文化のいずれかに属する専門分野の知識体系・方法論を基に、日本文化にかかわる文献・作品・事象を考察できる。	(5) - (6)
I	先行研究を批判的に検証し、独自の問いを立て、自らの見解を学問の形式にしたがって論理的に展開することで、日本文化に関する新たな知見を提示できる。	(6) - (5) - (4)

*の科目は、2部では開講していません。

授業科目名	単位	開講年次	科目NO	到達目標											
				A	B	C	D	E	F	G	H	I			
英語	英語リーディングⅠ	1	1	GEng111				○							
	英語リーディングⅡ	1	1	GEng112				○							
	*英語リーディングⅢ	1	2	GEng211				○							
	*英語リーディングⅣ	1	2	GEng212				○							
	英語コミュニケーションⅠ	1	1	GEng113				○							
	英語コミュニケーションⅡ	1	1	GEng114				○							
	*英語コミュニケーションⅢ	1	2	GEng213				○							
	*英語コミュニケーションⅣ	1	2	GEng214				○							
	英語特講Ⅰ	1	1	GEng115				○							
	英語特講Ⅱ	1	1	GEng116				○							
	英語特講Ⅲ	1	2	GEng215				○							
	英語特講Ⅳ	1	2	GEng216				○							
	*英語ライティングⅠ	1	1	GEng117				○							
	*英語ライティングⅡ	1	1	GEng118				○							
	*英語ライティングⅢ	1	2	GEng217				○							
	*英語ライティングⅣ	1	2	GEng218				○							
	英語文化演習ⅠA	2	2	GEng221				○			○				
	英語文化演習ⅠB	2	2	GEng222				○			○				
	*英語文化演習ⅠC	2	2	GEng223				○			○				
	英語文化演習ⅡA	2	2	GEng224				○			○				
	英語文化演習ⅡB	2	2	GEng225				○			○				
	*英語文化演習ⅡC	2	2	GEng226				○			○				
	共通	世界の言語と文化	2	1	GLan101				○						
	ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	GGer111				○						
		ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	GGer112				○						
		ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	GGer211				○						
ドイツ語基礎Ⅳ		1	2	GGer212				○							
ドイツ語会話Ⅰ		1	1	GGer113				○							
ドイツ語会話Ⅱ		1	1	GGer114				○							
ドイツ語会話Ⅲ		1	2	GGer213				○							
ドイツ語会話Ⅳ		1	2	GGer214				○							
ドイツ語文化Ⅰ		2	1	GGer101				○							
*ドイツ語文化Ⅱ		2	2	GGer201				○							
*ドイツ語文化Ⅲ		2	2	GGer202				○							
ドイツ語文化演習Ⅰ		2	3	GGer321				○			○				
ドイツ語文化演習Ⅱ		2	3	GGer322				○			○				
ドイツ語言語演習Ⅰ		2	3	GGer323				○			○				
ドイツ語言語演習Ⅱ		2	3	GGer324				○			○				
*ドイツ語言語文化演習Ⅰ		2	4	GGer421				○			○				
*ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	GGer422				○			○					
フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	GFre111				○							
	フランス語基礎Ⅱ	1	1	GFre112				○							
	フランス語基礎Ⅲ	1	2	GFre211				○							
	フランス語基礎Ⅳ	1	2	GFre212				○							
	フランス語会話Ⅰ	1	1	GFre113				○							
	フランス語会話Ⅱ	1	1	GFre114				○							
	フランス語会話Ⅲ	1	2	GFre213				○							
	フランス語会話Ⅳ	1	2	GFre214				○							
	フランス語文化Ⅰ	2	1	GFre101				○							
	*フランス語文化Ⅱ	2	2	GFre201				○							
	*フランス語文化Ⅲ	2	2	GFre202				○							
	フランス語文化演習Ⅰ	2	3	GFre321				○			○				
	フランス語文化演習Ⅱ	2	3	GFre322				○			○				
	フランス語言語演習Ⅰ	2	3	GFre323				○			○				
	フランス語言語演習Ⅱ	2	3	GFre324				○			○				
	*フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	GFre421				○			○				
*フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	GFre422				○			○					

一般教育科目

基盤科目

言語

ドイツ語

フランス語

*の科目は、2部では開講していません。

	授業科目名	単位	開講年次	科目NO	到達目標																
					A	B	C	D	E	F	G	H	I								
一般教育科目	基盤科目	言語	中国語	中国語基礎 I	1	1	GChi111				○										
				中国語基礎 II	1	1	GChi112				○										
				中国語基礎 III	1	2	GChi211				○										
				中国語基礎 IV	1	2	GChi212				○										
				中国語会話 I	1	1	GChi113				○										
				中国語会話 II	1	1	GChi114				○										
				中国語会話 III	1	2	GChi213				○										
				中国語会話 IV	1	2	GChi214				○										
				中国語文化 I	2	1	GChi101				○										
				*中国語文化 II	2	2	GChi201				○										
				*中国語文化 III	2	2	GChi202				○										
				中国語文化演習 I	2	3	GChi321				○			○							
				中国語文化演習 II	2	3	GChi322				○			○							
				中国語言語演習 I	2	3	GChi323				○			○							
				中国語言語演習 II	2	3	GChi324				○			○							
			*中国語言語文化演習 I	2	4	GChi421				○			○								
			*中国語言語文化演習 II	2	4	GChi422				○			○								
			ロシア語	ロシア語基礎 I	1	1	GRus111				○										
		ロシア語基礎 II		1	1	GRus112				○											
		ロシア語基礎 III		1	2	GRus211				○											
		ロシア語基礎 IV		1	2	GRus212				○											
		ロシア語会話 I		1	1	GRus113				○											
		ロシア語会話 II		1	1	GRus114				○											
		ロシア語会話 III		1	2	GRus213				○											
		ロシア語会話 IV		1	2	GRus214				○											
		ロシア語文化 I		2	1	GRus101				○											
		*ロシア語文化 II		2	2	GRus201				○											
		*ロシア語文化 III		2	2	GRus202				○											
		ロシア語文化演習 I		2	3	GRus321				○			○								
		ロシア語文化演習 II		2	3	GRus322				○			○								
		ロシア語言語演習 I		2	3	GRus323				○			○								
		ロシア語言語演習 II		2	3	GRus324				○			○								
		ロシア語言語文化演習 I		2	4	GRus421				○			○								
		ロシア語言語文化演習 II		2	4	GRus422				○			○								
		韓国・朝鮮語		韓国・朝鮮語基礎 I	1	1	GKor111				○										
			韓国・朝鮮語基礎 II	1	1	GKor112				○											
韓国・朝鮮語基礎 III	1		2	GKor211				○													
韓国・朝鮮語基礎 IV	1		2	GKor212				○													
韓国・朝鮮語会話 I	1		1	GKor113				○													
韓国・朝鮮語会話 II	1		1	GKor114				○													
韓国・朝鮮語会話 III	1		2	GKor213				○													
韓国・朝鮮語会話 IV	1		2	GKor214				○													
韓国・朝鮮語文化 I	2		1	GKor101				○													
*韓国・朝鮮語文化 II	2		2	GKor201				○													
*韓国・朝鮮語文化 III	2		2	GKor202				○													
韓国・朝鮮語文化演習 I	2		3	GKor321				○			○										
韓国・朝鮮語文化演習 II	2		3	GKor322				○			○										
韓国・朝鮮語言語演習 I	2		3	GKor323				○			○										
韓国・朝鮮語言語演習 II	2		3	GKor324				○			○										
*韓国・朝鮮語言語文化演習 I	2		4	GKor421				○			○										
*韓国・朝鮮語言語文化演習 II	2		4	GKor422				○			○										
身体	-		健康とスポーツの科学 I	2	1	GPEd101				○											
		健康とスポーツの科学 II	2	1	GPEd102				○												
		体育実技 I A	1	1	GPEd111				○					○							
		体育実技 I B	1	1	GPEd112				○					○							
		体育実技 II A	1	1	GPEd113				○					○							
		体育実技 II B	1	1	GPEd114				○					○							
		*体育実技 III A	1	1	GPEd115				○					○							
		*体育実技 III B	1	1	GPEd116				○					○							
		*体育実技 IV A	1	1	GPEd117				○					○							
		*体育実技 IV B	1	1	GPEd118				○					○							
		情報	-	コンピュータ科学	2	1	GInf101											○			
情報技術論	2			1	GInf102											○					
情報と社会	2			1	GInf103				○							○					

授業科目名	単位	開講年次	科目NO	到達目標											
				A	B	C	D	E	F	G	H	I			
人文科学	自己	哲学	2	1	GPhi101	○	○								
		倫理学Ⅰ	2	1	GPhi102	○	○								
		倫理学Ⅱ	2	1	GPhi103	○	○								
		論理学Ⅰ	2	1	GPhi104	○				○					
		論理学Ⅱ	2	1	GPhi105	○				○					
		社会思想史	2	1	GPhi106	○	○								
		行動科学	2	1	GPhi107	○						○			
		基礎心理学	2	1	GPhi108	○									
		人間関係論	2	1	GPhi109	○						○			
	文化	日本文学	2	1	GCul101	○		○							
		外国文学Ⅰ	2	1	GCul102	○			○						
		外国文学Ⅱ	2	1	GCul103	○			○						
		言語学Ⅰ	2	1	GCul104	○			○						
		言語学Ⅱ	2	1	GCul105	○			○						
		芸術論Ⅰ	2	1	GCul106	○								○	
		芸術論Ⅱ	2	1	GCul107	○								○	
		異文化コミュニケーション	2	1	GCul108	○									
		現代文化論	2	1	GCul109	○									
	歴史	歴史学Ⅰ	2	1	GHis101	○			○						
		歴史学Ⅱ	2	1	GHis102	○			○						
		歴史学Ⅲ	2	1	GHis103	○			○						
		歴史学Ⅳ	2	1	GHis104	○			○						
		考古学	2	1	GHis105	○			○						
	人文科学特別講義	2	1	GHSp101	○										
	社会科学	社会構造	法学	2	1	GSSS101	○	○							
			日本国憲法	2	1	GSSS102	○	○							
			経済学	2	1	GSSS103	○								
			政治学	2	1	GSSS104	○	○							
			社会学	2	1	GSSS105	○	○							
			マスコミ論	2	1	GSSS106	○								
			生涯学習論	2	1	GSSS107	○	○							
		地域	地理学	2	1	GSSR101	○						○		
			人類学	2	1	GSSR102	○			○					
			地誌学	2	1	GSSR103	○			○					
			国際事情	2	1	GSSR104	○			○					
			カナダの自然と社会Ⅰ	2	1	GSSR105	○			○					
			カナダの自然と社会Ⅱ	2	1	GSSR106	○			○					
			社会科学特別講義	2	1	GSSp101	○								
			自然科学	環境	地球科学Ⅰ	2	1	GNSE101	○						
地球科学Ⅱ	2	1			GNSE102	○									
環境生物科学Ⅰ	2	1			GNSE103	○	○								
環境生物科学Ⅱ	2	1			GNSE104	○	○								
物質科学	2	1			GNSE105	○									
物質環境科学	2	1			GNSE106	○									
宇宙科学Ⅰ	2	1			GNSE107	○									
宇宙科学Ⅱ	2	1			GNSE108	○									
普遍性	数学概論Ⅰ	2		1	GNST101	○									
	数学概論Ⅱ	2		1	GNST102	○									
	統計学Ⅰ	2		1	GNST103	○							○		
	統計学Ⅱ	2		1	GNST104	○							○		
	物理学概論	2		1	GNST105	○									
	自然科学特別講義	2		1	GNSp101	○									
北海道学	北海道史	2	1	GHok101	○		○								
	北方圏文化論	2	1	GHok102	○			○							
	北海道文学	2	1	GHok103	○		○								
	アイヌの言語と文化	2	1	GHok104	○			○							
	大学史	2	1	GHok105	○	○									
	北海道学特別講義	2	1	GHok106	○										
	開発研究所特別講義	2	1	GHok107	○										
教養科目特別講義	2	1	GSpe101	○											
キャリア形成科目	キャリア・ガイダンス	1	1	GJob101		○									
体験型科目	海外文化Ⅰ	1	1	GExp111	○			○							
	海外文化Ⅱ	1	1	GExp112	○			○							
	海外文化Ⅲ	1	1	GExp113	○			○							
	海外文化Ⅳ	1	1	GExp114	○			○							

*の科目は、2部では開講していません。

授業科目名			単位	開講年次	科目NO	到達目標									
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	留学生科目	代替科目	*日本語演習Ⅰ	2	1	GInt121					○	○			
			*日本語読解・構文Ⅰ	2	1	GInt101					○				
			*日本語文章表現Ⅰ	2	1	GInt102					○				
			*日本語演習Ⅱ	2	1	GInt122					○	○			
			*日本語読解・構文Ⅱ	2	1	GInt103					○				
			*日本語文章表現Ⅱ	2	1	GInt104					○				
			*日本語演習Ⅲ	2	2	GInt221					○	○			
			*日本事情Ⅰ	2	2	GInt201					○				
専門教育科目	基幹科目	人文学概論	2	1	HCor101	○			○						
		人文学演習A	2	2	HCor201	○				○	○				
		人文学演習B	2	2	HCor202	○				○	○				
		日本文化専門演習Ⅰ	2	3	HCor411						○	○	○		
		日本文化専門演習Ⅱ	2	3	HCor412						○	○	○		
		卒業研究	4	4	HCor401							○	○	○	
		導入科目	人文学基礎演習	2	1	HCor001					○	○			
			日本語文章表現演習	2	1	HCor002					○	○			
	英語科目	Communication SkillsⅠ	2	1	HEng101				○						
		Communication SkillsⅡ	2	1	HEng102				○						
		Communication SkillsⅢ	2	2	HEng201				○						
		Communication SkillsⅣ	2	2	HEng202				○						
		Global EnglishⅠ	1	1	HEng103				○						
		Global EnglishⅡ	1	1	HEng104				○						
		Global EnglishⅢ	1	2	HEng203				○						
		Global EnglishⅣ	1	2	HEng204				○						
		ReadingⅠ	1	1	HEng105				○						
		ReadingⅡ	1	1	HEng106				○						
		ReadingⅢ	1	2	HEng205				○						
		ReadingⅣ	1	2	HEng206				○						
		WritingⅠ	1	1	HEng107				○						
		WritingⅡ	1	1	HEng108				○						
		WritingⅢ	1	2	HEng207				○						
		WritingⅣ	1	2	HEng208				○						
		Cultural Perspectives in EnglishⅠ	2	2	HEng231				○						
		Cultural Perspectives in EnglishⅡ	2	2	HEng232				○						
		Cultural Perspectives in EnglishⅢ	2	2	HEng233				○						
		Cultural Perspectives in EnglishⅣ	2	2	HEng234				○						
		Cultural Perspectives in EnglishⅤ	2	3	HEng331				○						
		Cultural Perspectives in EnglishⅥ	2	3	HEng332				○						
		Intensive Communication SkillsⅠ	2	3	HEng301				○						
		Intensive Communication SkillsⅡ	2	3	HEng302				○						
Special SkillsⅠ		2	2	HEng303				○							
Special SkillsⅡ		2	2	HEng304				○							
Special Lectures in EnglishⅠ		2	3	HEng333				○							
Special Lectures in EnglishⅡ		2	3	HEng334				○							
基礎・展開科目	言語文化	言語	日本語学概論Ⅰ	2	1	HLan111			○						
			日本語学概論Ⅱ	2	1	HLan112			○						
			日本語学特論Ⅰ	2	3	HLan311			○					○	
			日本語学特論Ⅱ	2	3	HLan312			○					○	
			日本語発声実習	2	1	HLan117					○				
			日本語教授法Ⅰ	2	2	HLan211					○				
			日本語教授法Ⅱ	2	2	HLan212					○				
			日本語教授法Ⅲ	2	3	HLan213					○				
			日本語教授法Ⅳ	2	3	HLan214					○				
			日本語教育学特論	2	3	HLan313					○			○	
			日本語教育演習	2	3	HLan314					○		○	○	
			対照言語学	2	2	HLan218					○				
			書道	2	2	HLan119	○				○				
			書道演習	2	2	HLan110	○				○				
			英文法	2	1	HLan121					○				
			英語音声学	2	1	HLan122					○				
	英語学概論Ⅰ	2	2	HLan123					○						
	英語学概論Ⅱ	2	2	HLan124					○						
	文学	日本文学史Ⅰ	2	1	HLit111				○						
		日本文学史Ⅱ	2	1	HLit112				○						
		日本古典文学講読Ⅰ	2	2	HLit113				○		○				
		日本古典文学講読Ⅱ	2	2	HLit114				○		○				
		日本近現代文学Ⅰ	2	2	HLit211				○						
		日本近現代文学Ⅱ	2	2	HLit212				○						
		日本文学特論Ⅰ	2	3	HLit311				○				○		
		日本文学特論Ⅱ	2	3	HLit312				○				○		

授業科目名		単位	開講 年次	科目NO	到達目標																
					A	B	C	D	E	F	G	H	I								
基礎・展開科目	言語文化	文学	漢文学	2	3	HLit215				○	○										
			中国文学Ⅰ	2	3	HLit216				○											
			中国文学Ⅱ	2	3	HLit217				○											
			比較文学Ⅰ	2	3	HLit318				○											
			比較文学Ⅱ	2	3	HLit319				○											
			英米文学史Ⅰ	2	2	HLit121				○											
	英米文学史Ⅱ	2	2	HLit122				○													
	思想文化	日本文化概論Ⅰ	2	1	HPhl111			○													
		日本文化概論Ⅱ	2	1	HPhl112			○													
		日本文化特論Ⅰ	2	3	HPhl311			○									○				
		日本文化特論Ⅱ	2	3	HPhl312			○									○				
		日本芸術史	2	2	HPhl113			○													
		映像論	2	2	HPhl214				○									○			
		日本映画論	2	3	HPhl314			○										○			
		ヨーロッパ文化概論	2	2	HPhl121				○												
		キリスト教文化論	2	2	HPhl122				○												
		歴史文化	日本史概論Ⅰ	2	1	HHis111			○												
	日本史概論Ⅱ		2	1	HHis112			○													
	日本史特論Ⅰ		2	3	HHis311			○										○			
	日本史特論Ⅱ		2	3	HHis312			○										○			
	古文書講読		2	2	HHis114			○							○						
	ヨーロッパ史概論Ⅰ		2	2	HHis121				○												
	ヨーロッパ史概論Ⅱ		2	2	HHis122				○												
	アメリカ史概論		2	2	HHis123				○												
	人文地理学Ⅰ		2	1	HEnv131			○													
	人文地理学Ⅱ		2	1	HEnv132			○													
	地理情報システム論		2	2	HEnv231											○					
	環境文化	アイヌ文化論Ⅰ	2	2	HEnv233				○												
		アイヌ文化論Ⅱ	2	2	HEnv234				○												
		文化人類学Ⅰ	2	2	HEnv135				○												
		文化人類学Ⅱ	2	2	HEnv136				○												
		メディア史	2	2	HEnv137				○												
		生態人類学	2	3	HEnv335				○										○		
		北方考古学	2	3	HEnv238				○												
		アジア地域論Ⅰ	2	3	HEnv239				○												
		アジア地域論Ⅱ	2	3	HEnv230				○												
		英語文献講読Ⅰ	2	3	HLan125				○												
	英米文化科目	言語文化	言語	英語文献講読Ⅱ	2	3	HLan126				○										
				英語学特論Ⅰ	2	3	HLan323				○									○	
				英語学特論Ⅱ	2	3	HLan324				○										○
				文学	英米文学講読Ⅰ	2	3	HLit125				○									
					英米文学講読Ⅱ	2	3	HLit126				○									
					英米文学特論	2	3	HLit321				○									
		思想文化	ヨーロッパ文学特論	2	3	HLit322				○										○	
			ヨーロッパ文化特論Ⅰ	2	3	HPhl321				○										○	
			ヨーロッパ文化特論Ⅱ	2	3	HPhl322				○										○	
			アメリカ文化特論	2	3	HPhl323				○										○	
歴史文化		ヨーロッパ史特論Ⅰ	2	3	HHis321				○										○		
		ヨーロッパ史特論Ⅱ	2	3	HHis322				○										○		
		アメリカ史特論	2	3	HHis323				○										○		
環境文化		現代人類学	2	3	HEnv336				○										○		
		現代メディア論	2	3	HEnv337				○										○		
特別講義科目		人文学特別講義	2	1	HSpe101			○	○												
課外学修科目		特別演習	英米文化特別演習Ⅰ	2	1	HExp101				○									○		
			英米文化特別演習Ⅱ	2	1	HExp102				○									○		
			英米文化特別演習Ⅲ	2	1	HExp103				○										○	
	文化遺産特別演習		2	1	HExp104				○										○		
	日本文化特別演習		2	2	HExp205				○										○		
	国際文化特別演習		1~20	2	HExp302				○										○		
	特別実習	日本語教育特別演習	2	3	HExp306					○						○			○		
		伝統文化特別実習	1	3	HExp207				○												
	キャリア形成	インターンシップ	1	2	HExp108				○												
		ボランティアシップ	2	2	HExp109				○												
関連科目	日本史	2	2	HTTr101				○													
	東洋史	2	2	HTTr102				○													
	西洋史	2	2	HTTr103				○													

④ カリキュラム・マップ（英米文化学科）

…………英米文化学科の教育理念とともに、各科目の関連性を理解しましょう。

■人文学部英米文化学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人文学部では、北海学園大学の建学の精神をふまえ、人文学部の理念および教育研究上の目的ならびに日本文化学科・英米文化学科のそれぞれの教育目標に基づき編成された教育課程において、所定の修業年限と修得単位を満たすとともに、その学修成果として以下に掲げる要件を満たした学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与する。

英米文化学科

1. 豊かな人間性と社会性を支える教養を有している。
2. 欧米文化に関する基本的知識に加え、日本をはじめとする他地域の文化に関する学修で得た知見によって、これを相対化する視点を身につけている。
3. 英語および日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できる。
4. 主体的に学び、他者との協働による豊かな知的生産活動に携わることができる。
5. 人文学的な視点と研究方法によって、欧米の文化遺産・事象を調査・分析・解釈できる。
6. 先人の学問的業績を尊重しつつ、これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決できる

■人文学部英米文化学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

人文学部では、学生が卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる6つの力を身につけるために、以下のように教育課程を編成している。

英米文化学科

1. 幅広い視野と教養を身につけるために、一般教育科目を卒業要件として修得すべき単位に含めている。
2. 自らの知的関心に従って段階的に学修するなかで、欧米文化に関する基礎知識とこれを相対化する視点を身につけるために、1年次から3年次の専門科目では言語文化・思想文化・歴史文化・環境文化の4つの科目群を学科横断的に設定し、欧米以外の文化についても広く学べるようになっている。
3. 英語および日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できるようにするために、初年次には人文学基礎演習と日本語文章表現演習を、2年次には文献読解を中心として人文学的素養を身につける人文学演習を、それぞれ必修科目として開講するとともに、英語科目において必修16単位を課している。
4. 他の学生と協働しながら主体的に学ぶために、少人数制の演習科目を1年次から3年次にかけて開講するとともに、英米文化特別演習・国際文化特別演習などを開講している。
5. 欧米文化を人文学的な視点と研究方法によって調査・分析・解釈できるようにするために、3年次に英米文化専門演習を必修科目として開講している。
6. これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決するために、必修科目の卒業研究を大学4年間の集大成として位置づけている。

	〈到達目標〉	対応する 学位授与方針
A	人類の歴史と文化、社会と自然、およびこれらを対象とした学問の体系に関する基本的知識を教養として有し、読書を通じてこれを深めていく姿勢を身につけている。	(1) - (2) - (4)
B	社会の一員としての自覚の上に立って思考し、行動できる倫理観・価値判断力・自己管理能力を身につけている。	(1) - (4)
C	欧米の文化的多様性をふまえ、歴史的に形成された言語・生活様式、精神的活動の所産としての芸術・宗教・思想について総合的知見を有している。	(2) - (5) - (6)
D	日本をはじめとする他地域との相互交流について基本的知識を有し、欧米文化を相対化できる。	(2) - (5) - (6)
E	欧米と日本の文献の読解力を有し、自らの見解を筋道立ててわかりやすく伝えることができる。	(3) - (5) - (6)
F	自らの課題に意欲的に取り組むとともに、他者に学び、対話を通じて共同作業を成し遂げ、その成果を分かち合うことができる。	(4) - (1)
G	研究倫理にしたがって、文献調査やフィールドワーク、ICTの利用を適切に行い、これらによって収集した資料を活用できる。	(5) - (6)
H	言語文化（言語）・言語文化（文学）・思想文化・歴史文化・環境文化のいずれかに属する専門分野の知識体系・方法論を基に、欧米文化にかかわる文献・作品・事象を考察できる。	(5) - (6)
I	先行研究を批判的に検証し、独自の問いを立て、自らの見解を学問の形式にしたがって論理的に展開することで、欧米文化に関する新たな知見を提示できる。	(6) - (5) - (4)

*の科目は、2部では開講していません。

授業科目名	単位	開講年次	科目NO	到達目標										
				A	B	C	D	E	F	G	H	I		
英語	英語リーディングⅠ	1	1	GEng111					○					
	英語リーディングⅡ	1	1	GEng112					○					
	*英語リーディングⅢ	1	2	GEng211					○					
	*英語リーディングⅣ	1	2	GEng212					○					
	英語コミュニケーションⅠ	1	1	GEng113					○					
	英語コミュニケーションⅡ	1	1	GEng114					○					
	*英語コミュニケーションⅢ	1	2	GEng213					○					
	*英語コミュニケーションⅣ	1	2	GEng214					○					
	英語特講Ⅰ	1	1	GEng115					○					
	英語特講Ⅱ	1	1	GEng116					○					
	英語特講Ⅲ	1	2	GEng215					○					
	英語特講Ⅳ	1	2	GEng216					○					
	*英語ライティングⅠ	1	1	GEng117					○					
	*英語ライティングⅡ	1	1	GEng118					○					
	*英語ライティングⅢ	1	2	GEng217					○					
	*英語ライティングⅣ	1	2	GEng218					○					
	英語文化演習ⅠA	2	2	GEng221					○	○				
	英語文化演習ⅠB	2	2	GEng222					○	○				
	*英語文化演習ⅠC	2	2	GEng223					○	○				
	英語文化演習ⅡA	2	2	GEng224					○	○				
	英語文化演習ⅡB	2	2	GEng225					○	○				
	*英語文化演習ⅡC	2	2	GEng226					○	○				
	共通	世界の言語と文化	2	1	GLan101				○					
	ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	GGer111					○				
		ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	GGer112					○				
		ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	GGer211					○				
ドイツ語基礎Ⅳ		1	2	GGer212					○					
ドイツ語会話Ⅰ		1	1	GGer113					○					
ドイツ語会話Ⅱ		1	1	GGer114					○					
ドイツ語会話Ⅲ		1	2	GGer213					○					
ドイツ語会話Ⅳ		1	2	GGer214					○					
ドイツ語文化Ⅰ		2	1	GGer101					○					
*ドイツ語文化Ⅱ		2	2	GGer201					○					
*ドイツ語文化Ⅲ		2	2	GGer202					○					
ドイツ語文化演習Ⅰ		2	3	GGer321					○	○				
ドイツ語文化演習Ⅱ		2	3	GGer322					○	○				
ドイツ語言語演習Ⅰ		2	3	GGer323					○	○				
ドイツ語言語演習Ⅱ		2	3	GGer324					○	○				
*ドイツ語言語文化演習Ⅰ		2	4	GGer421					○	○				
*ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	GGer422					○	○					
フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	GFre111					○					
	フランス語基礎Ⅱ	1	1	GFre112					○					
	フランス語基礎Ⅲ	1	2	GFre211					○					
	フランス語基礎Ⅳ	1	2	GFre212					○					
	フランス語会話Ⅰ	1	1	GFre113					○					
	フランス語会話Ⅱ	1	1	GFre114					○					
	フランス語会話Ⅲ	1	2	GFre213					○					
	フランス語会話Ⅳ	1	2	GFre214					○					
	フランス語文化Ⅰ	2	1	GFre101					○					
	*フランス語文化Ⅱ	2	2	GFre201					○					
	*フランス語文化Ⅲ	2	2	GFre202					○					
	フランス語文化演習Ⅰ	2	3	GFre321					○	○				
	フランス語文化演習Ⅱ	2	3	GFre322					○	○				
	フランス語言語演習Ⅰ	2	3	GFre323					○	○				
	フランス語言語演習Ⅱ	2	3	GFre324					○	○				
	*フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	GFre421					○	○				
*フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	GFre422					○	○					

一般教育科目

基盤科目

言語

ドイツ語

フランス語

*の科目は、2部では開講していません。

授業科目名				単位	開講 年次	科目NO	到達目標												
							A	B	C	D	E	F	G	H	I				
一般教育科目	基盤科目	言語	中国語	中国語基礎Ⅰ	1	1	GChi111				○								
				中国語基礎Ⅱ	1	1	GChi112				○								
				中国語基礎Ⅲ	1	2	GChi211				○								
				中国語基礎Ⅳ	1	2	GChi212				○								
				中国語会話Ⅰ	1	1	GChi113				○								
				中国語会話Ⅱ	1	1	GChi114				○								
				中国語会話Ⅲ	1	2	GChi213				○								
				中国語会話Ⅳ	1	2	GChi214				○								
				中国語文化Ⅰ	2	1	GChi101				○								
				*中国語文化Ⅱ	2	2	GChi201				○								
				*中国語文化Ⅲ	2	2	GChi202				○								
				中国語文化演習Ⅰ	2	3	GChi321				○		○						
				中国語文化演習Ⅱ	2	3	GChi322				○		○						
				中国語言語演習Ⅰ	2	3	GChi323				○		○						
				中国語言語演習Ⅱ	2	3	GChi324				○		○						
			*中国語言語文化演習Ⅰ	2	4	GChi421				○		○							
			*中国語言語文化演習Ⅱ	2	4	GChi422				○		○							
		ロシア語	ロシア語基礎Ⅰ	1	1	GRus111					○								
			ロシア語基礎Ⅱ	1	1	GRus112					○								
			ロシア語基礎Ⅲ	1	2	GRus211					○								
			ロシア語基礎Ⅳ	1	2	GRus212					○								
			ロシア語会話Ⅰ	1	1	GRus113					○								
			ロシア語会話Ⅱ	1	1	GRus114					○								
			ロシア語会話Ⅲ	1	2	GRus213					○								
			ロシア語会話Ⅳ	1	2	GRus214					○								
			ロシア語文化Ⅰ	2	1	GRus101					○								
			*ロシア語文化Ⅱ	2	2	GRus201					○								
			*ロシア語文化Ⅲ	2	2	GRus202					○								
			ロシア語文化演習Ⅰ	2	3	GRus321					○	○							
			ロシア語文化演習Ⅱ	2	3	GRus322					○	○							
			ロシア語言語演習Ⅰ	2	3	GRus323					○	○							
			ロシア語言語演習Ⅱ	2	3	GRus324					○	○							
		*ロシア語言語文化演習Ⅰ	2	4	GRus421					○	○								
		*ロシア語言語文化演習Ⅱ	2	4	GRus422					○	○								
		韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1	1	GKor111					○								
			韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1	1	GKor112					○								
			韓国・朝鮮語基礎Ⅲ	1	2	GKor211					○								
韓国・朝鮮語基礎Ⅳ	1		2	GKor212					○										
韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1		1	GKor113					○										
韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1		1	GKor114					○										
韓国・朝鮮語会話Ⅲ	1		2	GKor213					○										
韓国・朝鮮語会話Ⅳ	1		2	GKor214					○										
韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2		1	GKor101					○										
*韓国・朝鮮語文化Ⅱ	2		2	GKor201					○										
*韓国・朝鮮語文化Ⅲ	2		2	GKor202					○										
韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ	2		3	GKor321					○		○								
韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ	2		3	GKor322					○		○								
韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ	2		3	GKor323					○		○								
韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ	2		3	GKor324					○		○								
*韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ	2	4	GKor421					○		○									
*韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ	2	4	GKor422					○		○									
身体	健康とスポーツの科学Ⅰ	2	1	GPEd101				○											
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2	1	GPEd102				○											
	体育実技ⅠA	1	1	GPEd111				○				○							
	体育実技ⅠB	1	1	GPEd112				○				○							
	体育実技ⅡA	1	1	GPEd113				○				○							
	体育実技ⅡB	1	1	GPEd114				○				○							
	*体育実技ⅢA	1	1	GPEd115				○				○							
	*体育実技ⅢB	1	1	GPEd116				○				○							
	*体育実技ⅣA	1	1	GPEd117				○				○							
	*体育実技ⅣB	1	1	GPEd118				○				○							
	情報	コンピュータ科学	2	1	GInf101										○				
		情報技術論	2	1	GInf102										○				
		情報と社会	2	1	GInf103				○						○				

		授業科目名	単位	開講年次	科目NO	到達目標														
						A	B	C	D	E	F	G	H	I						
人文科学	自己	哲学	2	1	GPhi101	○	○													
		倫理学Ⅰ	2	1	GPhi102	○	○													
		倫理学Ⅱ	2	1	GPhi103	○	○													
		論理学Ⅰ	2	1	GPhi104	○					○									
		論理学Ⅱ	2	1	GPhi105	○					○									
		社会思想史	2	1	GPhi106	○	○													
		行動科学	2	1	GPhi107	○							○							
		基礎心理学	2	1	GPhi108	○														
		人間関係論	2	1	GPhi109	○								○						
	文化	日本文学	2	1	GCul101	○				○										
		外国文学Ⅰ	2	1	GCul102	○			○											
		外国文学Ⅱ	2	1	GCul103	○				○										
		言語学Ⅰ	2	1	GCul104	○				○										
		言語学Ⅱ	2	1	GCul105	○				○										
芸術論Ⅰ		2	1	GCul106	○														○	
芸術論Ⅱ		2	1	GCul107	○														○	
異文化コミュニケーション		2	1	GCul108	○								○							
現代文化論		2	1	GCul109	○															
歴史	歴史学Ⅰ	2	1	GHis101	○			○												
	歴史学Ⅱ	2	1	GHis102	○			○												
	歴史学Ⅲ	2	1	GHis103	○			○												
	歴史学Ⅳ	2	1	GHis104	○			○												
	考古学	2	1	GHis105	○			○												
	人文科学特別講義	2	1	GHSp101	○															
社会科学	社会構造	法学	2	1	GSSS101	○	○													
		日本国憲法	2	1	GSSS102	○	○													
		経済学	2	1	GSSS103	○														
		政治学	2	1	GSSS104	○	○													
		社会学	2	1	GSSS105	○	○													
		マスコミ論	2	1	GSSS106	○														
		生涯学習論	2	1	GSSS107	○	○													
	地域	地理学	2	1	GSSR101	○								○						
		人類学	2	1	GSSR102	○				○										
		地誌学	2	1	GSSR103	○				○										
		国際事情	2	1	GSSR104	○				○										
		カナダの自然と社会Ⅰ	2	1	GSSR105	○				○										
		カナダの自然と社会Ⅱ	2	1	GSSR106	○				○										
		社会科学特別講義	2	1	GSSp101	○														
	自然科学	環境	地球科学Ⅰ	2	1	GNSE101	○													
			地球科学Ⅱ	2	1	GNSE102	○													
			環境生物科学Ⅰ	2	1	GNSE103	○	○												
			環境生物科学Ⅱ	2	1	GNSE104	○	○												
物質科学			2	1	GNSE105	○														
物質環境科学			2	1	GNSE106	○														
宇宙科学Ⅰ			2	1	GNSE107	○														
宇宙科学Ⅱ			2	1	GNSE108	○														
普遍性		数学概論Ⅰ	2	1	GNST101	○														
		数学概論Ⅱ	2	1	GNST102	○														
		統計学Ⅰ	2	1	GNST103	○														
		統計学Ⅱ	2	1	GNST104	○														
		物理学概論	2	1	GNST105	○														
	自然科学特別講義	2	1	GNSp101	○															
北海道学	-	北海道史	2	1	GHok101	○				○										
		北方圏文化論	2	1	GHok102	○				○										
		北海道文学	2	1	GHok103	○				○										
		アイヌの言語と文化	2	1	GHok104	○				○										
		大学史	2	1	GHok105	○	○													
		北海道学特別講義	2	1	GHok106	○														
		開発研究所特別講義	2	1	GHok107	○														
教養科目特別講義	2	1	GSp101	○																
キャリア形成科目	キャリア・ガイダンス	1	1	GJob101		○														
	体験型科目	海外文化Ⅰ	1	1	GExp111					○										
海外文化Ⅱ		1	1	GExp112					○											
海外文化Ⅲ		1	1	GExp113					○											
海外文化Ⅳ		1	1	GExp114					○											

*の科目は、2部では開講していません。

授業科目名			単位	開講年次	科目NO	到達目標									
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	
一般教育科目	留学生科目	代替科目	*日本語演習Ⅰ	2	1	GInt121					○	○			
			*日本語読解・構文Ⅰ	2	1	GInt101					○				
			*日本語文章表現Ⅰ	2	1	GInt102					○				
			*日本語演習Ⅱ	2	1	GInt122					○	○			
			*日本語読解・構文Ⅱ	2	1	GInt103					○				
			*日本語文章表現Ⅱ	2	1	GInt104					○				
			*日本語演習Ⅲ	2	2	GInt221					○	○			
			*日本事情Ⅰ	2	2	GInt201					○				
			*日本語演習Ⅳ	2	2	GInt222					○	○			
			*日本事情Ⅱ	2	2	GInt202					○				
専門教育科目	基幹科目	人文学概論	2	1	HCor101	○			○						
		人文学演習A	2	2	HCor201	○				○	○				
		人文学演習B	2	2	HCor202	○				○	○				
		英米文化専門演習Ⅰ	2	3	HCor421						○	○	○		
		英米文化専門演習Ⅱ	2	3	HCor422						○	○	○		
		卒業研究	4	4	HCor401							○	○	○	
	導入科目	人文学基礎演習	2	1	HCor001					○	○				
		日本語文章表現演習	2	1	HCor002					○	○				
	英語科目	Communication SkillsⅠ	2	1	HEng101			○		○					
		Communication SkillsⅡ	2	1	HEng102			○		○					
		Communication SkillsⅢ	2	2	HEng201			○		○					
		Communication SkillsⅣ	2	2	HEng202			○		○					
		Global EnglishⅠ	1	1	HEng103			○		○					
		Global EnglishⅡ	1	1	HEng104			○		○					
		Global EnglishⅢ	1	2	HEng203			○		○					
		Global EnglishⅣ	1	2	HEng204			○		○					
		ReadingⅠ	1	1	HEng105			○		○					
		ReadingⅡ	1	1	HEng106			○		○					
		ReadingⅢ	1	2	HEng205			○		○					
		ReadingⅣ	1	2	HEng206			○		○					
		WritingⅠ	1	1	HEng107			○		○					
		WritingⅡ	1	1	HEng108			○		○					
		WritingⅢ	1	2	HEng207			○		○					
		WritingⅣ	1	2	HEng208			○		○					
		Cultural Perspectives in EnglishⅠ	2	2	HEng231			○		○					
		Cultural Perspectives in EnglishⅡ	2	2	HEng232			○		○					
		Cultural Perspectives in EnglishⅢ	2	2	HEng233			○		○					
		Cultural Perspectives in EnglishⅣ	2	2	HEng234			○		○					
		Cultural Perspectives in EnglishⅤ	2	3	HEng331			○		○					
		Cultural Perspectives in EnglishⅥ	2	3	HEng332			○		○					
		Intensive Communication SkillsⅠ	2	3	HEng301			○		○					
		Intensive Communication SkillsⅡ	2	3	HEng302			○		○					
		Special SkillsⅠ	2	2	HEng303			○		○					
		Special SkillsⅡ	2	2	HEng304			○		○					
		Special Lectures in EnglishⅠ	2	3	HEng333			○		○					
		Special Lectures in EnglishⅡ	2	3	HEng334			○		○					
	基礎・展開科目	言語	英文法	2	1	HLan121			○		○				
			英語音声学	2	1	HLan122			○		○				
			英語学概論Ⅰ	2	2	HLan123			○						
			英語学概論Ⅱ	2	2	HLan124			○						
			英語文献講読Ⅰ	2	1	HLan125			○		○				
			英語文献講読Ⅱ	2	1	HLan126			○		○				
英語学特論Ⅰ			2	3	HLan323			○		○			○		
英語学特論Ⅱ			2	3	HLan324			○					○		
日本語学概論Ⅰ			2	1	HLan111				○						
日本語学概論Ⅱ			2	1	HLan112				○						
日本語発声実習			2	1	HLan117					○					
日本語教授法Ⅰ			2	2	HLan211					○					
日本語教授法Ⅱ			2	2	HLan212					○					
対照言語学			2	2	HLan218				○		○				
書道		2	2	HLan119	○				○						
書道演習		2	2	HLan110	○				○						
文学		英米文学史Ⅰ	2	1	HLit121			○							
		英米文学史Ⅱ	2	1	HLit122			○							
		英米文学講読Ⅰ	2	2	HLit125			○		○					
		英米文学講読Ⅱ	2	2	HLit126			○		○					
		英米文学特論	2	3	HLit321			○					○		
		ヨーロッパ文学特論	2	3	HLit322			○					○		
		日本文学史Ⅰ	2	2	HLit111				○						
		日本文学史Ⅱ	2	2	HLit112				○						
		日本近現代文学Ⅰ	2	2	HLit211				○						
		日本近現代文学Ⅱ	2	2	HLit212				○						

授業科目名		単位	開講 年次	科目NO	到達目標										
					A	B	C	D	E	F	G	H	I		
基礎・展開科目	思想文化	ヨーロッパ文化概論	2	2	HPhi121			○							
		キリスト教文化論	2	2	HPhi122			○							
		ヨーロッパ文化特論Ⅰ	2	3	HPhi321			○						○	
		ヨーロッパ文化特論Ⅱ	2	3	HPhi322			○						○	
		アメリカ文化特論	2	3	HPhi323			○						○	
		日本文化概論Ⅰ	2	2	HPhi111				○						
		日本文化概論Ⅱ	2	2	HPhi112				○						
	日本芸術史	2	2	HPhi113				○							
	映像論	2	2	HPhi214			○						○		
	歴史文化	ヨーロッパ史概論Ⅰ	2	1	HHis121			○							
		ヨーロッパ史概論Ⅱ	2	2	HHis122			○							
		ヨーロッパ史特論Ⅰ	2	3	HHis321			○						○	
		ヨーロッパ史特論Ⅱ	2	3	HHis322			○						○	
		アメリカ史概論	2	1	HHis123			○							
		アメリカ史特論	2	3	HHis323			○						○	
		日本史概論Ⅰ	2	2	HHis111				○						
	日本史概論Ⅱ	2	2	HHis112				○							
	環境文化	人文地理学Ⅰ	2	1	HEnv131				○						
		人文地理学Ⅱ	2	1	HEnv132				○						
		地理情報システム論	2	2	HEnv231								○		
		メディア史	2	2	HEnv137				○						
		アイヌ文化論Ⅰ	2	2	HEnv233				○						
		アイヌ文化論Ⅱ	2	2	HEnv234				○						
		文化人類学Ⅰ	2	2	HEnv135				○						
		文化人類学Ⅱ	2	2	HEnv136				○						
		現代人類学	2	3	HEnv336				○						○
		現代メディア論	2	3	HEnv337				○						○
	専門教育科目	日本語文化	言語	日本語学特論Ⅰ	2	3	HLan311				○				
				日本語学特論Ⅱ	2	3	HLan312				○				
				日本語教授法Ⅲ	2	3	HLan213					○			
				日本語教授法Ⅳ	2	3	HLan214					○			
				日本語教育学特論	2	3	HLan313				○	○			
				日本語教育演習	2	3	HLan314				○	○	○		
文学			日本古典文学講読Ⅰ	2	3	HLit113				○					
			日本古典文学講読Ⅱ	2	3	HLit114				○					
			日本文学特論Ⅰ	2	3	HLit311				○				○	
			日本文学特論Ⅱ	2	3	HLit312				○				○	
			漢文学	2	3	HLit215				○					
		中国文学Ⅰ	2	3	HLit216				○						
		中国文学Ⅱ	2	3	HLit217				○						
比較文学Ⅰ		2	3	HLit318				○					○		
比較文学Ⅱ		2	3	HLit319				○					○		
思想文化		日本文化特論Ⅰ	2	3	HPhi311				○					○	
		日本文化特論Ⅱ	2	3	HPhi312				○					○	
		日本映画論	2	3	HPhi314				○					○	
		日本史特論Ⅰ	2	3	HHis311				○						
歴史文化		日本史特論Ⅱ	2	3	HHis312				○						
		古文書講読	2	3	HHis114				○						
		生態人類学	2	3	HEnv335				○					○	
環境文化		北方考古学	2	3	HEnv238				○						
	特別講義科目	人文学特別講義	2	1	HSpe101			○	○						
課外学修科目	特別演習	英米文化特別演習Ⅰ	2	1	HExp101			○				○			
		英米文化特別演習Ⅱ	2	1	HExp102			○				○			
		英米文化特別演習Ⅲ	2	1	HExp103			○				○			
		文化遺産特別演習	2	1	HExp104				○			○			
		日本文化特別演習	2	2	HExp205				○			○			
		国際文化特別演習	1~20	2	HExp302				○			○			
	特別実習	日本語教育特別演習	2	3	HExp306				○	○	○				
キャリア形成	伝統文化特別実習	1	3	HExp207	○		○								
	インターンシップ	1	2	HExp108		○									
	ボランティアシップ	2	2	HExp109		○									
関連科目	日本史	2	2	HTTr101	○										
	東洋史	2	2	HTTr102	○			○							
	西洋史	2	2	HTTr103	○		○	○							

⑤ カリキュラム・ツリー（日本文化学科）

【DP1】

豊かな人間性と社会性を支える教養を有している。

【DP2】

日本文化に関する基本的知識に加え、欧米をはじめとする他地域の文化に関する学修で得た知見によって、これを相対化する視点を身につけている。

【DP3】

日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できる。

※対応する DP（左から重要順）

DP：1>2>4

【到達目標】(A)

人類の歴史と文化、社会と自然、およびこれらを対象とした学問の体系に関する基本的知識を教養として有し、読書を通じてこれを深めていく姿勢を身につけている。

DP：1>4

【到達目標】(B)

社会の一員としての自覚の上で立つて思考し、行動できる倫理観・価値判断力・自己管理能力を身につけている。

DP：2>5>6

【到達目標】(C)

日本の文化的多様性をふまえ、歴史的に形成された言語・生活様式、精神的活動の所産としての芸術・宗教・思想について総合的知見を有している。

DP：2>5>6

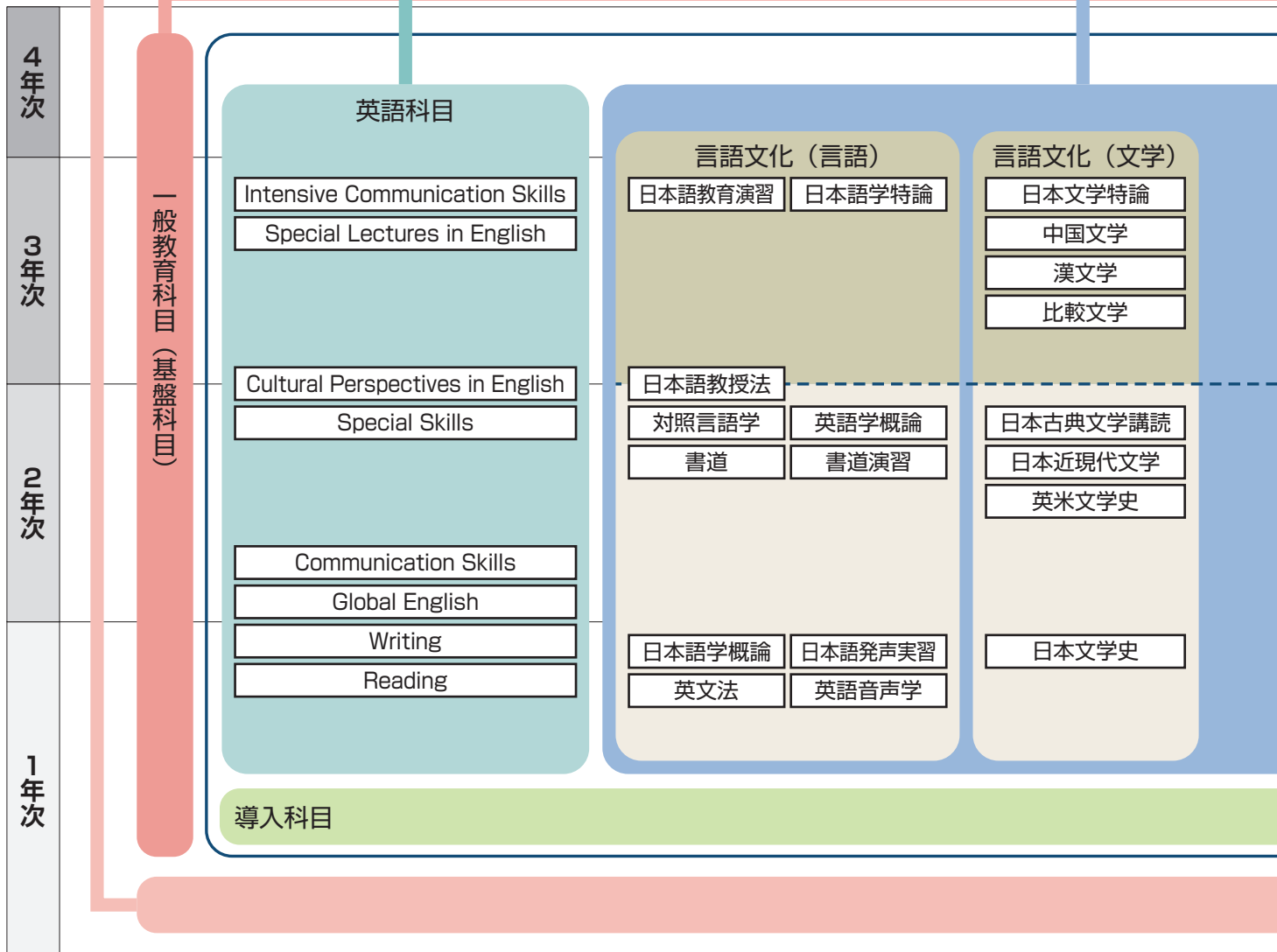
【到達目標】(D)

中国・朝鮮や欧米をはじめとする他地域との相互交流について基本的知識を有し、日本文化を相対化できる。

DP：3>5>6

【到達目標】(E)

古典を含めた日本の文献の読解力を有し、自らの見解を筋道立ててわかりやすく伝えることができる。



[DP4]
主体的に学び、他者との協働による豊かな知的生産活動に携わることができる。

[DP5]
人文学的な視点と研究方法によって、日本の文化遺産・事象を調査・分析・解釈できる。

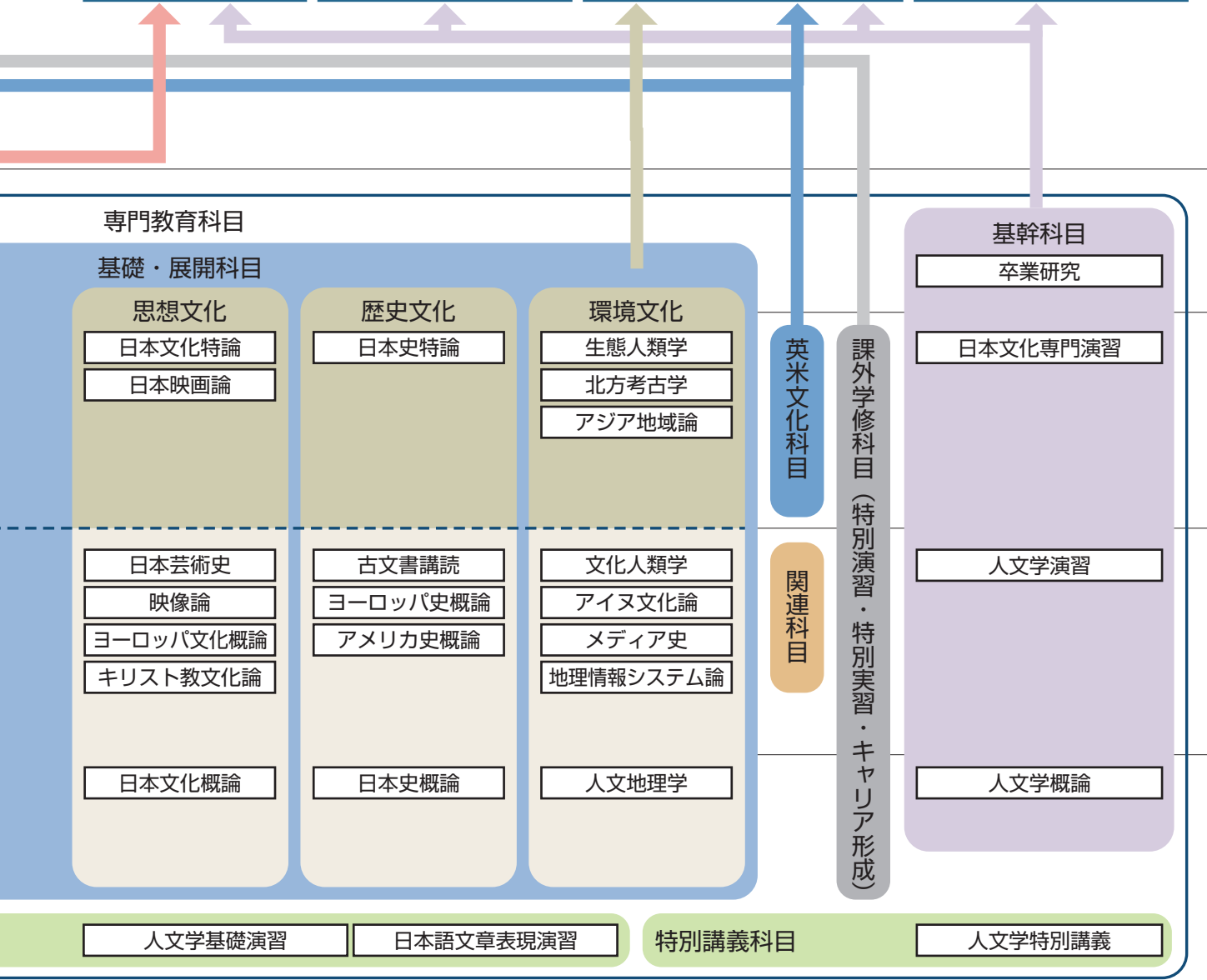
[DP6]
先人の学問的業績を尊重しつつ、これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決できる。

DP : 4>1
【到達目標】(F)
自らの課題に意欲的に取り組むとともに、他者に学び、対話を通じて共同作業を成し遂げ、その成果を分かち合うことができる。

DP : 5>6
【到達目標】(G)
研究倫理にしたがって、文献調査やフィールドワーク、ICTの利用を適切に行い、これらによって収集した資料を活用できる。

DP : 5>6
【到達目標】(H)
言語文化(言語)・言語文化(文学)・思想文化・歴史文化・環境文化のいずれかに属する専門分野の知識体系・方法論を基に、日本文化にかかわる文献・作品・事象を考察できる。

DP : 6>5>4
【到達目標】(I)
先行研究を批判的に検証し、独自の問いを立て、自らの見解を学問の形式にしたがって論理的に展開することで、日本文化に関する新たな知見を提示できる。



一般教育科目 (教養科目)

⑤ カリキュラム・ツリー (英米文化学科)

【DP1】

豊かな人間性と社会性を支える教養を有している。

【DP2】

欧米文化に関する基本的知識に加え、日本をはじめとする他地域の文化に関する学修で得た知見によって、これを相対化する視点を身につけている。

【DP3】

英語および日本語の文献を読み解き、自らの考えを論理的に表現できる。

※対応する DP (左から重要順)

DP : 1>2>4

【到達目標】(A)

人類の歴史と文化、社会と自然、およびこれらを対象とした学問の体系に関する基本的知識を教養として有し、読書を通じてこれを深めていく姿勢を身につけている。

DP : 1>4

【到達目標】(B)

社会の一員としての自覚の上に立って思考し、行動できる倫理観・価値判断力・自己管理能力を身につけている。

DP : 2>5>6

【到達目標】(C)

欧米の文化的多様性をふまえ、歴史的に形成された言語・生活様式、精神的活動の所産としての芸術・宗教・思想について総合的知見を有している。

DP : 2>5>6

【到達目標】(D)

日本をはじめとする他地域との相互交流について基本的知識を有し、欧米文化を相対化できる。

DP : 3>5>6

【到達目標】(E)

欧米と日本の文献の読解力を有し、自らの見解を筋道立ててわかりやすく伝えることができる。

4年次
3年次
2年次
1年次

一般教育科目(基盤科目)

英語科目

Intensive Communication Skills
Special Lectures in English

Cultural Perspectives in English
Special Skills

Communication Skills
Global English
Writing
Reading

言語文化(言語)

英語学特論

日本語教授法

英語学概論
書道

対照言語学
書道演習

英文法
英語文献講読
日本語発声実習

英語音声学
日本語学概論

言語文化(文学)

英米文学特論
ヨーロッパ文学特論

英米文学講読
日本近現代文学
日本文学史

英米文学史

導入科目

【DP4】

主体的に学び、他者との協働による豊かな知的生産活動に携わることができる。

【DP5】

人文学的な視点と研究方法によって、欧米の文化遺産・事象を調査・分析・解釈できる。

【DP6】

先人の学問的業績を尊重しつつ、これまでの学修で得た知識・技能・経験を活用して、自ら課題を設定し、これを解決できる。

DP : 4>1

【到達目標】(F)

自らの課題に意欲的に取り組むとともに、他者に学び、対話を通じて共同作業を成し遂げ、その成果を分かち合うことができる。

DP : 5>6

【到達目標】(G)

研究倫理にしたがって、文献調査やフィールドワーク、ICTの利用を適切に行い、これらによって収集した資料を活用できる。

DP : 5>6

【到達目標】(H)

言語文化(言語)・言語文化(文学)・思想文化・歴史文化・環境文化のいずれかに属する専門分野の知識体系・方法論を基に、欧米文化にかかわる文献・作品・事象を考察できる。

DP : 6>5>4

【到達目標】(I)

先行研究を批判的に検証し、独自の問いを立て、自らの見解を学問の形式にしたがって論理的に展開することで、欧米文化に関する新たな知見を提示できる。

専門教育科目

基礎・展開科目

思想文化

- アメリカ文化特論
- ヨーロッパ文化特論

歴史文化

- アメリカ史特論
- ヨーロッパ史特論

環境文化

- 現代人類学
- 現代メディア論
- アジア地域論

- ヨーロッパ文化概論
- キリスト教文化論
- 日本文化概論
- 日本芸術史
- 映像論

- ヨーロッパ史概論
- 日本史概論

- 文化人類学
- メディア史
- アイヌ文化論
- 地理情報システム論

- ヨーロッパ史概論
- アメリカ史概論

- 人文地理学

日本文化科目

関連科目

課外学修科目(特別演習・特別実習・キャリア形成)

基幹科目

- 卒業研究
- 英米文化専門演習
- 人文学演習
- 人文学概論

人文学基礎演習

日本語文章表現演習

特別講義科目

人文学特別講義

一般教育科目(教養科目)

北海学園大学人文学部規則

(目 的)

第1条 この規則は、北海学園大学学則（以下「学則」という）第3条第2項により、人文学部（以下、「本学部」という）の学生に関する事項を定める。

2 本学部学生の教育課程等に関する必要な事項は、学則の定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(学科及び教育研究上の目的)

第2条 本学部には、学則第3条により、次の部・学科を置く。

1部 日本文化学科 2部 日本文化学科

1部 英米文化学科 2部 英米文化学科

2 本学部は、近代ヨーロッパに起源を持つ人文主義を批判的に継承することで人間としてのあるべき姿を追求し、人間と自然、自己と他者が共生できる世界を目指す「新人文主義」の理念の下、「文化を学ぶ、世界と繋がる」をモットーに、地域に根ざしつつグローバルな視野をもって、人間と人為の所産である文化を探究することを教育研究上の目的とする。

3 日本文化学科は、教養を基礎として、主に日本語と日本文化に関する専門知識に裏づけられた洞察力・表現力・創造力を身につけ、多様性に開かれた社会を築くため、主体的に活動できる人間の育成を目指す。

4 英米文化学科は、教養を基礎として、主に英語と欧米文化に関する専門知識に裏づけられた洞察力・表現力・創造力を身につけ、多様性に開かれた社会を築くため、主体的に活動できる人間の育成を目指す。

(進 級)

第3条 本学部3年次進級には、2年終了時において一般教育科目及び専門教育科目にわたり履修し、1部学生は52単位以上、2部学生は48単位以上を修得していなければならない。

(転学部・転部・転学科)

第4条 本学部学生で他学部への転学部を希望する者あるいは他学部生で本学部への転学部を希望する者については、学則第13条により、教授会の議を経て、これを許可することができる。その手続きについては別に定める。

2 本学部の学生で1部2部間の転部並びに学科間の転学科を希望する者については、教授会が選考のうえ、許可することができる。

(編入学・転入学)

第4条の2 学則第12条及び第13条の規定により本学部編入学又は転入学を志願する者の入学年次は、第3年次とする。

2 学則第12条第3項及び第13条第3項の規定により認定する単位については、別に定める。

3 学則第12条第4項の規定により算入する在学年数は2年とし、入学後の在学期間は、6年を超えることができない。

(授業科目)

第5条 本学部の日本文化学科及び英米文化学科の授業科目、その必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目の区別、単位数及びその年次配当は、1部学生については学則別表7、2部学生については学則別表8をもって定める。

ただし、履修登録する年度において開講されない授業科目については、この限りではない。

2 日本語教員養成課程を履修する学生については、同課程履修規程による。

3 学則別表7及び学則別表8に定める授業科目については、別の定めにより、上級年次に配当された授業科目を履修することができる。

(単位の計算)

第6条 外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書の規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは別に定める。

(2) 演習科目のうち学則第20条第3号ただし書の規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは別に定める。

(3) 実習科目のうち学則第20条第4号ただし書の規定により、30時間の授業をもって1単位とするものは別に定める。

(履修手続き)

第7条 学生は、履修する授業科目を本学部の指定する期間内に所定の様式によって願い出て、学部長の許可を受けなければならない。

2 授業科目の履修制限、履修登録手続及びその他の履修に関する事項は、別に定める。
(入学前の既修得単位等の認定)

第8条 学則第26条第1項及び第2項に規定する単位等の認定の基準は別に定める。
(外国人留学生)

第9条 学則第11条第2項による外国人留学生として入学した者は、学則別表7に定める特定の授業科目について代替科目を履修することができる。
(海外帰国生徒学生)

第10条 学則第11条第2項による海外帰国生徒学生として入学した者は、学則別表7に定める特定の授業科目について代替科目を履修することができる。
(単位の修得)

第11条 単位を修得するためには、履修した授業科目の試験に合格しなければならない。
(卒業研究)

第12条 卒業研究の単位修得の認定は、指導教員による卒業研究の成果の評価に基づき、教授会の議を経て行う。
(試験)

第13条 試験は、原則として、その授業科目の授業の終了した学期末に行う。

2 あらかじめ定められた試験の期日に受験できなかった者で、所定の手続きを経て学部長の許可を受けた者については、特定の授業科目につき、教授会の議を経て、別の期日に試験を行う。

3 前2項のほか、やむをえない事情があるときは、教授会の議を経て、臨時に試験を行うことができる。

4 試験の実施については、この他に定めることがある。

(成績の評価)

第14条 成績の評価は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。

ただし、この成績評価になじまない一部の科目は、合、否とする。

(卒業・学位)

第15条 本学部を卒業し、学士(文学)の学位を得るためには、学則別表に定める授業科目中、必修科目・選択科目の所定単位を次の通り修得しなくてはならない。

(1) 1部日本文化学科の学生は、一般教育科目の基盤科目の言語の科目及び専門教育科目の英語科目の中から4単位以上、専門教育科目88単位以上(必修条件を含む)修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計132単位以上修得

(2) 1部英米文化学科の学生は、専門教育科目88単位以上(必修条件を含む)修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計132単位以上修得

(3) 2部日本文化学科の学生は、一般教育科目の基盤科目の言語の科目及び専門教育科目の英語科目の中から4単位以上、専門教育科目88単位以上(必修条件を含む)修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計124単位以上修得

(4) 2部英米文化学科の学生は、専門教育科目88単位以上(必修条件を含む)修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計124単位以上修得

(科目等履修生)

第16条 本学部の授業科目のうち、1科目又は数科目の履修を科目等履修生として願い出る者については、学則第40条の趣旨により、教授会の選考のうえ、これを許可することができる。

2 本学部の科目等履修生が、1年間に履修できる単位数は28単位以内とする。

(研究生)

第17条 本学部において特定事項につき研究しようとする者があるときは、支障のない限り教授会で選考のうえ研究生として入学を許可することができる。

2 研究生の取り扱いについては、別に定める規程による。

(他大学等の授業科目の履修)

第18条 学則第24条の規定により他の大学等で履修した単位、又は学則第15条の規定により外国の大学に留学して履修した単位の認定、及び在学期間の算入、若しくは本規則第15条に規定する卒業要件に算入する単位の認定等は別に定める基準に基づき、教授会の議を経てこれを認定する。

2 本学部2部学生が、特別聴講学生として他大学の授業科目を履修する場合の取り扱いについては、別に定

める規程による。

(他学部の授業科目の履修)

第19条 本学部の学生が、学則第19条の規定により他学部の授業科目を履修する場合、本学部及び履修を希望する当該学部の学部長の許可を受けなければならない。

ただし、単位の認定を受けることはできるが、卒業に必要な単位には算入されない。

2 他学部の学生が、学則第19条の規定により本学部の授業科目を履修する場合、本学部及び所属する学部の学部長の許可を受けなければならない。

(学籍異動)

第20条 学生の学籍異動に関する事項については、学則及びこの規則の定めるところによるほか、別に定めるところによる。

附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 ただし、第5条(授業科目)及び第15条(卒業・学位)は、平成9年度以前の入学者については従前の規則による。

3 ただし、第3条(進級)、第5条の6(他学科履修)、第9条(外国人留学生)及び第10条(海外帰国生徒学生)は、平成9年度以前の入学者については適用しない。

4 ただし、平成9年度以前の入学者の学部3年次に移行できるものは、従前の学則第2条第2項に基づく教養部規則第5条第3項各号の所定単位を修得した者でなければならない。

附 則

この規則は、平成10年12月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

ただし、第5条第7項は、平成10年度以降入学者から適用する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 ただし、第15条(卒業・学位)は、平成14年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 ただし、第3条(進級)、第15条(卒業・学位)は、平成16年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 ただし、平成22年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 ただし、平成23年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

2 ただし、平成25年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 ただし、第15条第1項の各号は、平成25年度以前の入学生については従前の規則による。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 ただし、本規則第5条第1項に規定する平成28年4月1日施行の学則別表7のロ 専門教育科目及び8のロ 専門教育科目については、平成26年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 ただし、平成28年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 ただし、平成29年度以前の入学者については従前の規則による。
- 3 ただし、本規則第5条第1項に規定する平成30年4月1日施行の学則別表7のロ 専門教育科目及び8のロ 専門教育科目のうち、「地理情報システム論」、「英米文化特別演習Ⅰ」及び「伝統文化特別実習」並びに「Special SkillsⅠ」、「Special SkillsⅡ」及び「ボランティアシップ」の年次配当については平成26年度から平成29年度入学生に適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 ただし、本規則第5条第1項に規定する平成31年4月1日施行の学則別表7のロ 専門教育科目及び8のロ 専門教育科目のうち、「英米文化特別演習Ⅲ」及び「文化遺産特別演習」については平成26年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 ただし、本規則第5条第1項に規定する令和3年4月1日施行の学則別表7及び8のイ一般教育科目のうち、「共同学位協定校修得科目（一般）」及びロ 専門教育科目のうち、「共同学位協定校修得科目（専門）」については、令和2年度入学生から適用する。

※次ページ以降の学則別表については、その入学年度のものを適用します。

2014～2015年度入学生用

(学則別表 7・8)

対象学生番号(例)

2714101・2715101

2814101・2815101

2914101・2915101

3014101・3015101

学生番号の下線部が 14・15 の学生

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大 学	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	〈キャリア形成科目〉						
	キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	〈体験型科目〉						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	〈留学生科目(外国人留学生・海外帰国生徒科目)〉						
	代替科目						4単位までを基礎科目の言語の科目に、16単位までを教養科目に代替できる
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	すべての科目でⅡの履修はⅠの履修又は単位修得を前提とする
	日本語事情Ⅰ		2			2	日本語演習Ⅳの履修はⅢの履修又は単位修得を前提とする
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本語事情Ⅱ		2			2	
	計	195	68	40	20	323	

ロ 専門教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
○	人文学概論	2				2	
○	人文学演習A		2			2	
○	人文学演習B		2			2	
○	人文学演習C		2			2	
○	日本文化専門演習Ⅰ			2		2	
○	日本文化専門演習Ⅱ			2		2	
○	卒業研究				4	4	
	導入科目						
○	人文学基礎演習	2				2	
○	日本語文章表現演習	2				2	
	英語科目						
	Communication SkillsⅠ	2				2	
	Communication SkillsⅡ	2				2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	Communication SkillsⅢ		2			2	
	Communication SkillsⅣ		2			2	
	Global EnglishⅠ	1				1	
	Global EnglishⅡ	1				1	
	Global EnglishⅢ		1			1	
	Global EnglishⅣ		1			1	
	ReadingⅠ	1				1	
	ReadingⅡ	1				1	
	ReadingⅢ		1			1	
	ReadingⅣ		1			1	
	WritingⅠ	1				1	
	WritingⅡ	1				1	
	WritingⅢ		1			1	
	WritingⅣ		1			1	
	Cultural Perspectives in EnglishⅠ		2			2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅡ		2			2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅢ		2			2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅣ		2			2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅤ			2		2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅥ			2		2	
	Intensive Communication SkillsⅠ			2		2	
	Intensive Communication SkillsⅡ			2		2	
	Special SkillsⅠ		2			2	
	Special SkillsⅡ		2			2	
	Special Lectures in EnglishⅠ			2		2	
	Special Lectures in EnglishⅡ			2		2	
	基礎・展開科目						
	〈言語文化〉						
	言語						
	日本語学概論Ⅰ	2				2	
	日本語学概論Ⅱ	2				2	
	日本語学特論Ⅰ			2		2	
	日本語学特論Ⅱ			2		2	
	日本語発声実習	2				2	
	日本語教授法Ⅰ		2			2	
	日本語教授法Ⅱ		2			2	
	日本語教授法Ⅲ			2		2	
	日本語教授法Ⅳ			2		2	
	日本語教育学特論			2		2	
	日本語教育演習			2		2	
	対照言語学		2			2	
	書道演習		2			2	
	英文学	2				2	
	英語音声学	2				2	
	英語学概論Ⅰ		2			2	
	英語学概論Ⅱ		2			2	
	文学						
	日本文学史Ⅰ	2				2	
	日本文学史Ⅱ	2				2	
	日本古典文学講読Ⅰ		2			2	
	日本古典文学講読Ⅱ		2			2	
	日本近現代文学Ⅰ		2			2	
	日本近現代文学Ⅱ		2			2	
	日本文学特論Ⅰ			2		2	
	日本文学特論Ⅱ			2		2	
	漢文学			2		2	
	中国文学Ⅰ			2		2	
	中国文学Ⅱ			2		2	
	比較文学Ⅰ			2		2	
	比較文学Ⅱ			2		2	
	英米文学史Ⅰ		2			2	
	英米文学史Ⅱ		2			2	
	〈思想文化〉						
	日本文化概論Ⅰ	2				2	
	日本文化概論Ⅱ	2				2	
	日本文化特論Ⅰ			2		2	
	日本文化特論Ⅱ			2		2	
	日本芸術史論		2			2	
	映像論		2			2	
	日本映画論			2		2	
	ヨーロッパ文化概論		2			2	
	キリスト教文化論		2			2	
	〈歴史文化〉						
	日本史概論Ⅰ	2				2	
	日本史概論Ⅱ	2				2	
	日本史特論Ⅰ			2		2	
	日本史特論Ⅱ			2		2	
	古文書講読		2			2	
	ヨーロッパ史概論Ⅰ		2			2	
	ヨーロッパ史概論Ⅱ		2			2	
	アメリカ史概論		2			2	
	〈環境文化〉						
	人文地理学Ⅰ	2				2	

2014～
2015年度
入学生用

○印必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	人文地理学Ⅱ 地理情報システム論 アイヌ文化論Ⅰ アイヌ文化論Ⅱ 文化人類学Ⅰ 文化人類学Ⅱ メデイア史 生態人類学 北方考古学 アジア地域論Ⅰ アジア地域論Ⅱ	2				2	
	英米文化科目 〈言語文化〉 言語 英語文献講読Ⅰ 英語文献講読Ⅱ 英語学特論Ⅰ 英語学特論Ⅱ 文学 英米文学講読Ⅰ 英米文学講読Ⅱ 英米文学特論 ヨーロッパ文学特論			2		2	8単位まで卒業に必要な単位に算入できる
	〈思想文化〉 ヨーロッパ文化特論Ⅰ ヨーロッパ文化特論Ⅱ アメリカ文化特論			2		2	
	〈歴史文化〉 ヨーロッパ史特論Ⅰ ヨーロッパ史特論Ⅱ アメリカ史特論			2		2	
	〈環境文化〉 現代人類学 現代メデア論			2		2	
	特別講義科目 人文学特別講義	2				2	
	課外学修科目 〈特別演習〉 英米文化特別演習Ⅰ 英米文化特別演習Ⅱ 英米文化特別演習Ⅲ 文化遺産特別演習 日本文化特別演習 国際文化特別演習 日本語教育特別演習 〈特別実習〉 伝統文化特別実習 〈キャリア形成〉 インターンシップ ボランティアシップ	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2			2 2 2 2 2 2 2	
	関連科目 日 本 史 東 洋 史 西 洋 史		2 2 2			2 2 2	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	計	52	94 113	95	4	245 264	専門教育科目 88単位以上必修

(2) 英米文化学科
Ⅰ 一般教育科目

○印必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	〈基盤科目〉 言語 英語 英語講読Ⅰ 英語講読Ⅱ 英語講読Ⅲ 英語講読Ⅳ オーラルコミュニケーションⅠ オーラルコミュニケーションⅡ オーラルコミュニケーションⅢ オーラルコミュニケーションⅣ 英語特講Ⅰ 英語特講Ⅱ 英語特講Ⅲ 英語特講Ⅳ ライティング初級Ⅰ ライティング初級Ⅱ ライティング上級Ⅰ ライティング上級Ⅱ 英語文化演習ⅠA		1 2			1 2	(卒業要件) 専門教育科目88単位以上（必修条件含） および専門教育科目合計132単位以上

○印必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	英語文化演習ⅠB 英語文化演習ⅠC 英語文化演習ⅡA 英語文化演習ⅡB 英語文化演習ⅡC 英語以外の外国語共通 世界の言語と文化		2 2 2 2 2 2			2	
	ドイツ語 ドイツ語基礎Ⅰ ドイツ語基礎Ⅱ ドイツ語基礎Ⅲ ドイツ語基礎Ⅳ ドイツ語会話Ⅰ ドイツ語会話Ⅱ ドイツ語会話Ⅲ ドイツ語会話Ⅳ ドイツ語文化Ⅰ ドイツ語文化Ⅱ ドイツ語文化Ⅲ ドイツ語文化演習Ⅰ ドイツ語文化演習Ⅱ ドイツ語演習Ⅰ ドイツ語演習Ⅱ ドイツ語演習Ⅲ ドイツ語演習Ⅳ		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	
	フランス語 フランス語基礎Ⅰ フランス語基礎Ⅱ フランス語基礎Ⅲ フランス語基礎Ⅳ フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅱ フランス語会話Ⅲ フランス語会話Ⅳ フランス語文化Ⅰ フランス語文化Ⅱ フランス語文化Ⅲ フランス語文化演習Ⅰ フランス語文化演習Ⅱ フランス語演習Ⅰ フランス語演習Ⅱ フランス語演習Ⅲ		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	
	中国語 中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ 中国語基礎Ⅲ 中国語基礎Ⅳ 中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ 中国語会話Ⅲ 中国語会話Ⅳ 中国語文化Ⅰ 中国語文化Ⅱ 中国語文化Ⅲ 中国語文化演習Ⅰ 中国語文化演習Ⅱ 中国語演習Ⅰ 中国語演習Ⅱ 中国語演習Ⅲ 中国語演習Ⅳ		1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2			1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	
	ロシア語 ロシア語基礎Ⅰ ロシア語基礎Ⅱ ロシア語基礎Ⅲ ロシア語基礎Ⅳ ロシア語会話Ⅰ ロシア語会話Ⅱ ロシア語会話Ⅲ ロシア語会話Ⅳ ロシア語文化Ⅰ ロシア語文化Ⅱ ロシア語文化Ⅲ ロシア語文化演習Ⅰ ロシア語文化演習Ⅱ ロシア語演習Ⅰ ロシア語演習Ⅱ ロシア語演習Ⅲ ロシア語演習Ⅳ		1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2			1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	
	韓国・朝鮮語 韓国・朝鮮語基礎Ⅰ 韓国・朝鮮語基礎Ⅱ 韓国・朝鮮語基礎Ⅲ 韓国・朝鮮語基礎Ⅳ 韓国・朝鮮語会話Ⅰ 韓国・朝鮮語会話Ⅱ		1 1 1 1 1 1 1			1 1 1 1 1 1 1	

2014~
2015年度
入学生用

○印 必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	体育実技ⅢA	1				1	
	体育実技ⅢB	1				1	
	体育実技ⅣA	1				1	
	体育実技ⅣB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	(教養科目)						
	人文科学						
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	社会学	2				2	
	日本国憲法	2				2	
	経済社会学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	

○印 必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	宇宙科学Ⅱ		2			2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大 学 史	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	(キャリア形成科目)						
	キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	(体験型科目)						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	(留学生科目(外国人留学生・海外帰国生徒科目))						
	代替科目						4単位までを基礎科目の言語の科目に、16単位までを教養科目に代替できる
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	すべての科目でⅡの履修はⅠの履修又は単位修得を前提とする
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本事情Ⅰ		2			2	日本語演習Ⅳの履修はⅢの履修又は単位修得を前提とする
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本事情Ⅱ		2			2	
	計	195	68	40	20	323	

ロ 専門教育科目

○印 必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
○	人文学概論	2				2	
○	人文学演習A		2			2	
○	人文学演習B		2			2	
○	人文学演習C		2			2	
○	英米文化専門演習Ⅰ			2		2	
○	英米文化専門演習Ⅱ			2		2	
○	卒業研究				4	4	
	導入科目						
○	人文学基礎演習	2				2	
○	日本語文章表現演習	2				2	
	英語科目						
○	Communication Skills I	2				2	
○	Communication Skills II	2				2	
○	Communication Skills III		2			2	
○	Communication Skills IV		2			2	
○	Global English I					1	
○	Global English II	1				1	
○	Global English III		1			1	
○	Global English IV		1			1	
○	Reading I	1				1	
○	Reading II	1				1	
	Reading III		1			1	
	Reading IV		1			1	
○	Writing I	1				1	
○	Writing II	1				1	
	Writing III		1			1	
	Writing IV		1			1	
	Cultural Perspectives in English I		2			2	
	Cultural Perspectives in English II		2			2	
	Cultural Perspectives in English III		2			2	
	Cultural Perspectives in English IV		2			2	
	Cultural Perspectives in English V			2		2	
	Cultural Perspectives in English VI			2		2	
	Intensive Communication Skills I			2		2	
	Intensive Communication Skills II			2		2	
	Special Skills I		2			2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語会話Ⅲ		1			1	
	中国語会話Ⅳ		1			1	
	中国語文化Ⅰ		2			2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語会話Ⅲ		1			1	
	ロシア語会話Ⅳ		1			1	
	ロシア語文化Ⅰ		2			2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	〈教養科目〉						
	人文学						
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法	2				2	
	日本国憲	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大 学 史	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	〈キャリア形成科目〉						
	キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	〈体験型科目〉						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	計	177	32	40		249	

ロ 専門教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
○	人文学概論	2				2	
○	人文学演習A		2			2	
○	人文学演習B		2			2	
	人文学演習C		2			2	
○	日本文化専門演習Ⅰ			2		2	
○	日本文化専門演習Ⅱ			2		2	
○	卒業研究				4	4	
	導入科目						
○	人文学基礎演習	2				2	
○	日本語文章表現演習	2				2	
	英語科目						
	Communication SkillsⅠ	2				2	
	Communication SkillsⅡ	2				2	
	Communication SkillsⅢ		2			2	
	Communication SkillsⅣ		2			2	
	Global EnglishⅠ	1				1	
	Global EnglishⅡ	1				1	

2014～
2015年度
入学生用

2014~
2015年度
入学生用

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	Global English III		1			1	
	Global English IV		1			1	
	Reading I	1				1	
	Reading II	1				1	
	Reading III		1			1	
	Reading IV		1			1	
	Writing I	1				1	
	Writing II	1				1	
	Writing III		1			1	
	Writing IV		1			1	
	Cultural Perspectives in English I		2			2	
	Cultural Perspectives in English II		2			2	
	Cultural Perspectives in English III		2			2	
	Cultural Perspectives in English IV		2			2	
	Cultural Perspectives in English V			2		2	
	Cultural Perspectives in English VI			2		2	
	Intensive Communication Skills I			2		2	
	Intensive Communication Skills II			2		2	
	Special Skills I		2			2	
	Special Skills II		2			2	
	Special Lectures in English I			2		2	
	Special Lectures in English II			2		2	
	基礎・展開科目						
	〈言語文化〉						
	言語						
	日本語学概論 I	2				2	
	日本語学概論 II	2				2	
	日本語学特論 I			2		2	
	日本語学特論 II			2		2	
	日本語発声実習	2				2	
	日本語教授法 I		2			2	
	日本語教授法 II		2			2	
	日本語教授法 III			2		2	
	日本語教授法 IV			2		2	
	日本語教育学特論			2		2	
	日本語教育演習			2		2	
	対照言語学	2				2	
	書道演習	2				2	
	英文学法	2				2	
	英語音声学	2				2	
	英語学概論 I	2				2	
	英語学概論 II	2				2	
	文学						
	日本文学史 I	2				2	
	日本文学史 II	2				2	
	日本古典文学講読 I	2				2	
	日本古典文学講読 II	2				2	
	日本近現代文学 I	2				2	
	日本近現代文学 II	2				2	
	日本文学特論 I			2		2	
	日本文学特論 II			2		2	
	漢文学			2		2	
	中国文学 I			2		2	
	中国文学 II			2		2	
	比較文学 I			2		2	
	比較文学 II			2		2	
	英米文学史 I	2				2	
	英米文学史 II	2				2	
	〈思想文化〉						
	日本文化概論 I	2				2	
	日本文化概論 II	2				2	
	日本文化特論 I			2		2	
	日本文化特論 II			2		2	
	日本芸術史		2			2	
	映像画論		2			2	
	日本映画論		2			2	
	ヨーロッパ文化概論		2			2	
	キリスト教文化論		2			2	
	〈歴史文化〉						
	日本史概論 I	2				2	
	日本史概論 II	2				2	
	日本史特論 I			2		2	
	日本史特論 II			2		2	
	古文書講読	2				2	
	ヨーロッパ史概論 I	2				2	
	ヨーロッパ史概論 II	2				2	
	アメリカ史概論	2				2	
	〈環境文化〉						
	人文地理学 I	2				2	
	人文地理学 II	2				2	
	地理情報システム論		2			2	
	アイヌ文化論 I		2			2	
	アイヌ文化論 II		2			2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考	
		1	2	3	4	計		
	文化人類学 I		2			2		
	文化人類学 II		2			2		
	メデシア史		2			2		
	生態人類学			2		2		
	北方考古学			2		2		
	アジア地域論 I			2		2		
	アジア地域論 II			2		2		
	英米文化科目							
	〈言語文化〉							
	言語							
	英語文献講読 I		2			2	8単位まで卒業に必要な単位に算入できる	
	英語文献講読 II		2			2		
	英語学特論 I		2			2		
	英語学特論 II		2			2		
	文学							
	英米文学講読 I		2			2		
	英米文学講読 II		2			2		
	英米文学特論		2			2		
	ヨーロッパ文学特論		2			2		
	〈思想文化〉							
	ヨーロッパ文化特論 I			2		2	}	
	ヨーロッパ文化特論 II			2		2		
	アメリカ文化特論			2		2		
	〈歴史文化〉							
	ヨーロッパ史特論 I		2			2	}	
	ヨーロッパ史特論 II		2			2		
	アメリカ史特論		2			2		
	〈環境文化〉							
	現代人類学			2		2	}	
	現代メデシア論			2		2		
	特別講義科目							
	人文学特別講義	2				2		
	課外学修科目							
	〈特別演習〉							
	英米文化特別演習 I	2				2	}	
	英米文化特別演習 II	2				2		
	英米文化特別演習 III	2				2		
	文化遺産特別演習	2				2		
	日本文化特別演習		2			2		
	国際文化特別演習		1~20			1~20		
	日本語教育特別演習		2			2		
	〈特別実習〉							
	伝統文化特別実習		1			1		
	〈キャリア形成〉							
	インターンシップ		1			1		
	ボランティアシップ		2			2		
	関連科目							
	日本史		2			2	} 自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない	
	東洋史		2			2		
	西洋史		2			2		
	計		94	113	95	4	245	
							264	
							88単位以上必修	

(2) 英米文化学科
イ 一般教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考	
		1	2	3	4	計		
	〈基盤科目〉							
	言語							
	英語							
	英語講読 I	1				1	(卒業要件) 専門教育科目 88単 位以上 (必修条件含)を含み 一般教育科目および 専門教育科目 合計124単位以上	
	英語講読 II	1				1		
	オーラルコミュニケーション I	1				1		
	オーラルコミュニケーション II	1				1		
	英語特講 I	1				1		
	英語特講 II	1				1		
	英語特講 III					1		
	英語特講 IV		1			1		
	英語文化演習 I A		2			2		
	英語文化演習 I B		2			2		
	英語文化演習 II A		2			2		
	英語文化演習 II B		2			2		
	英語以外の外国語共通							
	世界の言語と文化	2				2		
	ドイツ語							
	ドイツ語基礎 I	1				1		}
	ドイツ語基礎 II	1				1		
	ドイツ語基礎 III		1			1		
	ドイツ語基礎 IV		1			1		
	ドイツ語会話 I	1				1		
	ドイツ語会話 II	1				1		

2014~
2015年度
入学生用

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	ドイツ語会話Ⅲ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅳ		1			1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語会話Ⅲ		1			1	
	フランス語会話Ⅳ		1			1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語演習Ⅱ			2		2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語会話Ⅲ		1			1	
	中国語会話Ⅳ		1			1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語演習Ⅰ			2		2	
	中国語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語会話Ⅲ		1			1	
	ロシア語会話Ⅳ		1			1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅱ			2		2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	〈教養科目〉						
	人文科学						
	自己						
	哲学Ⅰ	2				2	
	倫理Ⅰ	2				2	
	倫理Ⅱ	2				2	
	論理Ⅰ	2				2	
	論理Ⅱ	2				2	
	社会思想Ⅰ	2				2	
	社会思想Ⅱ	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法	2				2	
	日本国憲	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスマスミ	2				2	
	生涯学習	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	〈キャリア形成科目〉						
	キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	〈体験型科目〉						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	単位数計	177	32	40		249	

ロ 専門教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
	人文学概論	2				2	

2016～2017年度入学生用

2016～
2017年度
入学生用

(学則別表 7・8)

対象学生番号(例)

2716101・2717101

2816101・2817101

2916101・2917101

3016101・3017101

学生番号の下線部が 16・17 の学生

別表7 人文学部1部
(1) 日本文化学科
イ 一般教育科目

Table with columns for '授業科目' (Course Subjects), '年次及び単位数' (Year and Credit Hours), and '備考' (Remarks). It lists various language courses (English, German, French, Chinese, Russian) and general education subjects across different years and semesters.

2016~
2017年度
入学生用

Table with columns for '授業科目' (Course Subjects), '年次及び単位数' (Year and Credit Hours), and '備考' (Remarks). It lists language courses (Russian, Korean) and general education subjects (Health, Physical Education, Information, Humanities, Social Sciences, Law) across different years and semesters.

2018～2019年度入学生用

(学則別表 7・8)

対象学生番号(例)

2718101・2719101

2818101・2819101

2918101・2919101

3018101・3019101

学生番号の下線部が 18・19 の学生

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大 学	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	〈キャリア形成科目〉						
	キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	〈体験型科目〉						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	〈留学生科目（外国人留学生・海外帰国生徒科目）〉						
	代替科目						4単位までを基礎科目の言語の科目に、16単位までを教養科目に代替できる
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本語事情Ⅰ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本語事情Ⅱ		2			2	
	計	195	68	40	20	323	

ロ 専門教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
○	人文学概論	2				2	
○	人文学演習A		2			2	
○	人文学演習B		2			2	
○	日本文化専門演習Ⅰ			2		2	
○	日本文化専門演習Ⅱ			2		2	
○	卒業研究				4	4	
	導入科目						
○	人文学基礎演習	2				2	
○	日本語文章表現演習	2				2	
	英語科目						
	Communication SkillsⅠ	2				2	
	Communication SkillsⅡ	2				2	
	Communication SkillsⅢ		2			2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	Communication SkillsⅣ		2			2	
	Global EnglishⅠ	1				1	
	Global EnglishⅡ	1				1	
	Global EnglishⅢ		1			1	
	Global EnglishⅣ		1			1	
	ReadingⅠ	1				1	
	ReadingⅡ	1				1	
	ReadingⅢ			1		1	
	ReadingⅣ			1		1	
	WritingⅠ	1				1	
	WritingⅡ	1				1	
	WritingⅢ			1		1	
	WritingⅣ			1		1	
	Cultural Perspectives in EnglishⅠ			2		2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅡ			2		2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅢ			2		2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅣ			2		2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅤ				2	2	
	Cultural Perspectives in EnglishⅥ				2	2	
	Intensive Communication SkillsⅠ				2	2	
	Intensive Communication SkillsⅡ				2	2	
	Special SkillsⅠ				2	2	
	Special SkillsⅡ				2	2	
	Special Lectures in EnglishⅠ				2	2	
	Special Lectures in EnglishⅡ				2	2	
	基礎・展開科目 〈言語文化〉						
	言語						
	日本語学概論Ⅰ	2				2	
	日本語学概論Ⅱ	2				2	
	日本語学特論Ⅰ			2		2	
	日本語学特論Ⅱ			2		2	
	日本語発声実習	2				2	
	日本語教授法Ⅰ		2			2	
	日本語教授法Ⅱ		2			2	
	日本語教授法Ⅲ			2		2	
	日本語教授法Ⅳ			2		2	
	日本語教育学特論			2		2	
	日本語教育演習			2		2	
	対照言語学			2		2	
	書道演習			2		2	
	書道演習			2		2	
	英文法学	2				2	
	英語音声学	2				2	
	英語学概論Ⅰ		2			2	
	英語学概論Ⅱ		2			2	
	文学						
	日本文学史Ⅰ	2				2	
	日本文学史Ⅱ	2				2	
	日本古典文学講読Ⅰ		2			2	
	日本古典文学講読Ⅱ		2			2	
	日本近現代文学Ⅰ		2			2	
	日本近現代文学Ⅱ		2			2	
	日本文学特論Ⅰ			2		2	
	日本文学特論Ⅱ			2		2	
	漢文学			2		2	
	中国文学Ⅰ			2		2	
	中国文学Ⅱ			2		2	
	比較文学Ⅰ			2		2	
	比較文学Ⅱ			2		2	
	英米文学史Ⅰ		2			2	
	英米文学史Ⅱ		2			2	
	〈思想文化〉						
	日本文化概論Ⅰ	2				2	
	日本文化概論Ⅱ	2				2	
	日本文化特論Ⅰ			2		2	
	日本文化特論Ⅱ			2		2	
	日本芸術史		2			2	
	映像論		2			2	
	日本映画論		2			2	
	ヨーロッパ文化概論		2			2	
	キリスト教文化論		2			2	
	〈歴史文化〉						
	日本史概論Ⅰ	2				2	
	日本史概論Ⅱ	2				2	
	日本史特論Ⅰ			2		2	
	日本史特論Ⅱ			2		2	
	古文書講読			2		2	
	ヨーロッパ史概論Ⅰ		2			2	
	ヨーロッパ史概論Ⅱ		2			2	
	アメリカ史概論		2			2	
	〈環境文化〉						
	人文地理学Ⅰ	2				2	
	人文地理学Ⅱ	2				2	

2018～
2019年度
入学生用

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	Special Skills II Special Lectures in English I Special Lectures in English II		2			2	
	基礎・展開科目 <言語文化> 言語 英 文 法 学 2 2 英 語 音 声 学 2 2 英 語 学 概 論 I 2 2 英 語 学 概 論 II 2 2 英 語 文 献 講 読 II 2 2 英 語 文 献 講 読 I 2 2 英 語 学 特 論 I 2 2 英 語 学 特 論 II 2 2 日 本 語 学 概 論 I 2 2 日 本 語 学 概 論 II 2 2 日 本 語 発 声 実 習 2 2 日 本 語 教 授 法 I 2 2 日 本 語 教 授 法 II 2 2 対 照 言 語 学 2 2 書 道 演 習 2 2 文 学 英 米 文 学 史 I 2 2 英 米 文 学 史 II 2 2 英 米 文 学 講 読 I 2 2 英 米 文 学 講 読 II 2 2 英 米 文 学 特 論 2 2 ヨ ー ロ ッ パ 文 学 特 論 2 2 日 本 文 学 史 I 2 2 日 本 文 学 史 II 2 2 日 本 近 現 代 文 学 I 2 2 日 本 近 現 代 文 学 II 2 2						
	<思想文化> ヨ ー ロ ッ パ 文 化 概 論 2 2 キ リ ス ト 教 文 化 論 2 2 ヨ ー ロ ッ パ 文 化 特 論 I 2 2 ヨ ー ロ ッ パ 文 化 特 論 II 2 2 ア メ リ カ 文 化 特 論 2 2 日 本 文 化 概 論 I 2 2 日 本 文 化 概 論 II 2 2 日 本 芸 術 史 2 2 映 像 論 2 2						
	<歴史文化> ヨ ー ロ ッ パ 史 概 論 I 2 2 ヨ ー ロ ッ パ 史 概 論 II 2 2 ヨ ー ロ ッ パ 史 特 論 I 2 2 ヨ ー ロ ッ パ 史 特 論 II 2 2 ア メ リ カ 史 概 論 2 2 ア メ リ カ 史 特 論 2 2 日 本 史 概 論 I 2 2 日 本 史 概 論 II 2 2						
	<環境文化> 人 文 地 理 学 II 2 2 人 文 地 理 学 2 2 地 理 情 報 シ ス テ ム 2 2 メ デ イ ア 史 2 2 ア イ ス 文 化 論 I 2 2 ア イ ス 文 化 論 II 2 2 文 化 人 類 学 I 2 2 文 化 人 類 学 II 2 2 現 代 人 類 学 2 2 現 代 メ デ イ ア 論 I 2 2 ア ジ ア 地 域 論 II 2 2						
	日本文化科目 <言語文化> 言 語 日 本 語 学 特 論 I 2 2 日 本 語 学 特 論 II 2 2 日 本 語 教 授 法 III 2 2 日 本 語 教 授 法 IV 2 2 日 本 語 教 育 学 特 論 2 2 日 本 語 教 育 演 習 2 2 文 学 日 本 古 典 文 学 講 読 I 2 2 日 本 古 典 文 学 講 読 II 2 2 日 本 文 学 特 論 I 2 2 日 本 文 学 特 論 II 2 2 漢 文 学 I 2 2 中 国 文 学 I 2 2 中 国 文 学 II 2 2 比 較 文 学 I 2 2						8単位まで卒業に必要な単位に算入できる

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	比 較 文 学 II			2		2	
	<思想文化> 日 本 文 化 特 論 I 2 2 日 本 文 化 特 論 II 2 2 日 本 映 画 論 2 2						
	<歴史文化> 日 本 史 特 論 I 2 2 日 本 史 特 論 II 2 2 古 文 書 講 読 2 2						
	<環境文化> 生 態 人 類 学 2 2 北 方 考 古 学 2 2						
	特別講義科目 人 文 学 特 別 講 義 2						
	課外学修科目 <特別演習> 英 米 文 化 特 別 演 習 I 2 2 英 米 文 化 特 別 演 習 II 2 2 英 米 文 化 特 別 演 習 III 2 2 文 化 遺 産 特 別 演 習 2 2 日 本 文 化 特 別 演 習 2 2 国 際 文 化 特 別 演 習 1~20 1~20 日 本 語 教 育 特 別 演 習 2 2 <特別実習> 伝 統 文 化 特 別 実 習 1 1 <キャリア形成> イ ン タ ー ニ ン シ ッ プ 1 1 ボ ラ ン テ ィ ア シ ッ プ 2 2						
	関連科目 日 本 史 2 2 東 洋 史 2 2 西 洋 史 2 2						自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	計	52	94 113	93	4	243 262	専門教育科目 88単位以上必修

別表8 人文学部2部

(1) 日本文化学
イ 一般教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	<基盤科目> 言 語 英 語 英 語 リ ー デ ィ ン グ I 1 1 英 語 リ ー デ ィ ン グ II 1 1 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 1 1 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II 1 1 英 語 特 講 I 1 1 英 語 特 講 II 1 1 英 語 特 講 III 1 1 英 語 特 講 IV 1 1 英 語 文 化 演 習 I A 2 2 英 語 文 化 演 習 I B 2 2 英 語 文 化 演 習 II A 2 2 英 語 文 化 演 習 II B 2 2 英語以外の外国語共通 世 界 の 言 語 と 文 化 2 2 ド イ ツ 語 ド イ ツ 語 基 礎 I 1 1 ド イ ツ 語 基 礎 II 1 1 ド イ ツ 語 基 礎 III 1 1 ド イ ツ 語 基 礎 IV 1 1 ド イ ツ 語 会 話 I 1 1 ド イ ツ 語 会 話 II 1 1 ド イ ツ 語 会 話 III 1 1 ド イ ツ 語 会 話 IV 1 1 ド イ ツ 語 文 化 I 2 2 ド イ ツ 語 文 化 演 習 I 2 2 ド イ ツ 語 文 化 演 習 II 2 2 ド イ ツ 語 言 語 演 習 I 2 2 ド イ ツ 語 言 語 演 習 II 2 2 フ ラ ン ス 語 フ ラ ン ス 語 基 礎 I 1 1 フ ラ ン ス 語 基 礎 II 1 1 フ ラ ン ス 語 基 礎 III 1 1 フ ラ ン ス 語 基 礎 IV 1 1 フ ラ ン ス 語 会 話 I 1 1 フ ラ ン ス 語 会 話 II 1 1 フ ラ ン ス 語 会 話 III 1 1 フ ラ ン ス 語 会 話 IV 1 1 フ ラ ン ス 語 文 化 I 2 2						(卒業要件) 一般教育科目の基盤 科目の言語の科目及 び専門教育科目の英 語科目の中から4単 位以上 専門教育科目88単位 以上 (必修条件含)を含み 一般教育科目および 専門教育科目 合計124単位以上

2020年度以降入学生用

(学則別表 7・8)

対象学生番号(例)

2720101・2721101

2820101・2821101

2920101・2921101

3020101・3021101

学生番号の下線部が 20・21 の学生

Table with columns for subject (授業科目), years and units (年次及び単位数), and notes (備考). Includes categories like 環境文化, 英米文化科目, and 歴史文化.

2020年度以降入学生用

Table with columns for subject (授業科目), years and units (年次及び単位数), and notes (備考). Includes categories like ドイツ語, フランス語, 中国語, and ロシア語.

(2) 英米文化学科 一般教育科目

Table with columns for subject (授業科目), years and units (年次及び単位数), and notes (備考). Includes categories like 基盤科目 and 英語.

○印必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	ドイツ語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語会話Ⅲ		1			1	
	フランス語会話Ⅳ		1			1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語演習Ⅱ			2		2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語会話Ⅲ		1			1	
	中国語会話Ⅳ		1			1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語演習Ⅰ			2		2	
	中国語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語会話Ⅲ		1			1	
	ロシア語会話Ⅳ		1			1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅱ			2		2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	〈教養科目〉						
	人文科学						
	自己						
	哲学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学	2				2	
	外国文学	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法	2				2	
	日本国憲	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大文学	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	〈共同学位プログラム科目〉						
	共同学位協定校修得科目(一般)			1~4		1~4	
	〈キャリア形成科目〉						
	キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	〈体験型科目〉						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	計	177	32	41~44		250~253	

ロ 専門教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
○	人文概論	2				2	

2020年度以降入学生用

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語特講Ⅲ		1			1	
	英語特講Ⅳ		1			1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅠB		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語文化演習ⅡB		2			2	
	英語以外の外国語共通 世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語 ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅲ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅳ		1			1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語 フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語会話Ⅲ		1			1	
	フランス語会話Ⅳ		1			1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語演習Ⅱ			2		2	
	中国語 中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語会話Ⅲ		1			1	
	中国語会話Ⅳ		1			1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語演習Ⅰ			2		2	
	中国語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語 ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語会話Ⅲ		1			1	
	ロシア語会話Ⅳ		1			1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語 韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅱ			2		2	
	身体 健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	情報 コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	(教養科目) 人文科学						
	自己						
	哲学	2				2	
	倫理学Ⅰ	2				2	
	倫理学Ⅱ	2				2	
	論理学Ⅰ	2				2	
	論理学Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	歴史学Ⅴ	2				2	
	歴史学Ⅵ	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法	2				2	
	日本国憲学	2				2	
	経済学	2				2	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	物質環境科学Ⅱ	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	

2020年度
以降
入学生用

Table with columns: 印必修, 授業科目, 年次及び単位数 (1, 2, 3, 4, 計), 備考. Contains entries like 開発研究所特別講義, 教養科目特別講義, and a unit count summary at the bottom.

□ 専門教育科目

Table with columns: 印必修, 授業科目, 年次及び単位数 (1, 2, 3, 4, 計), 備考. Lists various academic subjects under categories like 基幹科目, 導入科目, 英語科目, and 基礎・展開科目.

2020年度以降入学生用

Table with columns: 印必修, 授業科目, 年次及び単位数 (1, 2, 3, 4, 計), 備考. Lists various academic subjects under categories like (思想文化), (歴史文化), (環境文化), 日本文化科目, (言語文化), (思想文化), (歴史文化), (環境文化), 特別講義科目, and 課外学修科目.

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	〈キャリア形成〉 インターンシップ ボランティアシップ		1 2			1 2	
	共同学位プログラム科目 共同学位協定校修得科目（専門）			1~4		1~4	
	関連科目 日 本 史 東 洋 史 西 洋 史		2 2 2			2 2 2	自由科目により、 卒業に必要な単位 には算入されない
	計	52	94 ~ 113	94 ~ 97	4	244 ~ 266	

放送大学特別聴講学生履修規程

(目的)

第1条 この規程は、北海学園大学学則第24条ならびに人文学部規則第18条に基づき、放送大学授業科目履修に関する事項を定める。

(授業科目)

第2条 人文学部2部日本文化学科および英米文化学科の学生が、放送大学特別聴講学生として履修できる放送大学の授業科目(放送大学単位互換科目)ならびに単位数は別表のとおりとする。

(履修願)

第3条 放送大学特別聴講学生として放送大学の授業科目を履修しようとする学生は、所定の期間に放送大学の定める出願票を人文学部事務室に届け出なければならない。

2 放送大学単位互換科目の履修は、人文学部2部の3年次学生に限り認めることができる。

(単位の認定)

第4条 放送大学特別聴講学生として放送大学から授与された単位は、北海学園大学人文学部におかれる放送大学単位認定委員会で精査し、教授会の議を経て北海学園大学人文学部2部学生の卒業要件となる単位(専門教育科目の選択科目)として認定することができる。

(放送大学単位認定委員会)

第5条 放送大学単位認定委員会は、放送大学単位互換科目の関連担当教員、教務委員および人文学部長から構成され、人文学部長がその委員長となる。

(授業料等)

第6条 放送大学特別聴講学生として放送大学の授業科目を履修しようとする学生は、放送大学学則に定める授業料を納入しなければならない。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

別表 放送大学単位互換科目

① 人文学部2部 日本文化学科

② 人文学部2部 英米文化学科

授業科目	単位数	関連担当教員	授業科目	単位数	関連担当教員
『方丈記』と『徒然草』	2	関本真乃	総合人類学としてのヒト学	2	須田一弘
総合人類学としてのヒト学	2	須田一弘			

北海学園大学人文学部継続履修規程

(目 的)

第1条 この規程は、学則第27条第3項に基づいて休学する本学部学生が、休学前に履修していた通年科目について、復学年度の第2学期に引き続き履修する場合（以下「継続履修」という）に関する事項を定める。

(継続履修願)

第2条 継続履修を希望する学生は、休学を願い出の際に、当該履修科目の継続履修願を授業科目担当者の承諾を得て学部長に提出しなければならない。

(前半期の評価)

第3条 継続履修の願い出のあった授業科目担当者は、その科目の前半期の評価をしなければならない。

(継続履修登録)

第4条 継続履修願を提出した学生は、復学年度の所定の期日までに願い出に基づいた継続履修登録を行うことにより、継続履修することができる。

ただし、復学年度において、次に掲げる場合に該当するときは、この限りでない。

- (1) 継続履修を願い出た授業科目が開講されていない場合
- (2) 継続履修を願い出た授業科目が時間割上重複した場合
- (3) 授業内容が著しく異なる場合

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

科目名： _____

担当者名： _____

テーマ名： _____

学 部： _____

部 別： _____

学 年： _____

学 科： _____

学生番号： _____

氏 名： _____

提出日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

※レポートの提出にあたっては、この表紙をつけてください。(コピー可)

科目名： _____

担当者名： _____

テーマ名： _____

学 部： _____

部 別： _____

学 年： _____

学 科： _____

学生番号： _____

氏 名： _____

提出日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

※レポートの提出にあたっては、この表紙をつけてください。(コピー可)

科目名： _____

担当者名： _____

テーマ名： _____

学 部： _____

部 別： _____

学 年： _____

学 科： _____

学生番号： _____

氏 名： _____

提出日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

※レポートの提出にあたっては、この表紙をつけてください。(コピー可)

履修登録

G-PLUS! 操作方法

①スケジュール

◆履修登録期間

2022年4月13日(水)～4月18日(月)23:59まで

◆履修登録確認

2022年4月20日(水)10:00～

G-PLUS!履修アイコンの「履修確認」で確認してください。

※履修登録期間終了後から履修登録確認開始前までは、「履修確認」メニューは利用できません。

※MY時間割・MYPAGEの履修情報も更新されます。

◆履修変更

2022年4月21日(木)～4月25日(月)23:59まで

※履修変更の確認は、4月27日(水)10:00以降に「履修確認」で確認してください。

◆履修登録確認書配付

配付方法は所属学部によって異なります。

本書の履修登録に関するページや所属学部掲示板等で確認してください。

◆第2学期履修変更

2022年9月30日(金)～10月2日(日)23:59まで

※第2学期履修変更の確認は、10月4日(火)10:00以降に「履修確認」で確認してください。

◆第2学期履修登録確認書配付

配付方法は所属学部によって異なります。

本書の履修登録に関するページや所属学部掲示板等で確認してください。

②学内ネットワーク利用のユーザIDとパスワードの取得

◆履修登録はG-PLUS!を利用します。G-PLUS!を利用するには**ユーザIDとパスワードが必要**です。新入生には学内ネットワーク利用ガイダンス(オンライン)で配付します。

ユーザIDとパスワードを紛失した場合の再発行については、『学内ネットワーク利用の手引き』を参照してください。

③注意事項

- ◆学期開始時にLMSで自己登録(旧:仮エントリー)をしても履修登録の完了とはなりません。必ずG-PLUS!で履修登録をしてください。
- ◆4月の履修登録期間に**必ず第1学期, 第2学期両方の履修登録**を行ってください。
- ◆履修登録期間終了間際は多くのアクセスが予想され, G-PLUS!や履修登録メニューの接続に時間がかかるなど, **動作が不安定になることが懸念**されますので注意してください。
- ◆履修登録期間中, 履修登録に関する情報をG-PLUS!の**お知らせ**で配信することがありますので, 必ず確認してください。配信されたお知らせを見逃さないように, G-PLUS!お知らせ設定のメッセージ転送設定でよく使う**メールアドレス**に転送することをお奨めします。
- ◆4月19日(火)以前, また履修変更期間に変更登録を行った時など, 履修が確定していない場合は, 休講情報や教室変更情報をお知らせとして受信することはできません。G-PLUS!教務お知らせ一覧の「休講情報一覧」等から確認してください。
- ◆履修登録する前に事前申込・許可が必要な科目があります。掲示板等で許可発表を確認した上で, 許可された科目を履修登録してください。

④G-PLUS! 利用環境

- ◆G-PLUS!の利用可能時間は午前6:00から翌午前3:00までとなります。
上記時間以外は, システムデータ連携のため利用できません。
- ◆G-PLUS!利用推奨環境は, 以下のOS・ブラウザです。
OS:Windows OS, Mac OS, iOS, Android
ブラウザ:Chrome, Firefox, Safari, Edge
- ◆G-PLUS!は3時間操作せずに放置すると, タイムアウトとなりセッションが断たれます。履修登録も初めからやり直しになるので注意してください。

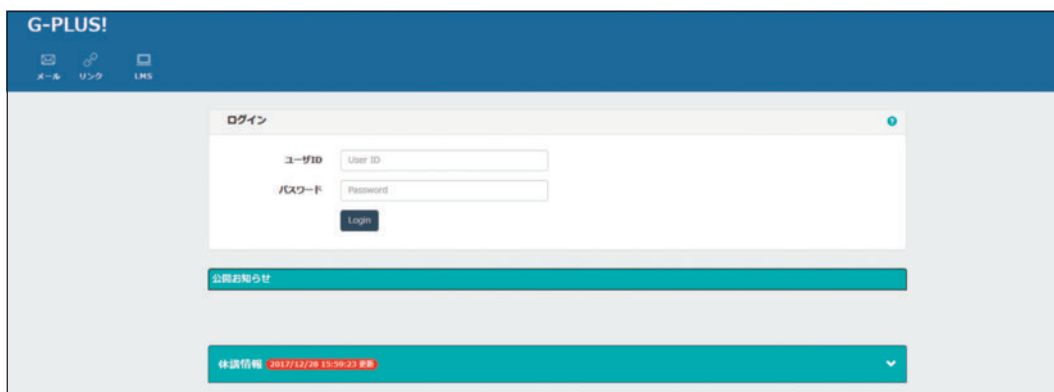
⑤問い合わせ

- ◆履修登録におけるG-PLUS!操作に関する質問は, メールで受け付けます。
学生番号・氏名を明記のうえ, **info-help@hgu.jp**宛に送信してください。
- ◆開講科目・時間割等のカリキュラムに関する質問は, 所属学部事務室へ問い合わせてください。

履修登録操作方法

1) 履修登録画面をひらく

G-PLUS! (<https://gplus.hgu.jp/>)を開き,
「ユーザID」と「パスワード」を入力し、ログインしてください。



ログイン後、アイコンバーの【履修】をクリックし、
【履修登録】を選択してください。



2) 履修登録画面について

履修登録は下の時間割表の画面で行います。

画面上部の履修単位数を確認しながら、第1学期、第2学期の登録をしてください。



動作不良の原因となるため、ブラウザの⏪(戻る)ボタンは使用しないでください。
時間割表の画面はパソコン・スマートフォンで異なります。
スマートフォンの画面は⑨ページを参照してください。

履修登録 時間割更新 2022年

履修単位情報

	第1学期	第2学期	通年	合計
履修単位	10	12	4	26
下限	0	0	0	0
上限	-	-	-	48
履修上限外	0	0	0	0
総合計	10	12	4	26

	1部	2部
履修単位	26	0
下限	0	0
上限	48	-

履修内訳 (科目種別)

一般	専門	履修上限外	総合計
10	16	0	26

第1学期 第2学期 集中講義

講義検索 課程申請 申請

期間中は何度でも申請可能です。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
01021 体育実技 I B 複数の教員	01172 ※歴史学 IIヨーロッパ現代 複数の教員	03233 ドイツ語会話 II 複数の教員	変更不可 09027 ※CS-A 複数の教員		
	変更不可 09027				

①履修単位情報

現在画面上で登録している科目の単位数が表示されます。
(次ページ参照)

②学期、集中講義の切替え

第1学期、第2学期、集中講義の切替えができます。

③各ボタン

講義検索

開講曜日・時限や担当教員名などの条件から講義を検索できる画面に移動します。(⑨ページ参照)

課程申請

今年度から新規に課程を申請する場合に、課程申請の画面に移動します。(⑪ページ参照)

④時間割画面

開講曜日・時限で履修登録する科目の検索や、登録した科目名・担当教員名が表示されます。

空白のマスはその曜日・時限が未登録である状態です。
網掛けのマスは選択できる科目がない状態です。

変更不可

事前に履修登録が決められていて、変更することができないことを表します。

特試

(工学部生のみ)特試科目を表します。

前半

後半

開講期が各学期の前半または後半の科目を表します。

エラー

エラーが発生している曜日・時限を表します。

履修単位数集計欄の見方

		第1学期		第2学期		通年		合計		1部		2部		
①	履修単位	24		28		0		52		52		0		
②	下限	0	-	0	-	-	0	52	②	下限	0	52	0	-
	上限									上限				
③	履修上限外	2		0		0		2		履修内訳(科目種別)				
④	総合計	26		28		0		54		⑤	一般	専門	履修上限外	総合計
										28	24	2	54	

- ①履修単位 履修単位の合計が、各学期・通年・1部・2部ごとに表示されます。ただし、課程科目・自由科目・特試科目など、下限・上限の制限外の科目は含みません。
- ②下限・上限 当該学期・合計・1部・2部によって設定されています。上記の例だと、1部で合計52単位まで履修登録することが可能で、学期や通年の下限部分のように「-」または「0」が入っている欄は制限がないことを意味します。
- ③履修上限外 課程科目・自由科目・特試科目など、下限・上限の制限に含まれない科目の履修単位数が表示されます。
- ④総合計 履修上限外の科目も含んだ合計履修単位数が表示されます。上記の例だと、左表の第1学期履修単位数が24単位、第1学期履修上限外単位数が2単位となっているため、総合計の単位数は26単位となります。
- ⑤履修内訳(科目種別) 履修科目の一般教育科目・専門科目・履修上限外科目ごとの履修単位数が表示されます。ただし、遠隔授業の単位数はG-PLUS!の画面上では表示されませんので、ご注意ください。

スマートフォン版 履修登録画面

スマートフォン版の履修登録画面では時間割表の上部ボタンで[全曜日]と[各曜日]の表示切替ができます。

各マスを選択すると講義選択画面に移動します。

ただし、履修変更不可の曜日・時限や、選択できる講義がないマスは移動しません。

[全曜日]表示

全曜日	月	火	水	木	金	土
時限	月	火	水	木	金	土
1	赤				青	
2	赤		青			黄
3		黄	黄		青	黄
4		黄	黄	黄		
5			青			
6						
7						

全曜日表示では、各マスの色で以下の状態を表しています。

- 色なし 科目が未選択の曜日・時限です。
- 科目が選択されている曜日・時限です。
- エラーが発生している曜日・時限です。
- 事前に履修登録が決められていて、変更することができない曜日・時限です。

[各曜日]表示

全曜日	月	火	水	木	金	土
1	エラー	01092 体育実技IV B 複数の教員				
2	エラー	01093 体育実技IV B 複数の教員				
3						
4						
5						
6						
7						

各曜日表示では、履修コード・科目名・教員名が表示されます。

マークによって以下の状態を表しています。

- エラー エラーが発生している曜日・時限です。
- 変更不可 事前に履修登録が決められていて、変更することができない曜日・時限です。
- 特試 (工学部生のみ) 特試科目を表します。

3) 履修科目を選択する(履修登録[講義選択]画面)

履修登録画面で各曜日・時限の空白枠内をクリックすると、その曜日・時限に開講されていて履修登録することができる科目の一覧が表示されます。

例えば、履修登録[時間割更新]画面で火曜日2時限目の枠をクリックすると下図のような[講義選択]画面になります。

選択	特試	履修コード	講義名	分野系列	シラバス	単位	担当教員	備考
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	01013	体育実技ⅠA	身体	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	01037	体育実技ⅡA	身体	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	03515	中国語文化演習Ⅰ	言語	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	21178	技術英語	技術英語	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	21230	流れ学A・演習	流れ学選必	参照	1.5	複数の教員	特試

① 選択したい科目の (チェックボックス) をクリックし、チェックを入れてください。

② 選択科目に間違いがなければ **講義選択** ボタンをクリックしてください。

① 選択

登録したい科目のチェックボックスをクリックし、チェックを入れます。

※申請をしていない課程科目のチェックボックスはクリックできません。

※一度申請した科目を取り消したい場合は、チェックを外した上で登録する必要があります。

② 特試(工学部2021年度以前入学者が対象)

工学部専門科目のみ関係します。

前回「特試」か「特欠」の評価が付いた科目はチェックボックスをクリックし、チェックすることができます。

同一時間に他の科目と重複しても特試科目の場合は、両方履修することができるようになります。

※「①選択」をチェックすると、特試の登録はされません。

③ 講義名

課程科目の講義名の前には[課程(未)]または[課程]の表示がされます。

[課程(未)] その科目の課程を申請していないことを表します。

[課程] その科目の課程が申請済みであることを表します。

※課程を受講する場合は、事前に課程申請画面で申請する必要があります(⑩ページ参照)。

④ シラバス

参照ボタンをクリックすると、その科目のシラバスページが開きます。シラバスは授業の目的、到達目標、授業計画などが記載されています。履修登録はシラバスをよく読んで行いましょう。



講義選択画面に表示される科目の中には、履修登録する前に事前申込・許可が必要な科目があります。

掲示板等で許可発表を確認した上で、許可された科目を履修登録してください。画面に表示される科目に時間割(冊子)やカリキュラムと不整合がある場合は、所属学部事務室までお知らせください。



履修科目が遠隔授業かどうかは、G-PLUS!画面上では表示されませんので、時間割(冊子)及びシラバスで確認してください。

申請のエラー表示(例)

履修登録 講義選択

注意

【履修エラー】
01025：同じ曜日時限に2科目以上重複して履修登録されています。
09027：同じ曜日時限に2科目以上重複して履修登録されています。

同一の曜日・時限で1科目しか履修できないのに、2科目以上選択するとエラーが表示されます。

第2学期 火曜日 2時限

選択	履修コード	講義名	分野系列	シラバス	単位	担当教員	備考
<input checked="" type="checkbox"/>	01025	体育実技ⅠB	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	01048	体育実技ⅡB	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	01071	体育実技ⅢB	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	01096	体育実技ⅣB	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	03232	ドイツ語会話Ⅱ	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	03296	フランス語基礎Ⅱ	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	03576	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>		実践英語		参照	4	複数の教員	変更不可

①エラーが表示された場合は、選択をしない科目のチェックボックスをクリックしてチェックを外してください。

②チェックを外したら、**講義選択**ボタンをクリックしてください。



【注意】表示について

履修登録時に注意事項がある場合、履修登録画面の上部に注意ウインドウが表示されます。

表示される内容は以下の2種類に分類されます。

履修エラー 履修の上限・下限単位数の条件を満たさない場合や、上記の例のように選択している科目の組み合わせに問題がある場合などに表示されます。
内容を修正しなければ履修申請することができません。

卒業／進級確認 卒業または進級の要件が設定されている学年で、要件を満たしていない場合に不足単位数が表示されます。

4) 履修科目を選択する(履修登録[講義検索]画面)

開講曜日・時限や担当教員名などの条件から講義を検索することもできます。



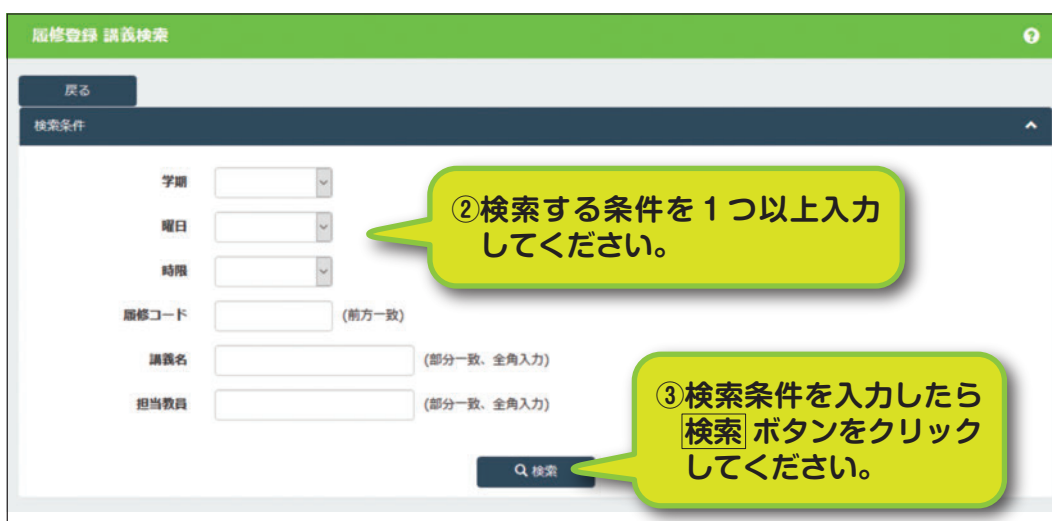
① **講義検索** ボタンをクリックして下さい。

講義検索 課程申請 申請

選択コース: 経済財政政策コース 期間中は何度でも申請可能です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						

履修登録[講義検索]画面に移動します。



履修登録 講義検索

戻る

検索条件

学期

曜日

時限

履修コード (前方一致)

講義名 (部分一致、全角入力)

担当教員 (部分一致、全角入力)

検索

② 検索する条件を1つ以上入力して下さい。

③ 検索条件を入力したら**検索** ボタンをクリックして下さい。



検索時の注意

講義名もしくは担当教員を入力する際は、全角文字を使用して下さい。

講義検索結果が表示されます。

選択	学期	曜日時限	履修コード	講義名	分野系列	シラバス	単位	担当教員	備考
<input type="checkbox"/>	第1学期	月6時限	28820	[課程](未)博物館情報・メディア論	学芸員	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	水5時限	28009	[課程](未)情報資源組織論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	木5時限	28008	[課程](未)図書館情報資源概論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	木6時限	28309	[課程](未)情報資源組織論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	木7時限	28308	[課程](未)図書館情報資源概論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	金5時限	01285	特) 電子・情報の世界	B群 一般教養				
<input type="checkbox"/>	第2学期	水6時限	28341	[課程](未)情報メディアの活用	司書教諭				
<input type="checkbox"/>	第2学期	木5時限	28004	[課程](未)情報サービス論	司書				
<input type="checkbox"/>	第2学期	木7時限	28304	[課程](未)情報サービス論	司書				

仮に講義名に“情報”と入力して、検索した結果の画面です。

[戻る](#) [講義選択](#)

科目の並び順は、学期,曜日時限,履修コード順です。

検索結果の中に履修したい科目があれば、該当する科目の選択チェックボックスをクリックし、チェックを入れてください。

チェックを入れたら、**講義選択** ボタンをクリックしてください。

5) 新規に課程の受講を申請する

今年度から新規で課程の受講を希望する際に必要です。

第1学期 第2学期 集中講義

講義検索 課程申請

① 課程申請 ボタンをクリックしてください。

申請

期間中は何度でも申請可能です。

選択コース：経済財政政策コース

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						
2						
3						

課程申請画面に移動します。

履修登録 課程申請

選択

公民 (高校一種)

日本語教員

② 申請を希望する課程 (免許・資格) のチェックボックスをクリックし、チェックを入れてください。

③ チェックを入れたら、課程申請 ボタンをクリックしてください。

戻る 課程申請

確認メッセージが表示されます。

履修登録 課程申請

選択 課程名 配当学年 状態

社会 (中学校一種)

地理歴史 (高校一種)

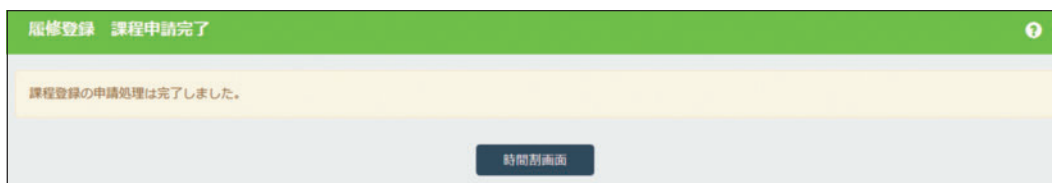
④ 申請する場合はOK ボタンをクリックしてください。

確認

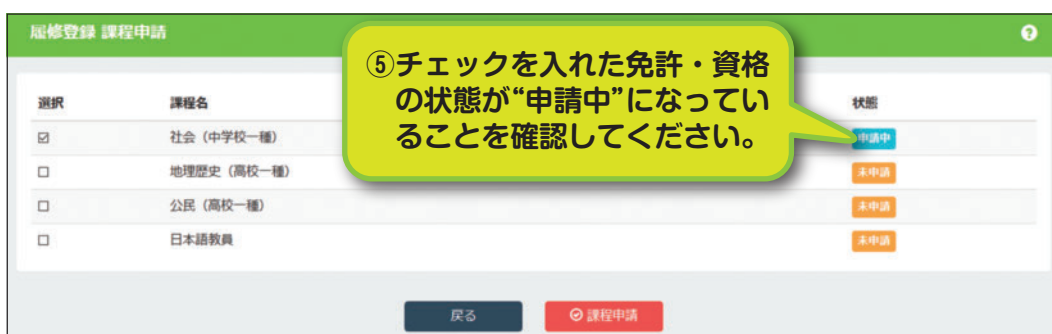
申請して宜しいですか?

OK キャンセル

課程の申請が完了しました。



時間割画面に戻ったあと、課程申請画面を開き、状態が「申請中」になっていることを確認してください。



時間割画面に戻ると、申請した課程の科目のチェックボックスにチェックできるようになります。



課程の申請に関する注意

認定心理士を除く各課程の受講には、受講料が発生します(日本語教員養成課程については人文学部学生は免除)。
新規に課程の申請をする場合は、事前に申請する課程のガイダンスに必ず出席してください。



課程の申請を取り下げる場合(履修登録期間)

課程申請画面で取り下げたい課程申請のチェックを外してください。
課程申請を取り下げたことにより、履修対象外になる科目は、履修申請が自動的に取り下げられます。



課程の申請を取り下げる場合(第1学期履修登録変更期間)

取り下げたい課程科目の履修申請を取り下げてから、所属学部の窓口へ申し出てください。
また、新たに課程の申請をする場合は、⑪ページ「5)新規に課程の受講を申請する」の手順に従って申請してください。



過年度の課程の申請を取り下げることはできません。

6) 履修登録作業の完了(履修登録[時間割更新]画面)

履修する科目の選択(⑦~⑫ページ)が終わったら、
申請 ボタンをクリックします。

履修単位情報

	第1学期	第2学期	通年	合計
履修単位	6	14	4	24
下限	0	0	0	0
上限	-	-	-	48
履修上限外	0	0	0	0
總合計	6	14	4	24

	1部	2部
履修単位	24	0
下限	0	0
上限	48	-

各学期の登録作業が終わったら、**申請** ボタンをクリックしてください。

第1学期 第2学期 集中講義

講義検索 課程申請

申請

期間中は何度でも申請可能です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1		変更不可 09022 ※CS-A 複数の教員	01097 体育実技IVB 複数の教員	03579 韓国・韓語基礎Ⅱ 複数の教員		



この画面で **申請** を押さずに画面を閉じたり、別の画面に移動すると
内容が反映されなくなります。



一時的に中断する場合でも同様に **申請** → **OK** ボタンを押し申請完了画面まで進んでください。

確認メッセージが表示されます。

4 確認

申請して宜しいですか?

OK キャンセル

履修登録を完了させる場合は、**OK** ボタンをクリックしてください。

履修登録作業が完了しました。

履修登録 時刻更新 申請完了

履修登録が完了しました。履修登録内容は、「履修確認」で必ず確認してください。
また、「履修確認」画面は最終申請日時を含めて印刷または画像保存することをお奨めします。

履修確認画面



履修登録期間内であれば申請をした後でも科目の変更は可能です。

⑦～⑭ページの作業を再度行ってください。



体育実技を履修登録する場合

体育実技の教務お知らせ(休講や講義連絡など)は体育種目(サッカーなど)ごとに発信します。

履修登録作業の完了と同時にお知らせを受け取る種目を登録してください。

※お知らせの受信に関わる設定です。**種目の申込登録ではありません**。必ず許可を受けた種目を登録してください。

この設定は履修登録期間後も**お知らせアイコンのお知らせ設定**から修正することができます。

履修登録 時刻更新 申請完了

履修登録が完了しました。休講情報を受け取る体育種目を選択し登録ボタンを押してください。
また、履修登録内容は、「履修確認」で必ず確認してください。登録ボタンを押すと「履修確認」に移動します。
なお、「履修確認」画面は最終申請日時を含めて印刷または画像保存することをお奨めします。

休講情報を受け取る体育種目	1学期	<input type="text"/>	▼
	2学期	<input type="text"/>	▼

登録

7) 履修登録の確認(履修確認画面)

※履修登録作業終了時

履修登録後,必ず以下の操作で履修登録内容の確認をしてください。

控えとして,ブラウザの印刷機能でプリントアウトすることをお奨めいたします。

履修確認をクリックしてください。

履修確認[時間割形式]画面になります。

履修確認 時間割形式 2022年

履修単位情報

		第1学期		第2学期		通年		合計	
履修単位		22		22		4		48	
下限	上限	0	-	0	-	-	0	48	
履修上限外		0		0		0		0	
総合計		22		22		4		48	

		1部		2部	
履修単位		48		0	
下限	上限	0	48	0	-

履修内訳 (科目種別)

一般	専門	履修上限外	総合計
6	42	0	48

第1学期 第2学期 集中講義

一覧形式

最終申請日時: 2022年04月13日(水) 14時22分

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1		変更不可 09001 ※ R & WS - A 複数の教員				

変更不可

一覧形式 をクリックすると履修確認[一覧形式]画面になります。

第1学期		第2学期		集中講義		
時間割形式 最終申請日時：2022年04月13日(水) 15時24分						
期間	履修コード	講義名	分野系列	単位	担当教員	備考
火1時限	09022	※C S - A	総合実践英語	4	複数の教員	変更不可
火3時限	03026	英語リーディングⅡ	一般教育	1	複数の教員	
水1時限	01097	体育実技ⅣB	一般教育	1	複数の教員	
水3時限	09088	心理学概論Ⅱ	導入	2	複数の教員	
水5時限	09181	※アカデミック・リテⅡ	キャリア	2	複数の教員	変更不可
木1時限	03579	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	一般教育	1	複数の教員	
木3時限	03475	中国語基礎Ⅱ	一般教育	1	複数の教員	
金3時限	09082	情報リテラシー	導入	4	複数の教員	変更不可, 通年
金5時限	01180	法学	一般教育	2	複数の教員	

時間割形式 をクリックすると履修確認[時間割形式]画面になります。

第1学期 時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						
2						
3						
4						
5						
1						
2						
集中講義等						

第2学期 時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						
2						
3						
4						
5						
1						
2						
						集中講義等

Memo

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.



北海学園大学

■ 豊平校舎 (経済・経営・法・人文学部)

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 代表(011)841-1161

■ 山鼻校舎 (工学部)

〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号 代表(011)841-1161

学生便覧

2022年度



北海学園大学人文学部

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

建学の精神

北海学園大学は、「開拓者精神」(Pioneer Spirit)を建学の精神としています。初代学長の上原^{てつさぶろう}徹三郎(1883-1972)は、第一回入学式の式辞のなかで、「開拓精神」あるいは「開拓者精神」をもって本学学生のモットーとすべきことを説きました。^{じらい}爾来、学生たちや教職員の間で、「開拓者精神」が本学の建学の精神と見なされています。

この精神は、明示的には「北海学園の父」と称される浅羽^{しずか}靖(1854-1914)に由来するものですが、それはさらに大津^{わた}和多理(1857-1917)にまで遡ることができます。札幌農学校第三期生の大津が1885(明治18)年に設立した北海英語学校は、学校法人北海学園のそもそもの揺籃ですが、この学校は北海道開拓に資する人材育成のために創設された、札幌農学校に入学するための予備校でした。したがって、「開拓精神」ないし「開拓者精神」は、大津をして北海英語学校の設立へと駆り立てた、当の精神でもあったのです。

大津の志を継いだ浅羽靖のもとで、やがて北海中学(北海高等学校の前身)と札幌商業学校(北海学園札幌高等学校の前身)が設立され、風雪に耐えたその基盤と教育実績の上に、1950(昭和25)年に北海短期大学が、さらにその2年後に短大を改組転換して、現在の北海学園大学が創設されました。本学は4年制大学としては、今年で70年目となりますが、その背後には137年に及ぶ長い苦節の歴史があるのです。

「徒^{いたづら}に官に依拠せず自らの努力をもて立つ」という自主独立の開拓者精神は、近時は「二つのじりつ」——自立と自律——と言い換えられることもあります。かくして、今では「開拓者精神」と「自立と自律」が、本学のスクール・モットーとなっています。

北海学園大学の歩み

- 1950（昭和25）年 北海短期大学を創設し、経済科1部、2部を開設
- 1952（昭和27）年 北海学園大学（4年制）を創設し、経済学部1部経済学科を開設
- 1953（昭和28）年 北海学園大学経済学部2部経済学科を開設
- 1957（昭和32）年 北海学園大学開発研究所を開設
- 1962（昭和37）年 北海短期大学土木科1部、2部（南26条西11丁目）を開設
- 1964（昭和39）年 北海学園大学法学部1部法律学科、2部法律学科を開設
- 1965（昭和40）年 北海短期大学を北海学園大学短期大学部と改称
- 1966（昭和41）年 北海学園大学経済学部1部経営学科、2部経営学科を開設
- 1968（昭和43）年 北海学園大学工学部土木工学科、建築学科を開設
- 1970（昭和45）年 北海学園大学大学院経済学研究科経済政策専攻修士課程を開設
- 1986（昭和61）年 北海学園大学大学院法学研究科法律学専攻修士課程を開設
- 1987（昭和62）年 北海学園大学工学部電子情報工学科を開設
- 1991（平成3）年 北海学園大学大学院工学研究科建設工学専攻・電子情報工学専攻修士課程を開設
- 1992（平成4）年 北海学園大学大学院法学研究科法律学専攻博士（後期）課程を開設
- 1993（平成5）年 北海学園大学人文学部1部日本文化学科、2部日本文化学科、1部英米文化学科、2部英米文化学科を開設
- 1995（平成7）年 北海学園大学大学院経済学研究科経済政策専攻博士（後期）課程、大学院工学研究科建設工学専攻・電子情報工学専攻博士（後期）課程を開設
- 1999（平成11）年 北海学園大学法学部1部政治学科、2部政治学科を開設
北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻修士課程を開設
- 2000（平成12）年 北海学園大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程を開設
- 2001（平成13）年 北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻博士（後期）課程を開設
- 2002（平成14）年 北海学園大学大学院経営学研究科経営学専攻博士（後期）課程を開設
- 2003（平成15）年 北海学園大学経済学部1部地域経済学科、2部地域経済学科を開設
北海学園大学経営学部1部経営学科、1部経営情報学科を開設
北海学園大学経営学部2部経営学科を開設
北海学園大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程を開設
北海学園大学大学院文学研究科英米文化専攻修士課程を開設
- 2005（平成17）年 北海学園大学大学院法学研究科政治学専攻博士（後期）課程を開設
北海学園大学大学院文学研究科英米文化専攻博士（後期）課程を開設
北海学園大学大学院法務研究科（法科大学院）法務専攻専門職学位課程を開設
北海学園大学工学部土木工学科を社会環境工学科と改称
- 2012（平成24）年 北海学園大学工学部生命工学科を開設
- 2016（平成28）年 北海学園大学大学院工学研究科電子情報生命工学専攻修士課程を開設
- 2018（平成30）年 北海学園大学大学院工学研究科電子情報生命工学専攻博士（後期）課程を開設

「個人情報の取り扱い」について

本学では、教育・研究、学生支援、社会貢献などに必要な業務をおこなうにあたり、大学に関わりのある個人（学生およびその学費支給者・保証人・受験生・卒業生・教職員など）の情報を活用しています。これらの個人情報については関連する法令を遵守し、以下のとおり、利用目的を明確にし、個人情報の適正な利用と適切な保護に努め、必要な安全管理措置を講じています。学生各位の理解と協力をお願いします。

1. 個人情報の利用目的

学生の個人情報は、以下の教育研究および学生支援に必要な業務を遂行するために利用し、利用目的を変更した場合は、本人に通知又は掲示板等に公表します。

(1)学生の個人情報

- 1) 入学に関する業務：入学志願，入学選抜実施，合否判定，入学手続きに関する業務など
- 2) 学籍に関する業務：個人基本情報の管理，学籍異動，学費，クラス編成，学生証交付，証明書作成に関する業務など
- 3) 教育に関する業務：履修登録，授業・試験実施，成績処理，進級・卒業判定，学位記授与，海外留学に関する業務など
- 4) 研究に関する業務：研究活動支援に関する業務など
- 5) 学修支援に関する業務：教務指導，履修相談，図書館・コンピュータ実習室など学内施設利用に関する業務など
- 6) 学生生活支援に関する業務：奨学金，学生相談，健康維持促進，課外活動に関する業務など
- 7) 就職活動およびその支援に関する業務：キャリア形成，就職相談，求職登録，就職斡旋に関する業務など
- 8) 学生・学費支給者・保証人などへの連絡業務：学修支援のための連絡，成績通知，進級・卒業判定通知，学生生活支援のための連絡業務など

(2)学費支給者および保証人の個人情報

学費支給者・保証人への連絡業務：成績通知，進級・卒業判定通知発送，学費納付に関する連絡，各種送付物の発送，学修支援のための連絡，学生生活支援のための連絡業務など

2. 個人情報の第三者提供について

個人情報は、原則として、あらかじめ本人の同意を得ることなく第三者に提供することはありませんが、法令に基づく場合、人の生命・身体・財産その他の権利・利益を保護するために必要であると判断できる場合、および緊急の必要がある場合などは、例外的に個人情報を開示することがあります。

3. 学費支給者への成績開示などについて

学費支給者に対しては、学期ごとの学修成果を「成績通知書」として送付し、教務指導や学修・生活相談における教職員からの指導や助言が必要な場合には、履修登録情報や成績情報などを開示します。

4. 本学内における学生への連絡方法について

教育指導上あるいは学生生活支援上、本学内において学生本人への連絡・通知などが必要になった場合には、原則として、関係掲示板に「学生番号」を掲示します。

5. 相談窓口

個人情報について開示・訂正・削除・利用停止などを請求することができます。不明な点や手続きなどについては、学部事務窓口にご相談してください。

目 次

1. 本冊子の利用について	2
2. 学生番号の見方	3
3. 各種窓口手続等	3
(1) 事務取扱い（学部事務室）	3
(2) 学生証	4
(3) 通学定期乗車券の購入	5
(4) 各種証明書	5
(5) 各種届出	5
(6) 各種願出	6
(7) 学籍異動関係①—休学，退学，除籍—	7
(8) 学籍異動関係②—復学，再入学，復籍—	7
(9) その他の学籍異動関係—転学部，転部，転学科—	8
(10) 懲戒による学籍異動—退学—	8
4. 学生連絡	9
5. 教務ガイダンス（学修上の指導）	9
6. 学生相談	10
7. 授業	10
8. 試験	11
9. 免許・資格取得・その他	12
10. 図書館・開発研究所・判例演習室	12
(1) 図書館案内	12
(2) 開発研究所案内	14
(3) 判例演習室案内	16
11. 教育用コンピュータ実習室案内（豊平校舎）	17
12. 学則及び関連規則，規程関係	18
(1) 北海学園大学学則	18
(2) 北海学園大学学則別表（授業科目一覧—人文学部1部，人文学部2部）	34
(3) 北海学園大学人文学部規則	44
(4) 北海学園大学人文学部転学部規程	46
(5) 北海学園大学人文学部転部規程	47
(6) 北海学園大学人文学部転学科規程	47
(7) 北海学園大学人文学部継続履修規程	48
(8) 北海学園大学奨学規程	48
(9) 北海学園大学表彰規程	49
(10) 北海学園大学海外留学規程	49
(11) 北海学園大学研究生規程	50
(12) 北海学園大学科目等履修生規程	51
(13) 北海学園大学授業料等に関する規程	52
(14) 北海学園大学学位規則	55
13. 校舎見取り図	60

1. 本冊子の利用について

新入生のみなさんへ

この「学生便覧」は、みなさんが大学生活を送る上で、指針となることがらをまとめて編集したものです。快適な大学生活を送っていただくために、入学から卒業まで必要となる情報を幅広く提供していますので、できるだけ早い時期に一読されることをおすすめします。みなさんにとって特に重要な講義の履修方法については、各年度始めにガイダンスを行い、詳しく説明しますが、本冊子の内容で不明な個所がありましたら、教員や学部事務室に問い合わせてください。

なお、在学中は学生便覧に基づいて教育・指導が行われますので、卒業まで大切に扱ってください。

2. 学生番号の見方

1. 学生番号は数字の7桁で構成されています。
2. 学生番号は北海学園大学における学生の身分を表すもので、原則として、卒業するまで変わることはありません。
3. 学生番号は、学内における試験、あるいは諸手続きの際、氏名と共に必ず記入することになりますのでしっかりと覚えてください。

例えば2022年4月に人文学部1部日本文化学科1年J1組へ入学した場合の学生番号は

学生番号	27	22	101
区分内容	学部・部・学科区分	入学年(西暦)	学生個人番号

学部・部・学科区分	27-人文学部 1部 日本文化学科 29-人文学部 1部 英米文化学科 28-人文学部 2部 日本文化学科 30-人文学部 2部 英米文化学科
-----------	--

2022年度 人文学部入学者の学生番号の開始番号

人文学部 1部 日本文化学科	2722101
人文学部 1部 英米文化学科	2922101
人文学部 2部 日本文化学科	2822101
人文学部 2部 英米文化学科	3022101

3. 各種窓口手続等

(1) 事務取扱い (学部事務室)

1. 窓口事務の取扱い時間

	1部	2部
平日	9:00 窓口受付 12:40 (昼休み) 13:40 窓口受付 16:00	17:30 窓口受付 19:30
土曜日	9:00 窓口受付 12:40	17:30 窓口受付 19:30

※工学部は2部の時間帯は取扱いを行わない。

2. 学部事務室の業務取扱い (共通)

業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ①授業時間の配当および授業時間割に関する事。 ②学級の編成, 教室の配置および教具設備に関する事。 ③授業および休講に関する事。 ④試験および学業成績に関する事。 ⑤在学証明書, 成績証明書, 卒業(見込)証明書, その他証明書の発行に関する事。 ⑥学生証の発行に関する事。 ⑦学生の欠席, 休学, 退学, 除籍, 復学, 再入学, 復籍, 転部, 転学部, 転学科に関する事。 ⑧科目履修に関する事。 ⑨その他教務に関する事。
------	--

3. 窓口業務を行わない日 (2022年度)

日曜日, 祝祭日および振替休日のほか, 次の日は窓口業務を行わない。

窓口業務を行わない月日(曜日)	備考
5月16日(月)	学園創立記念日
8月13日(土)~8月16日(火)	全学休業
12月27日(火)~2023年1月7日(土)	年末年始の休業日
2023年1月13日(金)	大学入学共通テスト準備日
1月14日(土)~1月15日(日)	大学入学共通テスト
2月8日(水)	一般選抜準備日
2月9日(木)~2月12日(日)	一般選抜

4. 学生総合支援システム G-PLUS!

(学生生活を支援するためのポータルサイト)

URL	https://gplus.hgu.jp/
IDとパスワード	学内ネットワーク利用ガイダンスで交付
稼働時間	6:00~翌日3:00
主な機能(コンテンツ)	<ul style="list-style-type: none"> [お知らせ] お知らせ受信一覧 教務お知らせ一覧(休講, 補講, 教室変更, 講義連絡等) 落し物情報一覧 [MYPAGE] 成績情報, その他各種情報 [履修] 履修登録, 履修確認 [シラバス] シラバス参照, 検索 [キャビネット] 各種届出・願出のダウンロード
マニュアル	G-PLUS!のキャビネットからダウンロード
その他	「学内ネットワーク利用の手引き」を参照すること。 コンテンツの追加等については, 別途G-PLUS!で連絡する。

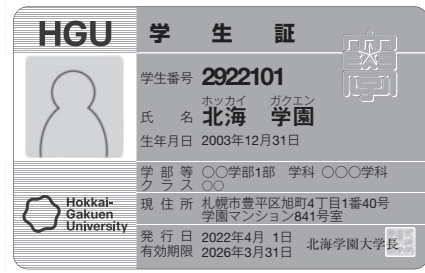
(2) 学生証

学生証は本学の学生としての身分を証明するものであるから外出、登下校の際には、必ず携帯すること。また、本学の学生証は通常の場合、発行日から原則、4年間使用することになるので破損や紛失をすることのないよう大切に保持し、下記の事項に留意すること。

学生証に関する留意事項	
発行 交付	学生証は、入学手続き書類（事項届、学生カード、学生証用写真）に基づき発行し、新入生ガイダンス時に交付する。 ※経済学部および法学部は2年生進級時に学生番号が変更となるため、新2年生ガイダンス時に再度交付する。
有効期間	発行日から原則、4年間。（再発行、更新を除く）ただし、留年・卒業延期等により有効期間である4年を超えた場合は速やかに更新手続きを行うこと。
提 示	学生証は次の場合これを提示しなければならない。 ①試験を受ける場合 ②各種証明書の発行を受ける場合 ③大学教職員の請求があった場合 ④通学定期乗車券または、学生割引乗車券を購入する際、および、それを利用中に係員の請求があった場合 ⑤図書館を利用する場合
更 新	学生証の記載事項に変更（住所変更・身分異動等）があった場合および留年・卒業延期等により有効期間を超えた場合は、直ちに所属の学部事務室に届けて更新しなければならない。 （更新手続） G-PLUS!のキャビネットから「学生証更新願」をダウンロードし、必要事項を記入した上で、所属の学部事務室に提出すること。 なお、住所変更をする場合は「住所変更届兼学生証更新願」を提出すること。
再 発 行	学生証を紛失または汚損した場合は、直ちに所属の学部事務室に届けて再発行を受けなければならない。なお、発行日は翌日となるので注意すること。 （再発行手続） 自動証明書発行機で再発行手数料（1,000円）を支払い、購入した申請書と、G-PLUS!のキャビネットからダウンロードした「学生証再発行願」に必要事項を記入した上で、所属の学部事務室に提出すること。
返 還	退学、除籍によって学籍を離れたときは、直ちに学生証を所属の学部事務室へ返還しなければならない。
そ の 他	学生証は他人に貸与または譲渡してはならない。学生証に学長印ならびに写真の無いものは無効とする。

(学生証見本)

(オモテ)



(ウラ)



(3) 通学定期乗車券の購入

本学に通学する上で、何等かの公共交通機関を利用する学生は、下記の手続により通学定期乗車券を購入することができる。ただし、通学区間は自宅所在地の最寄りの駅（停留所）から本学所在地の最寄りの駅（停留所）までの最短距離とする。

交通機関	購入手続
JR北海道 (鉄道・バス)	学生証裏面の通学定期乗車券発行控の通学区間の欄に自分が利用する区間の駅名「札幌～ 間」を黒のペンかボールペンで記入し、定期券売り場に備え付けの申込書と一緒に学生証を提示することによって購入することができる。ただし、新入生が学生証交付前に初めて購入する際は、「通学証明書」が必要となる。なお、通学定期乗車券発行控の記載欄に空欄がなくなった場合は、所属の学部事務室まで申し出ること。
市営交通 (地下鉄・市電) ・ じょうてつバス	通学定期乗車券は定期券売り場に備え付けの申込書と一緒に学生証を提示することによって購入することができる。ただし、新入生が学生証交付前に初めて購入する際は、「合格通知書」が必要となる。
中央バス	通学定期乗車券は定期券売り場に備え付けの申込書と一緒に学生証を提示することによって購入することができる。ただし、新入生が学生証交付前に初めて購入する際は、本学証明済みの定期乗車券購入申込書が必要となる。

(4) 各種証明書

各種証明書は、①自動証明書発行機によってその場で交付、②窓口での交付の二方式がある。

窓口での交付は、すべての種類の証明書が可能であるが、自動証明書発行機での交付は下記①の証明書に限られる。自動証明書発行機による発行が可能なものは、基本的に自動証明書発行機で交付を受けるものとする。

発行機は、豊平校舎は3号館1階学部事務室前に2台設置されており、取り扱い時間は、月曜日から土曜日の9:00～19:30である。山鼻校舎では、2号館2階に1台設置されており、月曜日から金曜日の9:00～18:00、土曜日の9:00～12:40に発行が可能である。

なお、窓口での発行の際には、自動証明書発行機に証明書発行手数料を支払い申請書を入手し、必要事項を記入のうえ、該当する窓口へ申し込み、後日引換書を持参し窓口で交付を受ける必要がある。

証明書の発行方式・種類・手数料等については以下のとおりである。

①自動証明書発行機により即日交付可能な証明書

種類	手数料(1通分)	申請書で 申し込む場合の窓口	窓口申込時 の発行日
在学証明書	100円	各学部事務室	翌日
単位修得学業成績証明書	200円	各学部事務室	翌日
卒業見込証明書	100円	各学部事務室	翌日
早期卒業見込証明書*1	100円	法学部事務室	翌日
司書教諭所要資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌日
司書となる資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌日
社会教育主事となる資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌日
学芸員となる資格取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌日

種類	手数料(1通分)	申請書で 申し込む場合の窓口	窓口申込時 の発行日
健康診断証明書	100円	医務室	翌々日
学校学生・生徒旅客運賃割引証	無料	学生部事務室	翌日

*1法学部の法曹養成プログラム参加者かつ早期卒業申請者のみ交付可能。

②申請書による申込が必要な証明書

種類	手数料(1通分)	申込窓口	発行日
卒業証明書	100円	各学部事務室	翌日
学位授与証明書	100円	各学部事務室	翌日
休学証明書	100円	各学部事務室	翌日
退学証明書	100円	各学部事務室	翌日
除籍証明書	100円	各学部事務室	翌日
教育職員免許状取得見込証明書	100円	教務センター事務室	翌日
学力に関する証明書(教免申請用)*1	200円	教務センター事務室	翌日
日本語教員養成課程修了証明書	100円	人文学部事務室	翌日
日本語教員養成課程単位修得学業成績証明書	200円	人文学部事務室	翌日
科目等履修生単位修得証明書	200円	各学部事務室	翌日
科目等履修生等在籍期間証明書	100円	各学部事務室	翌日
科目等履修生日本語教員養成課程単位修得証明書	200円	人文学部事務室	翌日
早期卒業証明書*2	100円	法学部事務室	翌日
法曹養成プログラム所属証明書*2	100円	法学部事務室	翌日
法曹養成プログラム修了見込証明書*2	100円	法学部事務室	翌日
法曹養成プログラム修了証明書*2	100円	法学部事務室	翌日
所属大学内での順位が分かる証明書*2	無料	法学部事務室	翌日
英文証明書	400円	各学部事務室	1週間後
学生証の再発行	1,000円	各学部事務室	翌日

*1新学期などは通常よりも日数がかかる場合があるため、早めに申し込むこと。

*2法学部の法曹養成プログラム参加者のみ申請可能。

※発行日は原則として以上のとおりであるが、発行日が日曜・祝日、その他窓口業務を行わない日にあたる場合は、翌窓口業務取扱日に発行となるので注意すること。

※フェリーの割引に関しては、学生部事務室へお問い合わせください。

(5) 各種届出

入学時に本学に届け出た事項の変更や授業や試験の欠席については、下記の要領に従って速やかに届出をすること。なお、各届出用紙については、G-PLUS!のキャビネットからダウンロードするか所属の学部事務室でその旨を申し出て受けとること。届出の受付についてはすべて所属の学部事務室で行う。

届出の種類	届出の内容	届出時期
事項届	本人の戸籍に基づいて、氏名・生年月日・本籍地等を記載する。外国籍の学生は他に在留カードの写しの添付が必要となる。 なお、本学における学籍の作成および証明書等の発行はすべてこれに基づいて行われる。	入学時
学生・学費支給者・保証人住所届	本人、学費支給者および保証人の氏名と現住所を記載する。保証人は保護者等学費支給者とし、学生の連帯責任者となる。	入学時
住所変更届兼学生証更新願	入学後あるいは在学中に、本人または学費支給者・保証人の現住所が変更になった場合。	随時

届出の種類	届出の内容	届出時期
学費支給者・保証人変更届*	入学後あるいは在学中に、学費支給者および保証人が変更になった場合に、その氏名および現住所を記載する。	随 時
身分異動届*	入学時に届けた(事項届等)本人の身分等に変更があった場合は、変更事項の記載とそれを証明する戸籍抄本の添付が必要となる。なお、身分の異動によって姓名が変わる場合は、合わせて学生証の更新手続きも行うこと。	随 時
欠席届*	1. 短期欠席(1週間以内) 病気・災害・勤務(出張・研修)の都合、その他の事情により欠席するときは、所定の欠席届に欠席事由を証明する書類を添えて、授業科目の担当教員宛に提出しなければならない。 2. 長期欠席(1週間を超える場合) 病気・災害・勤務(出張・研修)の都合、その他の事情により1週間を超えて続けて欠席するときは、所定の欠席届に欠席事由を証明する書類を添えて、所属の学部長宛に提出しなければならない。	欠席期間の前後数日以内
試験欠席届*	1. 定期試験をやむを得ず欠席した場合は、各学部事務室に備え付けの試験欠席届に必要な事項を記入のうえ、欠席理由により以下の証明書を添付して提出すること。やむを得ない欠席と認められる事由および届け出に必要な証明書類等について不明な点がある場合は、事務室に問い合わせること。 (1) 病気・けがの場合は、病名・診察日・通院期間が記載された診断書。なお、当日何らかの理由により受診できなかった場合、後日通院可能となり次第速やかに受診し、診断書の発行を受けること。(診断書がない場合は、病気またはけがによる欠席であることを証明できる書類) (2) 入社試験受験の場合は、試験日時・試験場所の記載された会社発行の証明書 (3) 出張(2部学生)の場合は、出張期間の記載された職場長の出張証明書 (4) 公共交通機関を利用して通学途中交通事故等に遭遇した場合は、当該交通機関の管理者の発行する証明書 (5) 近親者の葬儀への出席の場合は、葬儀が行われ出席したことを証明する文書(会葬礼状など) (6) 上記以外の事由の場合は、その事由を証明する書類 2. 試験本部で正当な理由があると認められた場合を除き、遅刻による欠席届は受理しない。 3. 欠席届の受理が直ちに追試験の受験資格を保証するものではない。	学部掲示板およびG-PLUS!で案内する
学生証紛失届	退学等を願い出る時に学生証を紛失していた場合は「退学願」に学生証紛失届を添付すること。	発生時

*印の付いている届出用紙は、G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

(6) 各種願出

下記の各種の願出については、事由が発生した時点で、必要な書類を添付して、速やかに所属の学部事務室へ出向いて手続きを行うこと。

なお、休学・退学・復学・再入学・復籍など学籍異動に伴う手続き・方法等については、「学生異動関係」の欄を参照したうえで、早めに所属の学部事務室で相談すること。

届出の種類	内容および添付書類等	受付窓口
休学願	疾病の他、やむを得ない理由で3カ月以上就学できない場合。(疾病の場合は、医師の診断書が必要)	学部事務室
退学願	疾病やその他の理由で、本学の学籍を離れる場合。学生証を添付すること。	学部事務室
復学願	休学を許可された者が、休学理由の解消とともに、再び修学可能となった場合。(疾病等で休学した場合は、復学しても修学が可能である旨記載された医師の診断書が必要)	学部事務室
再入学願	退学を許可された者が、その後の状況等の変化により、再度本学への入学を希望する場合。(疾病等で退学した場合は、再入学しても修学が可能である旨記載された医師の診断書が必要)	学部事務室
復籍願	学則第31条第1項の第3号、第4号または第5号で除籍された者で、その後の状況等の変化により、本学における学籍の復活とともに、修学を希望する場合。	学部事務室
休学願(延長)	休学を許可された者が、休学期間満了後も休学理由の解消が見込めないか、その他特別な理由で、更に休学期間の延長を希望する場合。(疾病の場合は、医師の診断書が必要)	学部事務室
転学部願	本学部の学生が、本学の他の学部への転学部を希望する場合。	所属学部と他学部事務室
転部願	1部(昼間部)から2部(夜間部)へ、または、2部から1部への転部を希望する場合。	学部事務室
転学科願	2学科以上を設置している学部で、所属の学科から、他の学科への転学科を希望する場合。	学部事務室
他大学受験許可願並びに受験許可証交付願	本学に在籍したまま、他大学の入学試験、編入学または転入学試験の受験を希望する場合。(注)受験許可を受けた学生は、その受験結果について可否の如何を問わず所属の学部事務室へ報告すること。また、これらの試験に合格して、他大学へ入学、編入学または転入学する場合には、速やかに、本学所定の「退学願」(3月31日付)用紙に必要な事項を記入し、所属の学部事務室へ提出すること。	学部事務室
学生証更新願*	学生証の記載事項に変更があった場合。	学部事務室
学生証再発行願*	学生証を紛失または汚損した場合。自動証明書発行機より再発行手数料(1,000円)を支払い申請書を入手する必要がある。	学部事務室

*印の付いている願出用紙は、G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

(7) 学籍異動関係①—休学, 退学, 除籍—

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
休学	<p>(1)内 容 疾病,その他のやむを得ない理由により, 3カ月以上就学することが困難になったときや, その他の特別な理由があると認められたときなど, 一時的に修学の状態から離れる場合。</p> <p>(2)休学期間 ①当該年度限り(その年度の3月31日まで)とする。ただし, 特別の理由があると認められるときは, 願出により, 更に1年間の休学を許可されることがある。 学則第27条2項により, 第1学期を休学したものについては, 特別の理由があると認められるときは, 願出により, 当該年度内において更に6カ月間の休学を, また更に次年度内において6カ月ないし1年間の休学を許可されることがある。また, 当該年度の第2学期のみ休学した者(学期途中からの休学を含む)については, 特別の理由があると認められるときは, 願出により, 次年度内において6カ月ないし1年間, 更に次の年度内において6カ月の休学を許可されることがある。</p> <p>②休学できる期間は通算して, 4年以内とする。</p> <p>③休学期間は, 修業年限および在学期間に加えない。</p> <p>(3)手 続 き ①やむを得ない理由, その他特別な理由により休学しようとするときは, 所定の「休学願」用紙に休学理由を具体的かつ明確に記入し, 保証人連署のうえ, 所属学部長を経て学長に願い出ること。なお, 疾病やけがの場合は, 医師の診断書を, また2部の勤労学生で, 勤務等の都合により休学する場合は, 職場長の証明書または理由書を必ず添付すること。 (休学期間の延長) ②以下の場合, 休学期間満了前に, 改めて所定の「休学願(延長)」用紙に必要事項を記入し, 所属学部長を経て学長に願い出ること。 ・休学期間満了後も休学理由の解消が見込めない場合 ・その他特別な理由で更に1カ年の休学期間の延長を希望する場合 ・学則第27条第2項により, 第1学期を休学した者が, 更に当該年度内における6カ月の, また更に次年度内における6カ月ないし1カ年の休学期間の延長を希望する場合 ・当該年度の第2学期のみ休学した者(学期途中からの休学を含む)が次年度内において6カ月ないし1カ年の, 更に次年度内における6カ月の休学期間の延長を希望する場合</p> <p>(4)授業料等 ①休学を願い出るときは, その願い出る期までの授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費を納入していなければならない。 ②休学を許可された期間中の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費は徴収しない。</p> <p>(5)そ の 他 休学期間満了前に復学, 退学または休学の願出のないものは, 休学期間満了と同時に除籍となる。</p>	学則第27条 学則第28条
	退学	<p>(1)内 容 疾病, その他やむを得ない理由により, 修学の継続が困難となったときや, 修学の意志がなくなったとき, または他大学への編入学や転入学をするときなど本学の学籍を離れる場合。</p> <p>(2)手 続 き 退学しようとする場合は, 所定の「退学願」用紙にその理由を具体的かつ明確に記入し, 保証人連署のうえ学生証を添えて所属学部長を経て学長に願い出ること。</p> <p>(3)授業料等 退学を願い出るときは, その願い出る期までの授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費を納入していなければならない。</p>
除籍	<p>(1)内 容 次の各号の一に該当する者を, 学長が所属学部教授会の議を経て, 本学の学籍から除くことをいう。</p> <p>(2)対象事項 ①学則第7条に規定する在学期間(8年)を超えた者 ②死亡した者 ③行方不明になった者 ④授業料等の納付を怠り督促してもなお納入しない者 ⑤休学期間満了前に, 復学, 退学または休学の願出がない者 ⑥入学を辞退した者</p> <p>(3)そ の 他 除籍になった場合は, 速やかに学生証を所属していた学部事務室へ返還すること。</p>	学則第31条

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
退学	<p>(1)内 容 疾病, その他やむを得ない理由により, 修学の継続が困難となったときや, 修学の意志がなくなったとき, または他大学への編入学や転入学をするときなど本学の学籍を離れる場合。</p> <p>(2)手 続 き 退学しようとする場合は, 所定の「退学願」用紙にその理由を具体的かつ明確に記入し, 保証人連署のうえ学生証を添えて所属学部長を経て学長に願い出ること。</p> <p>(3)授業料等 退学を願い出るときは, その願い出る期までの授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費を納入していなければならない。</p>	学則第29条
除籍	<p>(1)内 容 次の各号の一に該当する者を, 学長が所属学部教授会の議を経て, 本学の学籍から除くことをいう。</p> <p>(2)対象事項 ①学則第7条に規定する在学期間(8年)を超えた者 ②死亡した者 ③行方不明になった者 ④授業料等の納付を怠り督促してもなお納入しない者 ⑤休学期間満了前に, 復学, 退学または休学の願出がない者 ⑥入学を辞退した者</p> <p>(3)そ の 他 除籍になった場合は, 速やかに学生証を所属していた学部事務室へ返還すること。</p>	学則第31条

(8) 学籍異動関係②—復学, 再入学, 復籍—

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
復学	<p>(1)願出資格: 内容 疾病, その他のやむを得ない理由により, 3カ月以上就学することが困難となったときや, その他の特別な理由があると認められて休学を許可された者で, 休学理由の解消に伴い, 休学期間満了とともに, 所属学部長を経て学長に願い出て許可を得た者が, 再度, 就学の状態に復することをいう。</p> <p>(2)願出手続 ①上記の者が復学しようとする場合は, 所定の「復学願」用紙に, その理由を具体的かつ明確に記入し, 保証人連署のうえ, 休学期間満了前までに, 所属学部長を経て学長に願い出ること。 ②疾病・けが等の理由で休学していた場合は, 復学しても差支えない旨の医師の診断書を添付すること。</p> <p>(3)復学の時期 復学は, 年度初めに許可するものとし, 年度の途中では許可しない。ただし, 学則第27条第2項および第3項によって休学した者については, 第2学期の始めに許可する。</p> <p>(4)許可後の手続 ①復学の許可通知を受けたときは, 10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②復学料は新入生検定料の2分の1の額とし, 復学後の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費は, 当該学部の復学した年次のものを適用する。 ③4月1日より復学するときは, 復学料および第1期分の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。学則第27条第2項および第3項によって休学した者が10月1日より復学するときは, 復学料および第2期分の授業料, 教育充実費(1部50,000円, 2部30,000円), 実験実習費の2分の1の額, 大学諸費の全額を納入しなければならない。</p>	学則第27条

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
再入学	<p>(1)願出資格内容 疾病、その他のやむを得ない理由等により、本学を退学した者で、その後の状況の変化にともない、退学後3年以内に願出でて、所属学部教授会の議を経て学長の許可を得た者が、再度修学の状態に復する事をいう。</p> <p>(2)願出手続 ①上記の者が再入学しようとする場合は、所定の「再入学願」に、その理由を具体的かつ明確に記入し、保証人連署のうえ、所属学部長を経て学長に願出すること。 ②疾病等の理由で退学した場合は、再入学しても差支えない旨の医師の診断書を添付すること。</p> <p>(3)再入学の時期 再入学は、年度初めに許可するものとし、年度の途中では許可しない。</p> <p>(4)許可後の手続 ①再入学の許可通知を受けたときは、10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②再入学料は新入生検定料と同額、入学金は新入生の入学金と同額とし、再入学後の授業料、教育充実費、実験実習費および大学諸費は当該学部の再入学した年次のものを適用する。 ③再入学するときは、再入学料、入学金および第1期分の授業料、教育充実費、実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。 ④再入学手続きの際には、所定の用紙に学生証用写真（3カ月以内撮影、単身、正面、上半身、無帽）を1枚貼付し、提出しなければならない。</p>	学則第30条
復籍	<p>(1)願出資格内容 学則第31条第1項の第3号、第4号または第5号により、本学を除籍された者で、その後の状況の変化にともない、除籍後3年以内に願出でて、所属学部教授会の議を経て学長の許可を得、学籍を復活された者が、再度修学の状態に復する事をいう。</p> <p>(2)願出手続 上記の者が、復籍をしようとする場合は、所定の「復籍願」に、その理由を具体的かつ明確に記入し、保証人連署のうえ、所属学部長を経て学長に願出すること。</p> <p>(3)復籍の時期 復籍は、年度初めに許可するものとし、年度の途中では許可しない。</p> <p>(4)許可後の手続 ①復籍の許可通知を受けたときは、10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②復籍料は新入生検定料と同額、入学金は新入生の入学金と同額とし、復籍後の授業料、教育充実費、実験実習費および大学諸費は、当該学部の復籍した年次のものを適用する。 ③復籍するときは、復籍料、入学金および第1期分の授業料、教育充実費、実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。 ④復籍手続きの際には、所定の用紙に学生証用写真（3カ月以内撮影、単身、正面、上半身、無帽）を1枚貼付し、提出しなければならない。</p>	学則第31条

(9) その他の学籍異動関係—転学部, 転部, 転学科—

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
転学部	<p>(1)内 容 一つの学部の学生が他の学部へ転ずることをいう。</p> <p>(2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので、転学部を希望する学生は、あらかじめ、転学部を希望する学部事務室、および、現在所属している学部事務室へ問い合わせること。</p>	学則第13条
転部	<p>(1)内 容 1部（昼間部）から2部（夜間部）へ、または、2部から1部へ転ずることをいう。</p> <p>(2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので、転部を希望する学生は、あらかじめ、それぞれが所属する学部事務室へ問い合わせること。</p>	各学部規則
転学科	<p>(1)内 容 2学科以上を設置している学部で、一の学科から、他の学科へ転ずることをいう。</p> <p>(2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので、転学科を希望する学生は、あらかじめ、それぞれが所属する学部事務室へ問い合わせること。</p>	各学部規則

(10) 懲戒による学籍異動—退学—

種類	内容などに関する事項	関係学則等
退学	<p>(1)内 容 学則第49条（懲戒）により、次の各号の一に該当する者は退学とする。 ①性行不良で改善の見込みがないと認められる者 ②学力劣等で成業の見込みがないと認められる者 ③正当な理由がなく出席が常でない者 ④本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者</p>	学則第49条

4. 学生連絡

1. 学生への連絡方法

- (1) 掲示板
- (2) G-PLUS!
- (3) 電子掲示板
※掲示板および電子掲示板の学内での位置は巻末の『13. 校舎見取り図』で確認すること。

2. 掲示板やG-PLUS!での主なお知らせ内容

- (1) 各種ガイダンス
- (2) 履修登録
- (3) 授業時間等に関する変更（休講、補講、教室変更、担当者変更等）
- (4) レポート提出
- (5) 試験実施
- (6) 呼び出しなどの学生連絡
- (7) その他のお知らせ

3. 電子掲示板での主なお知らせ内容

- (1) 休講・補講情報 ※G-PLUS!でも知らせる。
- (2) 落し物
- (3) その他のお知らせ

4. 電子掲示板の見方

- (1) 電子掲示板は、4面が1セットで構成されており、左から3面が休講・補講掲示である。掲示内容は、左から、1部一般教育・課程、1部専門科目、2部（全科目）休講・補講掲示となっている。また、山鼻校舎では、2面が1セットで構成されており、右側が休講・補講掲示である。
- (2) 表示項目について（左から）は、月日・時限・科目名・担当者名・備考となっている。
- (3) 電子掲示板の休講・補講掲示開始日は、原則として休講・補講日の2週間前からである。

5. G-PLUS!での確認方法 (<https://gplus.hgu.jp/>)

- (1) 一般のお知らせ
トップ画面のお知らせ情報、「お知らせアイコン」の「お知らせ受信一覧」
- (2) 休講情報
「お知らせアイコン」の「教務お知らせ一覧」の「休講情報一覧」
- (3) 補講情報
「お知らせアイコン」の「教務お知らせ一覧」の「補講情報一覧」
※履修登録後は、お知らせ受信一覧やトップ画面の「講義のお知らせ」、「MY時間割」からも確認可能

5. 教務ガイダンス（学修上の指導）

各学部で行われる教務ガイダンスでは、その年度の「履修の手引」、「授業時間割」、「講義概要」等が配布され、科目の履修上の注意、履修登録の要領、その他教務の総括的な説明を行うので、入学時に配布された「学生便覧」を持参して、必ず出席すること。

項目	内容
実施日時・教室	各学部によって日時・教室が異なるので、必ず学部掲示板およびG-PLUS!で確認すること。 なお、新入生については、「新入生ガイダンス日程表」を参照のこと。
配布資料等	①「履修の手引」 ②「授業時間割」 ③「講義概要」 ④「学生便覧」（新入生のみ） ⑤学内ネットワーク利用の手引き（新入生のみ） ⑥その他
通学証明書の発行	「JR北海道」の通学定期乗車券購入希望者で、購入しようとする日に学生証が交付されていない場合に発行。
ガイダンスの説明事項等	①学部教育の目的および内容 ②卒業要件等 ③授業時間割の見方 ④履修上の注意事項 ⑤科目履修登録要領 ⑥演習等の申込要領 ⑦その他（学修上の注意、窓口手続き等）
個別ガイダンス	全体の「教務ガイダンス」終了後に、個々の質問や履修等の相談がある場合には、所属学部事務室へ申し出ること。

6. 学生相談

長い大学生活ではいろいろな問題に遭遇したり、疑問や悩みを抱いたりすることがあると思います。

人文学部では教務上の問題（科目の履修・修得、定期試験、休学、転学部・転部・転学科など）のほか、皆さんが抱える様々な問題についても相談を受け付けています。

これらの相談では、関係教職員が中心となり、個人名を含めプライバシーには十分配慮して対応しますので、一人で悩むことなく、以下の方法を利用して相談してください。

1. 人文学部事務室窓口

教務上の問題のほか、様々な相談を受け付けています。何かわからないことがあった場合には、気軽に相談してください。

2. オフィスアワー

専任教員が、学生からの質問や相談に対応するために設定している曜日・時間帯をオフィスアワーといい、教員が各自の研究室で待機していますので、直接会って話をすることができます。各教員のオフィスアワーの曜日・時間帯については人文学部掲示板やホームページにて確認してください。

ただし、会議や出張等で不在にする場合もありますので、事前に電話や電子メール等で連絡を取ることが望ましいです。

3. セクシュアル・ハラスメントの相談

各学部で任命された相談員が相談を受け付けています。対応の詳細はガイダンス等で配布されているパンフレット「セクシュアル・ハラスメントのない大学をめざして」を参照し、相談員とその連絡先については人文学部事務室の窓口等で配布している専用のカードにて確認してください。

4. 人文学部学生投書箱「声」

人文学部事務室の窓口に投書箱が設置されています。専用の用紙に内容を記入して投函してください。個人的な内容等を除き、原則として相談内容と対応・回答等は人文学部掲示板にて公表されます。

5. 医務室

専任保健師・看護師が常駐し、急病やけがの応急処置をはじめ、心身の健康に関することの相談を受け付けています。また、こころの相談については臨床心理士の相談員が予約制で相談を受け付けています。相談日や時間帯、予約方法など詳細については医務室、またはガイダンスで配布されているパンフレット「こころの相談」やホームページにて確認してください。

7. 授 業

各学部で行われる教務ガイダンス時に、学生に配布される授業時間割については、下記の事項に留意すること。

項 目	内 容		
授業(講義)時間	1 時限は90分。		
授業時間帯	1 部	1 時限目	9 : 00～10 : 30
		2 時限目	10 : 40～12 : 10
		3 時限目	12 : 40～14 : 10
		4 時限目	14 : 20～15 : 50
		5 時限目	16 : 00～17 : 30
	2 部	1 時限目	17 : 50～19 : 20
2 時限目		19 : 30～21 : 00	
時間割表の配布と、その見方	「授業時間割」は、各学部の教務ガイダンス時に配布し、その見方について説明する。		
時間割の変更	時間割表に変更(教室、担当教員、曜日、時間帯等)がある場合には、各学部および教務センターの掲示板に掲示するとともに、G-PLUS!で連絡する。		
休 講	講義が休講になる場合は、あらかじめG-PLUS!で連絡するとともに電子掲示板に掲示する(原則、休講日の2週間前から)。また、講義担当教員の急病等で緊急に休講となる場合は、G-PLUS!で連絡、電子掲示板に掲示するとともに、職員が教室に掲示または口頭で連絡する。なお、講義開始時間から30分以上経過しても担当教員が来ない場合、受講者は所属学部事務室へ連絡をし、指示を受けること。		
補 講	通常の講義のうち休講があった場合は、それを補う講義(補講)は各学期の予備日にこれを実施する。その場合は、G-PLUS!で連絡するとともに電子掲示板に掲示する(原則、補講日の2週間前から)。		
集中講義	夏季および冬季休業中に、集中して行う授業(通常の時間帯の中で実施することもある)で、その時間割については、その都度学部または課程掲示板に掲示する。		
授業の出席と単位の認定	学則第22条により、出席時数が3分の2以下の者については、単位を認定しない。ただし、3分の1の欠席を認めるものではない。		
授業の欠席	授業の欠席については、「欠席届」*に欠席理由等を記入し、欠席事由を証明する書類を添えて短期の場合は、直接担当教員に、長期の場合は、所属学部事務室に提出すること。		
そ の 他	携帯電話およびこれに類するものは、教室では電源を切ること。		

*G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

8. 試 験

※2022年度以降の試験（定期試験、追試験、再試験、期間外試験）の運用方法について、現在見直しを進めております。新しい運用基準等が確定しましたら、学内掲示版やG-PLUS!にて周知します。

参考までに、試験に関する2019年度の情報を以下に記載します。

試験は、授業とそれに関するの自学自習の成果を試すものであり、単位の修得や卒業の要件に深く関わってくるので、平素からの授業および自学自習を大切にし、万全を期して試験にのぞめるよう心掛けること。

種類	項目	内 容
定期試験	要 旨	原則として、第1学期定期試験と第2学期定期試験の2回実施する。ただし、科目によっては、実施しない場合もあるので注意すること。
	実施時期および期間	第1学期試験は第1学期末、第2学期試験は第2学期末に実施する。実施時期および期間については、大学の「行事日程表」を参照のこと。
	試験時間	原則として、60分で行う。
	試験時間割	試験実施の1週間前までに、掲示板に掲示するとともに、G-PLUS!で連絡する。
	受験できない場合	次のいずれかに該当する場合は、定期試験を受けることができない。 ①履修登録をしていない科目 ②試験時間に遅刻した者（ただし、試験開始から20分までは、入室および受験を認める。） ③学生証を所持しない者（ただし、試験期間中、1日に限り、学部事務室発行の「仮受験票」での受験を認める。）
受験上の注意	定期試験の受験に際しては、「受験心得」を熟知して臨むこと。	

種類	項目	内 容
追試験	要 旨	定期試験を欠席した者で、その欠席理由が正当と認められた場合に実施する試験をいう。
	手 続 き	定期試験をやむをえない理由で欠席した場合は、所定の期間内（期間については、学部掲示板およびG-PLUS!で案内する）に、「試験欠席届」*に欠席理由を証明する証明書を添付して、学部事務室へ提出し、その理由が正当と認められた場合、後日、自動証明書発行機より受験料（1科目500円）を支払い申請書を入手し、学部事務室備え付けの「追試験受験申込書」とあわせて必要事項を記入し申込み、「追試験受験許可証」の発行を受けること。
	受験上の注意	追試験の受験に際しては、「受験心得」を熟知して臨むこと。
追試験の手続時期および期間	手続きおよび試験の時期・期間については、「履修の手引」を参照すること。また、「追試験時間割」は、試験開始日の3日前までに掲示するとともに、G-PLUS!で連絡する。	

*G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

※成績評価方法は、筆記試験、LMSでの試験またはレポート提出等、科目担当者によって異なりますので、詳細はLMSおよびシラバスを確認してください。

期間外試験、その他

種類	項目	内 容
期間外試験	外国語科目の試験	外国語科目については、原則として、それぞれの学期末の最後の授業時間内に実施する。また、これ以外に、通常の授業の中で、臨時に小テストなどを行う場合もある。
	授業中に実施する試験	科目によっては、通常の授業時間の中、あるいは、それぞれの学期の最後の授業時間に試験を実施することがある。
	レポートの提出	定期試験に代えて、レポートの提出を課する科目もある。
その他	演習、実技、実習の科目	演習、実技、実習については、授業への出席状況や授業時間中の発表やレポート、あるいは技術の習熟度等によって、科目担当の教員が判断し評価する。
		期間外試験については、事前に詳細（実施日時、教室等）を該当学部の掲示板またはG-PLUS!等で連絡する。期間外試験を欠席した場合は、科目担当者に直接問い合わせること。レポートの提出科目についても、事前に詳細（課題、字数、提出期限等）を掲示板またはG-PLUS!等で連絡する。

成績および評価

学業成績は、科目ごとに、次の基準で評価される。

評 点	評 価	GP*	合 否
90～100点	S	秀	合 格
80～ 89点	A	優	
70～ 79点	B	良	
60～ 69点	C	可	
59点以下	D	不可	不 合 格
欠 席	E	欠	

*本学では学習到達度を客観的に評価するためにGPA制度を導入している。GPA制度については、「履修の手引」に記載されている「GPA制度について」をよく読むこと。ただし、この成績評価になじまない一部の科目は合、否とし、GPは付かない。

受験心得

本学では、定期試験、追試験（工学部の場合は追・再試験）および臨時的試験を厳正かつ公正に実施するため、「受験心得」を定めている。受験にあたっては、各試験ごとに掲示される「受験心得」をよく読み、真摯な態度で臨まねばならない。なお、『履修の手引』に記載されている「受験心得」もよく読み、試験に臨む姿勢について日頃から心掛けておくこと。

9. 免許・資格取得・その他

本学には、通常の課程とは別に設けられた課程において取得できる免許・資格があります。これらについては、それぞれのガイダンスへ出席して、説明を受けてください。

(1) 教職課程

教育職員免許状を取得するために、教職課程が設けられています。

詳細については本年度4月のガイダンスで説明がありますので、希望者は出席してください。

(2) 図書館学課程

図書館司書及び司書教諭となる資格を取得するために、図書館学課程が設けられています。

図書館学課程は2年次以上の学生が対象となるため、希望者は、来年度4月のガイダンスに出席してください。

(3) 社会教育主事課程

社会教育主事となる資格を取得するために、社会教育主事課程が設けられています。社会教育主事課程は1部学生を対象にしています。

詳細については本年度4月のガイダンスで説明がありますので、希望者は出席してください。

(4) 学芸員課程

学芸員となる資格を取得するために、学芸員課程が設けられています。学芸員課程は1部学生を対象にしています。

詳細については本年度4月のガイダンスで説明がありますので、希望者は出席してください。

(5) 日本語教員養成課程

公的な制度として確立されている資格ではありませんが、日本語非母語話者に対する日本語教員を育成する目的で日本語教員養成課程を設けています。希望者は本年度4月のガイダンスに出席してください。

10. 図書館・開発研究所・判例演習室

(1) 図書館案内

1. 図書館概要

本館：本学の創立100周年記念事業の一環として、昭和62年4月に開館。

工学部図書室：昭和62年5月、山鼻キャンパスの中心に開館。

蔵書冊数 約843,000冊

所蔵雑誌数 約11,000種

(2021年3月末)

2. 図書館利用時間

		月～金曜日	土曜日	
本館	1階	ラウンジ	9:00～22:30	
		返却ポスト	8:00～ 8:50 21:45～22:30	
	2階	ワーク・エリア	9:00～22:00	
		資料の貸出・返却	9:00～21:45	
		レファレンス・サービス	9:00～12:40 13:30～16:30	9:00～12:00
	3階	閉架書庫入庫	9:00～21:30	
	4階	サイレント・エリア	9:00～22:00	
工学部図書室	1階	アクティブ・エリア	10:00～21:00	10:00～17:00
		機器等の貸出・返却	10:00～20:45	10:00～16:45
	閲覧室	9:00～20:00	9:00～12:50	
	資料の貸出・返却	9:00～19:45	9:00～12:30	
	返却ポスト	6:00～ 8:50 19:45～23:00	6:00～ 8:50 12:30～23:00	
	レファレンス・サービス	9:00～16:30	9:00～12:00	

※休館日：日曜日、国民の祝日、入学式実施日、創立記念日、全学休業日、年末年始の休業日、入学試験準備日および入学試験日、蔵書点検日、その他臨時休館日は図書館ホームページ等でお知らせします。

※返却ポスト：日曜・祝日等の図書館休館日も利用が可能です（ただし、年末年始等の一部の期間を除きます）。休館日の利用時間は、本館が8:00～22:30、工学部図書室が6:00～23:00です。

※レファレンス・サービス：上記時間外は、サービス・カウンターにお申し出ください。

※夏季・春季休業期間中、本館4階の開館時間は、10:00～17:00となります。

※夏季・春季休業期間中、工学部図書室の開館時間は、月・水・金曜日が9:00～19:30、火・木曜日が9:00～17:00、土曜日が9:00～12:50となります。返却ポストの時間は、図書館ホームページの「利用時間」をご確認ください。

※工学部図書室閉架・閉架B1資料の取出時間（通常期および夏季・春季休業期間中）は図書館ホームページの「利用時間」をご確認ください。

3. 利用資格

本学の学部生、大学院生、教職員、その他館長が特に認めた者とします。

ただし、本館1階から3階と工学部図書室は卒業生、修了生および大学図書館相互利用サービス加盟校の学生・教職員も利用できます。

4. 図書館利用証

学生証が図書館利用証を兼ねます。学生証を常に携帯し、必要に応じ提示して図書館を利用してください。

学生証は他人に貸与または譲渡することはできません。

紛失および破損した場合は、所属学部事務室（工学部1年生は教務センター）にて、再発行手続を行ってください。

5. 利用上の注意

図書館の利用に際しては次の注意事項を守ってください。

- ・学修以外の目的（サークル活動等）での利用はできません。サークル活動を行う場合は、厚生施設等をご利用ください。
- ・飲食はペットボトル等の蓋付きの容器に入った飲み物に限り可能です。ただし、汁ものやにおいの強いものでなければ、本館1階ラウンジに限り食事も可能です。
- ・スマートフォン・携帯電話等による通話や充電は禁止です。館内ではマナーモードに設定し、通話は館外でお願いします。
- ・無許可の写真撮影・録画・録音、電子機器類からの音声出力は禁止です（本館4階アクティブ・エリアは一部可能）。撮影等が必要な場合は、事前にお申し出ください。
- ・長時間にわたる私物の放置は禁止です。また、貴重品の管理には十分に注意してください。盗難・紛失等があっても当館では責任を負えません。
- ・その他、他の利用者の迷惑となる行為はご遠慮ください。

6. 資料の探し方

本学図書館に所蔵している図書・雑誌は、蔵書検索システム「OPAC」で検索することができます。

7. 館内での利用

①開架資料

開架に配架されている図書および雑誌は、書架から自由に取り出して館内で利用することができます。

②閉架資料

書庫にある図書および雑誌は、閉架資料といいます。OPACによる検索の結果、配置場所が「〇〇閉架」「B1△△」と表示された場合は、閲覧請求票を出力の上、サービス・カウンターに申し出てください。雑誌のバックナンバーを閲覧したい場合は、事前にタイトル・巻号数と発行年月日などの情報を調べておく必要があります。

入庫希望者は学生証を提示してください。なお、「工学部閉架B1」は、入庫することができません。

③禁帯出資料

辞書・事典類、六法全書、雑誌、新聞、新聞縮刷版、視聴覚資料、マイクロ資料、古文書等は、館外に持ち出すことはできません。図書館内をご利用ください。

8. 館外貸出

①貸出手続

貸出希望の資料をサービス・カウンターへ持参し、学生証を提示してください。

②貸出冊数・期間（開架資料・閉架資料を問わず）

学部生は、最大5冊15日間です。なお、夏季・冬季・春季休業期間中は長期貸出を受けることができます。また、雑誌は原則として貸出を受けられませんが、バックナンバーをまとめた製本雑誌に限り、貸出を受けることができます。

③貸出更新手続

他の利用者からの予約がなければ、資料を延長して借りることができます。学部生の更新回数は1回、更新期間は更新日から15日間です。手続はOPACか

ら行うことが可能です。来館により手続を行う場合は、資料と学生証をサービス・カウンターへ持参してください。なお、夏季・冬季・春季長期貸出にて貸出を受けている場合、貸出を受けている資料に延滞がある場合は、貸出更新ができません。

④返却手続

返却期限内にサービス・カウンターまたは返却ポストへ返却してください。期限を超過すると、新たな貸出手続ができません。

⑤予約・取り寄せ手続

利用希望の資料が貸出中の場合、予約をすることができます。また、本館と工学部図書間で資料を取り寄せることもできます。手続はOPACから行うことが可能です。サービス・カウンターで手続を行うことも可能です。なお、延滞資料がある場合、これらの手続はできません。

⑥特別図書長期貸出制度

卒業論文・ゼミ論文等の作成や教育実習の支援を目的として、通常借りられる資料（5冊15日間）のほかに7冊を30日間まで借りられる制度で、学部3・4年生が対象です。他の利用者からの予約がなければ、1回に限り30日間の貸出更新も可能です。なお、延滞資料がある場合は、こちらの制度を利用できません。

⑦紛失・汚損

図書を紛失・汚損した場合は、すみやかにサービス・カウンターに申し出てください。

9. レファレンス・サービス

本館はレファレンス・カウンター、工学部図書室はサービス・カウンターにてご利用いただけます。

図書館を十分に活用していただくために、以下のよう

なサービスを行っています。

- ・OPACの使い方や資料の探し方等、図書館の利用方法全般を説明。
- ・参考図書や電子リソースを活用して、探している文献に関する情報を調査。
- ・他の図書館・機関等との相互協力によって、本学図書館で所蔵していない資料を提供。

文献複写:他の図書館・機関等から必要箇所のコピーを取り寄せることができます。コピー代と送料等は申込者の負担となります。

相互貸借:他の図書館・機関等が所蔵する図書を借り受けることができます。往復の送料等は申込者の負担となります。また、相互貸借図書は原則として館内利用となります。

他館利用願の発行:本学図書館が発行する他館利用願（紹介状）を持参することにより、他の図書館を利用することができます。なお、北海道地区大学図書館相互利用サービス参加館を利用するには他館利用願は必要ありません。（詳細は次頁14.を参照してください。）

10. 複写機について

- ・図書館では著作権法の範囲内で文献複写サービスを行っています。
- ・複写機は、本館2階に3台、閉架M2階に1台、工学部図書室では1台設置しています。
- ・複写機利用は、コピーカード式とコイン式があります。なお、工学部図書室はコイン式のみとなっています。

- ・複写できる資料は図書館所蔵の図書・雑誌類に限ります。ノートやプリント類など私物の複写はできません。

11. 情報検索用パソコン・視聴覚ブース

①情報検索用パソコンブース

備え付けのパソコンを利用することで、インターネットでの情報検索、電子ブック・電子ジャーナル・データベースの利用、マイクロ資料の閲覧・複写・データ保存などが行えます（マイクロ資料の閲覧・複写・データ保存は本館のみです）。

なお、利用には、学内ネットワークのID・パスワードが必要です。また、特定のデータベースを利用の際には、カウンターで申し込みが必要です。

②視聴覚ブース

視聴覚ブースは、サービス・カウンターで申し込みの上、ご利用ください。ブルーレイ、DVD、CDなどの館内貸出資料の利用ができます。個人資料の持ち込みはできません。

12. 図書館ポータルサイト「MyLibrary」

「MyLibrary」（マイライブラリー）では、ご自身の貸出、予約、購入依頼、文献複写・貸借（ILL）の状況確認、資料の予約や貸出更新手続、お気に入り図書・雑誌・視聴覚資料のブックマーク、OPAC検索条件の保存を行うことができます。

利用にあたっては、学内ネットワークのID・パスワードが必要です。

（接続方法（2種類））

- ・G-PLUS! にログインし、リンクアイコンの「MyLibrary」をクリック
 - ・OPACを開き、サイドバーの「MyLibraryログイン」または「MyLibraryメニュー」をクリック
- 「MyLibrary」はG-PLUS! と連携しており、G-PLUS! で返却期限日や予約資料確保のお知らせなどを受信できます。「MyLibrary」とあわせて確認してください。

13. 購入希望図書の申し込み・図書館への意見

図書館に所蔵していない購入希望図書がありましたらOPACの「MyLibraryメニュー」の「新規購入依頼」から申し込みをしてください。

また、図書館に対しての意見・希望等は、図書館ホームページの「お問い合わせ」に記載されているアドレスにメールを送信してください。

14. 北海道地区大学図書館相互利用サービス

北海道地区大学図書館相互利用サービスは、北海道内の大学図書館間の相互協力を更に推進して、教育・研究活動の発展に貢献することを目指すものです。それぞれの参加館ごとに学外者の利用登録を行う必要はありますが、図書館間の相互貸借によらず、学生証・教職員身分証等の提示だけで他大学学生・教職員に直接閲覧、複写、貸出のサービスを実施しています。参加館によっては貸出不可や貸出条件がある場合があります。

利用の際は、あらかじめ利用大学図書館の開館スケジュール、資料の所蔵情報、利用登録時に必要なもの等を確認してください。また、利用大学の「図書館利用規則」を遵守してください。

（詳しくは、館内のポスターをご覧ください）

(2) 開発研究所案内

1. 研究所の目的・特色

本研究所は、1957年に上原轍三郎初代学長（兼開発研究所長）によって設立されました。設立目的は、北海道開発の視点から、同地域の歴史・経済・政治・社会・文化・技術などに関する基礎的・応用的諸研究を行い、学界に貢献するとともに、その成果を広く一般社会に普及することを通して、地域の発展に寄与するところにあります。

その特色は、その活動が特定の学科や専門領域に限定されることなく、学際的であることです。

2. 研究所の諸活動

- (1) 調査研究活動：総合研究、個別研究による調査研究の実施
- (2) 図書資料の収集・整理：開発に関する文献資料の収集、整理
- (3) 機関誌、その他資料の編集・発行：研究の成果を「開発論集」、多様な活動と成果を「ニュースレター」に掲載
- (4) 他の研究機関との連携：内外の研究機関・研究者との学術交流や共同研究の実施
- (5) 講演会、研究会の開催：道内市町村での開発特別講座、市民を対象とした講演会・シンポジウム、専門研究者による研究会の開催
- (6) その他：所蔵資料の閲覧・貸出、全国の図書館等と連動したレファレンスサービスの実施

3. 文献サービス

本研究所は、開発問題に関する文献の収集を行ってききましたが、近年は、世界的視野に立ったOECD（経済協力開発機構）資料やアジア経済関係資料の充実を図るとともに、国内的には、道内市町村史などの地域関係資料、行政資料（統計・白書等含む）、各種研究機関の研究報告書などの収集に力を注いでいます。

- (1) 図書：現在、日本語文献約13,750冊、外国語文献約4,700冊が利用可能です。この他に、北海道新聞創設期からのマイクロフィルムが充実しています。
- (2) 雑誌：現在、和・洋雑誌合わせて約650タイトルが利用可能です。

4. 総合研究の成果と計画

経済・経営・法学・人文・工学と幅広い学部を有する大学の特色を生かして、総合的な研究課題について、本研究員がそれぞれの専門領域を生かしつつ学際的に研究を行っています。この研究成果は、開発論集やニュースレター（年2回発行）にて広く公開しています。

近年のテーマについては、以下の通りです。

「北海道における発展方向の創出に関する基礎的研究」（2015年～2017年）、「地域資源開発の総合的研究—北海道の産業遺産、北海道の歴史遺産、北海道の文化遺産、北海道の自然遺産からの接近と再構築—」（2018年～2020年）、北海道における持続可能な地域社会の形成方策に関する総合的研究～地方創生とSDGsからのアプローチ～（2021年～2023年）

5. 地域連携

開発研究所では、地域連携推進機構に関する業務も行って、協定締結などを基に、自治体や地域団体と

の協議により協働事業等を進めています。

また、教育・研究成果を広く社会に還元し、地域づくり・まちづくり・人づくり等の目的を実現するための公開講座（地域連携特別講座）や地域連携に関する講演会・研究会を開催しています。

その他、北海道を中心として地域との連携を深めながら課題の解決に取り組み、社会への貢献・人材育成を図る目的の地域連携事業として今までに20の事業を行って、そのうち10の事業が継続中です。

6. 場 所

研究室棟（4号館）1階

利用時間

月・水・金曜日 9：30～19：30

火・木曜日 9：30～16：30

土曜日 9：30～12：30

（昼休み時間 12：40～13：40）

休館日

日曜、祝日、入学式、創立記念日、全学休業日、年末年始の休業日、入学試験日・準備日、卒業式、その他、臨時で休館する場合があります。

※ゼミのレポート作成などで、調べものをしたい時には、遠慮なくお越しください。

資料室 2

大型図書	古い資料 ※未貸出対象 中国・韓国 関連図書	古い資料 ※未貸出対象 洋・年鑑 OECD関連	開発研究所 発行冊子(在庫)	
大型図書 中国関連図書				OECD 関連 図書・ 雑誌
アジア経済研究所出版図書				洋 図 書 ①
雑誌③(50音順)				
雑誌②(50音順)				
雑誌①(50音順)				洋 図 書 ②
図書⑤ 601～				
図書④ 452～600				洋 雑 誌
図書③ 334～451				
図書② 291～333				
年鑑・年報、白書・統計③ 図書① 0～290				マ イ ク ロ フ ィ ル ム
年鑑・年報、白書・統計②				
年鑑・年報、白書・統計①				

資料室 1

専門図書館協議会 雑誌(50音順)③	北 海 道 新 聞 D V D
専門図書館協議会 雑誌(50音順)②	
専門図書館協議会 雑誌(50音順)①	
専門図書館協議会 図書	北 海 道 新 聞
社史 仮置き場	北 海 道 学 園 大 学 関 連 図 書
市町村史②	フ ィ イ ク ル ム
ニ ュ ー ス レ タ ー	イ P a d
	本 の 検 索
閲覧コーナー	新 聞
市町村史①	手 洗

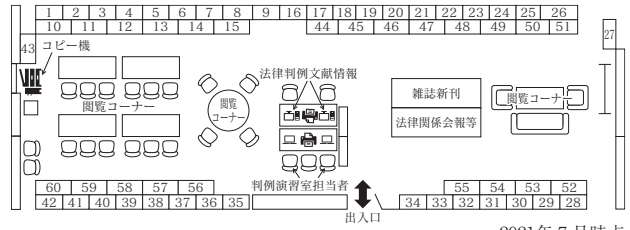
(3) 判例演習室案内

判例演習室は、わが国の法令集、判例集、判例および判例研究を収めた法律専門雑誌（大学紀要を除く）を整備し、わが国の判例を研究・教育するための施設として教員および学生の利用に供されている。また、求めに応じて一般の利用も認められる。収蔵されている判例集は18種、法律専門雑誌は60種以上にのぼり、それらの検索のために、「ロー・ライブラリー」「LLI統合型法律情報システム」「第一法規法情報総合データベース」「Westlaw」を導入し、検索サービスを行っている。なお、以上の基本的な判例集等の一層の充実のほか、文献情報を的確に入手できる最新諸機器の導入をはかり本学の特色の1つとなっている。

〔学生閲覧内規〕

1. 法学部学生および大学院法学研究科および大学院法務研究科の学生は、備付けの図書を閲覧し、または検索用機器を利用することを目的とする場合に限り、本室を利用することができる。
2. 入室の際には、本室係員に学生証を提出しなければならない。
なお、本室に施錠してあって入室できないときは、法学部事務室で鍵を借りて本室を利用することができる。その場合、その者の学生証を法学部事務室で保管する（午後7時30分まで利用可）。
3. 第1項の学生を除く学部・大学院の学生で、とくに本室の利用を希望する学生は、本室係員にその旨を申し出るものとする。
利用の手続きについては、第1項の学生に準じて扱う。
4. 本室備付け図書は、室外に帯出することはできない。
5. 本室備付け図書を複写するために、設置のコピー機を利用することができる（コピーカードのみ使用可）。複写できる範囲は著作権法の定めるところに従う。
6. 本室内での携帯電話の利用、飲食および喫煙を禁止する。
7. 開室時間
月～金曜日 10:00～20:00
土曜日 10:00～15:00

判例演習室 資料配架場所マップ



2021年7月時点

- | | |
|--|---|
| 1. 大審院民事判例集（判決録） | 38-39. 労働判例 |
| 1-2. 大審院刑事判例集（判決録） | 38. 北海学園大学法学研究 |
| 2. 裁判評誌大審院判決例判例民法（判例民事法）
労働関係民事裁判例集 | 39. 日本労働研究雑誌（日本労働協会雑誌） |
| 3. 行政事件裁判例集 | 40-41. 大審院刑事判決録 |
| 4. 高等裁判所判例集（刑事・民事）
高等裁判所刑事裁判特報
高等裁判所刑事判決特報
東京高等裁判所刑事判決時報
東京高等裁判所民事判決時報 | 40. 税務事例
国民生活
民事法情報 |
| 5. 下級裁判所民事裁判例集
下級裁判所刑事裁判例集
刑事裁判月報 | 41. 私法判例リマックス
生命保険判例集
消費者法ニュース |
| 6. 公正取引 | 42. 法曹
環境・公害関係資料集
法律判例文献情報
修士・博士論文
Lexis企業法務
Lexis判例速報 |
| 6-7. 別冊商事法務 | 43. 法学セミナー |
| 7-8. 旬刊商事法務（商事法務研究） | 44-45. 最高裁判所民事判例集 |
| 8. 手形研究
銀行法務21 | 45-46. 最高裁判所刑事判例集 |
| 8-9. 国際商事法務 | 46. 公正取引委員会審決集
公正取引委員会排除命令集 |
| 9. 月刊監査役
研修（1～33号は研修月報） | 47-48. 法曹時報 |
| 10-11. 法律時報 | 48-49. 法学教室 |
| 11. 別冊法律時報
法律時報増刊 | 49. 別冊付録判例セレクト |
| 12-13. 金融法務事情 | 49-50. 家庭裁判月報 |
| 13. 資料版商事法務 | 50. 戸籍 |
| 14. NBL（NewBusinessLaw） | 51. 交通事故民事裁判例集
家庭の法と裁判 |
| 15. 金融・商事判例 | 52. 最高裁判所判例解説 刑事篇
最高裁判所判例解説 民事篇
DHC不動産税務釈義
DHCコンメンタール所得税法 |
| 16-18. 判例時報 | 53. DHCコンメンタール相続税法
裁判所時報
週刊法律新聞
法律のひろば |
| 18. 判例評論 | 54. 警察学論集
判例地方自治
判例体系労働法 |
| 19-21. 判例タイムズ | 55. 刑事法ジャーナル
自由と正義
捜査研究 |
| 21. 別冊判例タイムズ | 56. 法律新聞
現代法律百科大辞典 |
| 22-23. ジュリスト | 57. Business Law Journal
衆議院憲法調査会報告書
大審院民事判決録
大審院判決全集
大審院判例（大審院判例拾遺）
北海学園大学法学研究 |
| 24. 別冊ジュリスト（判例百選・争点シリーズ等）
ジュリスト増刊 | 58. 税（税別冊） |
| 25-26. 民商法雑誌 | 58-59. 税理 |
| 26. 民事研修（みんけん） | 59. 税理別冊
日本労働法学会誌（労働法） |
| 27. 警察研究 | 60. 公正取引情報
重要労働判例総覧
知的財産法政策学研究
日本工業所有権法学会年報
日本国際経済法学会年報
別冊労働判例
労働判例・定期刊行物総合索引 |
| 28. ビジネス法務 | |
| 31. 判例体系 | |
| 32. 労働法規総覧
判例・通達実務大六法 | |
| 33-34. 現行法規総覧 | |
| 35-36. 法学協会雑誌 | |
| 36. 比較法研究 | |
| 37. アメリカ法
金融法研究
信託法研究
世界法年報
労働経済判例速報
労働法律旬報
海法会誌 | |

*書物は帯出禁止です。当室のコピー機で、ご利用願います（コピー・カードのみの使用となります）。

11. 教育用コンピュータ実習室案内(豊平校舎)

1. 教育用コンピュータ実習室概要

本実習室施設は情報教育の一環として、昭和60年4月に2号館3階に開設されました(現コンピュータ実習室B)。その後、利用者急増による施設拡充として平成元年1月には5号館3階に新たな実習室(コンピュータ実習室A)が開設、平成15年4月には3号館3階に実習室(コンピュータ実習室CおよびD)が開設されました。また、平成15年度の新学部新学科の増設に伴い、平成15年9月には7号館5・6階にも実習室(地域経済情報検索室、マルチメディア実習室、コンピュータ実習室E)が開設されました。

これら実習室は、情報関連科目およびコンピュータを利用する授業展開科目、授業時間外での実習(予習・復習)、一般授業においてのデータ収集やレポート作成といった授業の補助的な利用など、教育・研究における利用を主たる目的としています。

2. 利用資格

以下のいずれかに該当し、学内ネットワークの利用許可を受けた者とする。

- (1) 本学教職員
- (2) 本学学部生、大学院生、研究生
- (3) その他、教育用コンピュータ実習室運営委員会が利用を認めた者

利用有効期間は、(1)は在職中、(2)は在学中、(3)は当該年度とします。

※科目等履修生、委託生、特別聴講学生については、(3)に該当します。

3. 利用の手続き

実習室を利用するためには、学内ネットワークの利用許可が必要です。

許可を受けるための手続きについては、学内ネットワーク利用ガイダンス時に説明を受けてください。

4. 設備

各実習室の設備は以下のとおりです。

○パソコン

- ①コンピュータ実習室A
実習室1 富士通FMV ESPRIMO K558/B 64台
実習室2 富士通FMV ESPRIMO K558/B 64台
実習室3 富士通FMV ESPRIMO K558/B 56台
 - ②コンピュータ実習室B★
富士通FMV ESPRIMO K558/B 96台
 - ③コンピュータ実習室C
富士通FMV ESPRIMO K558/B 56台
 - ④コンピュータ実習室D★
富士通FMV ESPRIMO K558/B 32台
 - ⑤コンピュータ実習室E
富士通FMV ESPRIMO K558/B 72台
 - ⑥マルチメディア実習室
富士通FMV ESPRIMO K558/B 30台
 - ⑦地域経済情報検索室
富士通FMV ESPRIMO K558/B 48台
 - ⑧CALL教室
富士通FMV ESPRIMO K558/B 60台
- (※“授業以外での利用”は、上記で「★」がつい

ている実習室を主に開放しています。)

○ソフトウェア

Word2019, Excel2019, Access2019, PowerPoint2019, Publisher2019等

○その他

プリンタ, スキャナ, 中間モニタ, ヘッドセット等

5. 利用時間

授業外実習(自学自習)の利用時間

○授業開講期間(予備日・定期試験期間を含む)

月～金 9:00～22:00

土 9:00～16:30

○長期休業期間(夏期・春期)

掲示物やG-PLUS!等でお知らせします。

○閉室日

日曜日, 祝祭日, 入学式, 創立記念日(5月16日), 全学休業日(8月中旬), 年末年始休業, 入学試験日(2月8日～12日), 大学祭(10月9日～11日), 卒業式

※その他, メンテナンス等による閉室もありますので, 掲示物やG-PLUS!等で確認してください。

6. 利用上の注意

学内ネットワークガイダンス時に配布される冊子『学内ネットワーク利用の手引き』に実習室利用に関する詳細が記載されていますので, 熟読のうえ, 規程・規則等を守って利用してください。

ウイルスを発生させた学生, または不正アクセス等(なりすまし, 著作権・肖像権の侵害, ファイル共有ソフトの利用等)をした学生は, 学内の規程等に基づき処罰(利用資格の取り消し等)されますので注意してください。

12. 学則及び関連規則，規程関係

(1) 北海学園大学学則

昭和43年4月1日	制定
昭和45年4月1日	変更
昭和51年4月1日	〃
昭和54年4月1日	〃
昭和56年4月1日	〃
昭和57年4月1日	〃
昭和58年4月1日	〃
昭和59年4月1日	〃
昭和60年4月1日	〃
昭和61年4月1日	〃
昭和62年4月1日	〃
昭和63年4月1日	〃
平成元年4月1日	〃
平成2年4月1日	〃
平成3年4月1日	〃
平成3年12月1日	〃
平成4年4月1日	〃
平成5年4月1日	〃
平成6年4月1日	〃
平成7年4月1日	〃
平成8年4月1日	〃
平成9年4月1日	〃
平成10年4月1日	〃
平成11年4月1日	〃
平成12年4月1日	〃
平成13年4月1日	〃
平成14年4月1日	〃
平成15年4月1日	〃
平成16年4月1日	〃
平成17年4月1日	〃
平成18年4月1日	〃
平成19年4月1日	〃
平成20年4月1日	〃
平成21年4月1日	〃
平成22年4月1日	〃
平成23年4月1日	〃
平成24年4月1日	〃
平成25年4月1日	〃
平成26年4月1日	〃
平成27年4月1日	〃
平成28年4月1日	〃
平成29年4月1日	〃
平成30年4月1日	〃
平成31年4月1日	〃
令和2年4月1日	〃
令和3年4月1日	〃
令和4年4月1日	〃

第5節	授業料等，授業料等の免除，受講停止（第34条－第37条）
第6節	研究生，委託生，科目等履修生及び特別聴講学生（第38条－第46条）
第7節	賞罰（第47条－第49条）
第3章	教育職員免許状等（第50条－第51条の2）
第4章	公開講座（第52条）
第5章	組織
第1節	職員の組織（第53条－第56条）
第2節	教授会，協議会，全学教授会及び委員会等（第57条－第62条）
第6章	附属施設（第63条－第66条）
第7章	雑則（第67条）
	附則

第1章 総則

(目的)

第1条 北海学園大学は，法令の定めるところに従い，最高の学術とその応用とを研究教授し，さらに人格の陶冶と身体の錬成とに努め，国家社会のために有為の人材を養成することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 北海学園大学（以下「本大学」という。）は，その目的を達成するため，本大学における教育研究活動等の状況について，自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項については，別に定める。

(認証評価)

第2条の2 本大学は，前条の措置に加え，教育研究等の総合的な状況について，政令で定める期間ごとに，文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

(ファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメント)

第2条の3 本大学は，授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

2 本大学は，教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため，その教育職員及び事務職員に必要な知識及び技能を習得させ，並びにその能力及び資質を向上させるための研修（前項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

(情報公開)

第2条の4 本大学は，教育研究活動等の状況について，刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって積極的に情報を提供するものとする。

(学部，学科，入学定員，編入学定員及び収容定員)

第3条 本大学に，次の学部及び学科を置き，入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

学 部	(学 科)	(入学定員)	(編入学定員)	(収容定員)
			(3年次)	

第1章 総則（第1条－第7条）				
第2章 学生			人	人
第1節 入学，編入学，転学部，転学及び留学（第8条－第16条）	経済学部1部	経済学科	160	640
第2節 授業科目，履修方法，単位認定基準及び試験（第17条－第26条）	同 上	地域経済学科	140	560
第3節 休学，退学及び除籍（第27条－第31条）	経済学部2部	経済学科	75	300
第4節 卒業及び学士の学位（第32条・第33条）	同 上	地域経済学科	45	180
	経営学部1部	経営学科	160	640
	同 上	経営情報学科	140	560

目次

経営学部2部	経営学科	100	400
法学部1部	法律学科	155	20 660
同上	政治学科	100	10 420
法学部2部	法律学科	120	480
同上	政治学科	60	240
人文学部1部	日本文化学科	100	400
同上	英米文化学科	95	380
人文学部2部	日本文化学科	40	160
同上	英米文化学科	30	120
工学部	社会環境工学科	60	240
同上	建築学科	70	280
同上	電子情報工学科	70	280
同上	生命工学科	60	240

- 2 各学部に関する規則は、別に定める。
 3 前項の規則には、各学部・学科ごとに教育研究上の目的を定めるものとする。
 4 本大学に、大学院を置く。大学院の学則は、別に定める。
 (学年及び授業期間)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- 2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第5条 学年を次の2学期に分ける。

第1学期 4月1日から9月30日まで

第2学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 授業を行わない日(以下「休業日」という。)は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する日
- (3) 創立記念日 5月16日
- (4) 春季休業
- (5) 夏季休業
- (6) 冬季休業

2 前項第4号から第6号までに掲げる休業日は、別に定める。

3 学長は、協議会の議を経て休業日を変更し、臨時休業日を設け、又は休業日に授業を行うことができる。
 (修業年限及び在学期間)

第7条 本大学の修業年限は、4年とし、在学期間は、修業年限の2倍を超えることができない。

第2章 学生

第1節 入学、編入学、転入学、転学部及び留学

(入学)

第8条 入学期は、毎学年の始めとする。

第9条 本大学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 12年の学校教育の課程を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を

修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) その他、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学で認められた者

第10条 本大学に入学を志願する者は、所定の書類に別表13に定める入学検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

第11条 入学志願者については、別に定める入学試験規程により、所定の入学試験を行い合格者を決定する。

2 前項による合格の通知を受けた志願者のうち、所定の期日までに所定の手続きを完了した者に、学長は、入学を許可する。

(編入学、転入学、転学部)

第12条 次の各号の一に該当する者について、教授会で選考のうえ、学長が編入学又は転入学を許可することができる。

(1) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者(中途退学者を含む。)で、入学を志願する者

(2) 大学を卒業した者で、入学を志願する者

(3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者で、入学を志願する者

(4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る)

(5) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科(以下「高等学校等の専攻科」という。)のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る)

(6) 外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)

2 前項の規定にかかわらず、大学に1年以上在学し、所定の単位を修得した者で、法学部第2年次に入学を志願する者については、法学部教授会で選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

3 前二項の規定により入学を許可された者の入学前に履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の一部又は全部の認定は、教授会の議を経て行うものとする。

4 前項に規定する者の入学前の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の専門課程又は高等学校等の専攻科における在学年数については、その一部又は全部を当該学部の教授会の議を経て、本大学における在学期間に算入することができる。

第13条 一つの学部の学生であって、他の学部に転入学を志願する者又は他の大学から本大学に転入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、教授会で

選考のうえ、学長が許可することができる。

- 2 前項の規定により転学部を志願する者にあつては、在学する学部の、転入学を志願する者にあつては、在学する大学の許可証を所定の書類に添えなければならない。
- 3 前項の規定により転学部又は転入学を許可された者の転学部又は転入学前に履修した授業科目について修得した単位の一部又は全部の認定は、教授会の議を経て行うものとする。

第14条 他の大学に転入学を志願する者は、書面をもってその旨学部長を経由して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(留学)

第15条 学生が海外の大学その他の相当と認められる教育・研究機関等に留学する場合は、第24条の規定を準用するほか、別に定める規定による。

- 2 休学期間中に、学生が前項の機関等に留学する場合も、前項と同様とする。ただし、第24条第3項は準用しない。

(二重学籍の禁止)

第16条 本大学の学生は、他の大学に在籍することを認めない。ただし、本大学と海外の大学との共同学位にかかる協定による場合は、この限りではない。

第2節 授業科目、履修方法、単位認定基準及び試験

(授業科目)

第17条 授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

(授業科目の区別)

第18条 各学部の授業科目、授業科目の単位数及び年次配当並びに必修科目、選択科目及び自由科目の区別は、別表1から別表9のとおりとする。

(他学部の授業科目の履修)

第19条 学生は、他の学部の授業科目を履修することができる。この場合、所属する学部の学部長及び当該他学部の学部長の許可を得なければならない。

(単位数の計算方法)

第20条 各授業科目の単位数の計算は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて、次の各号に掲げる基準による。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (4) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (5) 体育実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

- 2 本大学は、前項に規定する授業科目について、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該

授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(卒業論文等)

第21条 卒業論文、卒業研究及び卒業制作の履修方法並びに単位認定については、学部規則で定める。

(単位修得の認定)

第22条 履修した授業科目の単位修得の認定は、試験成績と平素の成績とを総合し、教授会の議を経て行うものとする。ただし、授業料等未納の者及び出席時数3分の2以下の者については、単位の認定をしない。

- 2 前項の規定にかかわらず、別表10に掲げる「教職課程授業科目」の単位修得の認定は、教職課程委員会に、別表11の(1)に掲げる「司書に関する科目」及び別表11の(2)に掲げる「司書教諭に関する科目」の単位認定は、図書館学課程委員会に、別表11の(3)に掲げる「社会教育主事に関する科目」の単位修得の認定は、社会教育主事課程委員会に、別表11の(4)に掲げる「学芸員に関する科目」の単位修得の認定は、学芸員課程委員会にそれぞれ委任するものとする。

ただし、社会教育主事に関する科目、学芸員に関する科目のうち、学部及び他の課程委員会に関わる授業科目の単位修得の認定は、社会教育主事課程委員会及び学芸員課程委員会にそれぞれ委任するものとする。

- 3 別表12(1)及び(2)に掲げる「日本語教員養成課程授業科目」の単位認定は、人文学部教授会が行う。ただし、他学部開講の授業科目の単位認定は、当該学部が行う。

- 4 第20条第2項に定める授業科目の履修により修得できる単位数は、第32条第1項各号に定める所定の単位のうち、60単位を超えないものとする。

(成績の評価)

第23条 授業科目の成績の評価は、秀(S)、優(A)、良(B)、可(C)及び不可(D)とし、秀、優、良及び可を合格とする。ただし、この成績の評価になじまない一部の科目は合及び否とし、合を合格とする。

- 2 前項に規定する成績評価と評点との対応は次の各号に掲げる基準による。

- | | |
|--------|---------|
| (1) 秀 | 100~90点 |
| (2) 優 | 89~80点 |
| (3) 良 | 79~70点 |
| (4) 可 | 69~60点 |
| (5) 不可 | 59~0点 |

(他大学等の授業科目の履修)

第24条 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学の授業科目を履修することを認めることができる。

- 2 前項により学生が履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本大学において修得した単位とみなすことができる。

- 3 第1項及び前項により学生が授業科目を履修するために本大学を離れて他の地に滞在する期間は、本大学の在学期間を含めることができる。

- 4 学部は、第1項の実施にあたって、履修できる授業科目の範囲等必要な事項について、教授会の議に基づき学長の許可を得て、当該他大学又は短期大学と協議しなければならない。

(大学以外の教育施設等における学修)

第25条 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定める認定の

基準により教授会の議を経て単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第26条 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の専門課程又は高等学校等の専攻科において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、別に定める認定の基準により教授会の議を経て認定することができる。

- 2 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定める認定の基準により教授会の議を経て単位を与えることができる。
- 3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第24条第2項及び第25条第2項において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 前項の単位は、第7条に定める修業年限の短縮を伴わない。

第3節 休学、退学及び除籍

(休学)

第27条 学生は、疾病その他の事情で引続き3ヵ月以上就学できないとき、その他特別の理由があると認められるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、その学年の終わりまで休学することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、学年の始めにおいて既に4年の修業年限を満たしている者は、疾病その他の事情で引続き3ヵ月以上就学できないとき、その他特別の理由があると認められるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、第1学期の終わりまで休学することができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学年の始めにおいて前年度の第2学期のみ休学した者(学期途中からの休学を含む)は、疾病その他の事情で引続き3ヵ月以上就学できないとき、その他特別の理由があると認められるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、第1学期の終わりまで休学することができる。
- 4 疾病のため就学することが適当でない学生については、教授会の議を経て、学長は、当該学生に休学を命じることができる。
- 5 休学理由が消滅し、休学期間が満了した学生については、教授会の議を経て、学長は復学させることができる。

(休学期間)

第28条 休学期間は当該年度限りとする。ただし、特別の理由があるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、さらに1ヵ年について休学することができる。

- 2 第27条第2項及び第3項による休学の場合、前項の「1ヵ年」は「次の学期とその翌年度の第1学期」と読み替える。
- 3 前二項の規定により休学延長をするときは、当初の休学期間を含めて連続して2ヵ年を限度とする。

- 4 通算して休学できる期間は、4年以内とする。

- 5 休学期間は、第7条の修業年限及び在学期間に加え

ない。

(退学)

第29条 学生が退学しようとするときは、所定の書類をもって学部長を経由して学長に願い出、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

(再入学)

第30条 前条による退学者が3年以内に再入学を願い出た場合は、学長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。

(除籍)

第31条 学生が次の各号の一に該当する場合は、学長は、教授会の議を経て、これを除籍することができる。

- (1) 第7条に規定する在学期間を超えるとき
 - (2) 死亡したとき
 - (3) 行方不明になったとき
 - (4) 授業料等の納付を怠り督促してもなお納入しないとき
 - (5) 休学期間満了前に、復学、退学又は休学の願い出がないとき
 - (6) 入学を辞退したとき
- 2 前項第3号、第4号又は第5号により除籍された者が復籍を願い出たときは、第30条の規定を準用する。

第4節 卒業及び学士の学位

(卒業)

第32条 学長は、本大学に4年以上在学し、学部長が教授会の議を経て次の各号に定める単位の修得を認定した者に卒業を許可することができる。

- (1) 経済学部1部経済学科にあっては、別表1(1)に掲げる授業科目のうち、132単位以上
- (2) 経済学部1部地域経済学科にあっては、別表1(2)に掲げる授業科目のうち、132単位以上
- (3) 経済学部2部経済学科にあっては、別表2(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (4) 経済学部2部地域経済学科にあっては、別表2(2)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (5) 経営学部1部経営学科にあっては別表3(1)に掲げる授業科目のうち、138単位以上
- (6) 経営学部1部経営情報学科にあっては別表3(2)に掲げる授業科目のうち、138単位以上
- (7) 経営学部2部経営学科にあっては別表4(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (8) 法学部1部法律学科にあっては、別表5(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (9) 法学部1部政治学科にあっては、別表5(2)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (10) 法学部2部法律学科にあっては、別表6(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (11) 法学部2部政治学科にあっては、別表6(2)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (12) 人文学部1部日本文化学科にあっては、別表7(1)に掲げる授業科目のうち、132単位以上
- (13) 人文学部1部英米文化学科にあっては、別表7(2)に掲げる授業科目のうち、132単位以上
- (14) 人文学部2部日本文化学科にあっては、別表8(1)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
- (15) 人文学部2部英米文化学科にあっては、別表8(2)に掲げる授業科目のうち、124単位以上

- (16) 工学部社会環境工学科にあつては、社会環境コース別表9(1)及び環境情報コース別表9(2)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
- (17) 工学部建築学科にあつては、別表9(3)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
- (18) 工学部電子情報工学科にあつては、別表9(4)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (19) 工学部生命工学科にあつては、別表9(5)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
- 2 卒業要件の細目については、学部規則で定める。
- 3 卒業の時期は学年末とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、学年の始めにおいてすでに4年の修業年限を満たしている者で、第1学期の履修により第1項各号に定める単位を修得した者から申し出のあるときは、第1項の定めるところにより、学年途中において卒業を許可する。この場合、卒業の時期は第1学期末とする。
- 5 第1項の規定にかかわらず、学長は本大学に3年以上在学し、学部長が教授会の議を経て、学部の定める卒業に必要な基準を満たしたと認定した者に卒業を許可することができる。

(学位の授与)

- 第33条** 学長は、本大学を卒業した者に、卒業証書を授与するとともに、北海学園大学学位規則に定めるところにより学士の学位を授与する。
- 2 北海学園大学学位規則は、別に定める。

第5節 授業料等、授業料等の免除、受講停止 (授業料等)

- 第34条** 学生は、別表13に定める入学金、授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費を、別に定めるところにより納入しなければならない。

- 2 特別の事情により、授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費の納入が困難な場合は、学生は、別に定めるところにより当該納入金を延納することができる。
(授業料等の免除)

- 第35条** 休学者は、その期間中の授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費の納入を免除する。

ただし、別表13による各分納期の中で休学、退学又は転学する場合は、その期の授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費の納入を免除しない。

- 2 第32条第4項に基づき第1学期末の卒業を認められた者については、第2期分の授業料等の納入を免除する。
- 3 第16条に基づき本大学と海外の大学との共同学位にかかる協定により海外の大学に在籍している者については、その期間中の授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費の納入を免除することができる。

(受講停止)

- 第36条** 正当な理由なく授業料等を納入しない者は、受講を停止する。

(入学検定料等の不返還)

- 第37条** 既に納入した入学検定料、入学金、授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費は、返還しない。

第6節 研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生

(研究生)

- 第38条** 本大学において、特定事項について研究しようとする者があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の選考を経て、研究生として、これ

を許可することができる。

- 2 研究生の取扱いは、別に定める規程による。
(委託生)

- 第39条** 公共団体又はその他の機関より、本大学の特定の授業科目について修学を委託される者があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の選考を経て、委託生とし、これを許可することができる。
(科目等履修生)

- 第40条** 本大学の特定の授業科目について、履修を希望する者があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の選考を経て、科目等履修生として、これを許可することができる。

- 2 科目等履修生の取扱いは、別に定める規程による。
- 3 第1項の規定にかかわらず、司書となる資格又は司書教諭の所要資格、社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格を取得するための科目等履修生の選考については、それぞれの課程委員会に委任するものとする。
- 4 科目等履修生の履修することのできる授業科目数は、これを制限することができる。
(委託生、科目等履修生の資格)

- 第41条** 委託生又は科目等履修生を志願する者は、第9条の入学資格と同等以上の資格を有する者でなければならない。

- 2 教育職員の免許状授与の所要資格の取得、司書となる資格又は司書教諭の所要資格、社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格を取得するための科目等履修生を志願する者の資格は、別に定める。
(手続)

- 第42条** 委託生又は科目等履修生を志願する者は、所定の入学願書に履修しようとする授業科目等を記載し、別表14に定める入学検定料を添えて、願い出なければならない。

(試験及び証明書)

- 第43条** 委託生又は科目等履修生は、その履修した授業科目の試験を受けることができる。

- 2 試験に合格した授業科目について、学長は、願い出により、証明書を交付することができ、科目等履修生については、単位を認定することができる。

(特別聴講学生)

- 第44条** 本大学において、特定の授業科目を履修し、単位を修得しようとする他の大学又は短期大学若しくは外国の大学又は短期大学の学生があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の議を経て、当該他大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として、これを許可することができる。

(入学金及び受講料等)

- 第45条** 研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生は、別表14に定める入学金、研究料又は受講料及び実験実習費を納入しなければならない。

- 2 既に納入した入学金、研究料又は受講料、実験実習費及び入学検定料又は審査料は、返還しない。
- 3 単位互換協定校又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金、受講料、実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。

(準用)

- 第46条** 研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生については、本節で定めるもののほかは、本学則及び本大学の学生に関する規定を準用する。ただし、研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生につい

ては、第32条及び第33条の規定を準用しない。

第7節 賞罰

(表彰)

第47条 将来有為の社会人としての素質を有し、本大学の伝統を形成し得ると認められる学生は、別に定める表彰規程により表彰する。

(奨学制度)

第48条 本大学学生育英のため、奨学制度を設ける。

2 奨学規程は、別に定める。

(懲戒)

第49条 学生が、その本分にもとる行為又は本大学の諸規程に違反する行為を行ったときは、教授会又は必要により協議会の議を経て、学長が懲戒を行う。

2 懲戒は、譴責、停学又は退学とし、退学は、次の各号の一に該当するものに対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく出席が常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第3章 教育職員免許状等

(教育職員の免許状授与の所要資格の取得)

第50条 本大学の学部の各学科に、教育職員の免許状授与の所要資格を取得する課程（以下「教職課程」という。）を置く。

2 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

3 教職課程授業科目は、別表10のとおりとする。

4 教科に関する専門的事項の一部については、同一学部の他の学科又は他の学部の授業科目を履修することができる。

5 本大学の教職課程において、当該所要資格を取得できる教育職員の免許状の種類は、次に掲げるとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	(免許教科)
経済学部	1部 経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)
経済学部	1部 地域経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
経済学部	2部 経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)
経済学部	2部 地域経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
経営学部	1部 経営学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)
経営学部	1部 経営情報学科	高等学校教諭一種免許状	(商業)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)
経営学部	2部 経営学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)

同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)
法学部	1部 法律学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
法学部	1部 政治学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
法学部	2部 法律学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
法学部	2部 政治学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
人文学部	1部 日本文化学科	中学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	1部 英米文化学科	中学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	2部 日本文化学科	中学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	2部 英米文化学科	中学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
工学部	社会環境工学科	中学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(工業)
工学部	建築学科	中学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(工業)
工学部	電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)
工学部	生命工学科	中学校教諭一種免許状	(理科)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(理科)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)

6 教職課程を履修するために必要な事項は、別に定める。

7 教職課程授業科目を履修する者は、別表14に定める受講料を納入しなければならない。

(司書となる資格、司書教諭の所要資格、社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格の取得)

第51条 本大学に、司書となる資格又は司書教諭の所要資格を取得する課程（以下「図書館学課程」という。）、社会教育主事となる資格を取得する課程（以下「社会教育主事課程」という。）及び学芸員となる資格を取得する課程（以下「学芸員課程」という。）を置く。

2 本大学の図書館学課程で取得できる資格の種類は、司書となる資格又は司書教諭の所要資格とする。

3 本大学の社会教育主事課程で取得できる資格は、社会教育主事となる資格とする。また、この資格を取得した者は、社会教育士（養成課程）と称することができる。

4 本大学の学芸員課程で取得できる資格は、学芸員となる資格とする。

5 第2項、第3項及び第4項の資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、別表11の(1)、(2)、(3)及び(4)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 6 図書館学課程，社会教育主事課程及び学芸員課程を履修するために必要な事項は，別に定める。
- 7 図書館学課程，社会教育主事課程及び学芸員課程の授業科目を履修する者は，別表14に定める受講料を納入しなければならない。

(日本語教員養成課程)

第51条の2 本大学に日本語教員養成課程を置く。

- 2 日本語教員養成課程を履修するために必要な事項は，別に定める。
- 3 日本語教員養成課程の授業科目を履修する者は，学則別表14(9)に定める受講料を納入しなければならない。

第4章 公開講座

(公開講座)

第52条 本大学は，公開講座を設けることができる。

第5章 組織

第1節 職員の組織

(職員)

第53条 本大学に，次の職員を置く。

- (1) 教育職員(学長，教授，准教授，講師及び助教)
- (2) 事務職員
- 2 学長は，前項のほか，必要な職員を置くことができる。
- 3 教授，准教授，講師及び助教の選考基準に関する規程は，別に定める。

(学長)

第54条 学長は，校務をつかさどり，所属職員を統督する。

- 2 学長候補の選出については別に定める。
- 3 学長の任期は4年とし，これに満たない在任期間も1期とみなす。
- 4 再任の場合の任期は2年とし，学長在任が連続3期となる選出は認めない。

(副学長)

第54条の2 本大学に内部質保証担当と総務担当の副学長を置き，本大学の教授をもって充てる。

- 2 副学長は学長を補佐し，学長の命を受け，内部質保証または総務に関する校務をつかさどる。
- 3 学長に事故あるときは，予め学長の指名した副学長がその職務を代行する。
- 4 副学長の任期は2年とし，これに満たない在任期間も1期とみなす。
- 5 再任の場合の任期は2年とし，副学長在任が連続4期となる選出は認めない。
- 6 副学長候補の選出方法については，別に定めるところによる。

(学部長)

第54条の3 学部に学部長を置き，本大学の教授をもって充てる。

- 2 学部長は学長を補佐し，当該学部を統轄する。
- 3 学部長の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。
- 4 再任の場合の任期は1年とし，学部長在任が連続3期となる選出は認めない。
- 5 学部長候補の選出方法については，別に定めるところによる。

(学生部，キャリア支援センター，入試部及び教務センター)

第55条 本大学に学生部，キャリア支援センター，入試

部及び教務センターを置き，部長及びセンター長は，第59条第1項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

- 2 学生部，キャリア支援センター，入試部及び教務センターに関する規程は，別に定める。

(事務組織)

第56条 本大学は，その事務を遂行するため，事務組織を設ける。

- 2 事務組織及び事務分掌については，別に定める。

第2節 教授会，協議会，全学教授会及び委員会等

(教授会)

第57条 学部に，教授会を置き，所属の専任の教授，准教授，講師及び助教をもって構成する。

- 2 教授会は，次の事項を審議する。
 - (1) 教育研究上の目的に関する事項
 - (2) 学部の規則及び内規に関する事項
 - (3) 学部長及び協議員の選出に関する事項
 - (4) 教育課程の編成に関する事項
 - (5) 学生の入学，退学，休学，卒業その他の学籍に関する事項
 - (6) 学位授与に関する事項
 - (7) 賞罰に関する事項
 - (8) 研究に関する事項
 - (9) 教員の選考に関する事項
 - (10) 予算概算の要求及び配布予算の執行に関する事項
 - (11) 学長より諮問された事項
 - (12) その他教育研究に必要な事項

3 教授会は，前項に掲げる事項のうち第1号から第11号までの事項及びその他学長が定める事項について，学長に意見を述べるものとする。

4 教授会は，学部長が招集し，その議長となる。ただし，構成員の3分の1以上の請求があるときは，これを招集しなければならない。

5 教授会は，構成員の半数以上が出席しなければ議事を開き議決することができない。教授会の議事は，出席者の過半数をもって決する。

6 教員選考に関する事項は，別に定めるところによる。

7 学部長は，教授会が必要と認めるときは，他の職員の出席を求め，意見を聴くことができる。ただし，この職員は，議決に加わることはできない。

(協議会)

第58条 本大学に，重要事項を調整又は協議するため協議会を置き，次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 学部長
 - (4) 研究科長
 - (5) 各学部の教授会から選出された教員各2人。このうち少なくとも1人は教授をもって充てる。
 - (6) 学生部長，キャリア支援センター長，入試部長，教務センター長，図書館長及び開発研究所長。
- なお，本号に定める構成員を総称して，機関長という。

2 協議会は，次の各号に掲げる事項の調整又は協議を行う。

- (1) 予算概算の方針に関する事項
- (2) 人事基準の運用に関する事項
- (3) 学科課程の調整に関する事項

- (4) 全学的機関、学部間の調整事項
 - (5) 学生の厚生補導又はその賞罰に関する重要事項
 - (6) 学則その他の重要な規則の制定又は改廃に関する事項
 - (7) 学部、学科及び重要な施設の設置又は変更並びに廃止に関する事項
 - (8) 事務機構及び事務職員の配置に関する事項
 - (9) 大学の重要行事に関する事項
- 3 第1項第5号により選出された協議員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 前項の協議員の欠員により選出された協議員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 協議会は、学長が必要であると認めるとき、教授会の議により開催の要求があったとき、又は第1項に掲げる構成員の3分の1以上から開催の要求があるとき学長が、これを招集する。
- 6 学長は、協議会の議長となる。
- 7 協議会は、学部を代表する協議員1人以上が出席し、かつ、第1項に掲げる構成員の3分の2以上の出席がなければ、開催することができない。
- 8 協議会は、第2項第8号の事項に関して、学長の諮問に応じるため、人事委員会を設けることができ、副学長、学部長、機関長及び事務部長をもって構成する。
- 9 協議会には、学長の指定する所要の職員を列席させるほか、協議員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。
- (全学教授会)

第59条 本大学に重要事項を審議するため、全学教授会を置き、学長並びに各学部の専任の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。

- 2 全学教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
- (1) 機関長の選出
 - (2) 協議会において、協議不調となった事項中、次に掲げる事項
 - イ 学部、学科又は重要な施設の設置、変更又は廃止に関する事項
 - ロ 学則その他の重要な規則の制定又は改廃に関する事項
 - ハ 大学の重要行事に関する事項
 - ニ 学長又は協議会が必要と認める事項
- 3 学長は、全学教授会を招集する。ただし、構成員の3分の1以上から前条の事項につき開催の要求があるとき、又は協議会が必要と認めるときは、これを招集しなければならない。
- 4 全学教授会は、構成員の過半数が出席しなければ、開催することができない。
- 5 学長は、全学教授会の議長となる。
- 6 全学教授会の議決は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 7 全学教授会には、学長の指定する所要の職員を列席させるほか、構成員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(学長室)

第60条 本大学に、重要事項に関する学長提案を調整し、あわせてその運営に資するため、学長室を置き、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 事務部長

- (5) 大学院事務部長（兼）学長秘書業務総括担当
 - (6) 事務部課長
 - (7) 学長が必要と認め、協議会が承認した者
- 2 学長室は、次の各号に掲げる事項について学長提案の調整を行う。
- (1) 協議会の協議事項
 - (2) 将来構想委員会の審議事項
 - (3) その他学長が必要と認めた事項
- 3 学長室は、次の各号に掲げる事項について、事前協議又は調整を行うことができる。
- (1) 協議会の議題
 - (2) 将来構想委員会の議題
 - (3) その他学長が必要と認めた事項
- 4 学長は、年度毎に、第1項に規定する構成員の分掌及び第2項に基づく検討事項を協議会の議を経て定める。
- 5 第1項第7号構成員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 学長室は、必要に応じ構成員以外の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(委員会)

第61条 本大学に学生委員会、キャリア支援委員会、入試委員会、図書委員会及び教務委員会を設ける。

2 委員会に関する規程は、別に定める。

第62条 前条第1項のほか、必要に応じて委員会を設けることができる。

第6章 附属施設

(図書館)

第63条 本大学に、図書館を置き、館長は、第59条第1項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

(開発研究所)

第64条 本大学に、開発研究所を置き、所長は、第59条第1項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

2 開発研究所に関する規程は、別に定める。

(厚生施設)

第65条 本大学の職員及び学生は、学園経営の厚生施設を利用することができる。

(診療所)

第66条 本大学の職員及び学生は、診療所において施療及び保健衛生に関する指導を受けることができる。

第7章 雑則

(学則の改廃)

第67条 本学則の改廃は、協議会の議を経て学長が行い、理事会の承認を得るものとする。

附則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附則

1 この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

2 ただし、第28条第1項の規定は昭和53年度以降の入学者から適用し、昭和52年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、昭和57年4月1日から施行する。
- ただし、第28条第1項の規定は昭和57年度以降の入学者から適用し、昭和56年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この学則は、昭和58年4月1日から施行する。
- ただし、第28条第1項の規定は昭和58年度以降の入学者から適用し、昭和57年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この学則は、昭和59年4月1日から施行する。
- ただし、第28条第1項の規定は昭和59年度以降の入学者から適用し、昭和58年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この学則は、昭和60年4月1日から施行する。
- ただし、第28条第1項の規定は昭和60年度以降の入学者から適用し、昭和59年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この学則は、昭和61年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	100
		建築学科	100
計			1,445

附 則

- この学則は、昭和62年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、昭和62年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附 則

- この学則は、昭和63年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、昭和63年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

- 第22条の別表1、別表3及び別表5のイの一般教育科目、別表1、別表2、別表3及び別表4のニの専門教育科目並びに第25条第5号の法学部1部、2部の単位数は、昭和63年度第1年次入学者から適用し、昭和62年度以前の入学者については、従前の規定による。

附 則

- この学則は、平成元年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、平成元年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附 則

- この学則は、平成2年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、平成2年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附 則

- この学則は、平成3年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120

法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

3 第27条第2項の規定は、平成2年度の入学生から適用する。

附則

- この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- ただし、第28条第1項の規定は平成4年度以降の入学者から適用し、平成3年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

- この学則は、平成5年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成5年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3 ただし、第28条第1項の規定は平成5年度以降の入学者から適用し、平成4年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

- この学則は、平成6年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成6年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3 ただし、第28条第1項の規定は平成6年度以降の入学者から適用し、平成5年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

- この学則は、平成7年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成7年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3 ただし、第28条第1項の規定は平成7年度以降の入学者から適用し、平成6年度以前の入学者については従前の規定による。

4 ただし、第25条の第5号の専門教育科目工学部土木工学科の卒業単位数は、平成7年度第1年次入学者から適用し、平成7年度第2年次以降の学生については、従前の規定による。

5 ただし、別表7のへの専門教育科目は、平成7年度第3年次学生から適用し、平成7年度第4年次学生については、従前の規定によることを追加する。

附則

- この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成8年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3 ただし、第28条第1項の規定は平成8年度以降の入学者から適用し、平成7年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

- この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成9年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
			人
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3 ただし、第28条第1項の規定は平成8年度以降の入学から適用し、平成7年度以前の入学者については従来の規定による。

附 則

- この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 次の各号に該当する者については、変更後の北海学園大学学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
 - 平成10年3月31日に本大学に在籍する者
 - 平成10年3月31日以前に本大学に入学した者で、再入学（復籍）する者
 - 平成10年4月1日以降平成12年3月31日以前に編入学する者
- 前項の取り扱いにおいて、教養部、教養部長又は教養部教授会の審議又は決定若しくは認定すべき事項については、それぞれ学部、学部長又は学部教授会が行うものとする。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成10年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員	収容定員
			人	人
経済学部	1部	経済学科	270	1,080
同	上	経営学科	270	1,080
経済学部	2部	経済学科	120	480
同	上	経営学科	120	480
法学部	1部	法律学科	270	1,080
法学部	2部	法律学科	120	480
人文学部	1部	日本文化学科	60	240
同	上	英米文化学科	60	240
人文学部	2部	日本文化学科	40	160
同	上	英米文化学科	30	120
工学部		土木工学科	80	320
同	上	建築学科	80	320
同	上	電子情報工学科	100	400
計			1,620	6,480

附 則

- この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 第3条に定める編入学定員により法学部1部法律学科に編入学する者については、平成10年4月1日施行学則附則第2項第3号の規定にかかわらず、本学則を適用する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成11年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	270		1,080
同	上	経営学科	270		1,080
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	190	20	800
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	60		240
同	上	英米文化学科	60		240
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
計			1,700	30	6,860

附 則

- この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成12年度

学 部 ・ 学 科 等			入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	263		1,073
同	上	経営学科	263		1,073
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	183	20	953
同	上	政治学科	100	10	200
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		120
人文学部	1部	日本文化学科	100		280
同	上	英米文化学科	95		275
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
計			1,754	30	6,734

平成13年度

学 部 ・ 学 科 等			入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	256		1,059
同	上	経営学科	256		1,059
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	176	20	859
同	上	政治学科	100	10	310
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		180
人文学部	1部	日本文化学科	100		320
同	上	英米文化学科	95		310

人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
			1,733	30	6,857

平成14年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
経済学部	1部	経済学科	249	人	1,038
同	上	経営学科	249		1,038
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	169	20	758
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	100		360
同	上	英米文化学科	95		345
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
			1,712	30	6,959

平成15年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
経済学部	1部	経済学科	242	人	1,010
同	上	経営学科	242		1,010
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	162	20	730
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	100		400
同	上	英米文化学科	95		380
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
			1,691	30	6,950

平成16年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
経済学部	1部	経済学科	235	人	982
同	上	経営学科	235		982
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	155	20	702
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480

同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	100		400
同	上	英米文化学科	95		380
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
			1,670	30	6,866

3 ただし、第22条第3項、第51条の2は、平成10年度以降入学者から適用する。

附 則

- この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成13年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
経済学部	1部	経済学科	256	人	1,059
同	上	経営学科	256		1,059
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	176	20	859
同	上	政治学科	100	10	310
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		180
人文学部	1部	日本文化学科	100		320
同	上	英米文化学科	95		310
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
			1,733	30	6,857

平成14年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
経済学部	1部	経済学科	249	人	1,038
同	上	経営学科	249		1,038
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	169	20	758
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	100		360
同	上	英米文化学科	95		345
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
			1,712	30	6,959

平成15年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	242	人	1,010
同 上 経営学科	242		1,010
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	162	20	730
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,691	30	6,950

平成16年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	235	人	982
同 上 経営学科	235		982
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,670	30	6,866

附 則

- この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成14年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成14年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	249	人	1,038
同 上 経営学科	249		1,038
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	169	20	758
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		360

同 上 英米文化学科	95		345
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,712	30	6,959

平成15年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	242	人	1,010
同 上 経営学科	242		1,010
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	162	20	730
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,691	30	6,950

平成16年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	235	人	982
同 上 経営学科	235		982
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,670	30	6,866

- ただし、第50条第3項及び第5項並びに第6項の規定は、平成13年度の入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成15年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成15年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	167	人	935
同 上 地域経済学科	140		140
同 上 経営学科	-		768
経済学部 2部 経済学科	75		435
同 上 地域経済学科	45		45
同 上 経営学科	-		360
経営学部 1部 経営学科	167		167
同 上 経営情報学科	140		140
経営学部 2部 経営学科	100		100
法学部 1部 法律学科	162	20	730
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,801	30	7,060

備考 経済学部1・2部は、平成15年4月1日改組転換を実施したため経済学部1部経営学科・2部経営学科は、募集停止となるため収容定員のみを表示とする。

平成16年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	832
同 上 地域経済学科	140		280
同 上 経営学科	-		505
経済学部 2部 経済学科	75		390
同 上 地域経済学科	45		90
同 上 経営学科	-		240
経営学部 1部 経営学科	160		327
同 上 経営情報学科	140		280
経営学部 2部 経営学科	100		200
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,086

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成16年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成16年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	832
同 上 地域経済学科	140		280
同 上 経営学科	-		505
経済学部 2部 経済学科	75		390
同 上 地域経済学科	45		90
同 上 経営学科	-		240
経営学部 1部 経営学科	160		327
同 上 経営情報学科	140		280
経営学部 2部 経営学科	100		200
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,086

備考 経済学部1・2部は、平成15年4月1日改組転換を実施したため経済学部1部経営学科・2部経営学科は、募集停止となるため収容定員のみを表示とする。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成17年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。
- ただし、土木工学科から社会環境工学科に名称変更することについては、平成17年4月1日に在籍している者から適用する。

平成17年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	736
同 上 地域経済学科	140		420
同 上 経営学科	-		249
経済学部 2部 経済学科	75		345
同 上 地域経済学科	45		135
同 上 経営学科	-		120
経営学部 1部 経営学科	160		487
同 上 経営情報学科	140		420
経営学部 2部 経営学科	100		300
法学部 1部 法律学科	155	20	681
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320

同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,133

備考 経済学部1・2部は、平成15年4月1日改組転換を実施したため経済学部1部経営学科・2部経営学科は、募集停止となるため収容定員のみを表示とする。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成18年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成18年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	647
同 上 地域経済学科	140		560
同 上 経営学科	-		-
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
同 上 経営学科	-		-
経営学部 1部 経営学科	160		647
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	667
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,201

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成19年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成19年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	640
同 上 地域経済学科	140		560
同 上 経営学科	-		-
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
同 上 経営学科	-		-
経営学部 1部 経営学科	160		640
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400

同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,180

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成24年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成24年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	640
同 上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
同 上 生命工学科	60		60
	1,780	30	7,180

附 則

- この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成25年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成25年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	640
同 上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同 上 経営情報学科	140		560

経営学部	2部	経営学科	100		400
法学部	1部	法律学科	155	20	660
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	100		400
同	上	英米文化学科	95		380
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		社会環境工学科	60		280
同	上	建築学科	70		300
同	上	電子情報工学科	70		340
同	上	生命工学科	60		120
			1,780	30	7,180

附 則

- この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成26年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成26年度

学 部 ・ 学 科 等			入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
			人	人	人
経済学部	1部	経済学科	160		640
同	上	地域経済学科	140		560
経済学部	2部	経済学科	75		300
同	上	地域経済学科	45		180
経営学部	1部	経営学科	160		640
同	上	経営情報学科	140		560
経営学部	2部	経営学科	100		400
法学部	1部	法律学科	155	20	660
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	100		400
同	上	英米文化学科	95		380
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		社会環境工学科	60		260
同	上	建築学科	70		290
同	上	電子情報工学科	70		310
同	上	生命工学科	60		180
			1,780	30	7,180

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- ただし、第32条第5項の規定は平成31年度以降の入学から適用し、平成30年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- ただし、第35条第3項の規定は令和2年度以降の入学から適用し、平成31年度以前の入学者については従前の規定による。
- 学部長職務規程は廃止する。

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	政治学	2				2	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌学	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物学Ⅰ	2				2	
	環境生物学Ⅱ	2				2	
	物質科学	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大 学	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	(共同学位プログラム科目) 共同学位協定校修得科目(一般)			1~4		1~4	
	(キャリア形成科目) キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	(体験型科目)						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	(留学生科目(外国人留学生・海外帰国生徒科目)) 代替科目						4単位までを基礎科目の言語の科目に、16単位までを教養科目に代替できる
	日本語演習Ⅰ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	すべての科目でⅡの履修はⅠの履修又は単位修得を前提とする
	日本語演習Ⅲ		2			2	日本語演習Ⅳの履修はⅢの履修又は単位修得を前提とする
	日本事情Ⅰ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	
	日本事情Ⅱ		2			2	
計		195	68	41 ~ 44		20 324 ~ 327	

□ 専門教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
○	人文学概論	2				2	
○	人文学演習A		2			2	
○	人文学演習B		2			2	
○	日本文化専門演習Ⅰ			2		2	
○	日本文化専門演習Ⅱ			2		2	
○	卒業研究				4	4	
	導入科目						
○	人文学基礎演習	2				2	
○	日本語文章表現演習	2				2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	英語科目						
	Communication Skills I	2				2	
	Communication Skills II	2				2	
	Communication Skills III		2			2	
	Communication Skills IV		2			2	
	Global English I	1				1	
	Global English II	1				1	
	Global English III		1			1	
	Global English IV		1			1	
	Reading I	1				1	
	Reading II	1				1	
	Reading III		1			1	
	Reading IV		1			1	
	Writing I	1				1	
	Writing II	1				1	
	Writing III		1			1	
	Writing IV		1			1	
	Cultural Perspectives in English I		2			2	
	Cultural Perspectives in English II		2			2	
	Cultural Perspectives in English III		2			2	
	Cultural Perspectives in English IV		2			2	
	Cultural Perspectives in English V				2	2	
	Cultural Perspectives in English VI				2	2	
	Intensive Communication Skills I				2	2	
	Intensive Communication Skills II				2	2	
	Special Skills I		2			2	
	Special Skills II		2			2	
	Special Lectures in English I				2	2	
	Special Lectures in English II				2	2	
	基礎・展開科目 (言語文化)						
	言語						
	日本語学概論Ⅰ	2				2	
	日本語学概論Ⅱ	2				2	
	日本語学特論Ⅰ			2		2	
	日本語学特論Ⅱ			2		2	
	日本語発声実習	2				2	
	日本語教授法Ⅰ		2			2	
	日本語教授法Ⅱ		2			2	
	日本語教授法Ⅲ			2		2	
	日本語教授法Ⅳ			2		2	
	日本語教育学特論			2		2	
	日本語教育演習			2		2	
	対照言語学	2				2	
	書道演習	2				2	
	英文学	2				2	
	英語音声学	2				2	
	英語学概論Ⅰ		2			2	
	英語学概論Ⅱ		2			2	
	文学						
	日本文学史Ⅰ	2				2	
	日本文学史Ⅱ	2				2	
	日本古典文学講読Ⅰ		2			2	
	日本古典文学講読Ⅱ		2			2	
	日本近現代文学Ⅰ		2			2	
	日本近現代文学Ⅱ		2			2	
	日本文学特論Ⅰ			2		2	
	日本文学特論Ⅱ			2		2	
	漢文学Ⅰ			2		2	
	中国文学Ⅰ			2		2	
	中国文学Ⅱ			2		2	
	比較文学Ⅰ			2		2	
	比較文学Ⅱ			2		2	
	英米文学史Ⅰ		2			2	
	英米文学史Ⅱ		2			2	
	(思想文化)						
	日本文化概論Ⅰ	2				2	
	日本文化概論Ⅱ	2				2	
	日本文化特論Ⅰ			2		2	
	日本文化特論Ⅱ			2		2	
	日本芸術史		2			2	
	映像論		2			2	
	日本映画論		2			2	
	ヨーロッパ文化概論		2			2	
	キリスト教文化論		2			2	
	(歴史文化)						
	日本史概論Ⅰ	2				2	
	日本史概論Ⅱ	2				2	
	日本史特論Ⅰ			2		2	
	日本史特論Ⅱ			2		2	
	古文書講読		2			2	
	ヨーロッパ史概論Ⅰ		2			2	
	ヨーロッパ史概論Ⅱ		2			2	
	アメリカ史概論		2			2	

○印必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	(環境文化)						
	人文地理学Ⅰ	2				2	
	人文地理学Ⅱ	2				2	
	地理情報システム論Ⅰ		2			2	
	アイヌ文化論Ⅰ		2			2	
	アイヌ文化論Ⅱ		2			2	
	文化人類学Ⅰ		2			2	
	文化人類学Ⅱ		2			2	
	メデイヤア史学		2			2	
	生態人類学			2		2	
	北方考古学			2		2	
	アジア地域論Ⅰ			2		2	
	アジア地域論Ⅱ			2		2	
	英米文化科目						8単位まで卒業に必要な単位に算入できる
	(言語文化)						
	言語						
	英語文献講読Ⅰ			2		2	
	英語文献講読Ⅱ			2		2	
	英語学特論Ⅰ			2		2	
	英語学特論Ⅱ			2		2	
	文学						
	英米文学講読Ⅰ			2		2	
	英米文学講読Ⅱ			2		2	
	英米文学特論			2		2	
	ヨーロッパ文学特論			2		2	
	(思想文化)						
	ヨーロッパ文化特論Ⅰ			2		2	
	ヨーロッパ文化特論Ⅱ			2		2	
	アメリカ文化特論			2		2	
	(歴史文化)						
	ヨーロッパ史特論Ⅰ			2		2	
	ヨーロッパ史特論Ⅱ			2		2	
	アメリカ史特論			2		2	
	(環境文化)						
	現代人類学			2		2	
	現代メデイヤ論			2		2	
	特別講義科目						
	人文学特別講義	2				2	
	課外学修科目						
	(特別演習)						
	英米文化特別演習Ⅰ	2				2	
	英米文化特別演習Ⅱ	2				2	
	英米文化特別演習Ⅲ	2				2	
	文化遺産特別演習	2				2	
	日本文化特別演習		2			2	
	国際文化特別演習		1~20			1~20	
	日本語教育特別演習			2		2	
	(特別実習)						
	伝統文化特別実習			1		1	
	(キャリア形成)						
	インターンシップ		1			1	
	ボランティアシップ		2			2	
	共同学位プログラム科目						
	共同学位協定校修得科目(専門)			1~4		1~4	
	関連科目						
	日 本 史		2			2	
	東 洋 史		2			2	
	西 洋 史		2			2	
	計	52	92 ~ 111	96 ~ 99	4	244 ~ 266	専門教育科目 88単位以上必修

(2) 英米文化学科
Ⅰ 一般教育科目

○印必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	(基盤科目)						(卒業要件) 専門教育科目88単位以上(必修条件含) を含ま一般教育科目および専門教育科目合計132単位以上
	言語						
	英語						
	英語リーディングⅠ	1				1	
	英語リーディングⅡ	1				1	
	英語リーディングⅢ		1			1	
	英語リーディングⅣ		1			1	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語コミュニケーションⅢ		1			1	
	英語コミュニケーションⅣ		1			1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語特講Ⅲ		1			1	
	英語特講Ⅳ		1			1	
	英語ライティングⅠ	1				1	
	英語ライティングⅡ	1				1	
	英語ライティングⅢ		1			1	
	英語ライティングⅣ		1			1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅠB		2			2	
	英語文化演習ⅠC		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語文化演習ⅡB		2			2	
	英語文化演習ⅡC		2			2	
	英語以外の外国語共通						
	世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語						
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅲ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅳ		1			1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2	
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語会話Ⅲ		1			1	
	フランス語会話Ⅳ		1			1	
	フランス語文化Ⅰ		2			2	
	フランス語文化Ⅱ		2			2	
	フランス語文化Ⅲ		2			2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語会話Ⅲ		1			1	
	中国語会話Ⅳ		1			1	
	中国語文化Ⅰ		2			2	
	中国語文化Ⅱ		2			2	
	中国語文化Ⅲ		2			2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2	
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語会話Ⅲ		1			1	
	ロシア語会話Ⅳ		1			1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化Ⅱ		2			2	
	ロシア語文化Ⅲ		2			2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語演習Ⅲ			2		2	
	ロシア語演習Ⅳ			2		2	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅰ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅲ			2		2	
	韓国・朝鮮語演習Ⅳ			2		2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ				2	2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ				2	2	
	身体						
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2	
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2	
	体育実技ⅠA	1				1	
	体育実技ⅠB	1				1	
	体育実技ⅡA	1				1	
	体育実技ⅡB	1				1	
	体育実技ⅢA	1				1	
	体育実技ⅢB	1				1	
	体育実技ⅣA	1				1	
	体育実技ⅣB	1				1	
	情報						
	コンピュータ科学	2				2	
	情報技術論	2				2	
	情報と社会	2				2	
	(教養科目)						
	人文科学						
	自己						
	哲学Ⅰ	2				2	
	哲学Ⅱ	2				2	
	倫理Ⅰ	2				2	
	倫理Ⅱ	2				2	
	論理Ⅰ	2				2	
	論理Ⅱ	2				2	
	社会思想史	2				2	
	行動科学	2				2	
	基礎心理学	2				2	
	人間関係論	2				2	
	文化						
	日本文学Ⅰ	2				2	
	日本文学Ⅱ	2				2	
	外国文学Ⅰ	2				2	
	外国文学Ⅱ	2				2	
	言語学Ⅰ	2				2	
	言語学Ⅱ	2				2	
	芸術論Ⅰ	2				2	
	芸術論Ⅱ	2				2	
	異文化コミュニケーション	2				2	
	現代文化論	2				2	
	歴史						
	歴史学Ⅰ	2				2	
	歴史学Ⅱ	2				2	
	歴史学Ⅲ	2				2	
	歴史学Ⅳ	2				2	
	考古学	2				2	
	人文科学特別講義	2				2	
	社会科学						
	社会構造						
	法社会学	2				2	
	日本国憲	2				2	
	日経政治学	2				2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	社会学	2				2	
	マスコミ論	2				2	
	生涯学習論	2				2	
	地域						
	地理学	2				2	
	人類学	2				2	
	地誌	2				2	
	国際事情	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅰ	2				2	
	カナダの自然と社会Ⅱ	2				2	
	社会科学特別講義	2				2	
	自然科学						
	環境						
	地球科学Ⅰ	2				2	
	地球科学Ⅱ	2				2	
	環境生物科学Ⅰ	2				2	
	環境生物科学Ⅱ	2				2	
	物質環境科学	2				2	
	宇宙科学Ⅰ	2				2	
	宇宙科学Ⅱ	2				2	
	普遍性						
	数学概論Ⅰ	2				2	
	数学概論Ⅱ	2				2	
	統計学Ⅰ	2				2	
	統計学Ⅱ	2				2	
	物理学概論	2				2	
	自然科学特別講義	2				2	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大文学史	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	(共同学位プログラム科目)						
	共同学位協定校修得科目(一般)			1~4		1~4	
	(キャリア形成科目)						
	キャリア・ガイダンス	1				1	自由科目により、卒業に必要な単位には算入されない
	(体験型科目)						
	海外文化Ⅰ	1				1	
	海外文化Ⅱ	1				1	
	海外文化Ⅲ	1				1	
	海外文化Ⅳ	1				1	
	(留学生科目(外国人留学生・海外帰国生使科日))						
	代替科目						
	日本語演習Ⅰ	2				2	4単位までを基礎科目の言語の科目に、16単位までを教養科目に代替できる
	日本語読解・構文Ⅰ	2				2	
	日本語文章表現Ⅰ	2				2	
	日本語演習Ⅱ	2				2	
	日本語読解・構文Ⅱ	2				2	すべての科目でⅡの履修はⅠの履修又は単位修得を前提とする
	日本語文章表現Ⅱ	2				2	
	日本語演習Ⅲ		2			2	
	日本語演習Ⅳ		2			2	日本語演習Ⅳの履修はⅢの履修又は単位修得を前提とする
	日本語演習Ⅴ		2			2	
	日本語演習Ⅵ		2			2	
	計	195	68	41~44	20	324~327	

ロ 専門教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
	○ 人文学概論	2				2	
	○ 人文学演習A		2			2	
	○ 人文学演習B		2			2	
	○ 英米文化専門演習Ⅰ			2		2	
	○ 英米文化専門演習Ⅱ			2		2	
	○ 卒業研究				4	4	
	導入科目						
	○ 人文学基礎演習	2				2	
	○ 日本語文章表現演習	2				2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	北海道学						
	北海道史	2				2	
	北方圏文化論	2				2	
	北海道文学	2				2	
	アイヌの言語と文化	2				2	
	大法学史	2				2	
	北海道学特別講義	2				2	
	開発研究所特別講義	2				2	
	教養科目特別講義	2				2	
	(共同学位プログラム科目)						
	共同学位協定校修得科目 (一般)			1~4		1~4	
	(キャリア形成科目)						
	キャリア・ガイダンス	1				1	
	(体験型科目)						
	海外文化 I	1				1	
	海外文化 II	1				1	
	海外文化 III	1				1	
	海外文化 IV	1				1	
	計	177	32	41~44		250~253	

□ 専門教育科目

○印必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	基幹科目						
○	人文学概論	2				2	
○	人文学演習 A		2			2	
○	人文学演習 B		2			2	
○	日本文化専門演習 I			2		2	
○	日本文化専門演習 II			2		2	
○	卒業業研究				4	4	
	導入科目						
○	人文学基礎演習	2				2	
○	日本語文章表現演習	2				2	
	英語科目						
	Communication Skills I	2				2	
	Communication Skills II	2				2	
	Communication Skills III		2			2	
	Communication Skills IV		2			2	
	Global English I	1				1	
	Global English II	1				1	
	Global English III		1			1	
	Global English IV		1			1	
	Reading I	1				1	
	Reading II	1				1	
	Reading III		1			1	
	Reading IV		1			1	
	Writing I	1				1	
	Writing II	1				1	
	Writing III		1			1	
	Writing IV		1			1	
	Cultural Perspectives in English I		2			2	
	Cultural Perspectives in English II		2			2	
	Cultural Perspectives in English III		2			2	
	Cultural Perspectives in English IV		2			2	
	Cultural Perspectives in English V			2		2	
	Cultural Perspectives in English VI			2		2	
	Intensive Communication Skills I			2		2	
	Intensive Communication Skills II			2		2	
	Special Skills I		2			2	
	Special Skills II		2			2	
	Special Lectures in English I			2		2	
	Special Lectures in English II			2		2	
	基礎・展開科目						
	(言語文化)						
	言語						
	日本語学概論 I	2				2	
	日本語学概論 II	2				2	
	日本語学特論 I			2		2	
	日本語学特論 II			2		2	
	日本語発声実習	2				2	
	日本語教授法 I		2			2	
	日本語教授法 II		2			2	
	日本語教授法 III			2		2	
	日本語教授法 IV			2		2	
	日本語教育学特論			2		2	
	日本語教育演習			2		2	
	対照言語学		2			2	
	書道		2			2	

○印必修	授業科目	年次及び単位数					備考
		1	2	3	4	計	
	書道演習		2			2	
	英道文	2				2	
	英語音声学	2				2	
	英語学概論 I		2			2	
	英語学概論 II		2			2	
	文学						
	日本文学史 I	2				2	
	日本文学史 II	2				2	
	日本古典文学講読 I		2			2	
	日本古典文学講読 II		2			2	
	日本近現代文学 I		2			2	
	日本近現代文学 II		2			2	
	日本文学特論 I				2	2	
	日本文学特論 II				2	2	
	漢文学 I				2	2	
	漢文学 II				2	2	
	中国文学 I				2	2	
	中国文学 II				2	2	
	比較文学 I				2	2	
	比較文学 II				2	2	
	英米文学史 I		2			2	
	英米文学史 II		2			2	
	(思想文化)						
	日本文化概論 I	2				2	
	日本文化概論 II	2				2	
	日本文化特論 I			2		2	
	日本文化特論 II			2		2	
	日本文化芸術		2			2	
	映像論		2			2	
	日本映画論			2		2	
	ヨーロッパ文化概論		2			2	
	キリスト教文化		2			2	
	(歴史文化)						
	日本史概論 I	2				2	
	日本史概論 II	2				2	
	日本史特論 I			2		2	
	日本史特論 II			2		2	
	古文書講読 I		2			2	
	ヨーロッパ史概論 I		2			2	
	ヨーロッパ史概論 II		2			2	
	アメリカ史概論		2			2	
	(環境文化)						
	人文地理学 I	2				2	
	人文地理学 II	2				2	
	地理情報システム論		2			2	
	アイヌ文化論 I		2			2	
	アイヌ文化論 II		2			2	
	文化人類学 I		2			2	
	文化人類学 II		2			2	
	メディア史		2			2	
	生態人類学			2		2	
	北方考古学			2		2	
	アジア地域論 I			2		2	
	アジア地域論 II			2		2	
	英米文化科目						
	(言語文化)						
	言語						
	英語文献講読 I		2			2	
	英語文献講読 II		2			2	
	英語学特論 I		2			2	
	英語学特論 II		2			2	
	文学						
	英米文学講読 I		2			2	
	英米文学講読 II		2			2	
	英米文学特論		2			2	
	ヨーロッパ文学特論		2			2	
	(思想文化)						
	ヨーロッパ文化特論 I			2		2	
	ヨーロッパ文化特論 II			2		2	
	アメリカ文化特論			2		2	
	(歴史文化)						
	ヨーロッパ史特論 I			2		2	
	ヨーロッパ史特論 II			2		2	
	アメリカ史特論			2		2	
	(環境文化)						
	現代人類学			2		2	
	現代メディア論			2		2	
	特別講義科目						
	人文学特別講義	2				2	
	課外学修科目						
	(特別演習)						
	英米文化特別演習 I	2				2	
	英米文化特別演習 II	2				2	

8 単位まで卒業に必要な単位に算入できる

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	英米文化特別演習Ⅲ	2	2			2	
	文化遺産特別演習	2				2	
	日本文化特別演習		2			2	
	国際文化特別演習		1~20			1~20	
	日本語教育特別演習 (特別実習)			2		2	
	伝統文化特別実習 (キャリア形成)			1		1	
	インターンシップ		1			1	
	ボランティアシップ		2			2	
	共同学位プログラム科目 共同学位協定校修得科目(専門)				1~4	1~4	
	関連科目						
	日 本 史		2			2	自由科目により、 卒業に必要な単位 には算入されない
	東 洋 史		2			2	
	西 洋 史		2			2	
	計	52	92 ~ 111	96 ~ 99	4	244 ~ 266	専門教育科目 88単位以上必修

(2) 英米文化学科
イ 一般教育科目

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考
		1	2	3	4	計	
	<基盤科目>						(卒業要件)
	言語						専門教育科目 88単 位以上(必修条件含) を含み一般教育科目 および専門教育科目 合計124単位以上
	英語						
	英語リーディングⅠ	1				1	
	英語リーディングⅡ	1				1	
	英語コミュニケーションⅠ	1				1	
	英語コミュニケーションⅡ	1				1	
	英語特講Ⅰ	1				1	
	英語特講Ⅱ	1				1	
	英語特講Ⅲ		1			1	
	英語特講Ⅳ		1			1	
	英語文化演習ⅠA		2			2	
	英語文化演習ⅠB		2			2	
	英語文化演習ⅡA		2			2	
	英語文化演習ⅡB		2			2	
	英語以外の外国語共通						
	世界の言語と文化	2				2	
	ドイツ語						
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1	
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1	
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1	
	ドイツ語会話Ⅲ		1			1	
	ドイツ語会話Ⅳ		1			1	
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2	
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2	
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2	
	フランス語						
	フランス語基礎Ⅰ	1				1	
	フランス語基礎Ⅱ	1				1	
	フランス語基礎Ⅲ		1			1	
	フランス語基礎Ⅳ		1			1	
	フランス語会話Ⅰ	1				1	
	フランス語会話Ⅱ	1				1	
	フランス語会話Ⅲ		1			1	
	フランス語会話Ⅳ		1			1	
	フランス語文化Ⅰ	2				2	
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2	
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2	
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2	
	中国語						
	中国語基礎Ⅰ	1				1	
	中国語基礎Ⅱ	1				1	
	中国語基礎Ⅲ		1			1	
	中国語基礎Ⅳ		1			1	
	中国語会話Ⅰ	1				1	
	中国語会話Ⅱ	1				1	
	中国語会話Ⅲ		1			1	
	中国語会話Ⅳ		1			1	
	中国語文化Ⅰ	2				2	
	中国語文化演習Ⅰ			2		2	
	中国語文化演習Ⅱ			2		2	
	中国語言語演習Ⅰ			2		2	
	中国語言語演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語						
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1	
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1	
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1	
	ロシア語会話Ⅰ	1				1	
	ロシア語会話Ⅱ	1				1	
	ロシア語会話Ⅲ		1			1	
	ロシア語会話Ⅳ		1			1	
	ロシア語文化Ⅰ	2				2	
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2	
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2	
	韓国・朝鮮語						
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1	
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1	
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2	
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考	
		1	2	3	4	計		
	書 道 演 習		2				2	
	文学							
	英米文学史Ⅰ	2					2	
	英米文学史Ⅱ	2					2	
	英米文学講読Ⅰ		2				2	
	英米文学講読Ⅱ		2				2	
	英米文学特論			2			2	
	ヨーロッパ文学特論			2			2	
	日本文学史Ⅰ		2				2	
	日本文学史Ⅱ		2				2	
	日本近現代文学Ⅰ		2				2	
	日本近現代文学Ⅱ		2				2	
	(思想文化)							
	ヨーロッパ文化概論		2				2	
	キリスト教文化論		2				2	
	ヨーロッパ文化特論Ⅰ			2			2	
	ヨーロッパ文化特論Ⅱ			2			2	
	アメリカ文化特論			2			2	
	日本文化概論Ⅰ		2				2	
	日本文化概論Ⅱ		2				2	
	日本芸術史		2				2	
	映像論		2				2	
	(歴史文化)							
	ヨーロッパ史概論Ⅰ	2					2	
	ヨーロッパ史概論Ⅱ		2				2	
	ヨーロッパ史特論Ⅰ			2			2	
	ヨーロッパ史特論Ⅱ			2			2	
	アメリカ史概論	2					2	
	アメリカ史特論			2			2	
	日本史概論Ⅰ		2				2	
	日本史概論Ⅱ		2				2	
	(環境文化)							
	人文地理学Ⅰ	2					2	
	人文地理学Ⅱ	2					2	
	地理情報システム論		2				2	
	メディア文化史		2				2	
	アイヌ文化論Ⅰ		2				2	
	アイヌ文化論Ⅱ		2				2	
	文化人類学Ⅰ		2				2	
	文化人類学Ⅱ		2				2	
	現代人類学			2			2	
	現代メディア論		2				2	
	アジア地域論Ⅰ		2				2	
	アジア地域論Ⅱ		2				2	
	日本文化科目							8単位まで卒業に必要な単位に算入できる
	(言語文化)							
	言語							
	日本語学特論Ⅰ			2			2	
	日本語学特論Ⅱ			2			2	
	日本語教授法Ⅲ			2			2	
	日本語教授法Ⅳ			2			2	
	日本語教育学特論			2			2	
	日本語教育演習			2			2	
	文学							
	日本古典文学講読Ⅰ			2			2	
	日本古典文学講読Ⅱ			2			2	
	日本文学特論Ⅰ			2			2	
	日本文学特論Ⅱ			2			2	
	漢文学			2			2	
	中国文学Ⅰ			2			2	
	中国文学Ⅱ			2			2	
	比較文学Ⅰ			2			2	
	比較文学Ⅱ			2			2	
	(思想文化)							
	日本文化特論Ⅰ			2			2	
	日本文化特論Ⅱ			2			2	
	日本映画論			2			2	
	(歴史文化)							
	日本史特論Ⅰ			2			2	
	日本史特論Ⅱ			2			2	
	古文書講読			2			2	
	(環境文化)							
	生態人類学			2			2	
	北方考古学			2			2	
	特別講義科目							
	人文学特別講義	2					2	
	課外学修科目							
	(特別演習)							
	英米文化特別演習Ⅰ	2					2	
	英米文化特別演習Ⅱ	2					2	
	英米文化特別演習Ⅲ	2					2	
	文化遺産特別演習	2					2	
	日本文化特別演習		2				2	

○印 必修	授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数					備 考	
		1	2	3	4	計		
	国際文化特別演習		1~20				1~20	
	日本語教育特別演習 (特別実習)			2			2	
	伝統文化特別実習 (キャリア形成)			1			1	
	インターンシップ		1				1	
	ボランティアシップ		2				2	
	共同学位プログラム科目							
	共同学位協定校修得科目(専門)				1~4		1~4	
	関連科目							
	日 本 史		2				2	自由科目により、 卒業に必要な単位 には算入されない
	東 洋 史		2				2	
	西 洋 史		2				2	
	計		52	94 ~ 113	94 ~ 97	4	244 ~ 266	専門教育科目 88単位以上必修

(3) 北海学園大学人文学部規則

(目的)

第1条 この規則は、北海学園大学学則（以下「学則」という）第3条第2項により、人文学部（以下、「本学部」という）の学生に関する事項を定める。

2 本学部学生の教育課程等に関する必要な事項は、学則の定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(学科及び教育研究上の目的)

第2条 本学部には、学則第3条により、次の部・学科を置く。

1部 日本文化学科 2部 日本文化学科

1部 英米文化学科 2部 英米文化学科

2 本学部は、近代ヨーロッパに起源を持つ人文主義を批判的に継承することで人間としてのあるべき姿を追求し、人間と自然、自己と他者が共生できる世界を目指す「新人文主義」の理念の下、「文化を学ぶ、世界と繋がる」をモットーに、地域に根ざしつつグローバルな視野をもって、人間と人為の所産である文化を探究することを教育研究上の目的とする。

3 日本文化学科は、教養を基礎として、主に日本語と日本文化に関する専門知識に裏づけられた洞察力・表現力・創造力を身につけ、多様性に開かれた社会を築くため、主体的に活動できる人間の育成を目指す。

4 英米文化学科は、教養を基礎として、主に英語と欧米文化に関する専門知識に裏づけられた洞察力・表現力・創造力を身につけ、多様性に開かれた社会を築くため、主体的に活動できる人間の育成を目指す。

(進級)

第3条 本学部3年次進級には、2年終了時において一般教育科目及び専門教育科目にわたり履修し、1部学生は52単位以上、2部学生は48単位以上を修得していなければならない。

(転学部・転部・転学科)

第4条 本学部学生で他学部への転学部を希望する者あるいは他学部生で本学部への転学部を希望する者については、学則第13条により、教授会の議を経て、これを許可することができる。その手続きについては別に定める。

2 本学部の学生で1部2部間の転部並びに学科間の転学科を希望する者については、教授会が選考のうえ、許可することができる。

(編入学・転入学)

第4条の2 学則第12条及び第13条の規定により本学部に編入学又は転入学を志願する者の入学年次は、第3年次とする。

2 学則第12条第3項及び第13条第3項の規定により認定する単位については、別に定める。

3 学則第12条第4項の規定により算入する在学年数は2年とし、入学後の在学期間は、6年を超えることができない。

(授業科目)

第5条 本学部の日本文化学科及び英米文化学科の授業科目、その必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目の区別、単位数及びその年次配当は、1部学生については学則別表7、2部学生については学則別表8をもって定める。

ただし、履修登録する年度において開講されない授業科目については、この限りではない。

2 日本語教員養成課程を履修する学生については、同課程履修規程による。

3 学則別表7及び学則別表8に定める授業科目については、別の定めにより、上級年次に配当された授業科目を履修することができる。

(単位の計算)

第6条 外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書の規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは別に定める。

(2) 演習科目のうち学則第20条第3号ただし書の規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは別に定める。

(3) 実習科目のうち学則第20条第4号ただし書の規定により、30時間の授業をもって1単位とするものは別に定める。

(履修手続き)

第7条 学生は、履修する授業科目を本学部の指定する期間内に所定の様式によって願い出て、学部長の許可を受けなければならない。

2 授業科目の履修制限、履修登録手続及びその他の履修に関する事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第8条 学則第26条第1項及び第2項に規定する単位等の認定の基準は別に定める。

(外国人留学生)

第9条 学則第11条第2項による外国人留学生として入学した者は、学則別表7に定める特定の授業科目について代替科目を履修することができる。

(海外帰国生徒学生)

第10条 学則第11条第2項による海外帰国生徒学生として入学した者は、学則別表7に定める特定の授業科目について代替科目を履修することができる。

(単位の修得)

第11条 単位を修得するためには、履修した授業科目の試験に合格しなければならない。

(卒業研究)

第12条 卒業研究の単位修得の認定は、指導教員による卒業研究の成果の評価に基づき、教授会の議を経て行う。

(試験)

第13条 試験は、原則として、その授業科目の授業の終了した学期末に行う。

2 あらかじめ定められた試験の期日に受験できなかった者で、所定の手続きを経て学部長の許可を受けた者については、特定の授業科目につき、教授会の議を経て、別の期日に試験を行う。

3 前2項のほか、やむをえない事情があるときは、教授会の議を経て、臨時に試験を行うことができる。

4 試験の実施については、この他に定めることがある。

(成績の評価)

第14条 成績の評価は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。
ただし、この成績評価になじまない一部の科目は、合、否とする。

(卒業・学位)

第15条 本学部を卒業し、学士（文学）の学位を得るためには、学則別表に定める授業科目中、必修科目・選択科目の所定単位を次の通り修得しなくてはならない。

(1) 1部日本文化学科の学生は、一般教育科目の基盤

科目の言語の科目及び専門教育科目の英語科目の中から4単位以上、専門教育科目88単位以上（必修条件を含む）修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計132単位以上修得

(2) 1部英米文化学科の学生は、専門教育科目88単位以上（必修条件を含む）修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計132単位以上修得

(3) 2部日本文化学科の学生は、一般教育科目の基盤科目の言語の科目及び専門教育科目の英語科目の中から4単位以上、専門教育科目88単位以上（必修条件を含む）修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計124単位以上修得

(4) 2部英米文化学科の学生は、専門教育科目88単位以上（必修条件を含む）修得したうえで、一般教育科目、専門教育科目合計124単位以上修得

(科目等履修生)

第16条 本学部の授業科目のうち、1科目又は数科目の履修を科目等履修生として願い出る者については、学則第40条の趣旨により、教授会の選考のうえ、これを許可することができる。

2 本学部の科目等履修生が、1年間に履修できる単位数は28単位以内とする。

(研究生)

第17条 本学部において特定事項につき研究しようとする者があるときは、支障のない限り教授会の選考のうえ、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生の取り扱いについては、別に定める規程による。

(他大学等の授業科目の履修)

第18条 学則第24条の規定により他の大学等で履修した単位、又は学則第15条の規定により外国の大学に留学して履修した単位の認定、及び在学期間の算入、若しくは本規則第15条に規定する卒業要件に算入する単位の認定等は別に定める基準に基づき、教授会の議を経てこれを認定する。

2 本学部2部学生が、特別聴講学生として他大学の授業科目を履修する場合の取り扱いについては、別に定める規程による。

(他学部の授業科目の履修)

第19条 本学部の学生が、学則第19条の規定により他学部の授業科目を履修する場合、本学部及び履修を希望する当該学部の学部長の許可を受けなければならない。

ただし、単位の認定を受けることはできるが、卒業に必要な単位には算入されない。

2 他学部の学生が、学則第19条の規定により本学部の授業科目を履修する場合、本学部及び所属する学部の学部長の許可を受けなければならない。

(学籍異動)

第20条 学生の学籍異動に関する事項については、学則及びこの規則の定めるところによるほか、別に定めるところによる。

附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 ただし、第5条（授業科目）及び第15条（卒業・学位）は、平成9年度以前の入学者については従前の規則による。

3 ただし、第3条（進級）、第5条の6（他学科履修）、第9条（外国人留学生）及び第10条（海外帰国生徒学生）は、平成9年度以前の入学者については適用しない。

4 ただし、平成9年度以前の入学者の学部3年次に移行できるものは、従前の学則第2条第2項に基づく教養部規則第5条第3項各号の所定単位を修得した者でなければならない。

附 則

この規則は、平成10年12月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

ただし、第5条第7項は、平成10年度以降入学者から適用する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 ただし、第15条（卒業・学位）は、平成14年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 ただし、第3条（進級）、第15条（卒業・学位）は、平成16年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 ただし、平成22年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 ただし、平成23年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

2 ただし、平成25年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 ただし、第15条第1項の各号は、平成25年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

2 ただし、本規則第5条第1項に規定する平成28年4月1日施行の学則別表7のロ 専門教育科目及び8のロ 専門教育科目については、平成26年度入学生から適用する。

附 則

1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。

2 ただし、平成28年度以前の入学者については従前の規則による。

附 則

1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

2 ただし、平成29年度以前の入学者については従前の規則による。

3 ただし、本規則第5条第1項に規定する平成30年4

月1日施行の学則別表7のロ 専門教育科目及び8のロ 専門教育科目のうち、「地理情報システム論」、「英米文化特別演習Ⅰ」及び「伝統文化特別実習」並びに「Special SkillsⅠ」、「Special SkillsⅡ」及び「ボランティアシップ」の年次配当については平成26年度から平成29年度入学生に適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 ただし、本規則第5条第1項に規定する平成31年4月1日施行の学則別表7のロ 専門教育科目及び8のロ 専門教育科目のうち、「英米文化特別演習Ⅲ」及び「文化遺産特別演習」については平成26年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 ただし、本規則第5条第1項に規定する令和3年4月1日施行の学則別表7及び8のイ一般教育科目のうち、「共同学位協定校修得科目（一般）」及びロ 専門教育科目のうち、「共同学位協定校修得科目（専門）」については、令和2年度入学生から適用する。

(4) 北海学園大学人文学部転学部規程

(目的)

第1条 この規程は、北海学園大学学則第13条及び北海学園大学人文学部規則第4条の規定に基づき、転学部に関する事項を定める。

(年次及び条件)

第2条 他学部への転学部及び本学部への転学部は、2年次又は3年次への進級時とする。

- 2 本学部への転学部については、欠員がある場合に限りこれを認める。

(転出の出願)

第3条 他学部への転学部を志願する者は、所定の期日までに学長に願い出た後、本学部教授会において受験許可を得なければならない。

なお、社会人特別入試・推薦入試で入学した者は願い出ることが出来ない。

(転入の出願資格)

第4条 本学部への転学部を志願できる者は、既に本学部の当該学年に相当する単位をほぼ修得し、評価が特に優秀であり、転学部の志望動機が明確でなければならない。

- 2 前項に規定する単位修得及び評価の基準については、別に定める。

(転入の選考)

第5条 本学部への転学部を志願する者については、所属学部教授会において受験許可を得た後、所定の期日に書類審査、筆記試験及び面接により選考する。

(転入の許可)

第6条 本学部への転学部を志願する者については、選考の結果をもとに、本学部教授会の議を経て、これを許可することができる。

(転入許可後の手続)

第7条 本学部への転学部許可の通知を受けた者は、所定の期日までに必要な手続きを完了しなければならない。

(単位の認定)

第8条 本学部への転学部を許可された者が転学部以前に修得した単位については、別に定める審査の後、教授会の議を経て、これを認定する。

附 則

平成10年12月1日から施行する。

附 則

平成11年12月1日から施行する。

附 則

平成20年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(5) 北海学園大学人文学部転部規程

(目的)

第1条 この規程は、北海学園大学学則第57条第2項第5号及び北海学園大学人文学部規則第4条の規定に基づき、1部から2部、2部から1部への転部に関する事項を定める。

(年次及び条件)

第2条 2部から1部への転部は、2年次又は3年次への進級時、1部から2部への転部は在籍年次に拘らず年度始めとし、定員に余裕のある場合に限りこれを認める。

(出願資格)

第3条 転部を志願できる者は、本学部の当該学年に相当する単位をほぼ修得し、評価が特に優秀であり、転部の志望動機が明確でなければならない。

2 前項に規定する単位修得及び評価の基準については、別に定める。

3 1部から2部への転部については、前項の規定に関わらず、志願することができる。

(出願手続)

第4条 転部を志願する者は、所定の転部願により、所定の期日までに学長に願出しなければならない。

(選考)

第5条 転部を志願する者については、所定の期日に書類審査及び面接により選考する。

(許可)

第6条 転部を志願する者については、選考の結果をもとに、本学部教授会の議を経て、これを許可することができる。

(許可後の手続)

第7条 転部許可の通知を受けた者は、所定の期日までに必要な手続を完了しなければならない。

(単位の認定)

第8条 転部を許可された者が転部以前に修得した単位については、別に定める審査の後、教授会の議を経て、これを認定する。

附 則

平成11年12月1日から施行する。

附 則

平成16年4月1日から施行する。

附 則

平成20年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(6) 北海学園大学人文学部転学科規程

(目的)

第1条 この規程は、北海学園大学学則第57条第2項第5号及び北海学園大学人文学部規則第4条の規定に基づき、転学科に関する事項を定める。

(年次及び条件)

第2条 本学部の他の学科への転学科は、2年次又は3年次への進級時とし、定員に余裕のある場合に限りこれを認める。

(出願資格)

第3条 転学科を志願できる者は、本学部の当該学年に相当する単位をほぼ修得し、評価が特に優秀であり、転学科の志望動機が明確でなければならない。

なお、社会人特別入試・推薦入試で入学した者は願出することが出来ない。

2 前項に規定する単位修得及び評価の基準については、別に定める。

(出願手続)

第4条 転学科を志願する者は、所定の期日までに学長に願出しなければならない。

(選考)

第5条 転学科を志願する者については、所定の期日に書類審査、筆記試験及び面接により選考する。

(許可)

第6条 転学科を志願する者については、選考の結果をもとに、本学部教授会の議を経て、これを許可することができる。

(許可後の手続)

第7条 転学科許可の通知を受けた者は、所定の期日までに必要な手続を完了しなければならない。

(単位の認定)

第8条 転学科を許可された者が転学科以前に修得した単位については、別に定める審査の後、教授会の議を経て、これを認定する。

附 則

平成11年12月1日から施行する。

附 則

平成20年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(7) 北海学園大学人文学部継続履修規程

(目的)

第1条 この規程は、学則第27条第3項に基づいて休学する本学部学生が、休学前に履修していた通年科目について、復学年度の第2学期に引き続き履修する場合（以下「継続履修」という）に関する事項を定める。

(継続履修願)

第2条 継続履修を希望する学生は、休学を願い出る際に、当該履修科目の継続履修願を授業科目担当者の承諾を得て学部長に提出しなければならない。

(前半期の評価)

第3条 継続履修の願い出のあった授業科目担当者は、その科目の前半期の評価をしなければならない。

(継続履修登録)

第4条 継続履修願を提出した学生は、復学年度の所定の期日までに願い出に基づいた継続履修登録を行うことにより、継続履修することができる。

ただし、復学年度において、次に掲げる場合に該当するときは、この限りでない。

- (1) 継続履修を願い出た授業科目が開講されていない場合
- (2) 継続履修を願い出た授業科目が時間割上重複した場合
- (3) 授業内容が著しく異なる場合

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

(8) 北海学園大学奨学規程

第1条 この制度は学則第48条に基づき本大学の優秀な学生で、経済的理由により修学困難なものに奨学金を与えることにより、教育の成果をあげることを目的とする。

第2条 奨学生を希望する学生は、所定の奨学生採用願を学長に提出するものとする。

第3条 奨学生の決定は、年度毎に協議会の議を経て学長が行う。

第4条 奨学生にふさわしくない行為があった場合には、協議会の議を経て奨学生たることを取消すものとする。

附 則

この規程は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年4月1日から施行する。

(9) 北海学園大学表彰規程

第1条 この制度は、学則第47条に基づき、将来有為の社会人たる資質を有し、体育、文化活動において特に顕著な成績をおさめ、本大学の伝統を形成し得ると認められる学生を表彰することを目的とする。

第2条 表彰学生、表彰団体は、体育、文化活動において特に顕著な成績をおさめた学生の生活態度、学業成績、将来の見込等を精査の上、卒業審査教授会に付し全員の同意を得て学長が決する。

第3条 表彰は、卒業証書・学位記授与式において賞状及び副賞をもってする。

第4条 表彰にあたっては、別に表彰学生、表彰団体表彰要領を定める。

附則

この規程は、昭和43年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(10) 北海学園大学海外留学規程

(趣旨)

第1条 この規程は、北海学園大学学則第15条に規定する留学について、これを実施するために必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において留学とは、学生が海外に滞在し、大学その他の相当と認められる教育・研究機関等(以下「留学先」という。)における授業科目の履修又は学修を行うことをいう。

(適用範囲)

第3条 この規程は、留学先と本大学との協定に基づく留学(以下「協定留学」という。)及び協定によらない留学に適用する。

(資格)

第4条 留学をする者は、本大学に1年以上在学していなければならない。ただし、1年未満在学の者であっても夏季・冬季休業期間の場合、及び国際交流委員会が認めた場合には留学をすることができる。

2 協定留学については、その定めるところによる。

(留学期間)

第5条 学生が留学のため海外に滞在する期間は、原則として1年以内とする。

(許可)

第6条 留学は、留学許可願書の提出により、教授会の議に基づき学長が許可をする。

2 留学許可願書の提出は、原則として留学をする3月前までに行わなければならない。

3 留学許可願書には、次の書類を添付しなければならない。

- (1) 留学計画書
- (2) 留学先において履修する授業科目又は学修の内容を示す書類
- (3) 留学先の受入証明書
- (4) 成績証明書
- (5) その他本大学が必要と認める書類

4 第2項及び前項の規定にかかわらず、協定留学については別に取扱うことができる。

(計画の変更)

第7条 留学の計画を変更するときは、速やかに留学計画変更願書を提出し、教授会の議に基づき学長の許可を得なければならない。

(費用の負担)

第8条 留学のために要する授業料その他の費用は、奨学制度を利用する場合を除き、原則として全額を自己負担とする。ただし、協定留学については、その定めるところによる。

(留学報告)

第9条 留学をした者は、帰国後速やかに次の書類をその所属する学部に提出しなければならない。その後、当該学部は学長へ報告するものとする。

- (1) 留学報告書
- (2) 留学先において履修した授業科目又は学修の内容を示す書類
- (3) 前号の科目についての成績又は学修成果を証明する書類
- (4) その他本大学が必要と認める書類

(単位認定)

第10条 留学先において授業科目の履修により修得した

単位は、教授会の議を経て本大学において修得した単位とみなすことができる。

2 留学先における学修はこれを本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て単位を与えることができる。

3 第1項及び前項により修得したとみなし、又は与えることのできる単位数は、学則第24条第2項、第25条第1項並びに第26条第1項及び第2項による単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 第1項又は第2項の措置を希望する者は、前条に定める書類とともに単位認定願を提出しなければならない。

(許可の取消等)

第11条 留学を不相当と認める事情があるときは、教授会の議に基づき、学長は留学の許可を取消し又は留学計画の変更を命ずることができる。

(所管)

第12条 協定留学に関する学生の相談並びに留学許可に係る手続きの受付及び教授会の審議に必要な資料の調整等に係る業務は、これを本大学国際交流委員会規程第4条第2項に定める各専門委員会において行う。

2 協定によらない留学に関する学生の相談並びに留学許可に係る手続きの受付及び教授会の審議に必要な資料の調整等に係る業務は、これを国際交流委員会において行なう。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

(11) 北海学園大学研究生規程

第1条 北海学園大学学則第38条にもとづき、研究生の取扱いをつぎのように定める。

第2条 研究生を志願することができる者は、つぎの各1号に該当する者でなければならない。

(1) 大学を卒業した者

(2) 志願する学部において、前号に掲げる者と同等以上の学力があると認められた者

第3条 研究生の入学時期は、原則として学年、学期の始めとする。ただし、特別の事由があるときは、この限りでない。

第4条 研究生を志願する者は、所定の願書に、学則別表14(1)に定める審査料を添えて、志願する学部提出しなければならない。

第5条 研究生の選考は、各学部で行い、教授会の議を経て、合格者を決定する。

第6条 研究生の選考に合格した者のうち、指定期日までに、学則別表14(1)に定める研究料等を納入し、所定の手続きを完了した者に、学長は、入学の許可を与える。

2 前項の研究料等のほか、必要に応じ研究実費を納入させることができる。

第7条 研究生の在学期間は、入学日からその年度末までとする。ただし、引き続き在学の願い出があったときは、教授会の議を経て、在学期間の延長を許可することがある。

第8条 研究生は、指導教員の指導をうけて研究に従事するものとする。

第9条 研究生は、指導教員が必要と認めるときは、学部の講義、演習若しくは実習に担当教員の許可を得て出席することができる。

第10条 学部が必要と認めるときは、研究生のため特別の講座を設けることがある。

第11条 学部長は、研究生の願い出により、研究証明書を交付することができる。

第12条 研究生が退学しようとするときは、退学願を学部長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

第13条 研究生について、本規程に規定のない事項については、本大学の学則（ただし第2章第1節ないし第4節を除く）その他学生に関する規程等を準用する。

附 則

この規程は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年4月1日から施行する。

了解事項

1 第7条に定める在学期間は、3年を超えることができない。

2 第10条に定める講座については、学部学生等の聴講を認めることがある。聴講料については別に定める。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

(12) 北海学園大学科目等履修生規程

第1条 北海学園大学（以下「本大学」という。）学則第40条に基づき、科目等履修生に関する事項を定める。

第1条の2 科目等履修生の履修区分は次によるものとする。

- (1) 特定の授業科目の単位取得を目的とする履修（科目履修制・教職課程含む）
- (2) 特定の課程（図書館学課程・社会教育主事課程・学芸員課程・日本語教員養成課程）の所要資格を得るための単位取得を目的とする履修（課程履修制）
- (3) 履修証明取得を目的とする履修（履修証明プログラム制）

第2条 科目等履修生を志願することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
 - (2) 12年の学校教育の課程を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
 - (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者
 - (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）
 - (8) その他、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学で認めたる者
- 2 教育職員免許状授与の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。
- 3 司書となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者、同法第108条の短期大学を卒業した者、又は同法115条の高等専門学校を卒業した者とする。
- 4 司書教諭の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、教育職員免許法に定める小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭の普通免許状を有する者又はそれ取得する見込みの者とする。
- 5 社会教育主事となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。
- 6 学芸員となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。
- 7 日本語教員養成課程修了に必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。
- 第3条** 科目等履修生の入学の時期は、学年又は学期の始めとする。
- 第4条** 科目等履修生を志願する者は、次の各号に定め

る書類に、学則別表14(4)に定める入学検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

- (1) 科目等履修生入学願書
- (2) 科目等履修生入学出願理由書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
ただし、前年度に引きつづいて入学を志願する者（同一学部に限る）は、免除する。
- (4) 科目等履修生カード

2 前項の規定にかかわらず、履修証明プログラムの履修を志願する者は、入学検定料を免除する。

第5条 科目等履修生の選考は、志願をした学部で行い、教授会の議を経て合格者を決定する。

第6条 科目等履修生の選考に合格した者のうち、指定期日までに、学則別表14(4)に定める入学金及び受講料等の納入金を納入し、所定の入学手続を完了した者に、学長は、入学を許可する。

2 前項の規定にかかわらず、履修証明プログラムの選考に合格した者は、入学金を免除する。

第7条 科目等履修生が履修できる期間は、許可をした年度に限るものとする。

第8条 科目等履修生が履修することのできる授業科目については、当該学部又は当該委員会が許可する。

第9条 科目等履修生が1年間に履修できる単位数は、28単位以内とし、当該学部において定める。

2 前項の規定にかかわらず、教育職員免許状授与の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する場合は、30単位以内とし、司書となる資格を得るに必要な授業科目のみを履修する場合は、28単位以内、司書となる資格並びに司書教諭の所要資格を得るに必要な授業科目のみを履修する場合は、38単位以内とする。

3 前項の規定にかかわらず、履修証明プログラムを履修する者は、履修するコースで定められた科目のみ履修することができる。

第10条 科目等履修生は、その履修した授業科目につき、試験を受けることができる。

第11条 科目等履修生が単位を修得するためには、履修した授業科目の試験に合格しなければならない。

2 単位修得の認定は、科目等履修生の合格を決定した学部教授会の議を経て決定する。

3 前項の規定にかかわらず、本大学学則別表10に掲げる「教職課程授業科目」の単位修得の認定は、教職課程委員会の議を経て、同学則別表11に掲げる「司書又は司書教諭に関する科目」の単位修得の認定は、図書館学課程委員会の議を経て、「社会教育主事に関する科目」の単位修得の認定は、社会教育主事課程委員会の議を経て、「学芸員に関する科目」の単位修得の認定は、学芸員課程委員会の議を経て、それぞれ決定する。

4 合格した授業科目については、本人の願い出により、単位修得証明書又は科目等履修証明書を交付することができる。

第12条 第1条の2第2号に規定する科目等履修生の修了要件は、履修規程に基づく。

2 第1条の2第3号に規定する科目等履修生の修了要件は別に定める。修了の認定は教務委員会規程第5条第1号に定める小委員会の議を経て決定する。

第13条 第1条の2第2号に規定する科目等履修生が、第12条の規定により修了した場合、学長は修了証書又は修了証明書を交付する。

2 第1条の2第3号に規定する科目等履修生が、第12条第2項の規定により修了した場合、学長は履修証明

書を交付する。

第14条 科目等履修生が退学しようとするときは、退学願を当該学部長又は当該委員会の委員長に提出し、当該学部の教授会又は当該委員会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

第15条 科目等履修生が、その本分に反する行為を行ったときは、当該学部の教授会又は当該委員会の議を経て、学長は、科目等履修生の許可を取り消す。

第16条 科目等履修生について、本規程に規定のない事項については、本大学の学則（ただし、第32条及び第33条の規定を除く。）その他学生に関する規定を準用する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

(13) 北海学園大学授業料等に関する規程

第1条 この規程は、北海学園大学学則（以下「学則」という。）第34条、第35条、第36条及び第37条に基づき授業料等納入金に関する事項を定める。

第2条 北海学園大学の入学金、授業料、教育充実費、実験実習費、大学諸費（以下「授業料等」という。）及び入学検定料は、学則別表13に掲げる額とする。

第3条 授業料等の納入期限は、学則別表13に掲げる期日とする。

2 学則第32条第4項に基づき第1学期末の卒業を認められた者については、第2期分の授業料等の納入を免除する。

3 学則第16条に基づき本大学と海外の大学との共同学位にかかる協定により海外の大学に在籍している者については、その期間中の授業料等の納入を免除することができる。

第4条 退学、転入学、休学を許可、又は、命じられたものの授業料等は、その期分までを納入し、また、復学を許可された者は、その期分から納入しなければならない。

第5条 納入期日を経過してもなお納入しない学生は、学則第31条及び第36条により処分する。

第6条 経済等の事情により授業料等を定められた期日までに納入が困難な場合は、納入期限の10日前までに所定の学費延納願を学費支給者連署の上提出し許可を得なければならない。

第7条 学則第42条及び第45条に基づく研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生に係る入学金、研究料、受講料、実験実習費及び入学検定料又は審査料は、学則別表14に掲げる額とする。

ただし、研究生の研究料及び実験実習費（工学部）は次のとおりとする。

第1学期からの入学者 受入学部研究料、実験実習費（工学部）の全額

第2学期からの入学者 受入学部研究料、実験実習費（工学部）の半額

2 前項の入学金、研究料、受講料、実験実習費は、所定の期日までに納入しなければならない。所定の期日までに納入しない場合は、入学を許可しない。

3 単位互換協定又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金、受講料、実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。

4 研究生講座を学部学生等が聴講する場合の受講料は、学則別表14に掲げる額とする。

第8条 学則第50条第7項、第51条第7項及び第51条の2第3項に基づく教職課程、図書館学課程、社会教育主事課程、学芸員課程及び日本語教員養成課程を受講する場合の受講料は、学則別表14に掲げる額を、所定の期日までに納入しなければならない。

第9条 学則第12条、第13条及び第30条、第31条に基づく編入学、転入学、学士入学、転学部、復学、再入学、復籍の入学金、授業料、教育充実費、実験実習費、大学諸費及び入学検定料等は、次のとおりとする。また、学部規則に基づく転部、同一学部転学科の入学金、授業料、教育充実費、実験実習費、大学諸費及び入学検定料等は、次のとおりとする。

	編入学 転入学 学士入学	転部 1部→2部	転部 2部→1部	転学部	復学	同一学部 転学科	再入学・ 復籍
入学金	学則別表 13に掲げ る入学金 と同額	-	学則別表 13に掲げ る入学金 と同額 (以前納 入金額と の差額徴 収)	-	-	-	学則別表 13に掲げ る入学金 と同額
授業料 教育充実 費 実験実習 費 大学諸費	編入学・ 転入学・ 学士入学 年次の額	転部 年次の額	転部 年次の額	転学部 年次の額	復学 年次の額	転学科 年次の額	再入学・ 復籍年次 の額
入学検 定料	学則別表 13に掲げ る入学検 定料と同 額	-	-	-	-	-	-
転部料	-	学則別表 13に掲げ る入学検 定料と同 額	学則別表 13に掲げ る入学検 定料と同 額	-	-	-	-
転学部 料	-	-	-	学則別表 13に掲げ る入学検 定料と同 額	-	-	-
復学科	-	-	-	-	学則別表 13に掲げ る入学検 定料の1/2	-	-
同一学部 転学科 料	-	-	-	-	-	学則別表 13に掲げ る入学検 定料と同 額	-
再入学 及び復 籍料	-	-	-	-	-	-	学則別表 13に掲げ る入学検 定料と同 額

2 前項の入学金、入学検定料、転部料、転学部料、復学科料、同一学部転学科料並びに再入学及び復籍料は、所定の期日までに納入しなければならない。

3 学則第27条第2項に基づき休学した者が第2学期より復学するときは、復学科料、第2期分の授業料、教育充実費（1部50,000円、2部30,000円）、実験実習費（40,000円・工学部のみ）及び大学諸費（1部10,000円、2部4,000円）を納入しなければならない。

第10条 既納の授業料等納入金は、これを返還しない。

第11条 本規程に定めるもののほか、授業料等及びその他納付金の徴収について必要な事項は、学長がこれを定める。

附 則

この規程は、平成元年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成2年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成11年度入学者から適用し、平成10年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成12年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成12年度入学者から適用し、平成11年度以前の入学者については従前の規程による。

る。

附 則

この規程は、平成13年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成13年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成14年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成14年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成15年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成15年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成17年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成17年度入学者から適用し、平成13年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成19年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成19年度入学者から適用し、平成18年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成20年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日より施行する。

ただし、第3条第3項の規定は令和2年度以降の入学者から適用し、平成31年度以前の入学者については従前の規定による。

別表13 授業料等

(1) 1部

区 分		金 額
入 学 検 定 料	経 済 学 部	30,000円
	経 営 学 部	30,000
	法 学 部	30,000
	人 文 学 部	30,000
	工 学 部	30,000
入 学 金	経 済 学 部	200,000
	経 営 学 部	200,000
	法 学 部	200,000
	人 文 学 部	200,000
	工 学 部	200,000

授 業 料	経 済 学 部	年額	872,000
	経 営 学 部	年額	872,000
	法 学 部	年額	872,000
	人 文 学 部	年額	896,000
	工 学 部	年額	1,140,000
教育充実費	経 済 学 部	年額	100,000
	経 営 学 部	年額	100,000
	法 学 部	年額	100,000
	人 文 学 部	年額	100,000
	工 学 部	年額	100,000
実験実習費	工 学 部	年額	80,000
大 学 諸 費	経 済 学 部	年額	10,000
	経 営 学 部	年額	10,000
	法 学 部	年額	10,000
	人 文 学 部	年額	10,000
	工 学 部	年額	10,000

(2) 2部

区 分	金 額	
入 学 検 定 料	経 済 学 部	30,000円
	経 営 学 部	30,000
	法 学 部	30,000
	人 文 学 部	30,000
入 学 金	経 済 学 部	100,000
	経 営 学 部	100,000
	法 学 部	100,000
	人 文 学 部	100,000
授 業 料	経 済 学 部	年額 436,000
	経 営 学 部	年額 436,000
	法 学 部	年額 436,000
	人 文 学 部	年額 448,000
教育充実費	経 済 学 部	年額 50,000
	経 営 学 部	年額 50,000
	法 学 部	年額 50,000
	人 文 学 部	年額 50,000
大 学 諸 費	経 済 学 部	年額 4,000
	経 営 学 部	年額 4,000
	法 学 部	年額 4,000
	人 文 学 部	年額 4,000

授業料、教育充実費、実験実習費、大学諸費の納入期限は、次のとおりとする。

第1期 4月20日
第2期 9月30日

ただし、新入学生及び再入学、復籍を許可された者に限り第1期分の授業料等は、所定の期日までに納入しなければならない。

別表14 受講料等

(1) 研究生

区 分	金 額	
審 査 料	15,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除) 50,000	
研 究 料	経 済 学 部	年額 218,000
	経 営 学 部	年額 218,000
	法 学 部	年額 218,000
	人 文 学 部	年額 224,000
	工 学 部	年額 285,000
実験実習費	工 学 部	80,000

(2) 学部学生等が聴講する研究生講座

区 分	金 額	
受 講 料	経 済 学 部	1単位 8,000円
	経 営 学 部	1単位 8,000
	法 学 部	1単位 8,000
	人 文 学 部	1単位 9,000
	工 学 部	1単位 10,000

(3) 委託生

区 分	金 額	
入 学 検 定 料	30,000円	
入 学 金	50,000	
受 講 料	経 済 学 部	1単位 8,000
	経 営 学 部	1単位 8,000
	法 学 部	1単位 8,000
	人 文 学 部	1単位 9,000
	工 学 部	1単位 10,000
実験実習費	工 学 部	実験を履修する者 80,000

(4) 科目等履修生

区 分	金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除) (履修証明プログラム受講生免除) 30,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除) (履修証明プログラム受講生免除) 50,000	
受 講 料	経 済 学 部	1単位 8,000
	経 営 学 部	1単位 8,000
	法 学 部	1単位 8,000
	人 文 学 部	1単位 9,000
	工 学 部	1単位 10,000
	履修証明プログラム受講生	48,000
実験実習費	工 学 部	実験を履修する者 80,000

(5) 教職課程 (在学生)

区 分	金 額
受 講 料	教 科 1 単 位 (実習費は、実費徴収) 53,000円 8,000

(6) 図書館学課程

区 分	金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除) 30,000円	
受 講 料	司書	
	在 学 生	63,000
	本 学 卒 業 生	185,000
	他 大 学 卒 業 生	238,000
	司書教諭	
	在 学 生	31,000
	本 学 卒 業 生	92,000
	他 大 学 卒 業 生	118,000
	同時受講	
	在 学 生	66,000
本 学 卒 業 生	212,000	
他 大 学 卒 業 生	264,000	
	科目受講者	1単位 8,000

(7) 社会教育主事課程

区 分	金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除) 30,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除) 50,000	
受 講 料	在 学 生	23,000
	本 学 卒 業 生	68,000
	他 大 学 卒 業 生	87,000
	科 目 受 講 者 (実習費は、実費徴収)	1単位 8,000

(8) 学芸員課程

区 分		金 額
入学検定料	(本学卒業生免除)	30,000円
入 学 金	(本学卒業生免除)	50,000
受 講 料	在 学 生	39,000
	本 学 卒 業 生	115,000
	他 大 学 卒 業 生	147,000
	科 目 受 講 者 (実習費は、実費徴収)	1単位 8,000

(9) 日本語教員養成課程

区 分		金 額
入学検定料	(本学卒業生免除)	30,000円
入 学 金	(本学卒業生免除)	50,000
受 講 料	在 学 生 人文学部(免除) 他の学部 卒業生	30,000
	本 大 学 卒 業 生 他 大 学 卒 業 生	1単位 9,000
修了証書手数料		5,000

(10) 特別聴講学生

区 分		金 額
入学検定料		30,000円
入 学 金		50,000
受 講 料	経 済 学 部	1単位 8,000
	経 営 学 部	1単位 8,000
	法 学 部	1単位 8,000
	人 文 学 部	1単位 9,000
	工 学 部	1単位 10,000
実 験 実 習 費	工 学 部	実験を履修する者 80,000

平成28年度より、入学検定料及び入学金の取扱いについては、次のとおりとする。
 (1) 研究生、(4) 科目等履修生、(6) 図書館学課程、(7) 社会教育主事課程、(8) 学芸員課程、(9) 日本語教員養成課程に記載のある本学卒業生免除には北海商科大学卒業生を含む。

(14) 北海学園大学学位規則

昭和45年3月26日 制定

(授与する学位)

第1条 北海学園大学(以下「本大学」という。)が授与する学位は、次のとおりとする。

経済学部 1部	経済学 科 学士(経済学)
	地域経済学 科 学士(経済学)
経済学部 2部	経済学 科 学士(経済学)
	地域経済学 科 学士(経済学)
経営学部 1部	経営学 科 学士(経営学)
	経営情報学 科 学士(経営学)
経営学部 2部	経営学 科 学士(経営学)
法学部 1部	法律学 科 学士(法学)
	政治学 科 学士(法学)
法学部 2部	法律学 科 学士(法学)
	政治学 科 学士(法学)
人文学部 1部	日本文化学 科 学士(文学)
	英米文化学 科 学士(文学)
人文学部 2部	日本文化学 科 学士(文学)
	英米文化学 科 学士(文学)
工学部	社会環境工学 科 学士(工学)
	建築学 科 学士(工学)
	電子情報工学 科 学士(工学)
	生命工学 科 学士(工学)
経済学研究科	経済政策専攻 修 士(経済学) 博士(経済学)
経営学研究科	経営学専攻 修 士(経営学) 博士(経営学)
法学研究科	法律学専攻 修 士(法学) 博士(法学)
	政治学専攻 修 士(政治学) 博士(政治学)
文学研究科	日本文化専攻 修 士(文学) 博士(文学)
	英米文化専攻 修 士(文学) 博士(文学)
工学研究科	建設工学専攻 修 士(工学) 博士(工学)
	電子情報生命工学専攻 修 士(工学) 博士(工学)
法務研究科	法務専攻 法務博士(専門職)

(学位の授与の要件)

第2条 学士の学位は、本大学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、本大学の大学院(以下「本大学院」という。)の修士課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は、本大学院の博士(後期)課程を修了した者に授与する。

4 前項の規定にかかわらず、博士の学位は、本大学院博士(後期)課程を修了しない者であっても、博士論文を提出して、その審査に合格し、かつ、その関係専攻分野に関し本大学院博士(後期)課程修了者と同等以上の学力を有することを試験により確認された場合には、授与することができる。

5 本大学院の博士(後期)課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて退学した者が、再入学せずに論文を提出するときは、前項の規定によるものとする。ただし、退学したときから3年以内に提出する場合に限り、審査手数料の納入を免除する。

6 法務博士(専門職)の学位は、本大学院法務研究科法務専攻専門職学位課程を修了した者に授与する。

(論文の提出)

第3条 修士論文は、在学第2年次以降において、各研究科において指定する期間内に、研究科長に提出しなければならない。

2 博士論文は、在学第3年次以降において、各研究科

において指定する期間内に、研究科長に提出しなければならない。

- 3 前条第4項の規定により博士の学位の授与を申請する者は、所定の博士学位申請書、研究業績一覧表、博士論文の要旨、履歴書及び別に定める審査手数料を添えて、博士論文を研究科長に提出しなければならない。
- 4 提出する論文は1編とし、3通を提出するものとする。
- 5 提出した論文及び納入した審査手数料は、返還しない。

(論文の審査及び試験)

第4条 修士論文の審査及び試験は、「学位規則」(昭和28年文部省令第9号)第3条に定めるところを基準として行うものとする。

2 博士論文の審査及び試験は、「学位規則」(昭和28年文部省令第9号)第4条に定めるところを基準として行うものとする。

3 論文の審査及び試験に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て、研究科長が定める。

(論文の審査)

第5条 修士論文及び博士論文の審査は、研究科の審査委員会が行う。

2 前項の審査委員会は、原則として、当該研究科委員会に所属する3人の委員をもって構成する。第2条第2項、第3項に定める学位論文の審査のための審査委員会には、学位申請者の指導教授を加えるものとする。

3 第2条第2項、第3項に定める学位論文の審査は、原則として在学期間に終了するものとし、第2条第4項及び第5項に定める博士論文の審査は、その提出日から1年以内に終了するものとする。

(試験)

第6条 試験は、審査委員が筆記又は口頭で行う。

2 試験は、修士論文又は博士論文の内容を中心として行う。

3 第2条第4項に定める学力を確認するための試験は、博士論文の内容、関連する専攻分野の科目及び外国語について行う。ただし、学位申請者の経歴、研究上の業績から優れた学力が認められる場合は、関連する専攻分野の科目及び外国語についての試験を免除することができる。

(審査等の報告)

第7条 修士論文又は博士論文の審査及び試験が終了したときは、審査委員会は、その結果を、修士論文又は博士論文及び試験の要旨を記載した書面により研究科委員会に報告しなければならない。

2 審査を終了した修士論文又は博士論文は、おおむね1週間、研究科委員会の委員に対して公開するものとする。

3 研究科長は、研究科委員会の委員に対し、修士論文又は博士論文の提出者の氏名、修士論文又は博士論文の題目、公開の期間及び期日と場所その他必要な事項を、公開期間前7日までに書面をもって通知しなければならない。

(合格又は不合格の決定)

第8条 修士論文及び博士論文並びに試験の合格又は不合格は、研究科委員会において決定する。

2 前項の研究科委員会は、委員総数の3分の2以上の者が出席しなければ、開催することができない。

3 第1項の合格の決定は、研究科委員会の委員の無記名投票により出席者の3分の2以上の者が賛成するこ

とを必要とする。

(合格者の報告)

第9条 修士論文及び博士論文並びに試験の合格者が決定したときは、研究科長は、遅滞なく、その旨を学長に報告しなければならない。

2 前項の報告には、修士論文又は博士論文の審査及び試験の結果の要旨並びに履歴書2通を添付しなければならない。

(学位の授与及び学位記)

第10条 学長は、教授会の議を経て、本大学学則第32条の定める単位を修得した者に、第1条に該当する学士の学位を授与する。

2 学長は、大学院委員会の議を経て、修士論文又は博士論文の審査及び試験の合格者に対し、第1条(法務博士(専門職)を除く)に該当する学位を授与する。

3 学長は、法務研究科の議を経て、本大学院学則第27条の2に定める単位を修得した者に対し、第1条に定める法務博士(専門職)の学位を授与する。

4 学位記は、別記様式のとおりとする。

(論文要旨等の公表)

第11条 本大学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3ヶ月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査結果の概要をインターネットの利用により公表するものとする。

2 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前にすでに公表している場合は、この限りではない。

3 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむをえない理由がある場合には、本大学の承認を得て、当該博士の学位授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

4 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本大学の機関リポジトリHOKUGA(以下「HOKUGA」という。)を活用して、インターネットによるものとする。

5 前項の規定にもかかわらず、博士の学位を授与された者がHOKUGA以外の形態によって公表する場合には、本大学が授与した学位に係る論文またはその要旨である旨を明記しなければならない。

(学位の取消)

第12条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は、教授会又は大学院委員会の議を経て、授与した学位を取り消すものとする。

(1) 不正な方法により学位を受けた事実が判明したとき

(2) 学位を授与された者にその名誉を汚辱する行為があったとき

2 前項の規定により学位を取り消された者は、その学位記を本大学に返さなければならない。

(規則の改正)

第13条 この規則の改正は、本大学協議会又は本大学院委員会の議を経て行う。

附 則

この規則は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成3年12月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、令和2年4月1日から施行する。

別記様式

1 (本学を卒業した場合の卒業証書・学位記)

印	氏名	年 月 日生	卒業証書・学位記
			本学〇〇学部〇〇学科所定の課程を修めたことを認める
			北海学園大学〇〇学部長 〇〇〇〇
			本学〇〇学部長の認定により
			卒業証書を授与し学士(〇〇)の
			学位を授ける
			北海学園大学長 〇〇〇〇
			学(済・営・法・文・工)第 号
印	印		

4 (論文提出による場合の学位記)

氏名	年 月 日生	学位記
		本学に学位論文を提出し 所定の審査及び試験に合格 したので博士(〇〇)の 学位を授ける
		北海学園大学 博(経済・経営・法・政治・文・工) 乙第 号
		印

2 (修士課程を修了した場合の学位記)

氏名	年 月 日生	学位記
		本学大学院〇〇研究科 〇〇専攻の修士課程を 修了したので修士(〇〇)の 学位を授ける
		北海学園大学 修(経済・経営・法・政治・文・工) 第 号
		印

5 (法務研究科法務専攻専門職学位課程を修了した場合の学位記)

氏名	年 月 日生	学位記
		本学大学院法務研究科法務専攻 所定の課程を修めて本学大学院を 修了したことを認め法務 博士(専門職)の学位を授ける
		北海学園大学 博(専門職) 第 号
		印

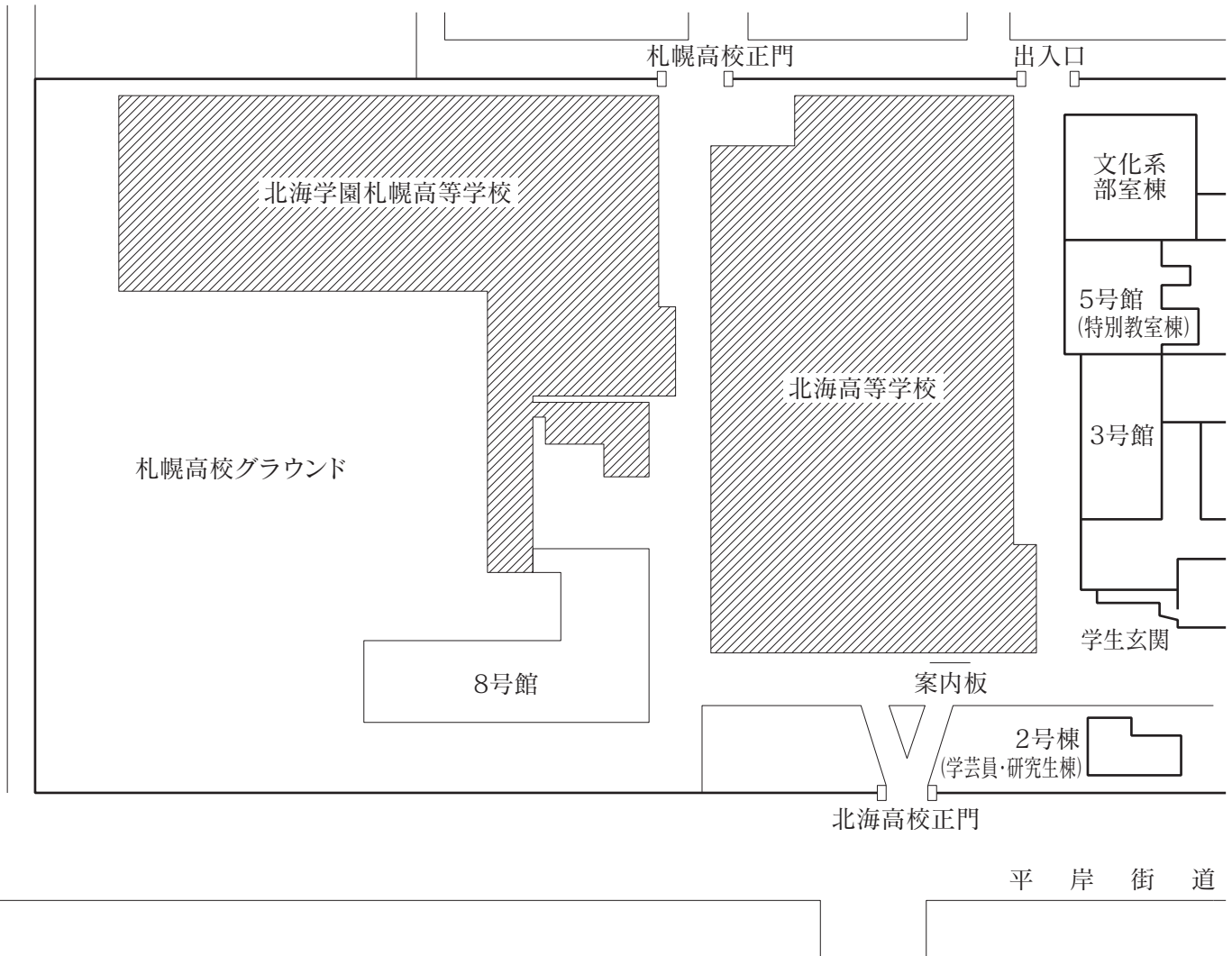
3 (博士(後期)課程を修了した場合の学位記)

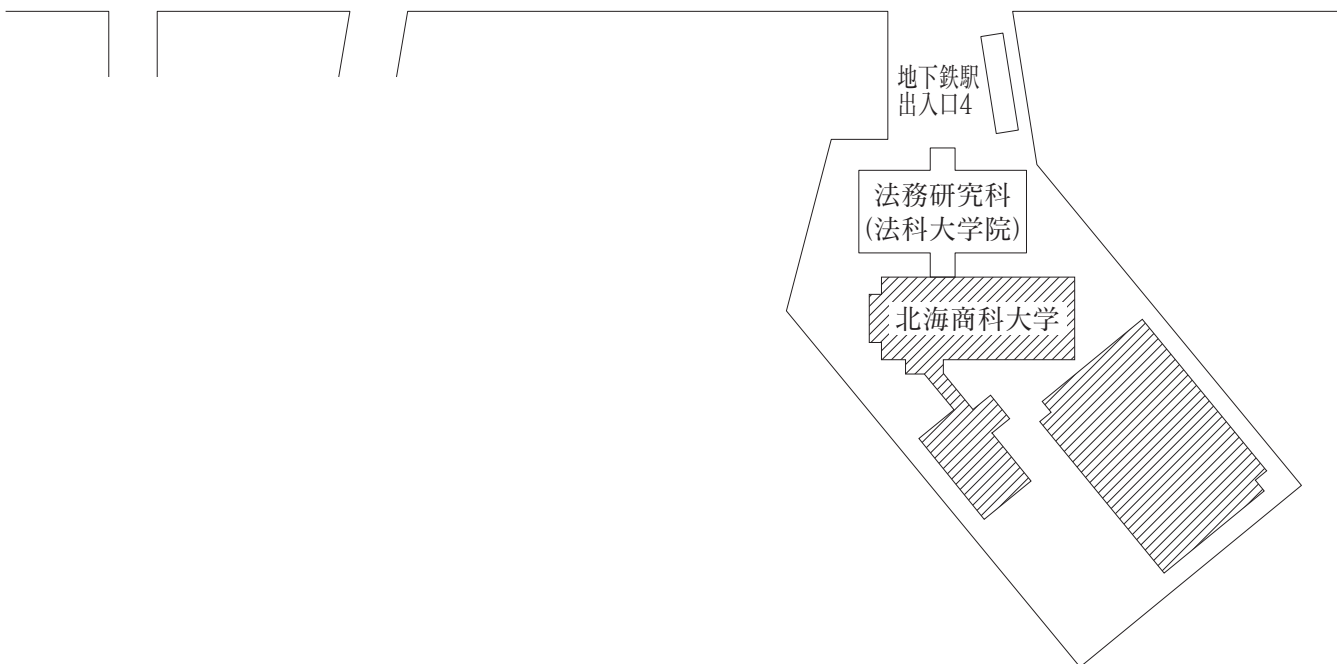
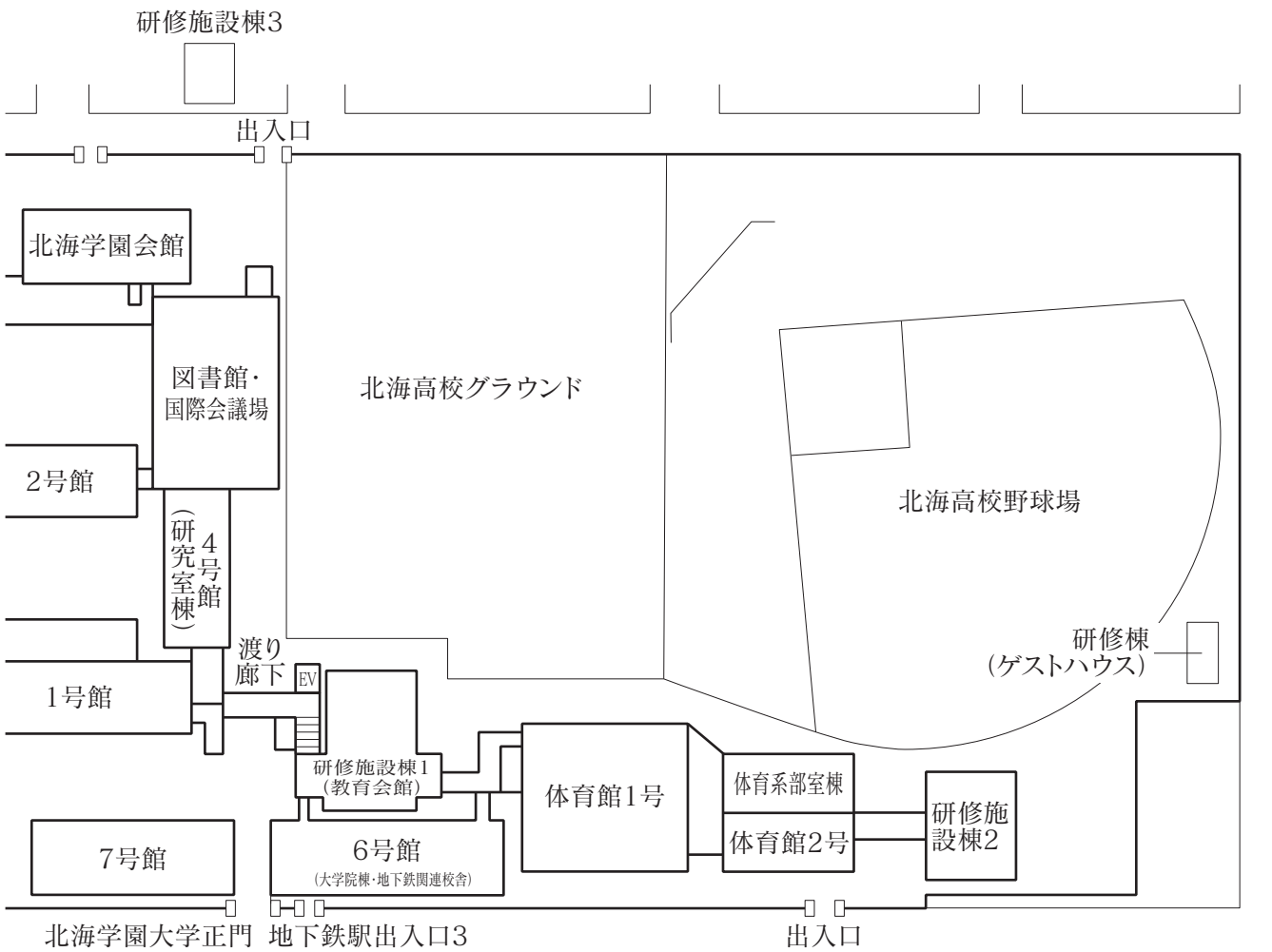
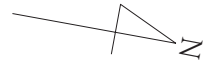
氏名	年 月 日生	学位記
		本学大学院〇〇研究科 〇〇専攻の博士課程を 修了したので博士(〇〇)の 学位を授ける
		北海学園大学 博(経済・経営・法・政治・文・工) 甲第 号
		印

13. 校舎見取り図

1. 豊平校舎

所在地 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号

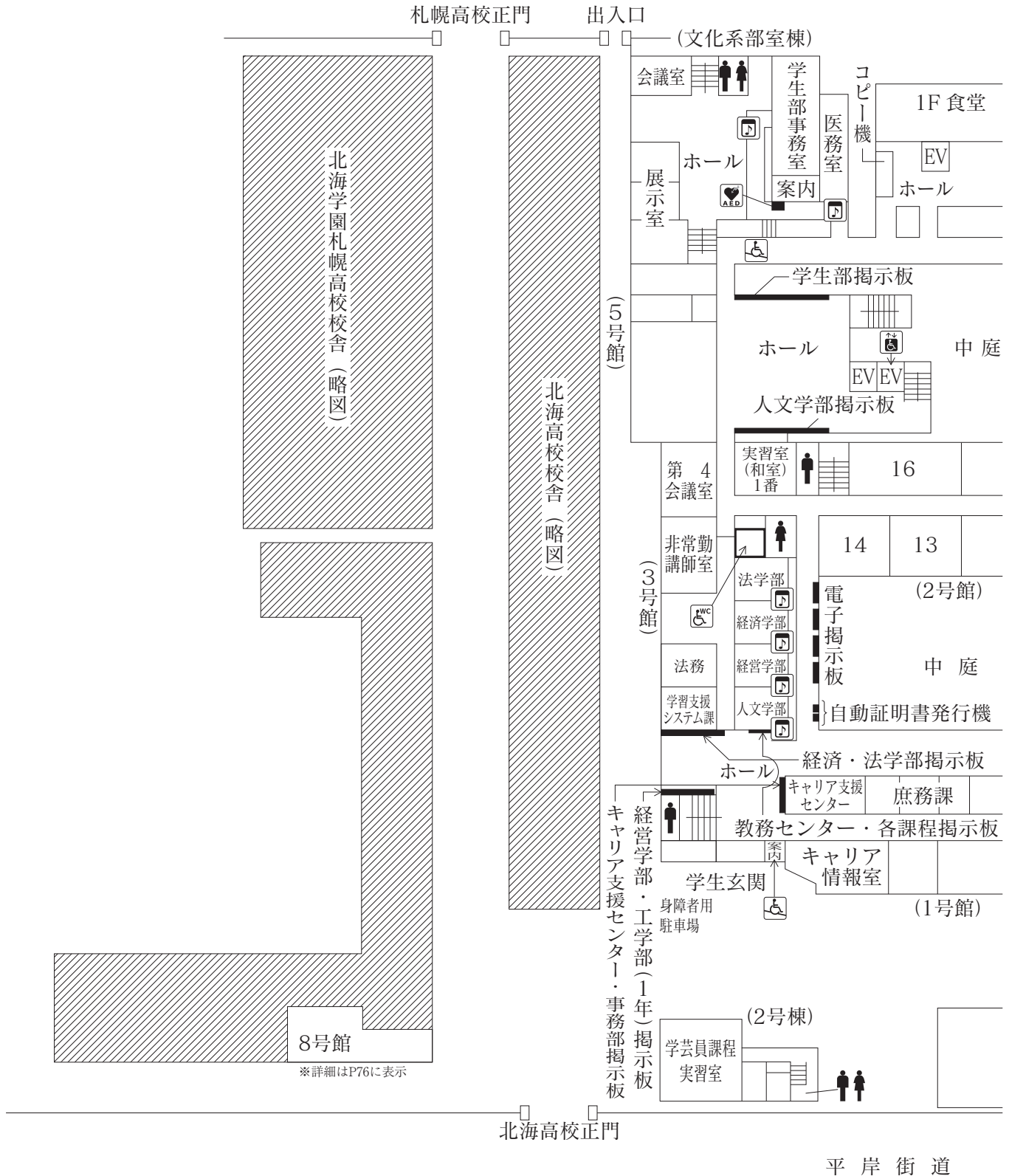




1階平面図

-  スロープ
-  職員呼出
チャイム
-  車イス対応
エレベーター
-  多目的トイレ
-  車イス使用者用
出入口(生協食堂)
-  AED設置

数字は教室番号

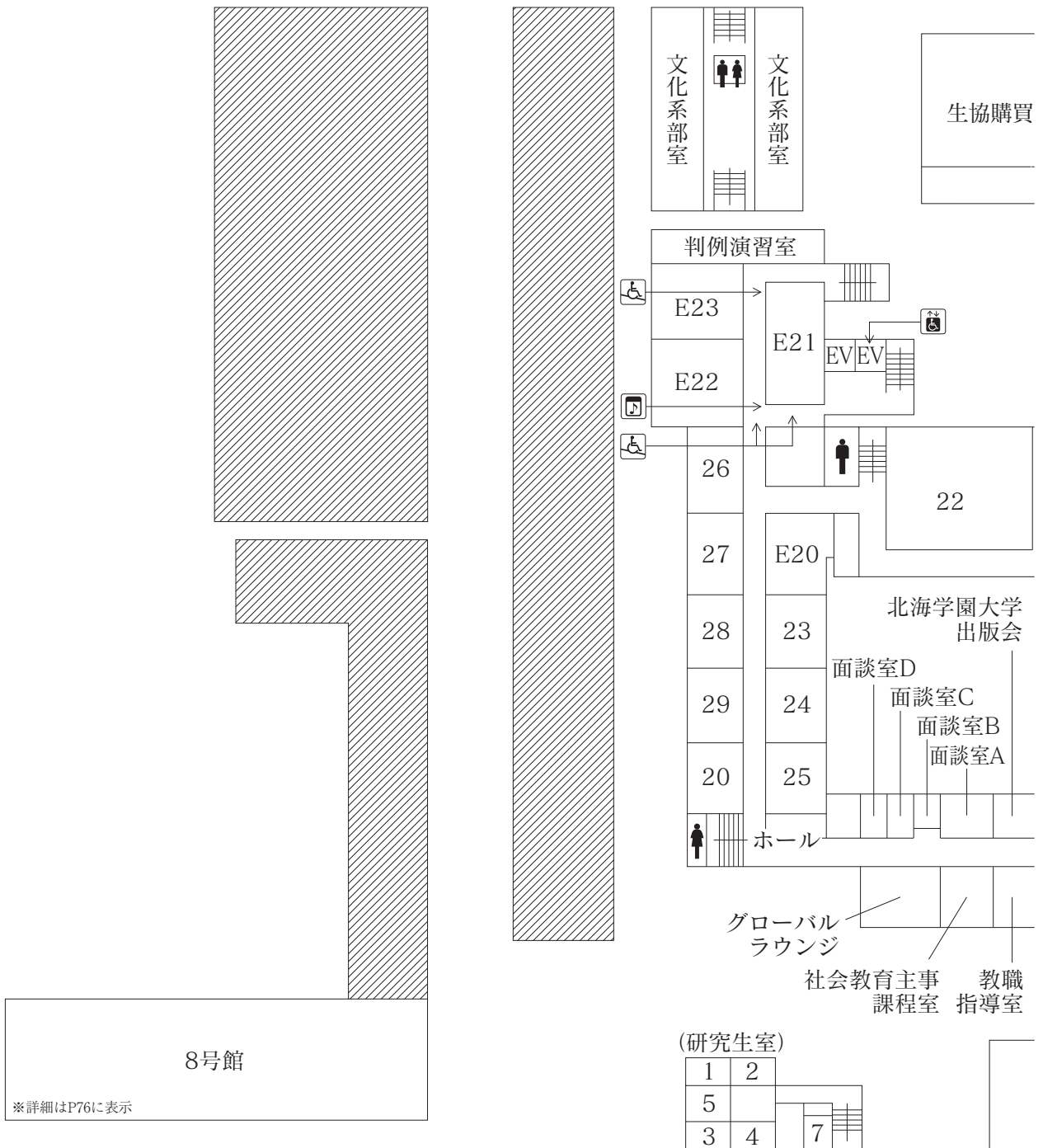




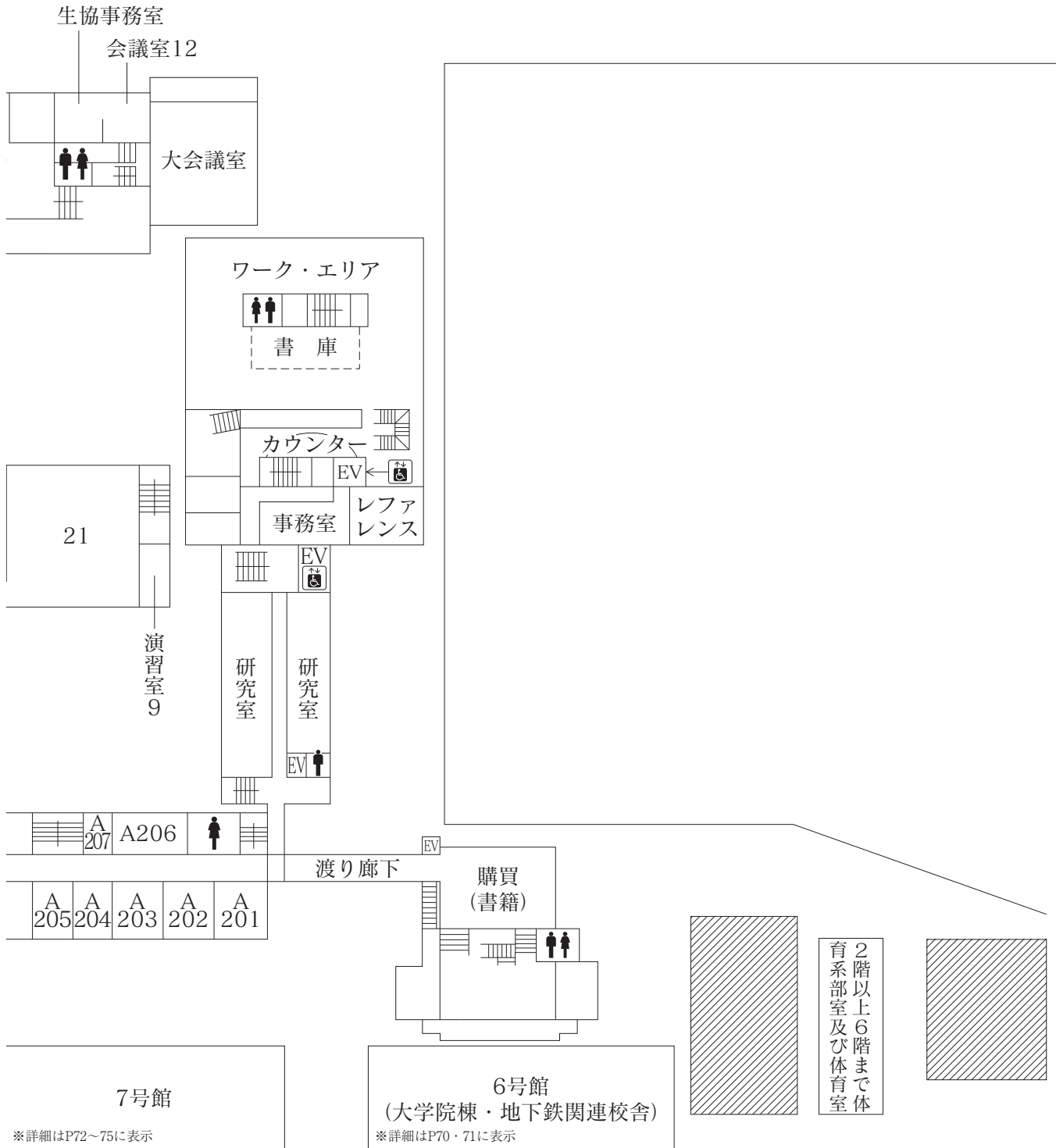
※詳細はP72～75に表示

2階平面図

 スロープ
  職員呼出チャイム
  車イス対応エレベーター
  多目的トイレ
  車イス使用者用出入口(生協食堂)
  AED設置



2 F

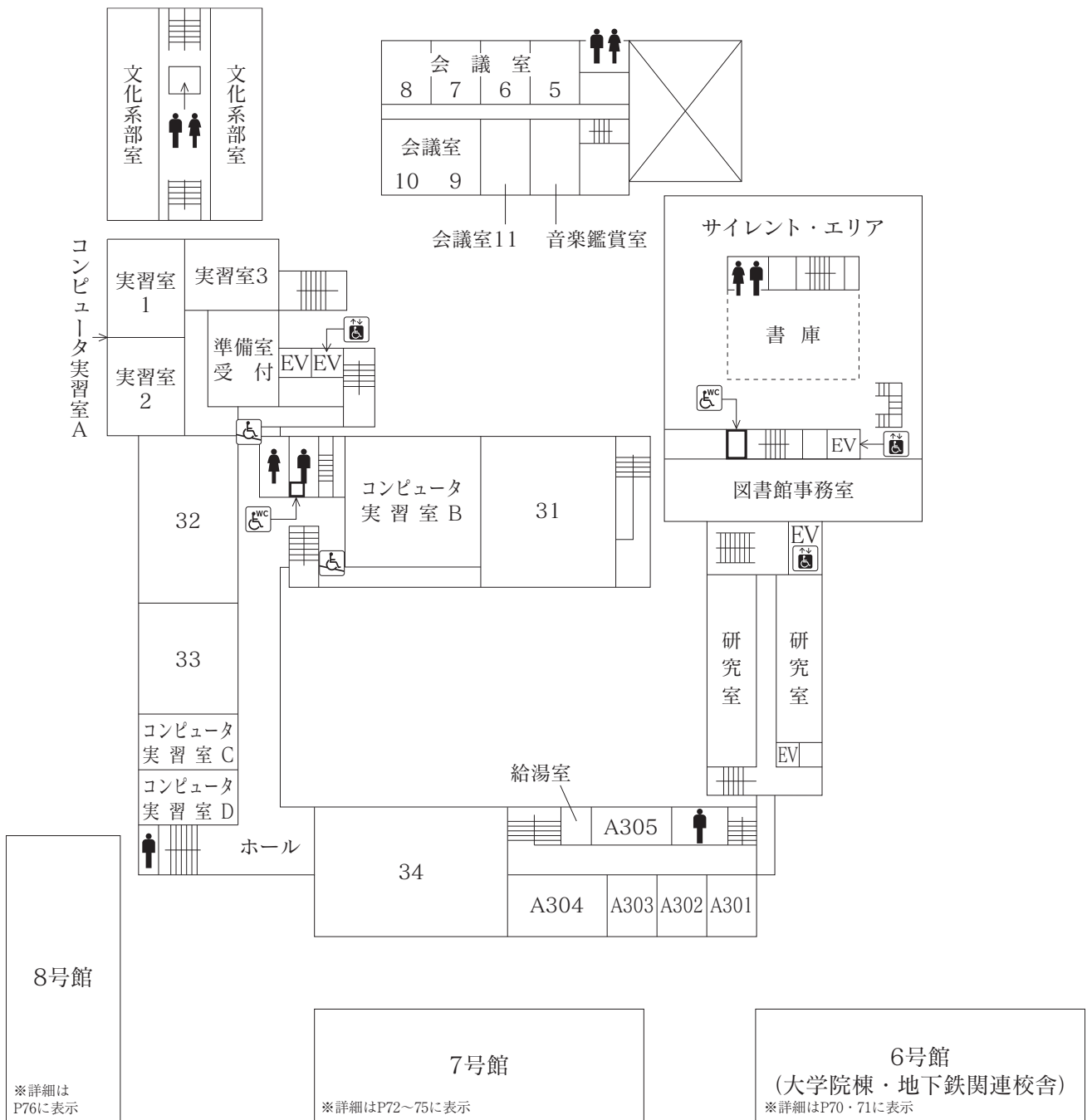


※詳細はP72～75に表示

※詳細はP70・71に表示

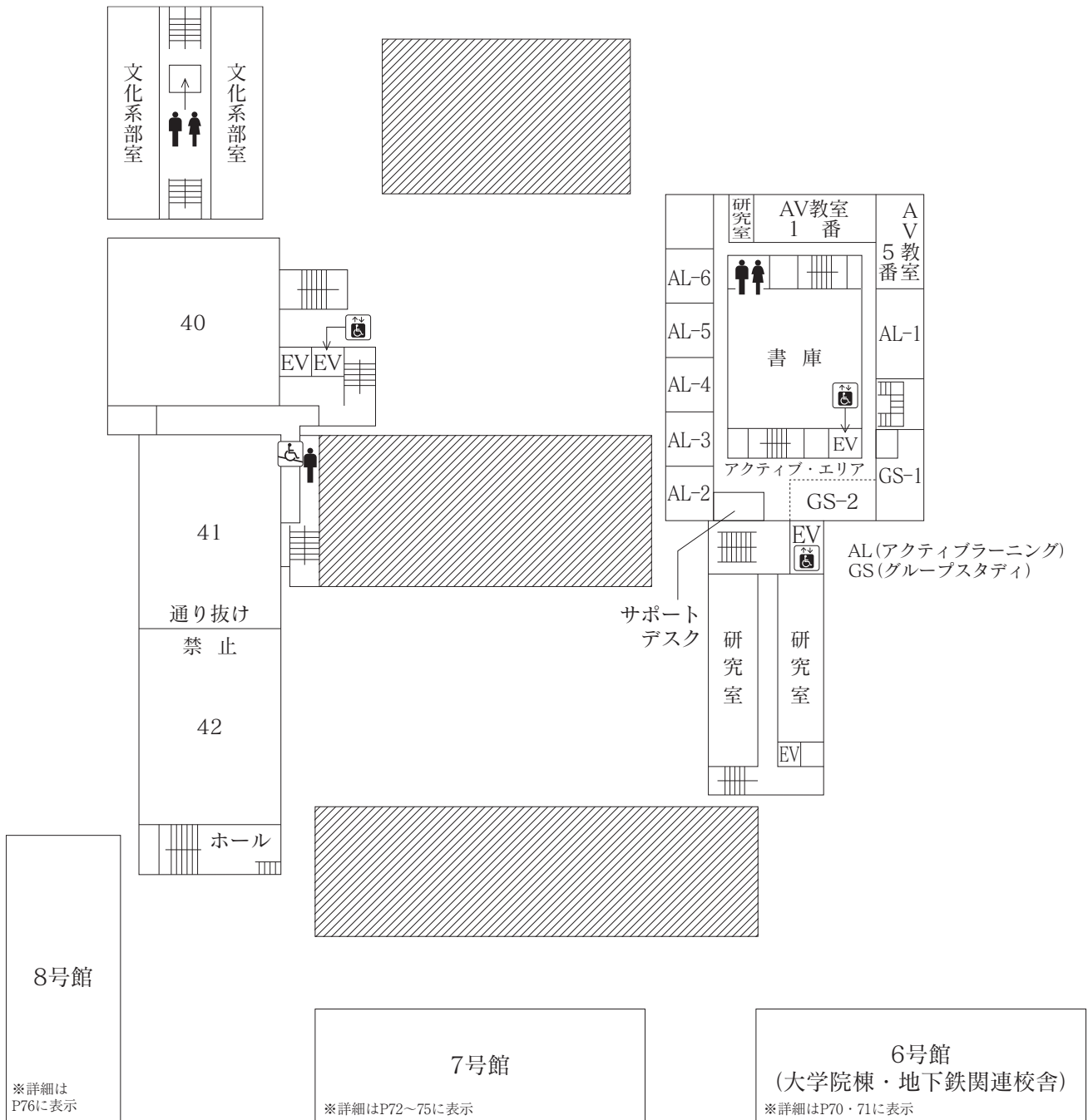
3階平面図

 スロープ
  職員呼出チャイム
  車イス対応エレベーター
  多目的トイレ
  車イス使用者用出入口(生協食堂)
  AED設置



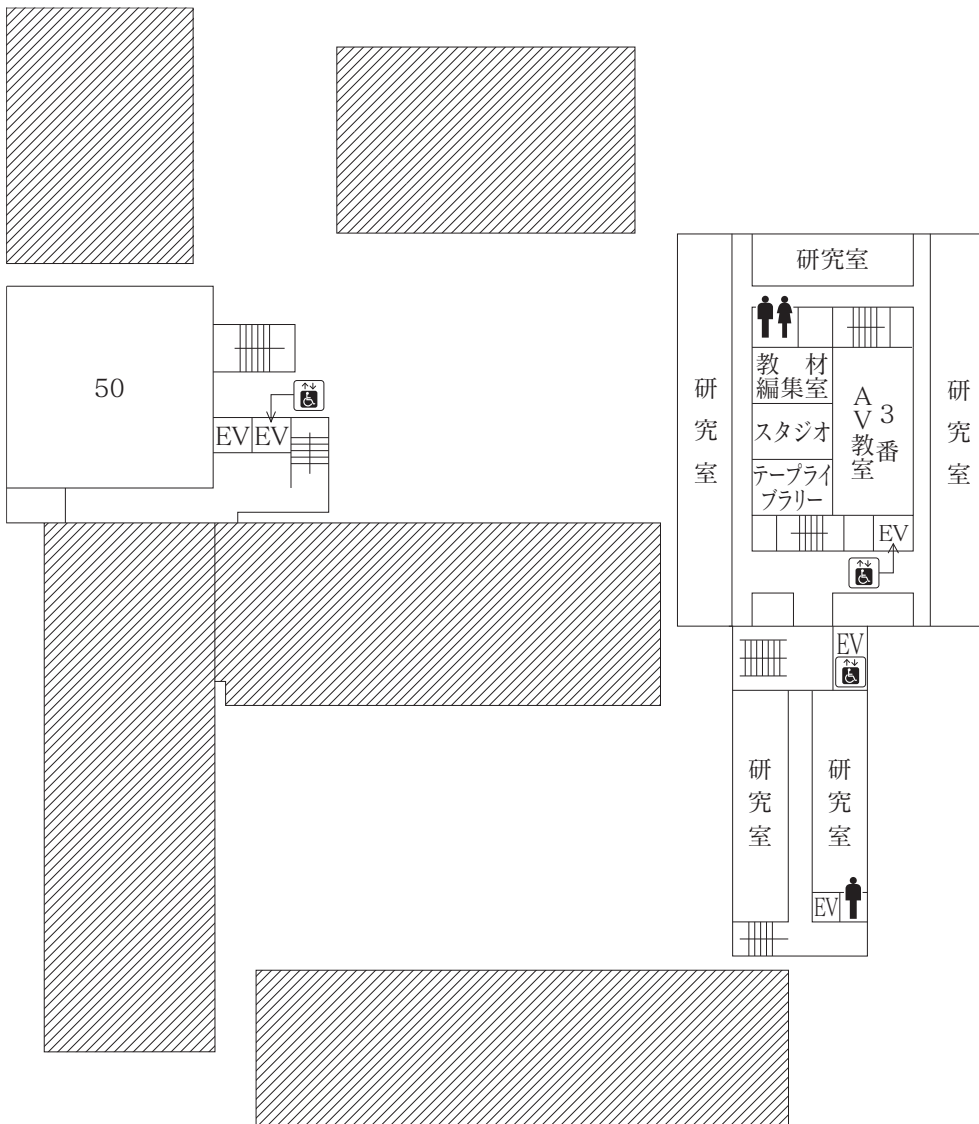
4階平面図

スロープ 職員呼出チャイム 車イス対応エレベーター 多目的トイレ 車イス使用者用出入口(生協食堂) AED設置



5階平面図

-  スロープ
-  職員呼出チャイム
-  車イス対応エレベーター
-  多目的トイレ
-  車イス使用者用出入口(生協食堂)
-  AED設置



7号館

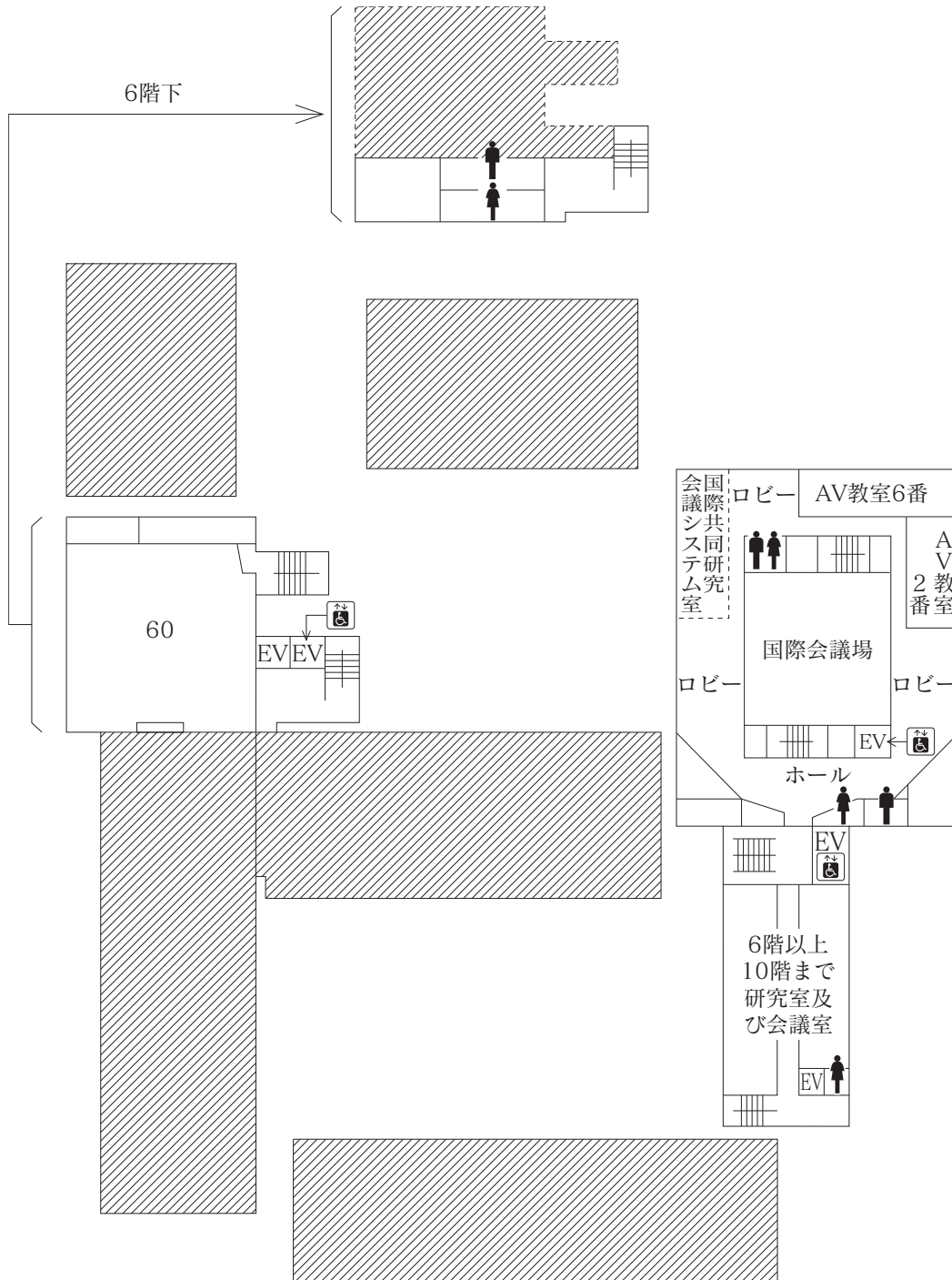
※詳細はP72～75に表示

6号館
(大学院棟・地下鉄関連校舎)

※詳細はP70・71に表示

6階平面図

-  スロープ
-  職員呼出チャイム
-  車イス対応エレベーター
-  多目的トイレ
-  車イス使用者用出入口(生協食堂)
-  AED設置



7号館

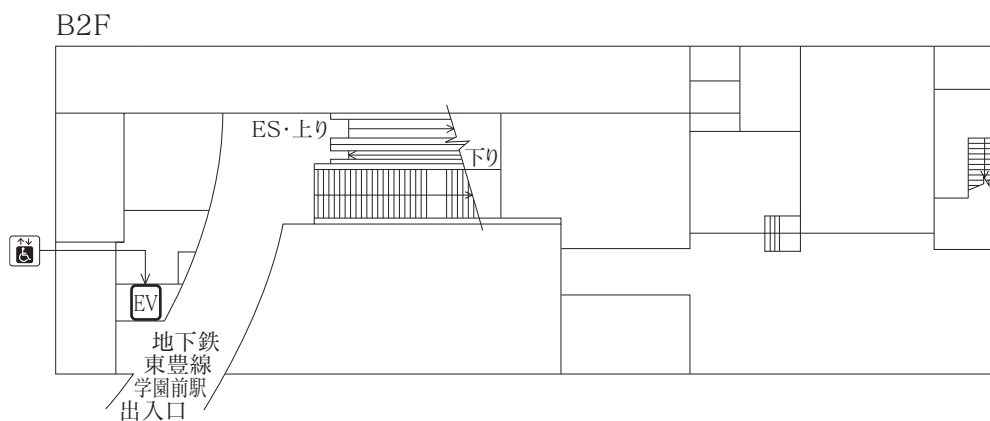
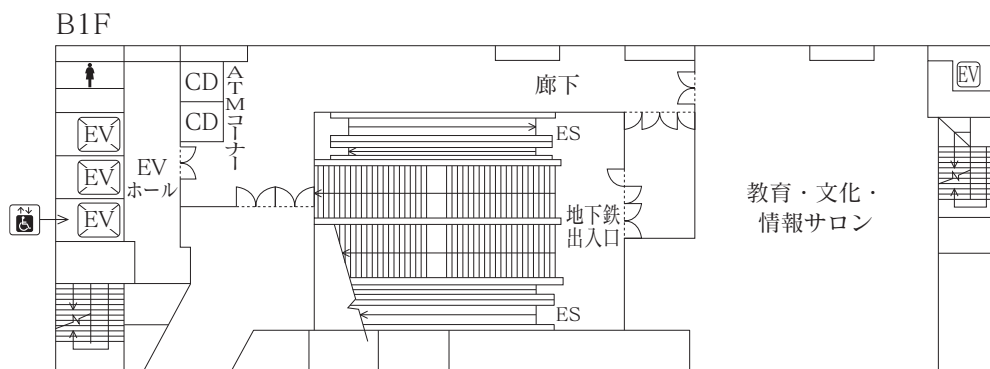
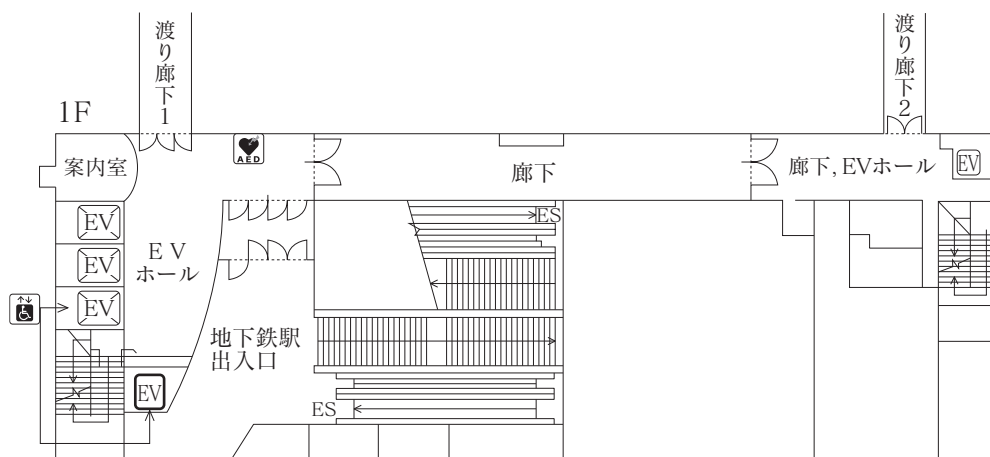
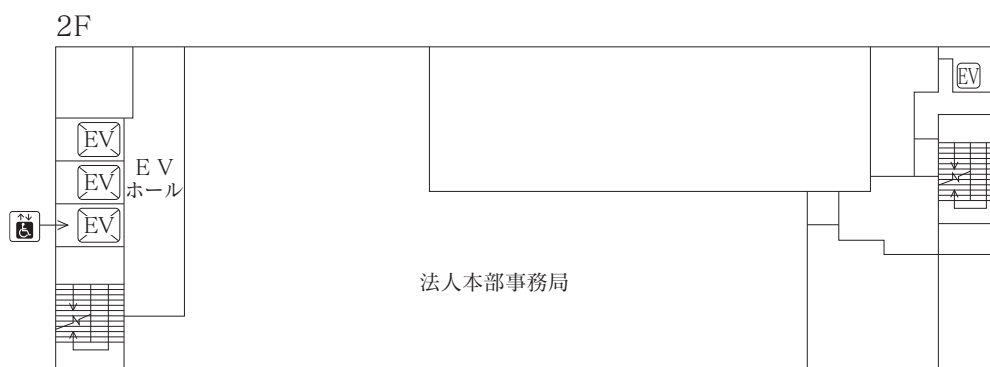
※詳細はP72～75に表示

6号館
(大学院棟・地下鉄関連校舎)

※詳細はP70・71に表示

6号館
(大学院棟・地下鉄関連校舎) 平面図

-  スロープ
-  職員呼出チャイム
-  車イス対応エレベーター
-  多目的トイレ
-  車イス使用者用出入口(生協食堂)
-  AED設置



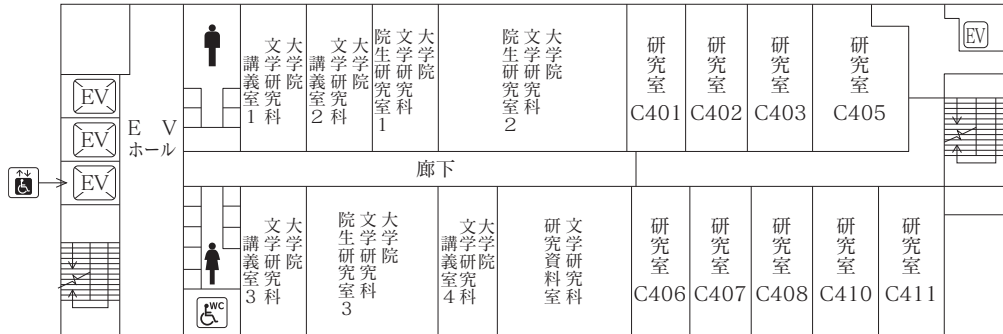
6F



5F



4F



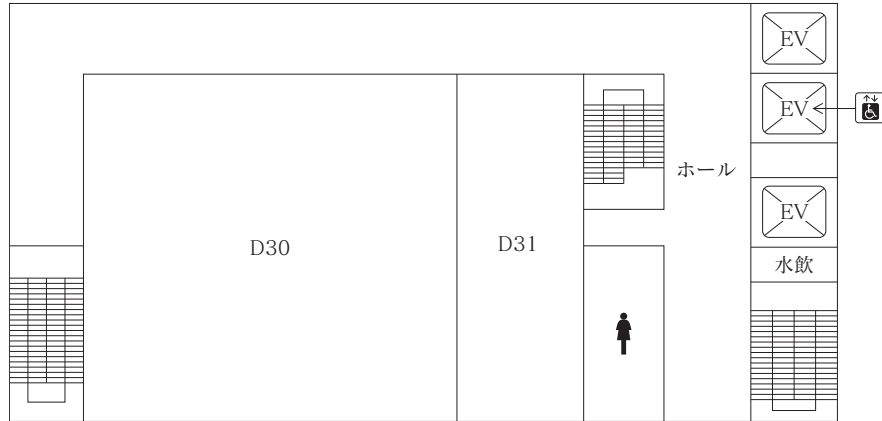
3F



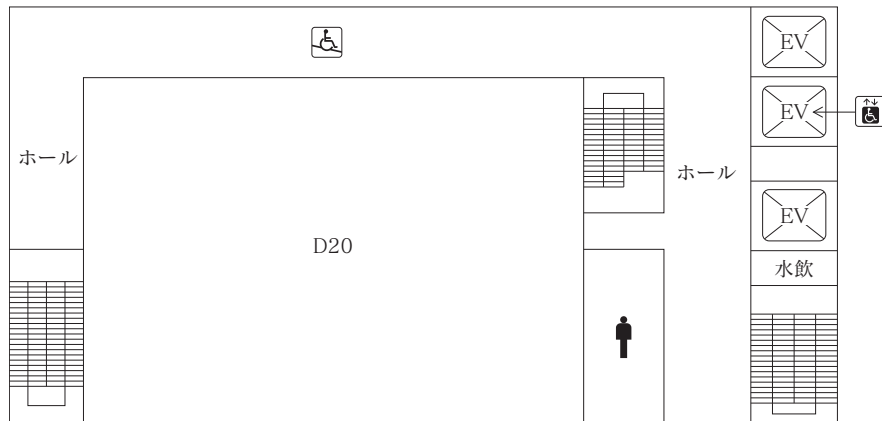
7号館平面図

-  スロープ
  職員呼出チャイム
  車イス対応エレベーター
  多目的トイレ
  車イス使用者用出入口(生協食堂)
  AED設置

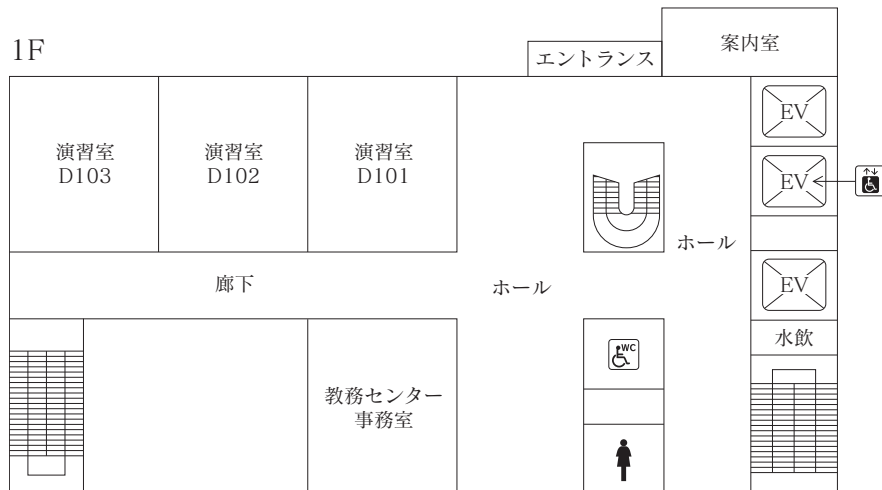
3F



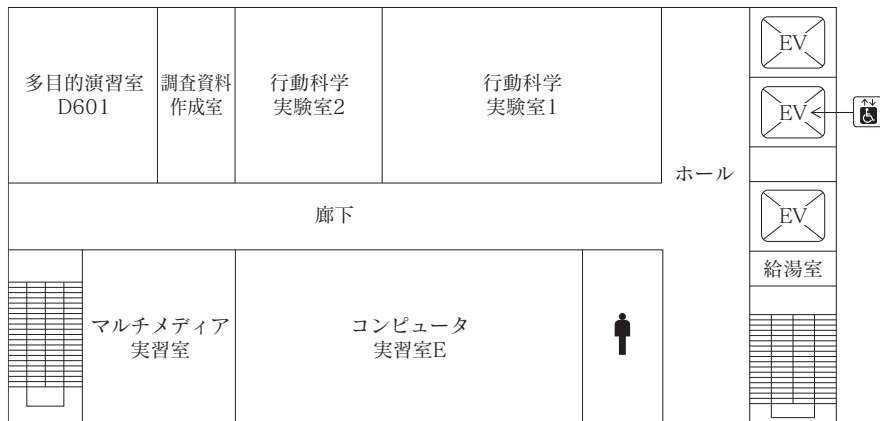
2F



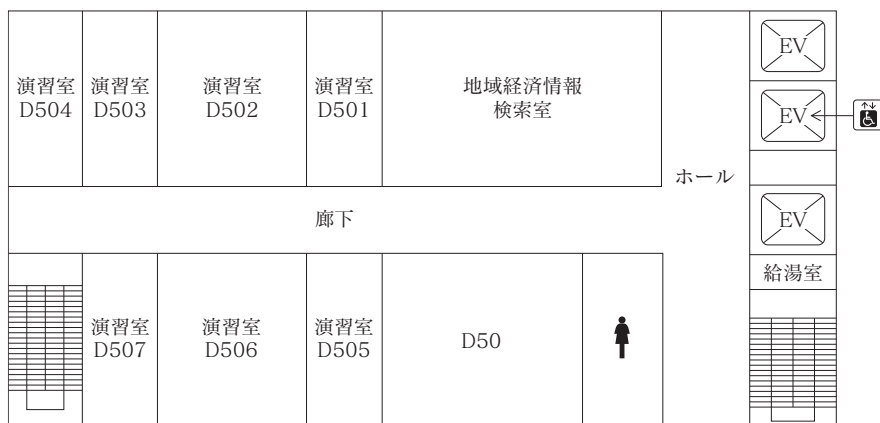
1F



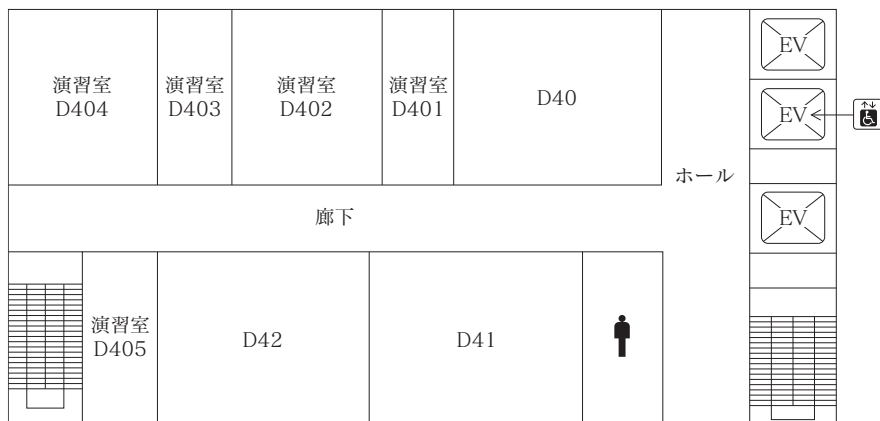
6F



5F



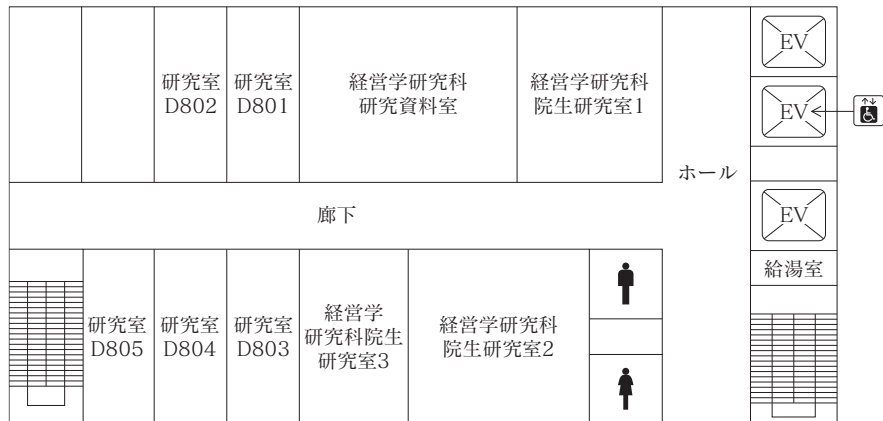
4F



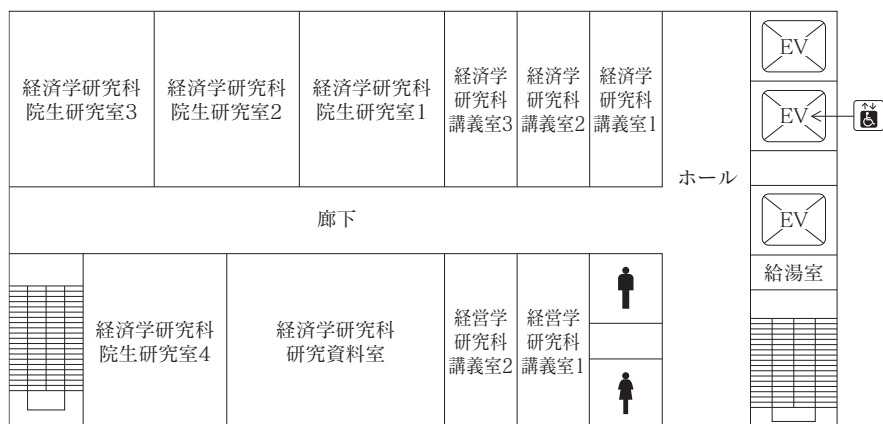
7号館平面図

-  スロープ
  職員呼出チャイム
  車イス対応エレベーター
  多目的トイレ
  車イス使用者用出入口(生協食堂)
  AED設置

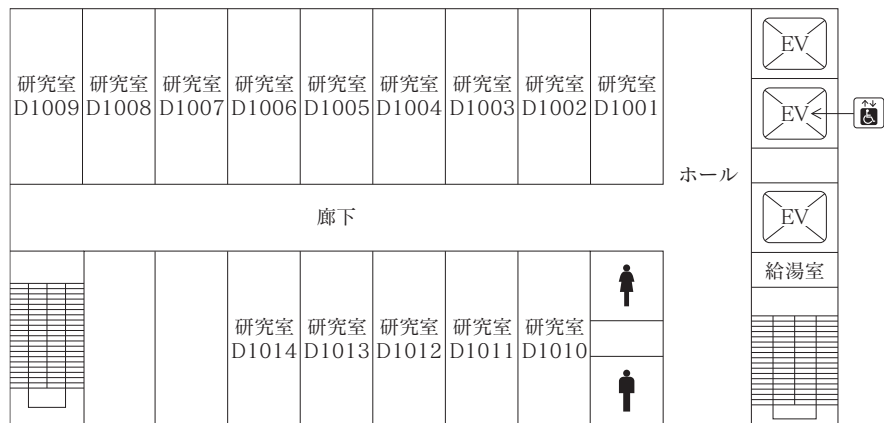
8F



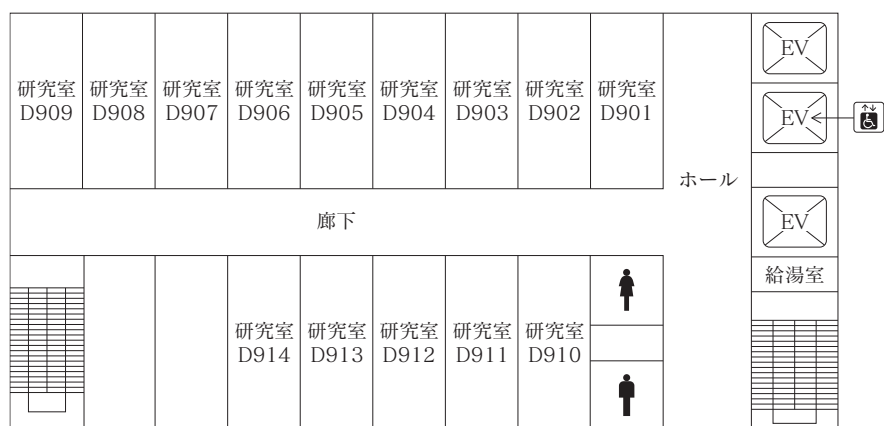
7F



10F



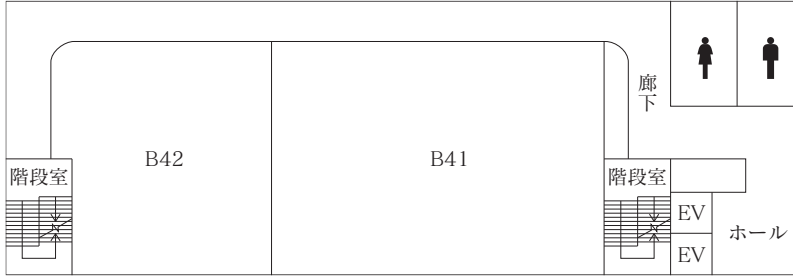
9F



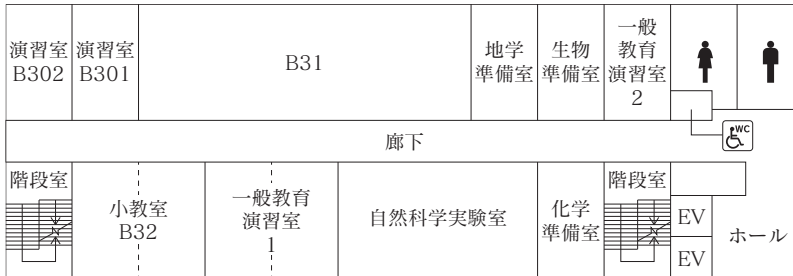
8号館平面図

 スロープ
  職員呼出チャイム
  車イス対応エレベーター
  多目的トイレ
  車イス使用者用出入口(生協食堂)
  AED設置

4F



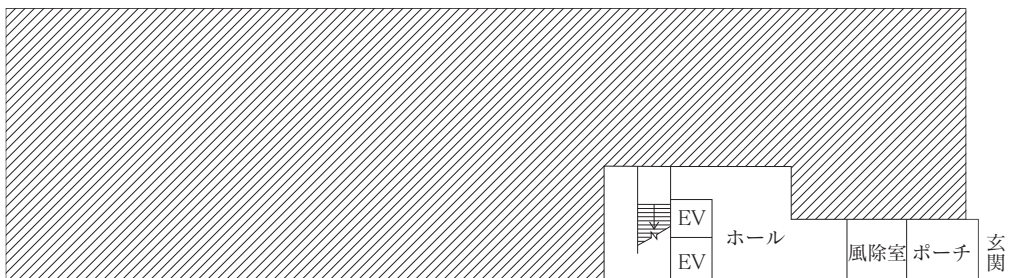
3F



2F



1F



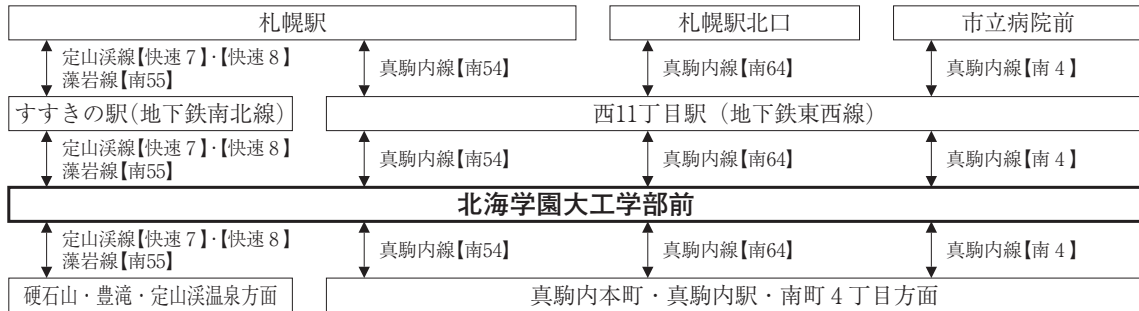
2. 山鼻校舎

所在地 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号

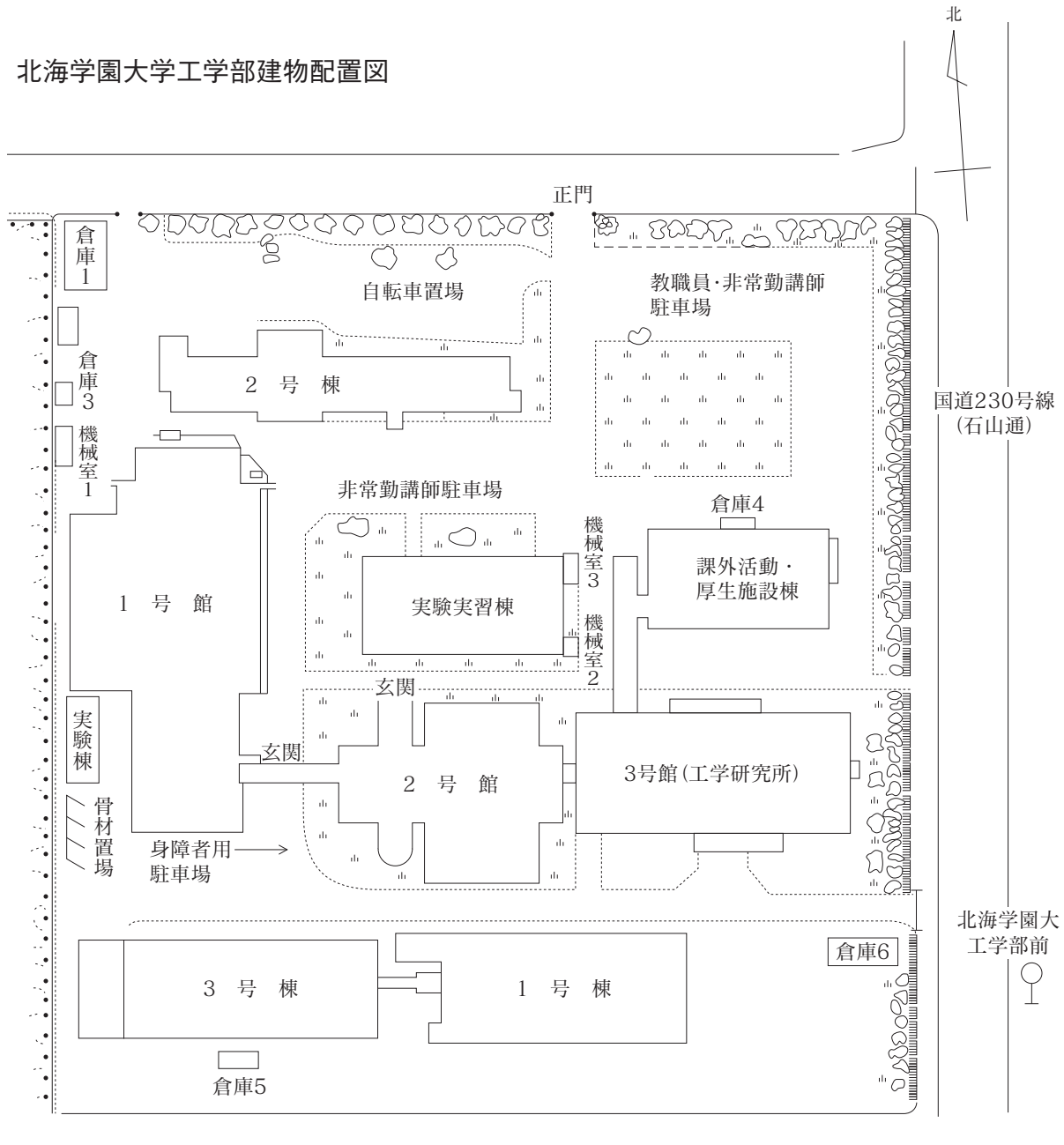
山鼻校舎へのアクセス

山鼻校舎へのアクセスは、「じょうてつバス」を利用し、「北海学園大工学部前」停留所で下車すると便利です。

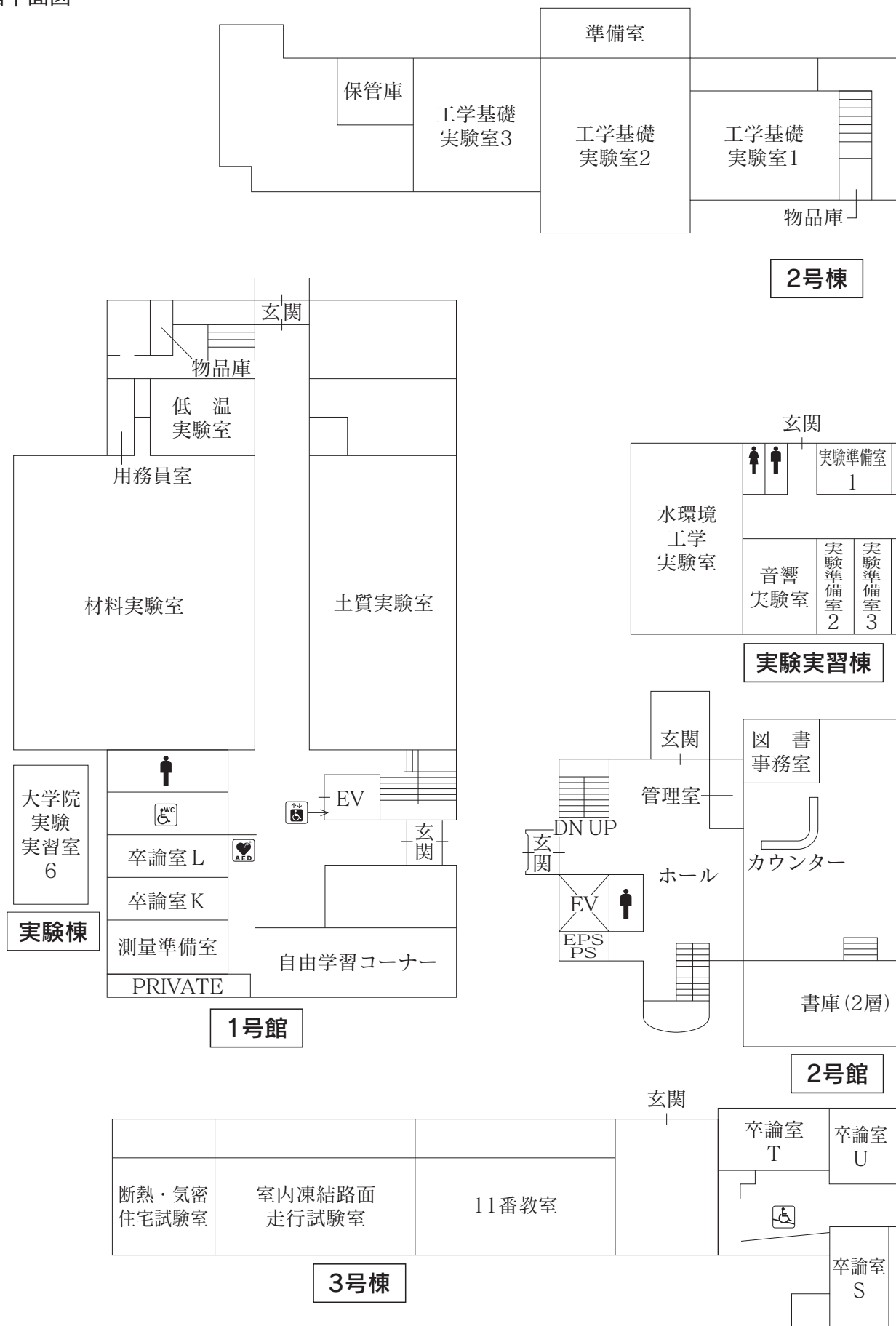
- 路線図（概略）は下記を参照してください。
- 乗車時間は、バスの系統や季節によって異なります。各自、時刻表等で確認してください。
- 定刻どおりに運行しないこともありますので、時間に余裕をもって通学してください。

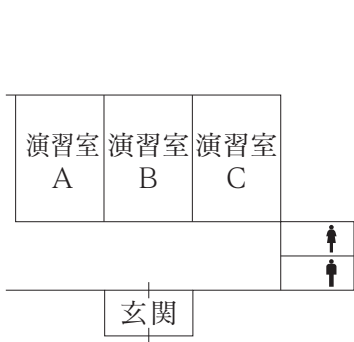


北海学園大学工学部建物配置図



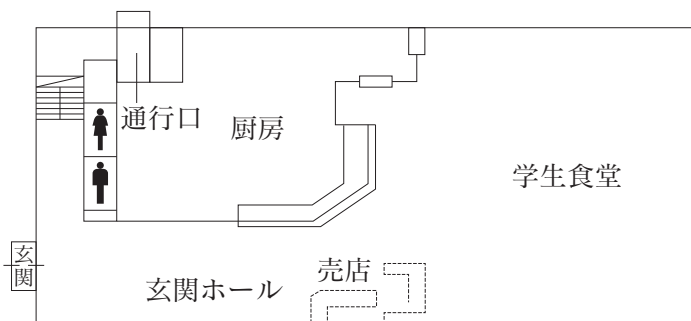
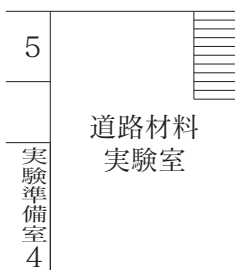
山鼻校舎 1階平面図



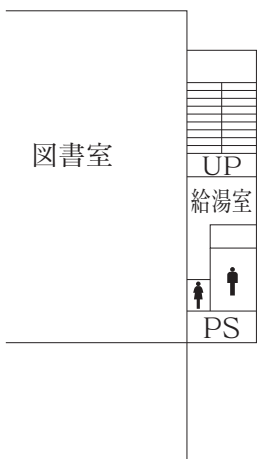


北

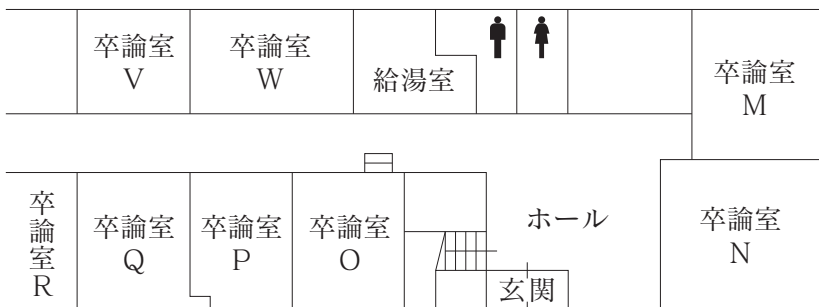
-  スロープ
-  職員呼出チャイム
-  車イス対応エレベーター
-  多目的トイレ
-  車イス使用者用出入口(生協食堂)
-  AED設置



課外活動・厚生施設棟



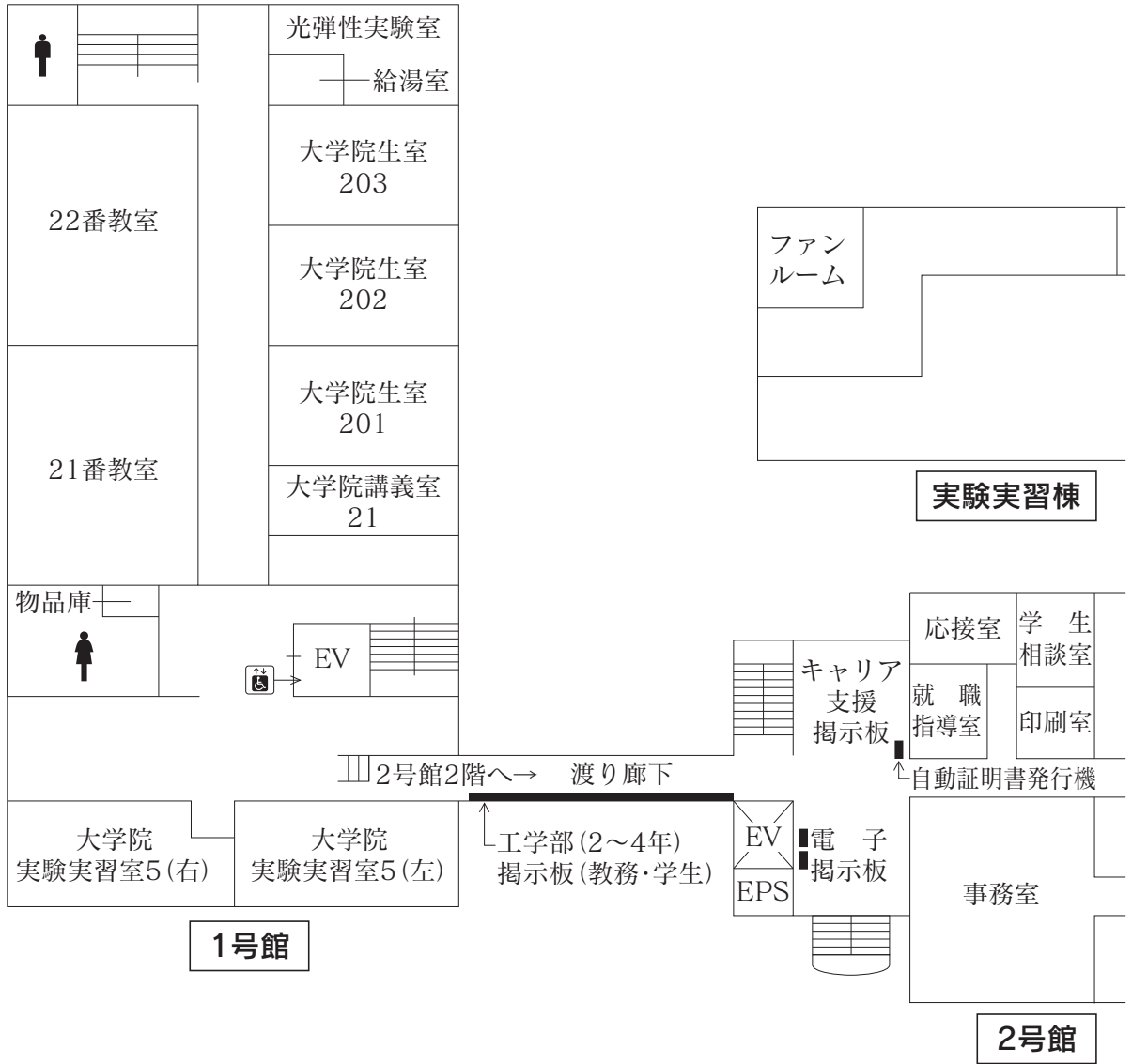
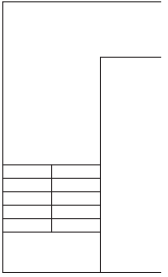
3号館

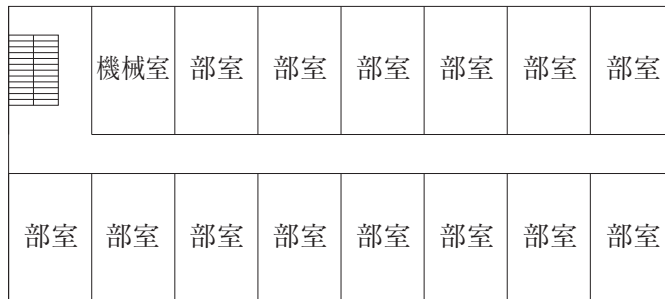
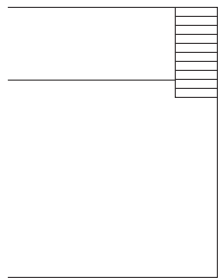
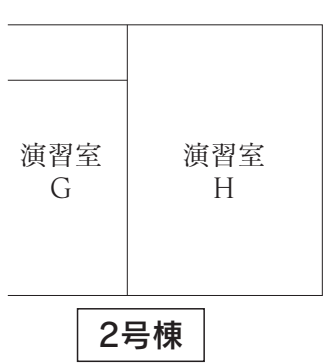


1号棟

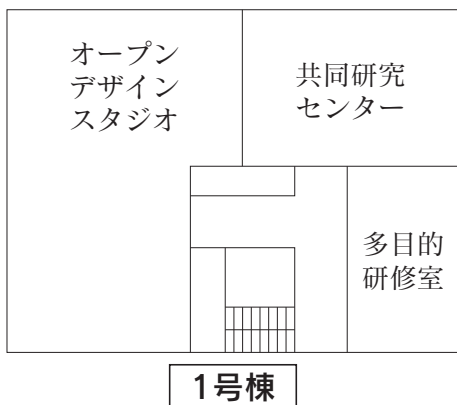
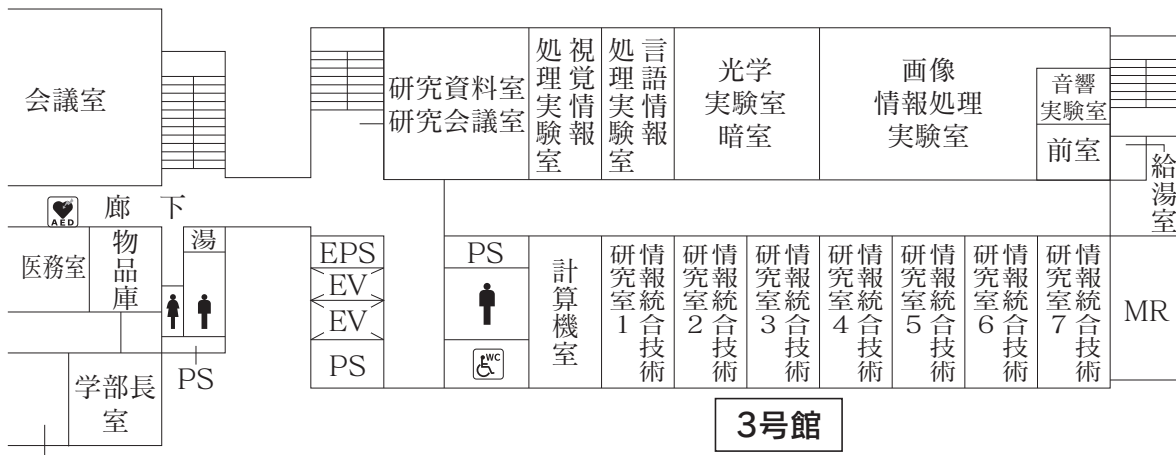
山鼻校舎 2階平面図

-  スロープ
-  職員呼出チャイム
-  車イス対応エレベーター
-  多目的トイレ
-  車イス使用者用出入口(生協食堂)
-  AED設置



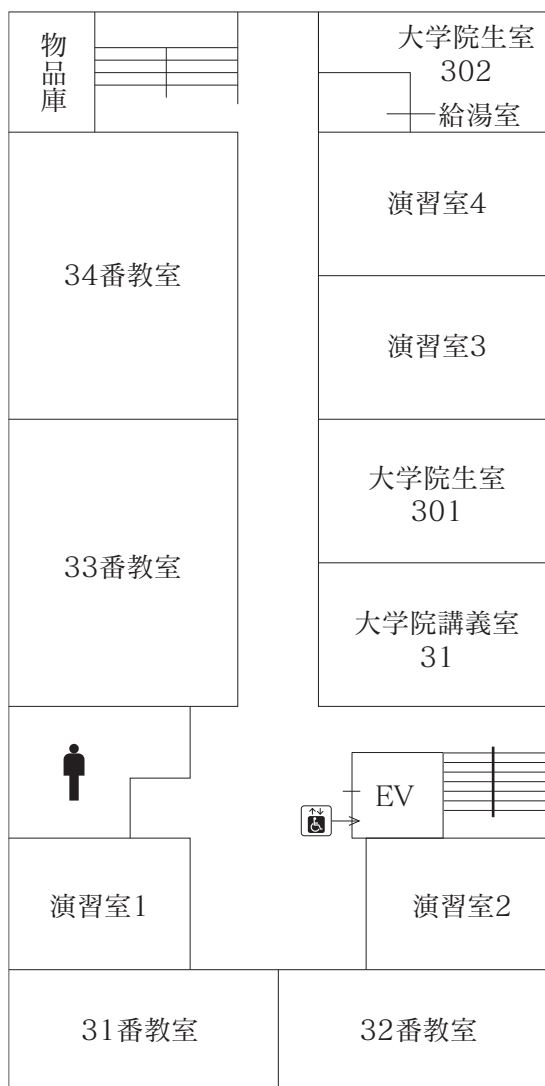


課外活動・厚生施設棟



山鼻校舎 1号館平面図

3F



4F

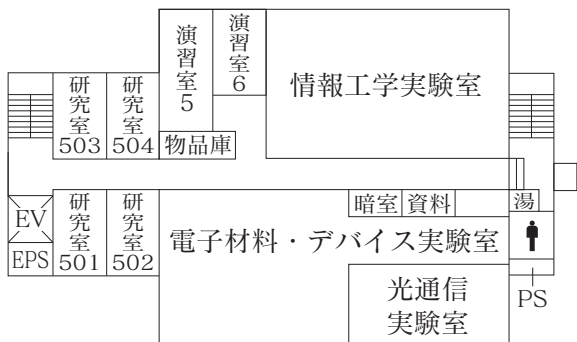


山鼻校舎 2号館平面図

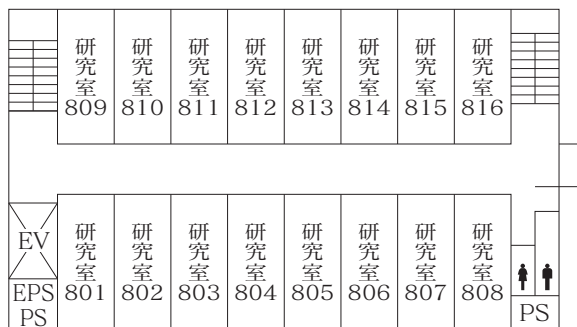
-  スロープ
-  職員呼出チャイム
-  車イス対応エレベーター
-  多目的トイレ
-  車イス使用者用出入口 (生協食堂)
-  AED設置

北

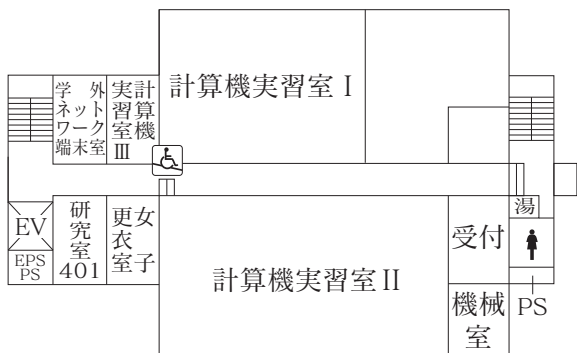
5F



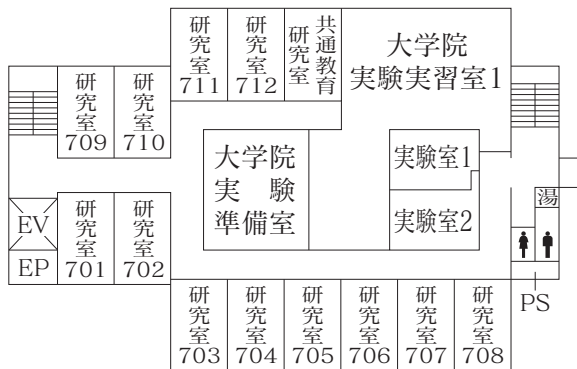
8F



4F



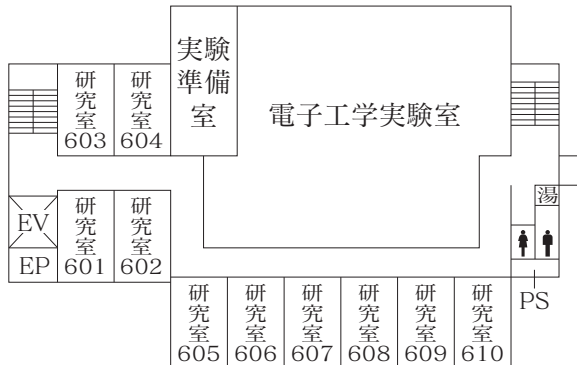
7F



3F

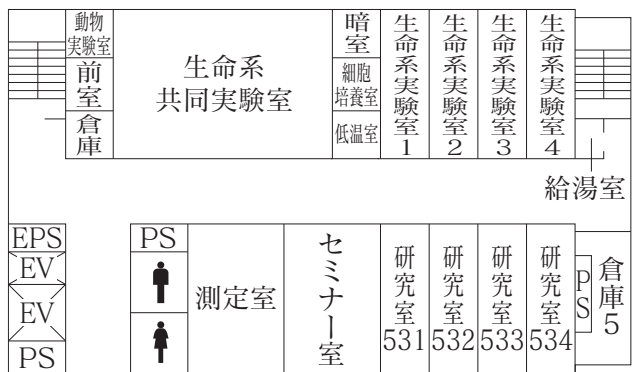


6F

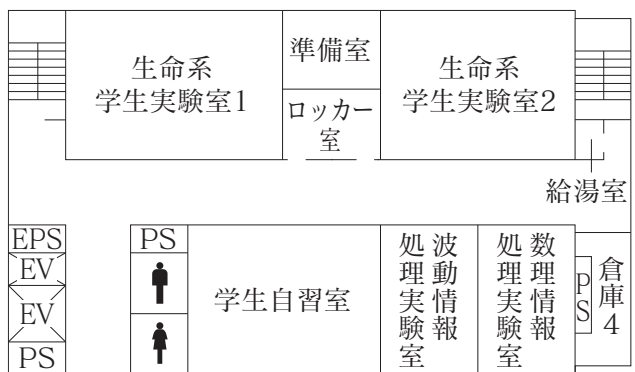


山鼻校舎 3号館平面図

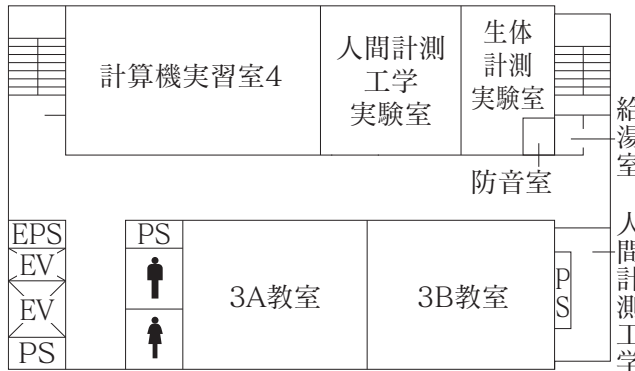
5F



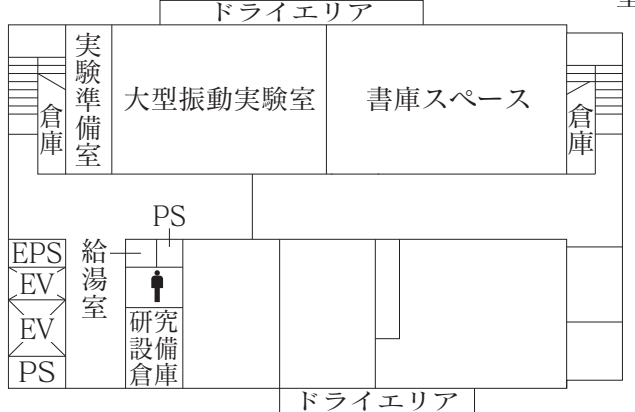
4F



3F

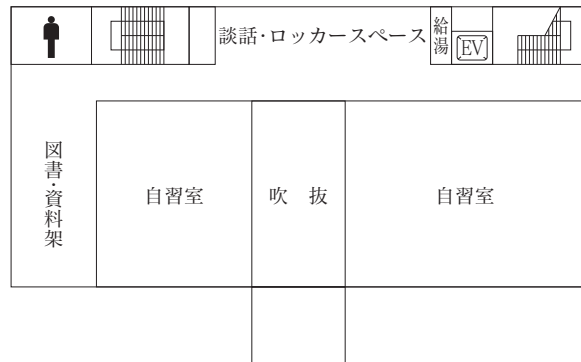


B1F

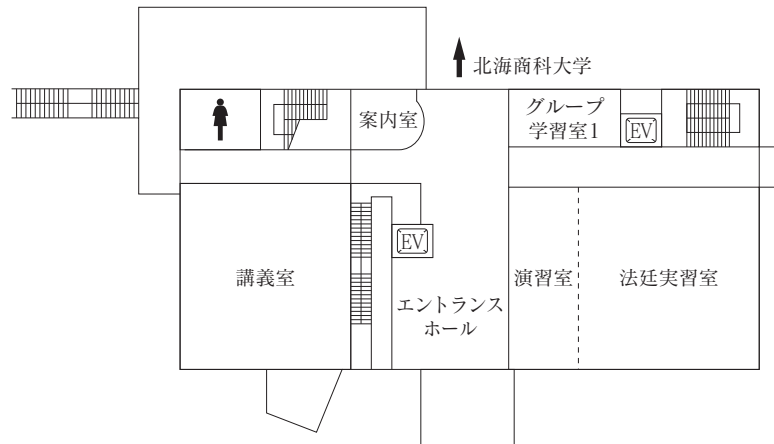


3. 法務研究科（法科大学院）

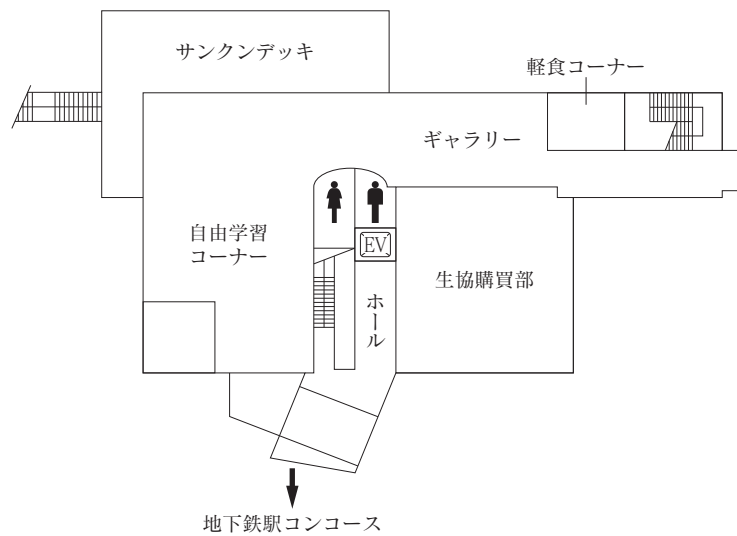
2F



1F

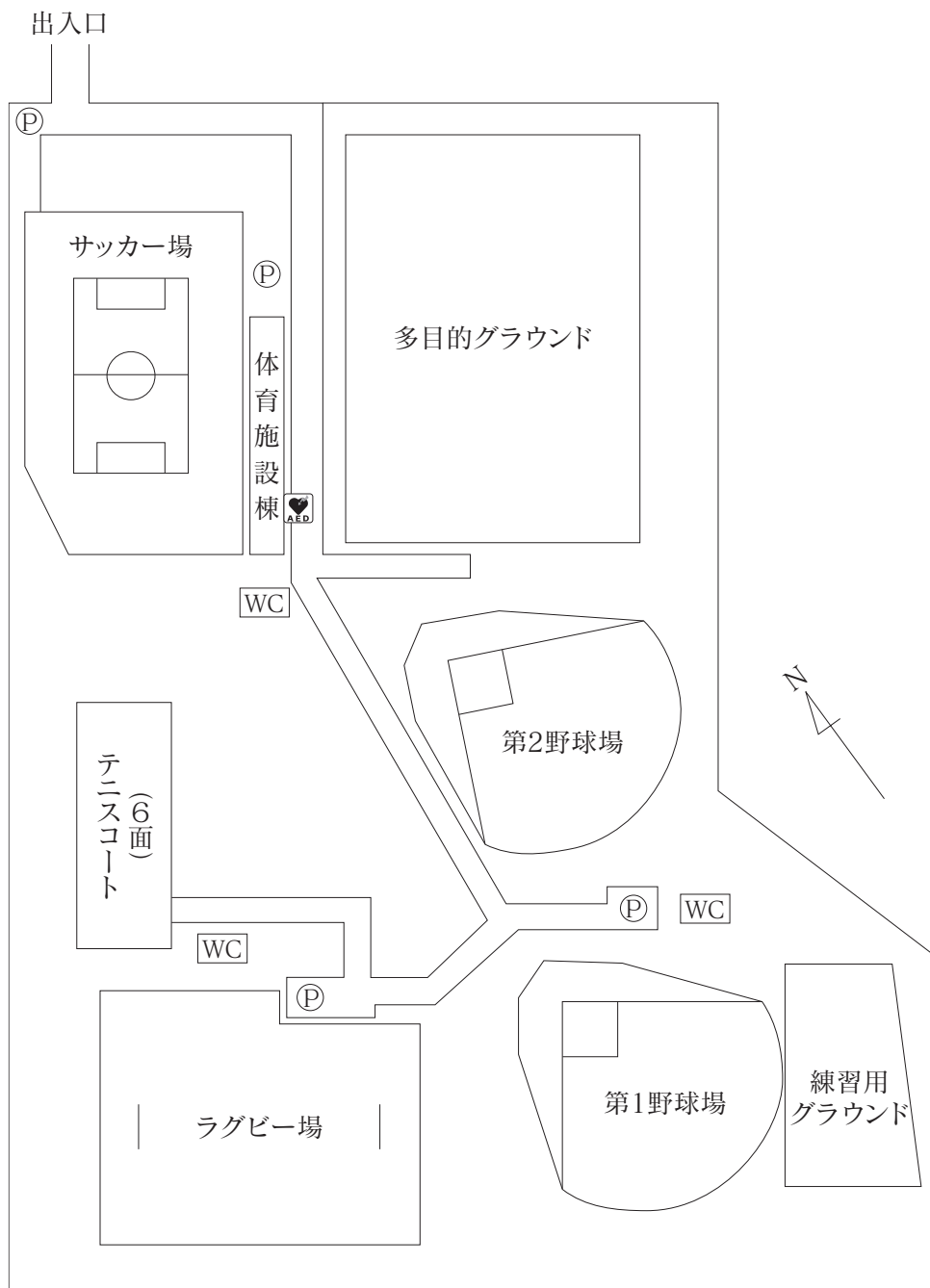


B1F

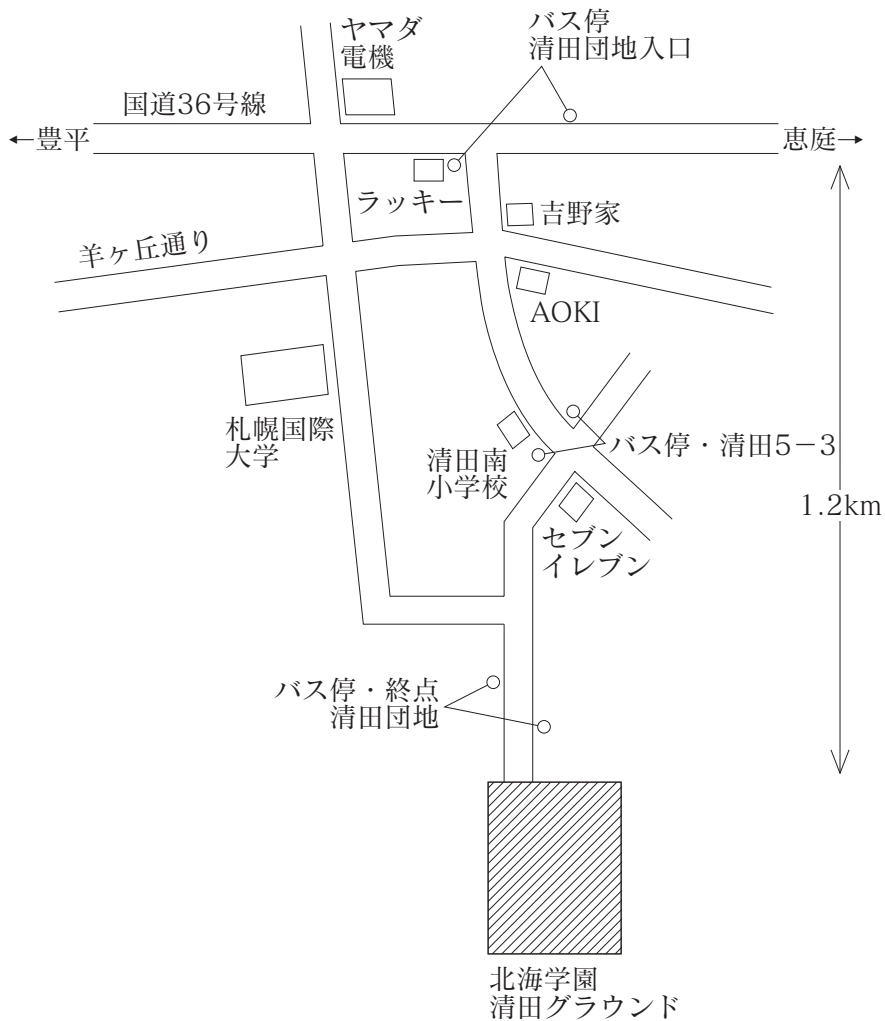


4. 清田グラウンド

所在地 札幌市清田区清田355番地



- ※国道36号線……中央バス・恵庭，千歳行き
バス停「清田団地入口」徒歩25分
- ※地下鉄東豊線……学園前駅から福住駅迄
- ※中央バス……「南86番・清田団地行き」終点徒歩5分
- ※中央バス……「福86番・清田団地行き」終点徒歩5分
- ※中央バス……「85番・清田団地9条3丁目行き」
バス停・清田5-3下車，徒歩15分





北海道大学

■豊平校舎 (経済・経営・法・人文学部)

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 代表(011)841-1161

■山鼻校舎 (工学部)

〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号 代表(011)841-1161